

**IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise
and Advanced Editions**



ハブ構成ガイド

バージョン 6.0

**IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise
and Advanced Editions**



ハブ構成ガイド

バージョン 6.0

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、335 ページの『付録 E. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、WebSphere Partner Gateway Enterprise Edition (5724-L69) バージョン 6.0 と Advanced Edition (5724-L68) バージョン 6.0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise and Advanced Editions
Hub Configuration Guide
Version 6.0

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

本書について	x1
対象読者	xi
表記上の規則	xi
関連文書	xii
このリリースの新機能	xiii
リリース 6.0 の新機能	xiii
リリース 4.2.2 の新機能	xiii
第 1 章 概要	1
概要	1
ハブの設定に必要な情報	2
トランスポートの概要	2
文書フロー定義の概要	3
文書処理の概要	7
ハンドラーを使用した文書処理コンポーネントの構成	9
ターゲット	10
Document Manager	11
ゲートウェイ	15
ハブの構成の概要	16
ハブの設定	16
参加者の作成	17
文書接続の設定	18
第 2 章 ハブを構成するための準備	19
ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイ用のディレクトリーの作成	19
文書を受信する FTP サーバーの構成	19
FTP サーバーの必要なディレクトリー構造の構成	20
FTP で送信されるファイルの処理方法	22
追加の FTP サーバー構成	23
FTPS サーバーのセキュリティ考慮事項	23
JMS トランスポート・プロトコル用のハブの構成	24
JMS 用のディレクトリーの作成	24
デフォルトの JMS 構成の変更	24
キューおよびチャネルの作成	25
現行環境への Java™ ランタイムの追加	25
JMS 構成の定義	25
FTP スクリプト記述ターゲットおよびゲートウェイ用の FTP スクリプトの使用	27
Data Interchange Services クライアントのマップの使用	27
第 3 章 サーバーの始動および Community Console の表示	29
WebSphere MQ の始動	29
WebSphere Partner Gateway のコンポーネントの始動	29
Community Console へのログイン	30
第 4 章 Community Console の構成	33
ロケール情報およびコンソールのブランドの指定	33
コンソールのブランド設定	33
スタイル・シートの変更	34
コンソール上のデータのローカライズ	34

パスワード・ポリシーの設定	35
アクセス権の構成	36
ユーザーへのアクセス権の付与方法	36
アクセス権の使用可能化と使用不可化	37
第 5 章 ターゲットの定義	39
概要	39
ユーザー定義ハンドラーのアップロード	40
グローバルなトランスポート値の設定	41
HTTP/S ターゲットの設定	42
ターゲットの詳細	42
ターゲット構成	42
ハンドラー	42
FTP ターゲットの設定	43
ターゲットの詳細	43
ターゲット構成	43
ハンドラー	44
SMTP ターゲットの設定	44
ターゲットの詳細	44
ターゲット構成	44
スケジュール	45
JMS ターゲットの設定	45
ターゲットの詳細	45
ターゲット構成	46
ハンドラー	47
ファイル・システム・ターゲットの設定	47
ターゲットの詳細	47
ターゲット構成	47
ハンドラー	48
FTP スクリプト記述ターゲットの設定	48
FTP スクリプトの作成	48
FTP スクリプト記述コマンド	49
ターゲットの詳細	50
ターゲット構成	51
ユーザー定義属性	51
スケジュール	52
ハンドラー	52
ユーザー定義トランスポートのターゲットの設定	52
構成ポイントの変更	53
前処理	53
同期検査	57
後処理	58
構成済みリストの変更	58
第 6 章 固定ワークフロー・ステップおよびアクションの構成	59
ハンドラーのアップロード	59
固定ワークフローの構成	60
インバウンド・ワークフロー	61
アウトバウンド・ワークフロー	61
アクションの構成	62
ユーザー定義のアクションの変更	62
アクションの作成	63
第 7 章 文書フローの構成	65
概要	65
ステップ 1: 文書フロー定義が使用可能であることを確認する	65

ステップ 2: 対話を作成する	66
ステップ 3: 参加者のプロフィール、ゲートウェイ、および B2B 機能を作成する	66
ステップ 4: 接続をアクティブ化する	66
フローの例	67
バイナリー文書	69
パススルー・アクションによる EDI 文書	69
文書フロー定義の作成	70
対話の作成	70
RosettaNet 文書	71
概要	71
RNIF および PIP の文書フロー・パッケージ	72
文書フロー定義の作成	74
属性値の構成	76
対話の作成	77
Web サービス	80
Web サービスの参加者の識別	80
文書フロー定義の作成	80
対話の作成	84
Web サービス・サポートの制限	85
cXML 文書	85
概要	85
文書フロー定義の作成	88
対話の作成	89
カスタム XML 文書	90
概要	90
プロトコル定義形式の作成	90
文書定義フローの作成	91
XML 形式の作成	91
検証マップの使用	92
検証マップの追加	92
マップと文書フロー定義の関連付け	93
文書の表示	93
第 8 章 EDI 文書フローの構成	95
EDI の概要	95
EDI 交換の構造	95
マップ	97
XML 文書と ROD 文書の概要	98
XML 文書	98
ROD 文書	98
スプリッターと複数の文書	98
文書フロー作成と属性設定の概要	99
ステップ 1: 文書フロー定義が使用可能であることを確認する	99
ステップ 2: 対話を作成する	100
ステップ 3: 参加者のプロフィール、ゲートウェイ、および B2B 機能を作成する	100
ステップ 4: 接続をアクティブ化する	101
有効なフローの概要	101
EDI 間のフロー	101
EDI から XML または ROD へのフロー	102
XML または ROD から EDI へのフロー	103
複数の XML 文書または ROD 文書から EDI 交換へのフロー	104
XML から ROD、または ROD から XML へのフロー	105
XML から XML、または ROD から ROD へのフロー	105
EDI 交換の処理方法	106
XML 文書または ROD 文書の処理方法	109
EDI 環境の設定	110

エンベローパー	110
エンベロープ・プロファイル	112
接続プロファイル	117
制御番号	119
制御番号初期化	122
現行の制御番号	122
文書交換を定義するための一般的なステップ	123
マップのインポート	123
EDI 間フローの設定	125
EDI から XML または ROD へのフローの設定	127
XML または ROD から EDI へのフローの設定	129
1 つのファイル内の複数の XML 文書または ROD 文書から EDI へのフローの設定	131
XML から ROD または ROD から XML への文書フローの設定	132
XML から XML または ROD から ROD へのフローの設定	133
肯定応答の設定	133
文書フローへの肯定応答の追加	135
EDI 交換およびトランザクションの表示	136
第 9 章 コミュニティー・マネージャーのプロファイルおよび B2B 機能の作成	137
コミュニティ・マネージャー・プロファイルの作成	137
B2B 機能の設定	139
第 10 章 ゲートウェイの作成	141
概要	141
グローバルなトランスポート値の設定	142
フォワード・プロキシの構成	143
HTTP ゲートウェイの設定	144
ゲートウェイの詳細	144
ゲートウェイの構成	144
HTTPS ゲートウェイの設定	146
ゲートウェイの詳細	146
ゲートウェイの構成	146
FTP ゲートウェイの設定	147
ゲートウェイの詳細	147
ゲートウェイの構成	148
SMTP ゲートウェイの設定	149
ゲートウェイの詳細	149
ゲートウェイの構成	149
JMS ゲートウェイの設定	150
ゲートウェイの詳細	150
ゲートウェイの構成	150
ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイの設定	152
ゲートウェイの詳細	152
ゲートウェイの構成	153
FTPS ゲートウェイの設定	154
ゲートウェイの詳細	154
ゲートウェイの構成	154
FTP スクリプト記述ゲートウェイの設定	155
FTP スクリプトの作成	155
FTP スクリプト・コマンド	156
FTP スクリプト記述ゲートウェイ	157
ゲートウェイの詳細	157
ゲートウェイの構成	157
ユーザー定義属性	158
スケジュール	158
ハンドラーの構成	159

ユーザー定義トランスポートのゲートウェイの設定	160
デフォルト・ゲートウェイの指定	160
第 11 章 参加者およびその B2B 機能の作成	163
参加者プロファイルの作成	163
B2B 機能の設定	164
第 12 章 接続の管理	167
概要	167
参加者接続のアクティブ化	167
属性の指定または変更	168
第 13 章 インバウンドおよびアウトバウンド交換のセキュリティー設定	171
セキュリティーの用語と概念	171
WebSphere Partner Gateway で使用されるセキュリティーのメカニズムとプロトコル	171
iKeyman ユーティリティー	172
Community Console	173
鍵ストアとトラストストア	173
証明書チェーン	174
1 次証明書と 2 次証明書	175
暗号化の強度の変更	175
SSL 証明書の作成とインストール	176
SSL ハンドシェイク	176
インバウンド SSL 証明書	177
アウトバウンド SSL 証明書	179
証明書失効リスト (CRL) の追加	181
CRL 配布ポイントへのアクセスの使用可能化	182
シグニチャー証明書の作成とインストール	183
インバウンドのシグニチャー証明書	183
アウトバウンド署名証明書	184
暗号化証明書の作成とインストール	185
インバウンド暗号化証明書	186
アウトバウンド暗号化証明書	187
Console および Receiver でのインバウンド SSL の構成	189
証明書の概要	189
第 14 章 構成の終了	193
API の使用可能化	193
イベント用に使用するキューの指定	193
アラート可能イベントの指定	195
ユーザー定義のトランスポートの更新	195
付録 A. 基本的な例	197
基本構成 - パススルー EDI 文書の交換	197
ハブの構成	197
参加者および参加者接続の作成	199
基本構成 - インバウンドおよびアウトバウンド文書のセキュリティー設定	204
着信文書に対する SSL 認証の設定	204
暗号化の設定	206
文書署名の設定	208
基本構成の拡張	209
FTP ターゲットの作成	210
バイナリー・ファイルを受信するためのハブ設定	210
カスタム XML 文書用のハブ設定	212
付録 B. EDI の例	217

EDI から ROD への例	217
EDI 交換のエンベロープ解除と変換	217
交換への TA1 の追加	224
FA マップの追加	228
EDI から XML への例	233
変換マップのインポート	233
変換マップと文書フロー定義の検証	233
ターゲットの構成	234
対話の作成	234
参加者の作成	235
ゲートウェイの作成	236
B2B 機能の設定	237
接続のアクティブ化	238
XML から EDI への例	239
変換マップのインポート	239
変換マップと文書フロー定義の検証	240
ターゲットの構成	240
対話の作成	240
参加者の作成	241
ゲートウェイの作成	242
B2B 機能の設定	243
エンベロープ・プロファイルの作成	245
XML 形式の作成	245
接続のアクティブ化	245
属性の構成	246
ROD から EDI への例	247
変換マップのインポート	247
変換マップと文書フロー定義の検証	248
ターゲットの構成	248
対話の作成	249
参加者の作成	250
ゲートウェイの作成	250
B2B 機能の設定	251
エンベロープ・プロファイルの作成	253
接続のアクティブ化	254
属性の構成	254
付録 C. RosettaNet に関する追加情報	255
PIP の非アクティブ化	255
障害通知機能	255
0A1 PIP	255
連絡先情報の更新	256
RosettaNet 属性値の編集	256
PIP 文書フロー・パッケージの作成	257
XSD ファイルの作成	258
XML ファイルの作成	264
パッケージの作成	267
検証の概要	268
カーディナリティー	268
フォーマット	268
列挙	269
PIP 文書フロー・パッケージの内容	269
0A1 Notification of Failure V1.0	269
0A1 Notification of Failure V02.00	270
2A1 Distribute New Product Information	271
2A12 Distribute Product Master	272

3A1 Request Quote	273
3A2 Request Price and Availability	274
3A4 Request Purchase Order V02.00	275
3A4 Request Purchase Order V02.02	276
3A5 Query Order Status	277
3A6 Distribute Order Status	279
3A7 Notify of Purchase Order Update	280
3A8 Request Purchase Order Change V01.02	281
3A8 Request Purchase Order Change V01.03	283
3A9 Request Purchase Order Cancellation	284
3B2 Notify of Advance Shipment	285
3B3 Distribute Shipment Status	286
3B11 Notify of Shipping Order	287
3B12 Request Shipping Order	288
3B13 Notify of Shipping Order Confirmation	289
3B14 Request Shipping Order Cancellation	290
3B18 Notify of Shipping Documentation	291
3C1 Return Product	292
3C3 Notify of Invoice	293
3C4 Notify of Invoice Reject	294
3C6 Notify of Remittance Advice	295
3C7 Notify of Self-Billing Invoice	296
3D8 Distribute Work in Process	297
4A1 Notify of Strategic Forecast	298
4A3 Notify of Threshold Release Forecast	299
4A4 Notify of Planning Release Forecast	299
4A5 Notify of Forecast Reply	300
4B2 Notify of Shipment Receipt	301
4B3 Notify of Consumption	302
4C1 Distribute Inventory Report V02.01	303
4C1 Distribute Inventory Report V02.03	304
5C1 Distribute Product List	305
5C2 Request Design Registration	306
5C4 Distribute Registration Status	307
5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization	308
6C1 Query Service Entitlement	309
6C2 Request Warranty Claim	310
7B1 Distribute Work in Process	310
7B5 Notify Of Manufacturing Work Order	311
7B6 Notify Of Manufacturing Work Order Reply	313
付録 D. 属性	315
EDI 属性	315
エンベロープ・プロファイル属性	315
文書フロー定義および接続属性	319
Data Interchange Services クライアント・プロパティ	326
AS 属性	328
RosettaNet 属性	331
「バックエンド統合」属性	333
付録 E. 特記事項	335
プログラミング・インターフェース情報	337
商標	337
索引	339

本書について

本書では、IBM^(R) WebSphere^(R) Partner Gateway サーバーの構成方法について説明します。

対象読者

本書は、WebSphere Partner Gateway サーバー (ハブとも呼ばれます) の構成担当者を対象としています。ハブの構成は、ハブ管理者が行う必要があります。ハブ管理者は、WebSphere Partner Gateway Community Console の全機能を使用して、ハブの構成と操作を行うことができます。

表記上の規則

本書は、次の規則に従って編集されています。

表 1. 表記上の規則

規則	説明
モノスペース・フォント	このフォントのテキストは、ユーザーが入力したテキスト、引数またはコマンド・オプションの値、例とサンプル・コード、またはシステムが画面に出力する情報 (メッセージ・テキストまたはプロンプト) を示します。
太字	太字のテキストは、表と本文に記述されたグラフィカル・ユーザー・インターフェースのコントロール (例えば、オンライン・ボタン名、メニュー名、メニュー・オプションなど) および列見出しを示します。
イタリック	イタリックのテキストは、強調部分、本のタイトル、新規用語と本文で定義されている用語、変数名、または文字として使用されているアルファベット文字を示します。
イタリック・モノスペース・フォント	イタリック・モノスペース・フォントのテキストは、モノスペース・フォントのテキスト内の変数名を示します。
<i>ProductDir</i>	<i>ProductDir</i> は、製品のインストール先のディレクトリーを表します。すべての IBM WebSphere Partner Gateway 製品のパス名は、システム上で IBM WebSphere Partner Gateway 製品がインストールされているディレクトリーからの相対パスです。
%text% および \$text	パーセント記号 (%) に囲まれたテキストは、Windows ^(R) の text システム変数またはユーザー変数の値を示します。UNIX ^(R) 環境での同等の表記は、\$text であり、UNIX の text 環境変数の値を示します。
下線付きのカラー・テキスト	下線付きのカラー・テキストは、相互参照を示します。テキストをクリックすると、参照先のオブジェクトに移動します。

表 1. 表記上の規則 (続き)

規則	説明
青色アウトラインのテキスト	(PDF ファイルのみ) テキストの周りのアウトラインは、相互参照を示します。アウトライン内のテキストをクリックすると、参照先のオブジェクトに移動します。この規則は、この表内の PDF ファイルに関する「下線付きのカラー・テキスト」規則に相当します。
『 』 (かぎ括弧)	(PDF ファイルのみ) かぎ括弧で囲まれた部分は、この文書の他のセクションへの相互参照です。
{ }	構文の記述行の場合、中括弧 { } で囲まれた部分は、選択対象のオプションです。1 つのオプションのみを選択する必要があります。
[]	構文の記述行の場合、大括弧 [] で囲まれた部分は、オプション・パラメーターです。
< >	不等号括弧で囲まれた部分は名前を構成する変数要素であり、各要素を区別する目的で使用しています。例えば、 <code><server_name><connector_name>tmp.log</code> です。
¥、\	ディレクトリー・パスを区切る文字として、Windows インストールでは円記号 (¥) を使用しています。UNIX インストールの場合は、円記号の代わりにスラッシュ (/) を使用します。

関連文書

本製品には完全な資料のセットが提供されており、これらの資料では、WebSphere Partner Gateway Enterprise Edition および Advanced Edition のインストール、構成、管理、および使用について包括的に説明しています。

この資料は、次のサイトからダウンロードするか、オンラインで直接閲覧できます。<http://www.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/library/infocenter>

注: 本書の発行後に公開されるテクニカル・サポートの技術情報 (Technotes) や速報 (Flashes) に、本書の対象製品に関する重要な情報が記載されている場合があります。この資料は、以下の WebSphere Business Integration Support Web サイトにあります。<http://www.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/support>。関係するコンポーネント領域を選択して、「Technotes」および「Flashes」セクションを参照します。

このリリースの新機能

リリース 6.0 の新機能

WebSphere Partner Gateway (以前のリリースでは、WebSphere Business Integration Connect と呼ばれていました) では、新たに以下の機能を搭載しています。

- EDI トランザクションをエンベロープ解除し、そのエンベロープ内の EDI トランザクションを検証および変換できます。
- 個々の EDI トランザクションを配信前にエンベロープすることができます。
- 1 つのファイルで複数のレコード単位データ (ROD) と XML 文書、または EDI 交換を受信し、それぞれを個々の文書または交換に分割できます。
- ROD、XML、EDI の各文書間で相互に変換できます。
- FTP スクリプト記述というトランスポートを新たに導入しています。これは、ターゲットとゲートウェイの両方で使用可能であり、付加価値通信網 (VAN) およびその他の FTP サーバーと通信できます。
- 特定の用途で複数の証明書をサポートできます。これにより、1 次証明書の有効期限が切れた場合には、2 次証明書を使用することができます。
- HTTP または HTTPS ゲートウェイからプロキシ・サーバーを介して参加者へ文書を送信できます。

WebSphere Partner Gateway バージョン 6.0 は RC5 アルゴリズムをサポートしていません。

リリース 4.2.2 の新機能

バージョン 4.2.2 は、「ハブ構成ガイド」の最初のリリースです。

第 1 章 概要

WebSphere Partner Gateway をインストールしたら、コミュニティー・マネージャーと参加者間で文書を交換する前に、WebSphere Partner Gateway サーバー (ハブ) を構成する必要があります。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『概要』
- 2 ページの『ハブの設定に必要な情報』
- 7 ページの『文書処理の概要』
- 9 ページの『ハンドラーを使用した文書処理コンポーネントの構成』
- 16 ページの『ハブの構成の概要』

概要

この目的は、コミュニティー・マネージャーと参加者の間で文書または文書のセットを (電子的に) 送受信できるようにすることです。ハブは、文書の受信、(必要な場合) 他の形式への変換、および文書の配信を管理します。また、文書の着信時と発信時のセキュリティを保護するようにハブを構成することも可能です。

ハブと参加者の間で交換される文書は、通常は標準形式で、特定のビジネス対話を表しています。例えば、参加者は、購入注文要求を RosettaNet 3A4 PIP、cXML OrderRequest 文書、または 850 トランザクションとの EDI-X12 交換として送信します。ハブは、コミュニティー・マネージャーのアプリケーションが使用できる形式に文書を変換します。同様に、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションは、標準形式に変換される購入注文応答を独自のカスタム形式で送信します。その後、変換された文書が参加者に送信されます。

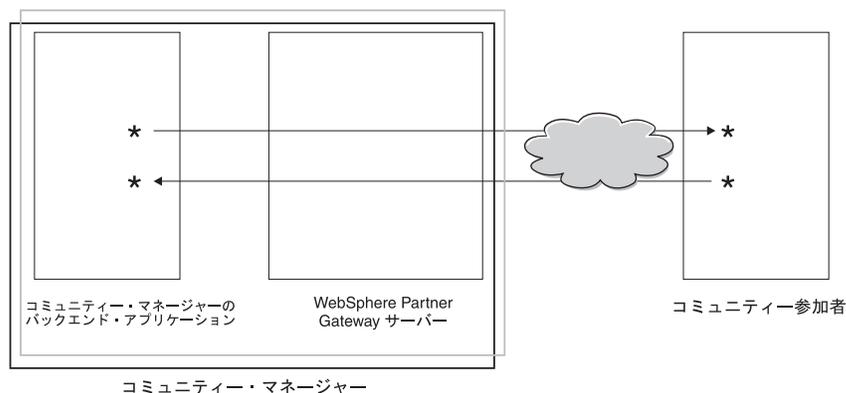


図 1. ハブを介した文書フロー

本書では、ハブの構成方法について説明した後、参加者の設定方法について説明します。さらに、ハブのセキュリティを構成する方法についても説明します。

1 ページの図 1 では、WebSphere Partner Gateway サーバーおよびコミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションが、コミュニティ・マネージャーによって所有されていることに注意してください。コミュニティ・マネージャーはハブを所有する会社でもあり、ハブの参加者でもあります。これ以降の章で説明するとおり、コミュニティ・マネージャーのプロファイルは、参加者の場合と同じ方法で定義します。

注: 本書では、コミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションから参加者用ゲートウェイへの接続、および参加者からコミュニティ・マネージャー・ゲートウェイへの接続を作成する方法について説明します。文書がコミュニティ・マネージャー・ゲートウェイに到着すると、それらの文書を WebSphere InterChange Server または WebSphere MQ Broker などのバックエンド・アプリケーションに組み込むことが必要になります。このようなバックエンド・アプリケーションと WebSphere Partner Gateway の間で組み込みを実行するために必要な作業については、「エンタープライズ統合ガイド」で説明されています。

ハブの設定に必要な情報

ハブを設定するには、コミュニティ・マネージャーが参加する交換のタイプに関する情報が必要です。例えば、以下の情報が必要です。

- コミュニティ・マネージャーとその参加者がハブを介して送信する文書のタイプ (EDI-X12 やカスタム XML など)
- コミュニティ・マネージャーとその参加者が文書の送信に使用するトランスポートのタイプ (HTTP や FTP など)
- ハブに到着する文書を複数の文書に分割する必要があるかどうか、またはハブに到着する個々の文書を送信する前にグループ化する必要があるかどうか
- 文書が配信前に変換されるかどうか
- 文書が配信前に検証されるかどうか
- 文書に暗号化やデジタル署名などのセキュリティー技法を使用するかどうか

これらの情報を決定したら、ハブの設定を始めることができます。

ハブを定義したら、参加者から提供された情報 (IP アドレスや DUNS 番号) を使用して、参加者の定義を行います。さらに、前述のとおり、コミュニティ・マネージャーもハブの特殊なタイプの参加者として定義します。

トランスポートの概要

さまざまなトランスポートを使用して、参加者から WebSphere Partner Gateway (ハブ) に文書を送信できます。参加者は、HTTP、HTTPS、JMS、FTP、FTPS、FTP スクリプト記述、SMTP、またはファイル・ディレクトリーを使用して、文書をパブリック・ネットワークで送信できます。参加者は、FTP スクリプト・トランスポートを使用して、文書を付加価値通信網 (VAN)、プライベート・ネットワークで送信できます。独自のトランスポートを作成することもできます。

注: 参加者とハブの間でファイル・ディレクトリー・トランスポートが使用されている場合、管理者はセキュリティー関連の問題をすべて処理する必要があります。

同様に、ハブは、さまざまなトランスポートを使用して、文書をバックエンド・アプリケーションに送信します。ハブとバックエンド・アプリケーションの間で最もよく使用されるトランスポートは、HTTP、HTTPS、JMS、およびファイル・ディレクトリーです。

図2 は、使用可能なさまざまなトランスポートを示しています。

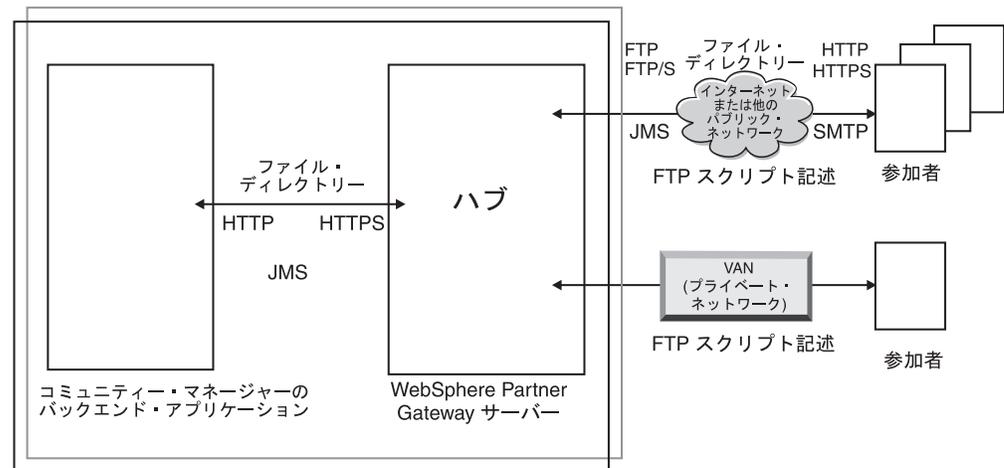


図2. WebSphere Partner Gateway でサポートされるトランスポート

文書の送受信に使用するトランスポートのタイプによって、ターゲットおよびゲートウェイのセットアップの方法が異なります。ターゲットは、ハブの入り口点 (参加者またはバックエンド・アプリケーションによって送信される文書がハブで受信される場所) です。ゲートウェイは、参加者のコンピューターまたはバックエンド・システムの入り口点 (ハブが文書を送信する場所) です。FTP、FTPS、FTP スクリプト、JMS、およびファイル・ディレクトリーのトランスポートを使用できるように準備するには、セットアップ作業を行う必要があります。19 ページの『第 2 章 ハブを構成するための準備』を参照してください。

文書フロー定義の概要

参加者とコミュニティー・マネージャーの間で文書を交換するための設定を行う場合、文書について以下のことを指定する必要があります。

- 文書のパッケージ化
- 文書を定義するビジネス・プロトコル
- 文書フローのタイプ

文書フロー定義 は、文書のパッケージ化、文書のプロトコル、および文書フローで構成されます。文書フロー定義は、文書の処理方法についての情報をハブに提供します。例えば、以下のシステム提供の文書フロー定義を使用するとします。

- パッケージ化: AS
- プロトコル: EDI-X12
- 文書フロー: ISA

ハブは、AS ヘッダー情報を抽出します (そして、その情報を使用して文書のソースおよび宛先を判別します)。ハブは、文書内の配置に基づいて、特定の情報が文書の

どこにあるかを認識します。文書フロー定義の 3 つの構成部分には属性が割り当てられています。システム提供の属性を変更したり、属性を追加することができます。

パッケージ化

パッケージ化によって、文書の伝送に関する情報が提供されます。前述のとおり、パッケージ化が AS の場合、ハブは AS ヘッダーの情報を使用して文書のソースおよび宛先を判別します。参加者が RosettaNet PIP をコミュニティ・マネージャーに送信する場合、PIP は RNIF としてパッケージ化されます。

図 3 は、ハブとコミュニティの参加者の間、およびハブとバックエンド・アプリケーションの間で交換される文書に設定できるパッケージ化タイプを示しています。

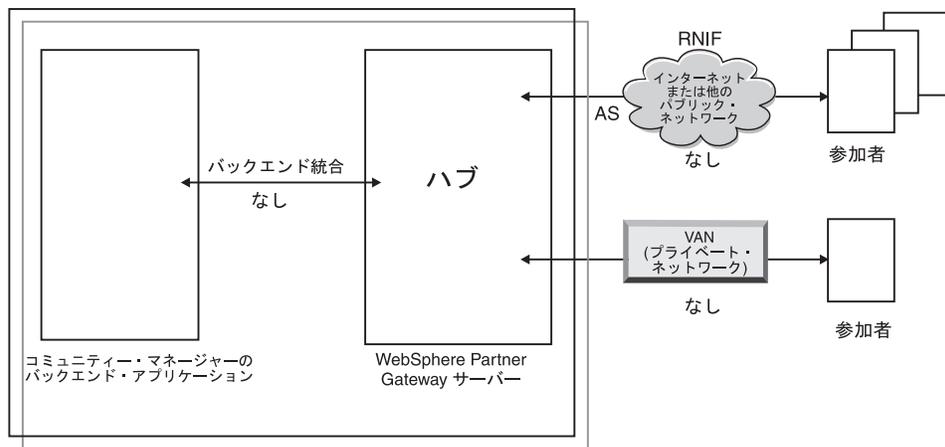


図 3. 文書パッケージ化タイプ

パッケージは、特定のプロトコルに関連付けられています。例えば、参加者は、RosettaNet 文書をハブに送信する場合に RNIF パッケージ化を指定する必要があります。

バックエンド統合: 図 3 に示されているとおり、バックエンド統合はハブとバックエンド・アプリケーションの間でのみ使用可能です。バックエンド統合パッケージ化を指定すると、ハブによってバックエンド・システムに送信される文書に特殊なヘッダー情報が追加されます。同様に、バックエンド・アプリケーションが、バックエンド統合のパッケージ化で文書をハブに送信する場合、ヘッダー情報を追加する必要があります。バックエンド統合パッケージ、およびヘッダー情報の要件については、「エンタープライズ統合ガイド」で説明されています。

AS: AS パッケージは、参加者とハブの間でのみ使用可能です。AS パッケージは、AS1 または AS2 規格に準拠する文書に使用できます。AS1 は SMTP を介して文書を安全に送信するために使用される規格であり、AS2 は HTTPS を介して文書を安全に送信するために使用される規格です。AS のパッケージ化で参加者によって送信される文書は、AS1 または AS2 のいずれかのヘッダー情報を持ちます。AS1 または AS2 ヘッダーを期待する参加者に送信される文書は、(ハブで) AS としてパッケージ化する必要があります。

なし: なしパッケージは、ハブと参加者の間、およびハブとバックエンド・アプリケーションの間で文書を送受信するために使用できます。文書がなしとしてパッケージ化される場合、ヘッダー情報は追加されません (期待されません)。

RNIF: RNIF パッケージは、インストール・メディア上で提供されます。RNIF パッケージを (交換する PIP とともに) アップロードします。方法については、71 ページの『RosettaNet 文書』で説明しています。RNIF パッケージは、RosettaNet 文書を参加者とハブの間で送信する場合に使用されます。

N/A: WebSphere Partner Gateway 内で終了する文書フロー、または WebSphere Partner Gateway 内部から発生する文書フローがあります。WebSphere Partner Gateway 内で終了する文書フローの場合、パッケージ化は必要ありません。WebSphere Partner Gateway 内部から発生する文書フローには、ソースのパッケージ化はありません。したがって、そのようなフローでは、パッケージ化は N/A として指定されます。

参加者からコミュニティー・マネージャーへの片方向伝送 (または、逆の片方向伝送) では、ほとんどの場合、WebSphere Partner Gateway が参加者から文書を受信し、それをコミュニティー・マネージャーに送信します。WebSphere Partner Gateway では、参加者の接続の作成時に、WebSphere Partner Gateway が文書を受信するパッケージ化と WebSphere Partner Gateway が文書を送信するパッケージ化を指定します。図 4 では、AS としてパッケージ化された文書が、参加者からコミュニティー・マネージャー・バックエンドへ流れています。文書はトランスポート・ヘッダーなしでコミュニティー・マネージャー・ゲートウェイに配信されます。図 4 では、文書の交換に 1 つのアクションが関連付けられています。

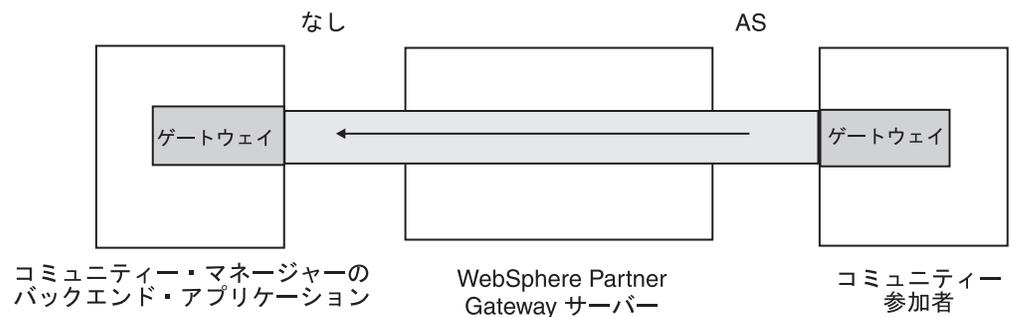


図 4. 標準的な片方向接続

ただし、プロトコルによっては複数のアクティビティー (エンベロープ解除、変換など) が含まれ、その中には交換全体の間接部分として発生するものもあります。例えば、参加者が EDI 交換をハブに送信する場合 (最終的な配信先はコミュニティー・マネージャー)、交換はエンベロープ解除され、個々の EDI トランザクションが処理されます。元の EDI 交換には、参加者からの送信時にパッケージが関連付けられています。ただし、交換自体はコミュニティー・マネージャーに配信されないため (ハブ内でエンベロープ解除され、交換に対する追加処理は発生しません)、交換のパッケージ化は適用されません。したがって、エンベロープ解除のステップの対話をセットアップする場合、送信側でパッケージを入力しますが、受信側には「N/A」を指定します。

EDI 交換に必要な文書フロー定義をセットアップするための手順については、95 ページの『第 8 章 EDI 文書フローの構成』で説明されています。

プロトコル

システムに準備されているプロトコルは、以下のとおりです。

- バイナリー

バイナリー・プロトコルは、AS、なし、およびバックエンド統合パッケージで使用できます。バイナリー文書には、文書のソースまたは宛先についてのデータは含まれていません。

- EDI-X12、EDI-Consent、EDI-EDIFACT

これらの EDI プロトコルは、AS またはなしパッケージで使用できます。5 ページの『N/A』で説明されているように、EDI トランザクションまたは交換がハブから発生する場合、またはハブで終了する場合、パッケージに「N/A」を指定します。X12 および EDIFACT は、データ交換に使用される EDI 標準です。EDI-Consent は、X12 または EDIFACT 以外のコンテンツ・タイプを参照します。

- Web サービス

Web サービス・プロトコルは、なしパッケージでのみ使用できます。

- cXML

cXML プロトコルは、なしパッケージでのみ使用できます。

- XMLEvent

XMLEvent は、バックエンド・アプリケーションへ流れる文書、またはバックエンド・アプリケーションから流れる文書にイベント通知を提供するために使用される特殊なプロトコルです。これは、バックエンド統合パッケージでのみ使用できます。このプロトコルについては、「エンタープライズ統合ガイド」で説明されています。

RNIF パッケージをアップロードすると、関連したプロトコル (RosettaNet および RNSC) も取得できます。RosettaNet (参加者とハブの間で使用されるプロトコル) は、RNIF パッケージに関連付けられています。RNSC (ハブとコミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションの間で使用されるプロトコル) は、バックエンド統合パッケージに関連付けられています。

変換される EDI トランザクション、または XML または ROD 文書の場合、Data Interchange Services クライアントから変換マップをインポートします。Data Interchange Services クライアントでは、この変換に関連したプロトコルに対してディクショナリーが定義されています。ディクショナリーには、EDI 文書定義、セグメント、複合データ・エレメント、データ・エレメントなど、EDI 規格を構成するすべてに関する情報が含まれています。特定の EDI 規格の詳細については、該当する EDI 規格マニュアルを参照してください。Data Interchange Services クライアントについては、「*Mapping Guide*」または Data Interchange Services クライアントに付属のオンライン・ヘルプを参照してください。

注: 送信側 ID および受信側 ID は、変換マップに関連付けられている ROD 文書定義に含まれている必要があります。また、文書タイプおよびディクショナリー値を判別するために必要な情報も、文書定義に含まれている必要があります。変換マップを作成する場合、Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者が、これらの要件を把握していることを確認してください。

カスタム・プロトコルを作成して、文書をどのように構造化するかを正確に定義することができます。XML 文書の場合は、90 ページの『カスタム XML 文書』の説明に従って XML 形式を定義します。

文書フロー

文書には、さまざまな形式があります。システム提供の文書フローおよび関連したプロトコルは、以下のとおりです。

- バイナリー。バイナリー・プロトコルで使用できます。
- ISA。X12 交換 (エンベロップ) を表し、EDI-X12 プロトコルに関連します。
- BG。EDI Consent エンベロップを表し、EDI-Consent プロトコルに関連します。
- UNB。EDIFACT エンベロップを表し、EDI-EDIFACT プロトコルに関連します。
- XMLEvent。XMLEvent プロトコルで使用できます。

以下のリストは、他のタイプの文書および定義のソースを示しています。

- RosettaNet PIP (インストール・メディアからアップロード)。RosettaNet プロトコルで使用できます。
- Web サービス (WSDL ファイルとしてアップロード)。Web サービス・プロトコルで使用できます。
- cXML 文書 (cXML 文書のタイプを指定して作成)。
- 特定の EDI 標準トランザクション。Data Interchange Services クライアントからインポートします。
- レコード単位データ (ROD) または XML 文書。Data Interchange Services クライアントからインポートします。

90 ページの『カスタム XML 文書』に説明されているとおり、独自の文書フローを作成することもできます。

文書処理の概要

ハブの設定を始める前に、WebSphere Partner Gateway のコンポーネントと、文書処理に各コンポーネントがどのように使われるのかを確認しておきましょう。

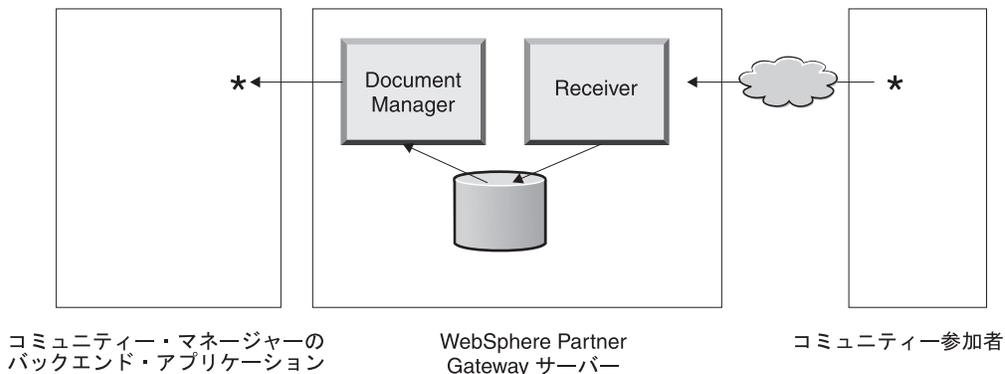


図5. Receiver コンポーネントと Document Manager コンポーネント

図5は、参加者から文書が送信され、ハブで受信され、処理された後、コミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションに送信される仕組みの例を示しています。

注: 説明の便宜上、この文書の図では、1つの Receiver と 1つの Document Manager が同じサーバー・マシンにインストールされています。(3番目のコンポーネントである Console は表示されていません。Console は、WebSphere Partner Gateway へのインターフェースです。) 実際には、これらのコンポーネントが複数回出現したり、別々のサーバーにインストールされている場合があります。すべてのコンポーネントが同一の共通ファイル・システムを使用する必要があります。WebSphere Partner Gateway のセットアップに使用できる他のトポロジーについては、「インストール・ガイド」を参照してください。

WebSphere Partner Gateway は、Receiver コンポーネントによって文書を受信します。Receiver は、インバウンド文書のトランスポートのモニター、到着する文書の取り出し、文書に対するいくつかの基本的な処理の実行、および Document Manager が文書を取り出すキューへの文書の配置を行います。

Receiver は、トランスポート固有です。トランスポート固有の Receiver のインスタンスは、ターゲットと呼ばれます。ターゲットは、ハブがサポートするトランスポートのタイプごとに設定します。例えば、参加者が HTTP で文書を送信する場合、それらの文書を受信するには HTTP ターゲットを設定する必要があります。

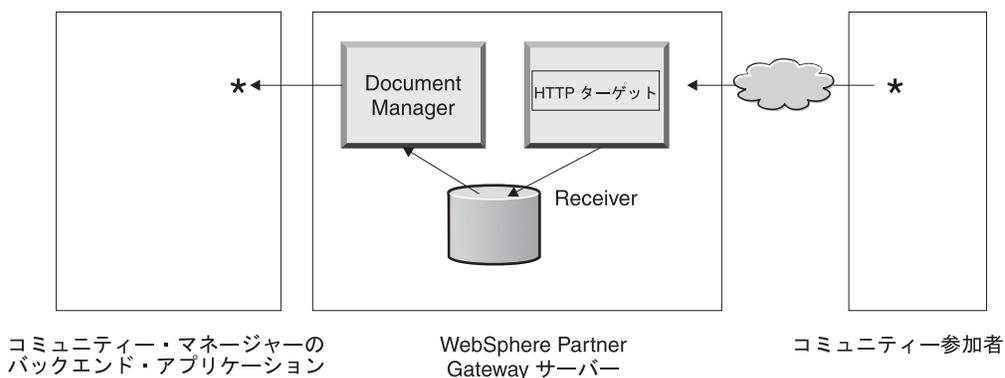
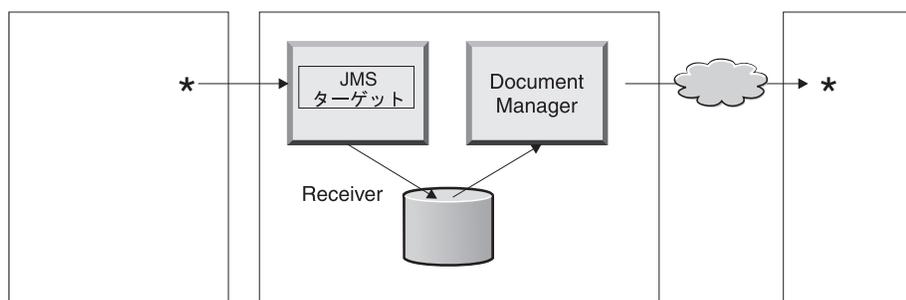


図6. HTTP ターゲット

コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションが JMS で文書を送信する場合、それらの文書を受信するために JMS ターゲットをハブで設定します。



コミュニティー・マネージャーの
バックエンド・アプリケーション

WebSphere Partner
Gateway サーバー

コミュニティー参加者

図7. JMS ターゲット

2 ページの『トランスポートの概要』で説明されているとおり、WebSphere Partner Gateway ではさまざまなトランスポートをサポートしていますが、ターゲットを定義する独自のユーザー定義トランスポートをアップロードすることもできます (52 ページの『ユーザー定義トランスポートのターゲットの設定』を参照してください)。

Receiver は、文書をファイル共有システムに送信します。複数の文書が単一ファイルに含まれている場合 (例えば、XML または ROD 文書、または EDI 交換が一緒に送信される場合)、ターゲットは文書または交換を分割してから、それらをファイル共有システムに送信します。Document Manager コンポーネントは、このファイル・システムから文書を取り出し、ルーティング情報や、変換が必要かどうかを判断します。

例えば、参加者は AS2 パッケージ化の EDI-X12 文書を期待していたのに、コミュニティー・マネージャーがその参加者への配信用にハブに送信した EDI-X12 文書がパッケージ化されていなかったとします。参加者は AS2 パッケージ化文書を配信する HTTP URL を指定し、Document Manager は参加者の期待通りに文書をパッケージします。Document Manager は参加者のゲートウェイの構成を使用して (これは、参加者が AS2 文書を受信を期待する HTTP URL に対してセットアップされている必要があります) 文書を参加者に送信します。

ハンドラーを使用した文書処理コンポーネントの構成

ここでは、WebSphere Partner Gateway の各コンポーネントについて詳しく説明するとともに、ビジネス文書を処理するためにシステムで指定された各コンポーネントの動作を変更できる (変更する必要がある) さまざまなポイントを示します。

システムで指定されたターゲット、ゲートウェイ、固定ワークフロー・ステップ、およびアクションの動作を変更するには、ハンドラーを使用します。ハンドラーには、WebSphere Partner Gateway で提供されるものとユーザー定義のもの 2 タイプがあります。ハンドラーの作成については、「プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

ハンドラーを作成したら、それをアップロードして使用可能にします。ユーザー定義のハンドラーのみをアップロードします。WebSphere Partner Gateway で提供されているハンドラーは、すでに使用可能です。

以下のセクションでは、ハンドラーを指定できる処理ポイントについて説明します。

ターゲット

ターゲットには、ハンドラーを指定できる 3 つの構成ポイント (前処理、同期検査、および後処理) があります。

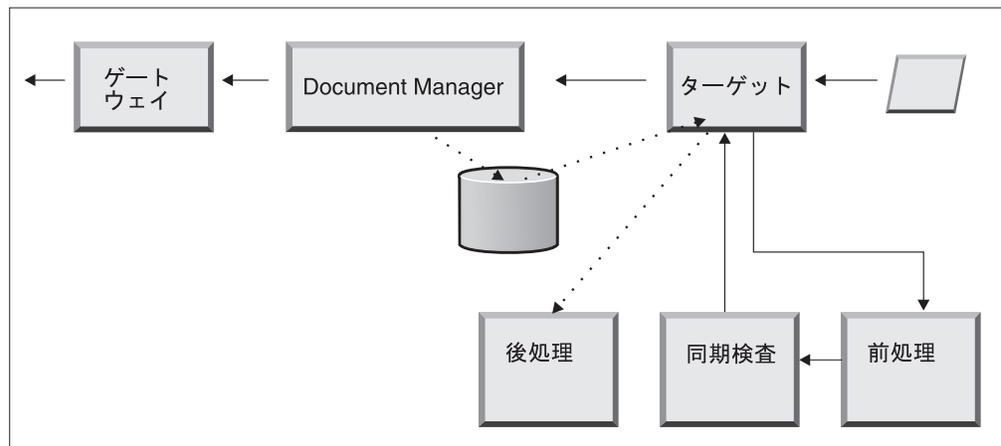


図 8. ターゲットの構成ポイント

処理は、以下の順序で発生します。

1. Receiver が、文書の受信後に、前処理ステップおよび同期検査ステップを呼び出します。
2. 次に、Receiver が、文書进行处理するために Document Manager を呼び出します。
3. 同期フローの場合、Document Manager が同期応答を提供します。次に、Receiver が、Document Manager から戻された応答で後処理ステップを呼び出します。

これらのステップについて、以下のセクションで説明します。

- 前処理

前処理ステップは、通常、Document Manager が文書进行处理する前に完了する必要がある文書処理に使用されます。例えば、複数の ROD 文書を単一ファイルで受信する場合は、ターゲットを定義するときに ROD スプリッター・ハンドラーを構成します。ターゲットをセットアップする場合、ROD スプリッターと他の 2 つのシステム提供のスプリッターを使用できます。前処理ステップ用の追加のハンドラーを作成する場合、それらのハンドラーも使用できます。

前処理構成ポイントの構成については、53 ページの『前処理』を参照してください。

- 同期検査

同期検査は、WebSphere Partner Gateway が文書を同期または非同期のどちらで処理するかを決めるために使用されます。例えば、HTTP を介して受信された AS2 文書の場合、MDN (メッセージ処理通知) が同じ HTTP 接続を介して同期的に戻されるかどうかを決定します。WebSphere Partner Gateway には、同期検査用のさまざまなハンドラーがあります。ターゲットに関連付けられているトランスポートによって、ハンドラーのリストは異なります。

同期検査は、同期伝送をサポートするトランスポート (HTTP、HTTPS、JMS など) にのみ適用されます。

注: 同期交換で使用される AS2、cXML、RNIF、または SOAP 文書の場合、関連した同期検査ハンドラーを HTTP または HTTPS ターゲットで指定する必要があります。

同期検査構成ポイントの構成については、57 ページの『同期検査』を参照してください。

- 後処理

後処理は、同期トランザクションの結果としてハブが送信する応答文書の処理に使用されます。

後処理構成ポイントの構成については、58 ページの『後処理』を参照してください。

Document Manager

ターゲットによって受信された文書は、さらに処理するため、共通ファイル・システムから Document Manager によって取り上げられます。Document Manager は、参加者の接続を使用して文書をルーティングします。Document Manager を介したすべての文書フローが、固定インバウンド・ワークフロー、可変ワークフロー、および固定アウトバウンド・ワークフローなど、一連のワークフローを通過します。インバウンド・ワークフローの終わりに、参加者接続が決定されます。参加者接続は、この文書に対して実行するアクションを指定します。可変ワークフローの実行後、Document Manager はこの文書に対して固定アウトバウンド・ワークフローを実行します。

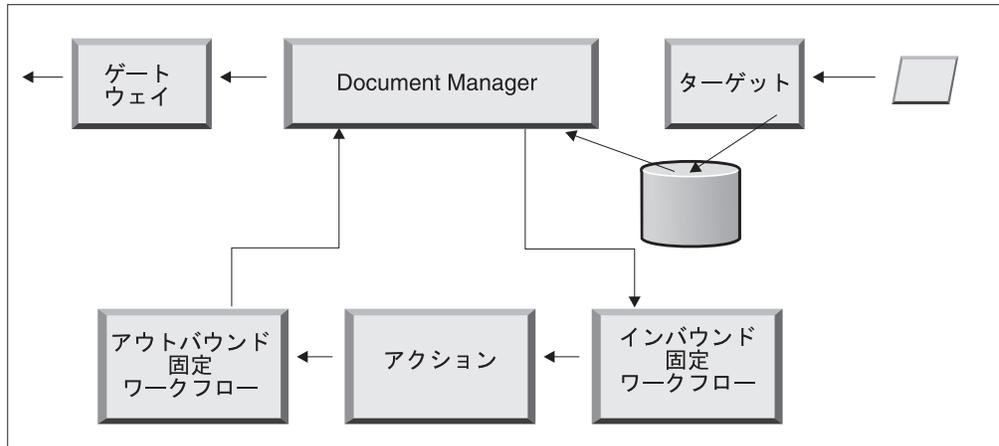


図9. 固定ワークフローとアクション

図9は、RosettaNet PIP または Web サービスなどの文書が通るパスを示しています。ただし、一部の文書では、複数の構成フローが必要です。例えば、EDI 交換は、複数のトランザクションで構成される場合があります。最初のフローでは、個々のトランザクションのセットをエンベロープ解除するためのアクションが使用されます。これらの各トランザクションは、独自の構成フローに再導入され処理されます。

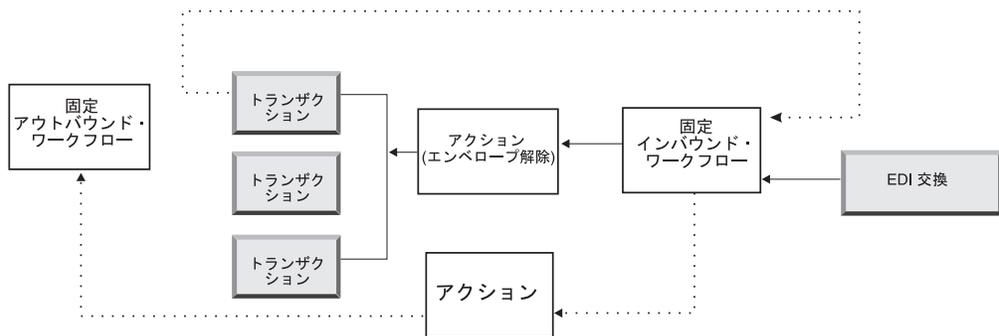


図10. EDI 交換用の固定ワークフローとアクション

インバウンド固定ワークフロー

インバウンド固定ワークフローは、Receiver から Document Manager に着信するすべての文書に対して実行される処理ステップの標準セットで構成されます。ステップの数とタイプが常に同じであるため、ワークフローは固定です。ただし、ユーザー出口を介して、プロトコル・アンパック・ステップおよびプロトコル処理ステップを処理するためのカスタマイズされたハンドラーを提供できます。インバウンド固定ワークフローの最後のステップでは、参加者の接続検索が実行され、このビジネス文書に対して実行される可変ワークフローが決定されます。

例えば、AS2 メッセージが受信された場合は、このメッセージが暗号化解除され、送信側と受信側のビジネス ID が取り出されます。インバウンド固定ワークフロー・ステップでは、WebSphere Partner Gateway でさらに処理するために AS2 文書

をプレーン・テキストに変換し、メッセージに対するアクションを決定するための情報を抽出します。

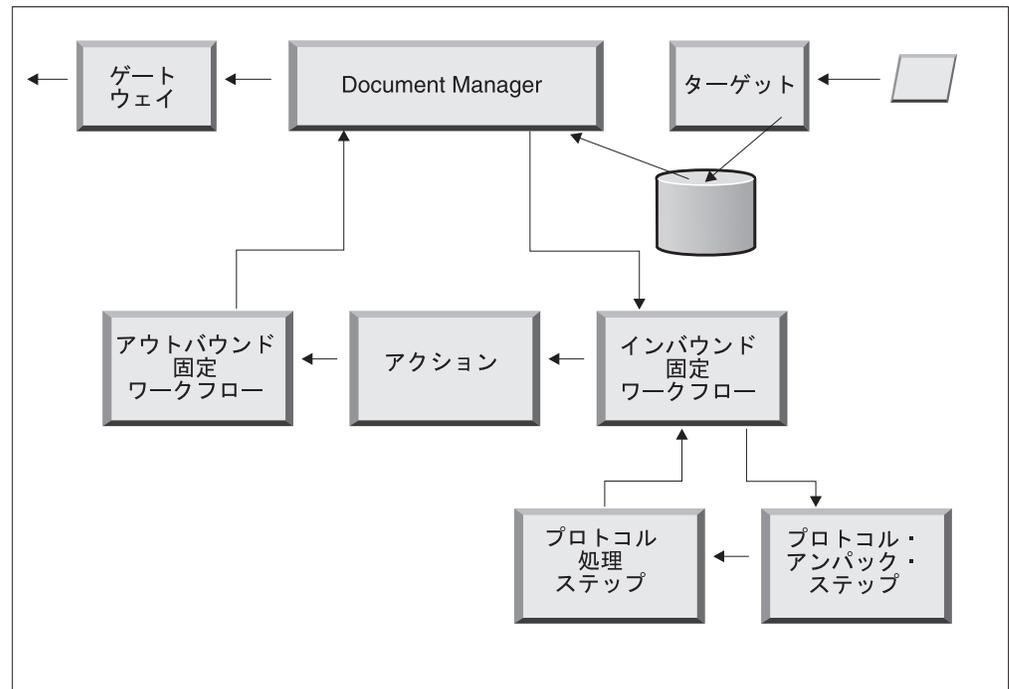


図 11. インバウンド固定ワークフロー・ステップ

プロトコル・アンパック: プロトコル・アンパックでは、文書をさらに処理できるようにするために文書がアンパックされます。このプロセスには、暗号化解除、圧縮解除、署名検証、ルーティング情報の抽出、ユーザー認証、またはビジネス文書パートの抽出などが含まれます。

WebSphere Partner Gateway には、RNIF、AS、バックエンド統合、およびなしパッケージ化用のハンドラーがあります。他のパッケージ化タイプ用のハンドラーが必要な場合は、ユーザー出口として開発できます。ユーザー出口の作成については、「プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

プロトコル・アンパック・ステップは変更できませんが、ハンドラーを追加して、ビジネス・ロジックをステップに追加することはできます。

このステップの構成については、60 ページの『固定ワークフローの構成』を参照してください。

プロトコル処理ステップ: プロトコル処理では、プロトコル固有の情報が判別されます。これには、ルーティング情報 (送信側 ID、受信側 ID など)、プロトコル情報、および文書フロー情報を判別するためにメッセージを構文解析することが含まれる場合があります。WebSphere Partner Gateway には、さまざまなプロトコル用の処理があります (61 ページの『プロトコル処理ハンドラー』のリストを参照)。CSV (comma-separated value) などの他のプロトコルの処理は、ユーザー出口を使用して提供できます。

プロトコル処理ステップは変更できませんが、ハンドラーを追加して、ビジネス・ロジックをステップに追加することはできます。

このステップの構成については、60 ページの『固定ワークフローの構成』を参照してください。

文書のプロトコルに適用されるデフォルトのハンドラーを使用することもでき、プロトコル・アンパックおよびプロトコル処理の固定ワークフロー・ステップに対して異なるハンドラーを指定することもできます。

アクション

処理シーケンスにおける次のステップは、文書交換に関して設定されたアクションに基づいて行われます。アクションは、文書に対して実行できる多数のステップで構成されます。アクションの例としては、文書の検証（文書が特定の規則セットに従っているかどうか）や、受信側が必要とする形式に文書を変換する処理などがあります。

文書に必要な特定のステップがない場合は、文書に何の変更も加えない、システム提供のパススルー・アクションを使用できます。

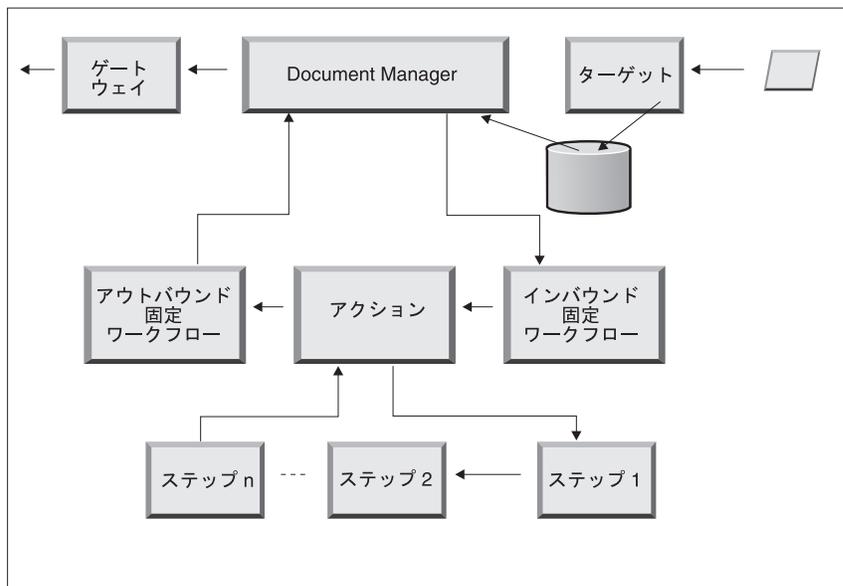


図 12. アクションのステップ

システム提供のアクションは変更できません。ただし、アクションを作成して構成リストにハンドラーを追加することができ、システム提供のアクションをコピーしてハンドラーのリストを変更することもできます。

システム提供のアクションの作成またはコピー、またはユーザー定義アクションの構成については、62 ページの『アクションの構成』を参照してください。

アウトバウンド固定ワークフロー

アウトバウンド固定ワークフローは、プロトコル情報を使って文書をパッケージ化するステップだけで構成されます。例えば、バックエンド統合パッケージ化を使用してバックエンド・アプリケーションが文書を受信するように設定されている場合

は、文書がゲートウェイに渡される前に、何らかのヘッダー情報が文書に追加されます。

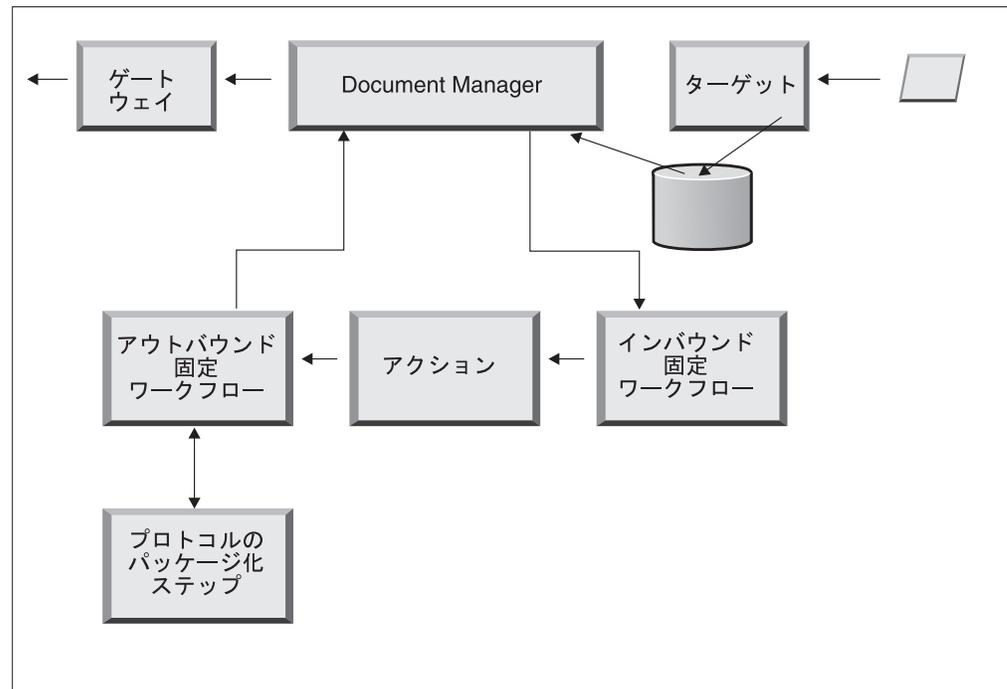


図 13. アウトバウンド固定ワークフロー・ステップ

WebSphere Partner Gateway には、さまざまなパッケージおよびプロトコル用のハンドラーがあります (61 ページの『アウトバウンド・ワークフロー』のリストを参照)。他のパッケージ化ハンドラーが必要な場合は、ユーザー出口として開発できます。通常、これらのステップでは、以下の 1 つ以上の処理が行われます。

- アセンブルまたはエンベロープ
- 暗号化
- 署名
- 圧縮
- ビジネス・プロトコル固有のトランスポート・ヘッダーの設定

プロトコル・パッケージ化ステップは変更できませんが、ハンドラーを追加して、ビジネス・ロジックをステップに追加することはできます。

このワークフロー・ステップの構成については、60 ページの『固定ワークフローの構成』を参照してください。

ゲートウェイ

文書は Document Manager を出ると、ゲートウェイから目的の宛先に送信されます。ゲートウェイには、前処理と後処理の 2 つの構成ポイントがあります。

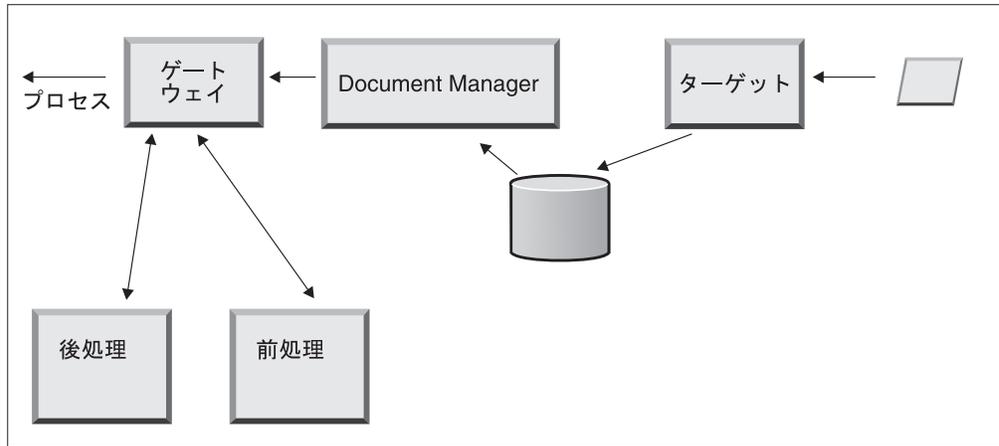


図 14. ゲートウェイの構成ポイント

- 前処理

前処理は、受信側に送信される前の文書の処理に影響を与えます。(プロセスでは、実際に文書を送信します。) システムには前処理ステップを構成するためのハンドラーはありませんが、ユーザー定義のハンドラーをアップロードできます。

- 後処理

後処理は、文書送信の結果に対して (例えば、同期伝送時に受信側から受信する応答に対して) 作用します。システムには後処理ステップを構成するためのハンドラーはありませんが、ユーザー定義のハンドラーをアップロードできます。

前処理ステップおよび後処理ステップの構成については、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。

ハブの構成の概要

ビジネス・ニーズを分析したら (2 ページの『ハブの設定に必要な情報』を参照)、ハブをセットアップし、参加者プロフィールを作成します。ここでは、関係する作業の概要を示します。

注: ハブを構成している場合、イベント・コードとトラブルシューティングのヒントについては、「管理者ガイド」を参照してください。

ハブの設定

ハブ管理者は、以下の作業を実行してハブを設定します。

1. 使用するトランスポートの事前セットアップを実行します (必要な場合)。事前セットアップについては、19 ページの『第 2 章 ハブを構成するための準備』で説明します。
2. オプションで、コンソールをカスタマイズし、デフォルトのパスワードおよびアクセス権ポリシーを変更します。この作業については、33 ページの『第 4 章 Community Console の構成』で説明します。

3. ハブで文書を (コミュニティー・マネージャーおよび参加者から) 受信するために使用するトランスポートのタイプ用のターゲットを作成します。ターゲットの作成については、39 ページの『第 5 章 ターゲットの定義』で説明します。

注: ユーザー定義のハンドラーを使用してターゲットを構成する場合は、ターゲットを作成する前にハンドラーをアップロードする必要があります。ハンドラーのアップロードについては、40 ページの『ユーザー定義ハンドラーのアップロード』で説明します。

4. インバウンド・ワークフローのステップまたはアクションを構成します。これはオプションのステップで、WebSphere Partner Gateway で提供されていない文書処理が特に必要な場合にのみ必要です。システム提供のワークフローまたはアクションの動作を変更する必要がなければ、このステップは省略してください。ワークフロー・ステップおよびアクションの構成については、59 ページの『第 6 章 固定ワークフロー・ステップおよびアクションの構成』で説明します。

注: ユーザー定義のハンドラーは、ワークフローまたはアクションを構成する前にアップロードする必要があります。ユーザー定義のハンドラーのアップロードについては、59 ページの『ハンドラーのアップロード』で説明します。

5. ハブで送受信できる文書のタイプを定義するために文書フロー定義を作成します (または、必要な定義がすでに使用可能になっていることを確認します)。
6. 2 つの文書フロー定義の有効な組み合わせを示すために対話を作成します。

文書フロー定義の作成および対話の作成については、65 ページの『第 7 章 文書フローの構成』および 95 ページの『第 8 章 EDI 文書フローの構成』で説明します。

7. コミュニティー・マネージャー用のプロファイルを作成します。その際、コミュニティー・マネージャーについての情報を提供し、コミュニティー・マネージャーが送受信できる文書のタイプ (コミュニティー・マネージャーの B2B 機能) を設定します。プロファイルの作成については、137 ページの『第 9 章 コミュニティー・マネージャーのプロファイルおよび B2B 機能の作成』で説明します。

参加者の作成

ハブを設定したら、コミュニティー・マネージャーと文書を交換する参加者ごとにプロファイルを作成します。参加者を作成できるのは、ハブ管理者だけです。

ハブ管理者は、参加者の B2B 機能のセットアップ、参加者用のゲートウェイの設定、および参加者のセキュリティー・プロファイルの設定も行えます。これらのステップは、参加者が自分で行うことも可能です。

参加者の作成については、163 ページの『第 11 章 参加者およびその B2B 機能の作成』で説明します。ゲートウェイの作成については、141 ページの『第 10 章 ゲートウェイの作成』で説明します。セキュリティー・プロファイルのセットアップについては、171 ページの『第 13 章 インバウンドおよびアウトバウンド交換のセキュリティー設定』で説明します。

文書接続の設定

ハブを構成して、参加者プロファイルを作成したら、接続を設定できます。接続は、送信側と受信側の有効な組み合わせ、および交換できる文書を示します。接続の管理については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

第 2 章 ハブを構成するための準備

次章以降では、『第 1 章 概要』で説明したターゲットおよびゲートウェイの設定を行います。ターゲットで文書を受信する際や、ゲートウェイから文書を送信する際に使用するトランスポートのタイプに応じて、いくつかの設定作業を行う必要があります。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイ用のディレクトリーの作成』
- 『文書を受信する FTP サーバーの構成』
- 24 ページの『JMS トランスポート・プロトコル用のハブの構成』

また、FTP スクリプト記述ターゲットおよびゲートウェイに必要な FTP スクリプトの概要を取り上げ、Data Interchange Services クライアントについて説明します。このクライアントは、変換や検証を作成したり、EDI、XML、およびレコード単位データ (ROD) 文書の機能肯定応答マップを作成したりするために使用できます。

- 27 ページの『FTP スクリプト記述ターゲットおよびゲートウェイ用の FTP スクリプトの使用』
- 27 ページの『Data Interchange Services クライアントのマップの使用』

これらのタイプのターゲットやゲートウェイの設定を予定していない場合は、この章を省略して『第 3 章 サーバーの始動および Community Console の表示』に進んでください。

ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイ用のディレクトリーの作成

ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを使用してコミュニティー・マネージャーに文書を送信する場合は、まずコミュニティー・マネージャーが使用するファイル・システム上でディレクトリーを作成する必要があります。

例えば、Windows のインストール環境で、c:\temp ディレクトリーの下に FileSystemGateway という名前のディレクトリーを作成したいとします。これを行うには、以下のステップを実行します。

1. Windows のエクスプローラーを開きます。
2. C:\temp ディレクトリーを開きます。
3. FileSystemGateway という名前のフォルダーを新規作成します。

文書を受信する FTP サーバーの構成

注: このセクションは、参加者から FTP または FTPS を介して文書を受信する場合にのみ適用されます。参加者への文書の送信については、147 ページの『FTP ゲートウェイの設定』および 154 ページの『FTPS ゲートウェイの設定』で説明しています。

着信文書用のトランスポートとして FTP または FTPS を使用する場合は、FTP サーバーをインストールしておく必要があります。FTP を使用する予定で、サーバーをまだインストールしていない場合は、次のステップに進む前に、ここでインストールを行ってください。また、ご使用のシステムが、以下のいずれかのシナリオに該当することを確認してください。

- FTP サーバーが、WebSphere Partner Gateway がインストールされているのと同じマシンにインストールされている。
- WebSphere Partner Gateway マシンの bcguser には、FTP サーバーがファイルを保管する場所にアクセスするための読み取り/書き込みアクセス権限がある。

FTP サーバーの必要なディレクトリー構造の構成

FTP サーバーをインストールしたら、FTP サーバーのホーム・ディレクトリーの下に、必要なディレクトリー構造を作成します。WebSphere Partner Gateway では、Receiver および Document Manager コンポーネントが、着信文書を送信している参加者を正しく識別するために使用する特定のディレクトリー構造が必要となります。構造は 21 ページの図 15 に示されています。

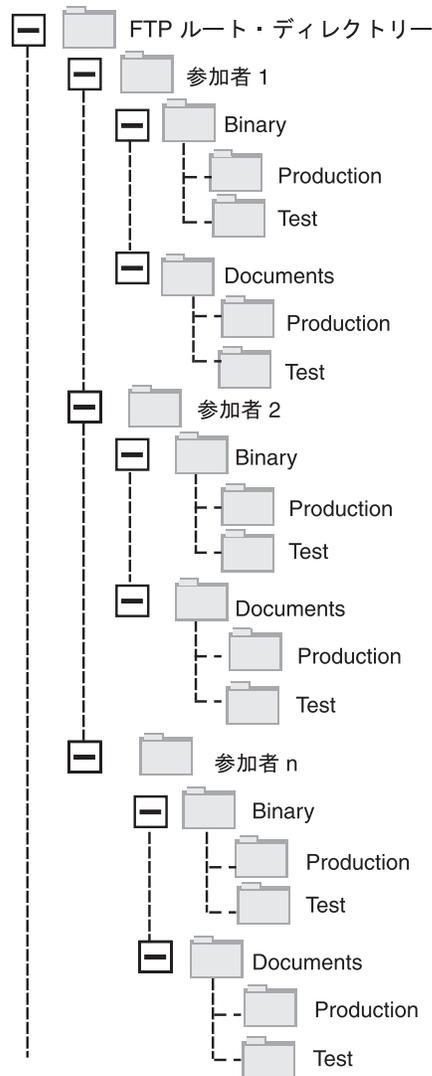


図 15. FTP ディレクトリー構造

各参加者のディレクトリーには、Binary ディレクトリーと Documents ディレクトリーが含まれています。また、Binary ディレクトリーと Documents ディレクトリーのどちらにも、Production ディレクトリーと Test ディレクトリーが含まれています。

Documents ディレクトリーは、参加者が完全なルーティング情報を含む XML 文書を (FTP を使用して) ハブに送信する際に使用されます。それには、カスタム XML 定義を作成する必要があります。

Binary ディレクトリーは、参加者がそれ以外の文書を (FTP を使用して) ハブに送信する際に使用されます。

FTP を使用して文書を送受信する参加者ごとに、FTP サーバーのルート・ディレクトリーから以下のフォルダーを作成します。

1. 参加者用のフォルダーを作成します。

注: フォルダーの名前は、参加者の作成時に「会社ログイン名」に指定した名前と同じでなければなりません。参加者の作成については、163 ページの『参加者プロファイルの作成』で説明します。

2. 参加者用のフォルダーの下に、Binary と Documents という名前のサブフォルダーを作成します。
3. Binary フォルダーと Documents フォルダーの下に、Production と Test という名前のサブフォルダーを作成します。

FTP で送信されるファイルの処理方法

FTP サーバーがバイナリー・ファイルや XML ファイルを処理する方法を理解しておくことは重要です。

バイナリー・ファイル

バイナリー・ファイルは Document Manager では一切検査されないため、特定のファイル名構造を使用する必要があります。

ファイル名構造は以下のようになります。<To_ParticipantID><Unique_Filename>

Receiver で検出されたバイナリー・ファイルは共用ストレージに書き込まれ、処理を行うために Document Manager に渡されます。

ファイルが検出されたディレクトリーの名前は、「送信元参加者名 (From Participant Name)」の評価に使用され、ファイル名の最初の部分は「送信先参加者名 (To Participant Name)」の評価に使用されます。ディレクトリー構造におけるディレクトリーの位置は、当該トランザクションが実動トランザクションなのかテスト・トランザクションなのかを評価する際に使用されます。

例えば、123456789.abcdefg1234567 という名前のファイルが
¥ftproot¥partnerTwo¥binary¥production ディレクトリーで検出されたとします。
Document Manager は以下の情報を認識します。

- 「送信元参加者名 (From Participant Name)」は partnerTwo である (ディレクトリー・ツリーの partnerTwo でファイルが検出されたため)。
- 「送信先参加者名 (To Participant Name)」は partnerOne である (ファイル名の最初の部分が 123456789 で、これが partnerOne の DUNS ID であるため)。

注: この例および本書全体を通して、DUNS 番号はすべて例として示されています。

- トランザクション・タイプは実動である。

Document Manager は、実動タイプの参加者接続を検索します。

- パッケージ: なし (N/A)
- プロトコル: バイナリー (1.0)
- 文書フロー: バイナリー (1.0)

Document Manager は次にファイルを処理します。

XML ファイル

XML ファイルは Document Manager によって検査され、ルーティング情報は文書自体から抽出されるため、XML ファイルにはファイル名要件がありません。

Receiver で検出された XML ファイルは共用ストレージに書き込まれ、処理を行うために Document Manager に渡されます。

Document Manager は XML ファイルを定義済みの XML 形式と比較し、必要な XML 形式を選択します。(XML 形式のセットアップについては、90 ページの『カスタム XML 文書』で説明します。) 送信元参加者名、送信先参加者名、ルーティング情報は、XML ファイルから抽出されます。

ディレクトリー構造におけるディレクトリーの位置は、当該トランザクションが実動トランザクションなのかテスト・トランザクションなのかを評価する際に使用されます。

Document Manager はこの情報を使って正しい参加者接続を探してから、ファイルを処理します。

追加の FTP サーバー構成

必要なディレクトリー構造を作成したら、ハブ・コミュニティの参加者ごとに FTP サーバーを構成します。FTP サーバーを構成する方法は、使用するサーバーによって異なります。FTP サーバーのマニュアルを参照して、以下のタスクを実行してください。

1. 新規のグループ (例えば、参加者) を追加します。
2. FTP で文書を送受信する各参加者を示すユーザーを、新規作成したグループに追加します。
3. 各参加者に対して、FTP サーバーをセットアップし、20 ページの『FTP サーバーの必要なディレクトリー構造の構成』で参加者に対して作成したそれぞれのディレクトリー構造に着信参加者をマップします。詳しくは、ご使用の FTP サーバーのマニュアルを参照してください。

FTPS サーバーのセキュリティー考慮事項

FTPS サーバーを使用して着信文書を受信する場合、SSL セッションに関するセキュリティー考慮事項は、参加者が使用する FTPS サーバーおよびクライアントでのみ処理されます。着信 FTPS 文書での WebSphere Partner Gateway に固有のセキュリティー構成はありません。WebSphere Partner Gateway は、サーバーがセキュア・チャンネルを正常に折衝し、文書を受け取った後で、FTP ターゲット (43 ページの『FTP ターゲットの設定』を参照) から文書を取り出します。FTPS サーバーのマニュアルを参照して、参加者が接続できるセキュア・チャンネルを正常に構成するために必要な証明書 (およびどこで証明書が必要か) を判別してください。

サーバー認証の場合、Receiver の証明書を参加者に提供します。証明書が認証局 (CA) によって発行される場合、CA 証明書チェーンも提供します。クライアント認証が FTPS サーバーによってサポートされる場合、参加者のクライアント認証証明書を FTPS サーバーで指定する必要があります。クライアント認証およびクライアント認証証明書の指定については、FTPS サーバーの資料を参照してください。

JMS トランスポート・プロトコル用のハブの構成

ここでは、JMS トランスポートを使用するようハブをセットアップする方法について説明します。JMS トランスポートを使用してハブで文書を送受信する場合は、ここで説明する手順に従ってください。JMS トランスポートを使用しない場合は、この部分を省略してください。

注: ここで示す手順では、WebSphere MQ の JMS インプリメンテーションを使用して、JMS 環境を設定する方法について説明します。この手順では、ローカル・キューのセットアップ方法も説明します。伝送およびリモート・キューをセットアップする場合は、WebSphere MQ 文書を参照してください。

JMS ターゲットまたはゲートウェイ (あるいは両方) を設定する方法については、本書の後のセクションで取り上げます。これらの作業については、45 ページの『JMS ターゲットの設定』、および 150 ページの『JMS ゲートウェイの設定』で説明します。

JMS 用のディレクトリーの作成

まず JMS 用のディレクトリーを作成します。例えば、Windows のインストール環境で、`c:\temp` ディレクトリー内に JMS という名前のディレクトリーを作成したいとします。これを行うには、以下のステップを実行します。

1. Windows のエクスプローラーを開きます。
2. `C:\temp` ディレクトリーを開きます。
3. JMS という名前のフォルダーを新規作成します。

デフォルトの JMS 構成の変更

ここでは、WebSphere MQ のインストールに含まれる `JMSAdmin.config` ファイルを更新して、コンテキスト・ファクトリーおよびプロバイダー URL を変更します。

1. WebSphere MQ の `Java\bin` ディレクトリーに移動します。例えば、Windows のインストール環境では `C:\IBM\MQ\Java\bin` に移動します。
2. メモ帳や vi などのプレーン・テキスト・エディターを使用して、`JMSAdmin.config` ファイルを開きます。
3. 以下の行の前に「#」文字を追加します。

```
INITIAL_CONTEXT_FACTORY=com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory
PROVIDER_URL=ldap://polaris/o=ibm,c=us
```

4. 以下の行の前にある「#」文字を削除します。

```
#INITIAL_CONTEXT_FACTORY=com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory
#PROVIDER_URL=file:/C:/JNDI-Directory
```
5. `PROVIDER_URL=file:/C:/JNDI-Directory` という行を、『JMS 用のディレクトリーの作成』で設定した JMS ディレクトリーの名前に変更します。例えば、`c:/temp/JMS` ディレクトリーを設定する場合は、この行が以下のようになります。

```
PROVIDER_URL=file:/c:/temp/JMS
```

6. ファイルを保存します。

キューおよびチャネルの作成

ここでは、WebSphere MQ を使用して、文書の送受信に使われるキューおよびこの通信のチャネルを作成します。キュー・マネージャーが作成されていることが前提となっています。キュー・マネージャーの名前は、以下のステップの `<queue_manager_name>` に入ります。また、このキュー・マネージャーのリスナーが TCP ポート 1414 で開始されていることも前提となっています。

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. 以下のコマンドを入力して、WebSphere MQ コマンド・サーバーを開始します。

```
strmqcsv <queue_manager_name>
```

3. 以下のコマンドを入力して、WebSphere MQ コマンド環境を開始します。

```
runmqsc <queue_manager_name>
```

4. 以下のコマンドを入力して、ハブに送信される着信文書を保持するための WebSphere MQ キューを作成します。

```
def ql(<queue_name>)
```

例えば、JMSIN という名前のキューを作成するには、以下のように入力します。

```
def ql(JMSIN)
```

5. 以下のコマンドを入力して、ハブから送信される文書を保持するための WebSphere MQ キューを作成します。

```
def ql(<queue_name>)
```

例えば、JMSOUT という名前のキューを作成するには、以下のように入力します。

```
def ql(JMSOUT)
```

6. 以下のコマンドを入力して、ハブから送受信される文書が使用する WebSphere MQ チャネルを作成します。

```
def channel(<channel_name>) CHLTYPE(SVRCONN)
```

例えば、java.channel という名前のチャネルを作成するには、以下のように入力します。

```
def channel(java.channel) CHLTYPE(SVRCONN)
```

7. 以下のコマンドを入力して、WebSphere MQ コマンド環境を終了します。

```
end
```

現行環境への JavaTM ランタイムの追加

現行のシステム・パスに Java ランタイムを追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
set PATH=%PATH%;<ProductDir>%_jvm%jre%bin
```

ここで、*ProductDir* は、WebSphere Partner Gateway がインストールされているディレクトリーを表します。

JMS 構成の定義

JMS 構成を定義するには、以下のステップを実行します。

1. WebSphere MQ Java ディレクトリー (ディレクトリー (<path_to_WebSphere_MQ_installation_directory>%java%bin)) に移動します。
2. 以下のコマンドを入力して、JMSAdmin アプリケーションを始動します。

```
JMSAdmin
```

3. InitCtx> プロンプトから以下のコマンドを入力して、新規 JMS コンテキストを定義します。

```
define ctx(<context_name>)
change ctx(<context_name>)
```

例えば、*context_name* が JMS である場合、コマンドは次のようになります。

```
define ctx(JMS)
change ctx(JMS)
```

4. InitCtx/jms> プロンプトから以下の JMS 構成を入力します。

```
define qcf(connection_factory_name)
  tran(CLIENT)
  host(<your_IP_address>)
  port(1414)
  chan(java.channel)
  qmgr(<queue_manager_name>)
define q(<name>) queue(<queue_name>) qmgr(<queue_manager_name>)
define q(<name>) queue(<queue_name>) qmgr(<queue_manager_name>)
end
```

前のステップでは `.bindings` ファイルを作成しました。これは、ステップ 5 (24 ページ) で指定したフォルダーのサブフォルダーにあります。サブフォルダーの名前は、JMS コンテキストに対して指定した名前です。

例えば、以下の JMSAdmin セッションを使用して、MQ キュー・マネージャーがある `sample.ibm.com` の IP アドレスを指定して、Hub としてキュー接続ファクトリーを定義します (<queue_manager_name>は `sample.queue.manager`)。この例では、25 ページの『キューおよびチャネルの作成』で作成した JMS キュー名およびチャネル名が使用されています。ユーザー入力は、> プロンプトの後に行います。

```
InitCtx> define ctx(jms)
InitCtx> change ctx(jms)
InitCtx/jms> define qcf(Hub)
  tran(CLIENT)
  host(sample.ibm.com)
  port(1414)
  chan(java.channel)
  qmgr(sample.queue.manager)
InitCtx/jms> define q(inQ) queue(JMSIN) qmgr(sample.queue.manager)
InitCtx/jms> define q(outQ) queue(JMSOUT) qmgr(sample.queue.manager)
InitCtx/jms>end
```

この例では、`.bindings` ファイルはディレクトリー `c:/temp/JMS/JMS` にあります。ここで、`c:/temp/JMS` は `PROVIDER_URL`、JMS はコンテキスト名です。

FTP スクリプト記述ターゲットおよびゲートウェイ用の FTP スクリプトの使用

FTP スクリプト・トランスポートを使用すると、付加価値通信網 (VAN) を含む任意の FTP サービスにデータを送信できます。FTP サーバー上の操作を制御するには、FTP コマンドを含むスクリプト・ファイルを使用します。

このスクリプトは、FTP スクリプト記述ターゲットまたはゲートウェイの作成時に指定します。FTP スクリプトのプレースホルダーのターゲットまたはゲートウェイの作成時に入力する実際の値が、WebSphere Partner Gateway によって置換されます。

入力スクリプトに定義されている操作は、FTP サーバーに対するアクションに変換されます。入力スクリプトは、サポートされる FTP コマンドのグループで構成されます。これらのコマンドのパラメーターは変数の形をとる場合があります。その場合、実行時に値が入力されます。

FTP スクリプト記述ターゲット用の FTP スクリプトの作成については、48 ページの『FTP スクリプト記述ターゲットの設定』を参照してください。FTP スクリプト記述ゲートウェイ用の FTP スクリプトの作成については、155 ページの『FTP スクリプト記述ゲートウェイの設定』を参照してください。

Data Interchange Services クライアントのマップの使用

EDI エンベロープ解除、変換、および検証を実行したり、ROD、XML、および EDI 間に変換を行うには、Data Interchange Services クライアントから関連したマップをインポートする必要があります。Data Interchange Services は、別個にインストールするプログラムです。これは、通常、WebSphere Partner Gateway が稼働するコンピューターとは別のコンピューターに常駐します。

Data Interchange Services のマッピング担当者は、特定の文書を変換および検証する方法を記述するマップを作成します。例えば、バックエンド・アプリケーションが購入注文を作成し、これを変換して、標準の EDI X12 購入注文 (850) としてコミュニティの参加者に送信するとします。Data Interchange Services のマッピング担当者は、各フィールドまたはデータをプログラムから X12 形式に変換する方法の詳細を示すマップを作成します。次に、マップを WebSphere Partner Gateway に直接エクスポートします。または、マップをファイルにエクスポートして、コマンド・スクリプトを使用してインポートします。

Data Interchange Services クライアントからマップをインポートする方法については詳しくは、123 ページの『マップのインポート』で説明します。

第 3 章 サーバーの始動および Community Console の表示

この章では、WebSphere Partner Gateway サーバーの始動方法と Community Console の表示方法について説明します。以下のトピックを扱います。

- 『WebSphere MQ の始動』
- 『WebSphere Partner Gateway のコンポーネントの始動』
- 30 ページの『Community Console へのログイン』

WebSphere MQ の始動

WebSphere MQ をまだ始動していない場合は、以下のいずれかの手順に従って始動します。

- UNIX ベースのシステムの場合:

1. 以下を入力します。

```
su mqm
```

2. 以下を入力します。

```
strmqm bcg.queue.manager
```

3. 以下を入力します。

```
runmq1sr -t tcp -p 9999 -m bcg.queue.manager &
```

4. 10 秒待ってから、Enter キーを押してコマンド・プロンプトに戻ります。

5. 以下を入力します。

```
strmqbrk -m bcg.queue.manager
```

- Windows ベースのシステムの場合:

1. 以下を入力します。

```
strmqm bcg.queue.manager
```

2. 以下を入力します。

```
runmq1sr -t tcp -p 9999 -m bcg.queue.manager
```

リスナーはこのウィンドウで実行されるので、開いたままにしておきます。

3. 新しいウィンドウを開き、次のコマンドを使用して JMS Broker (パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー) を始動します。

```
strmqbrk -m -bcg.queue.manager
```

WebSphere Partner Gateway のコンポーネントの始動

サーバーを始動するには、WebSphere Partner Gateway の Console、Document Manager、および Receiver の 3 つのコンポーネントをそれぞれ始動する必要があります。

1. ディレクトリー ¥<ProductDir>¥bin に移動します。
2. 以下のコマンドを入力して、Console を始動します。

- UNIX ベースのシステムの場合:

- ```
./bcgStartServer.sh bcgconsole
```
- Windows ベースのシステムの場合:  

```
bcgStartServer bcgconsole
```
3. 以下のコマンドを入力して、Receiver を始動します。  

```
./bcgStartServer.sh bcgreceiver
```

または

```
bcgStartServer bcgreceiver
```
  4. 以下のコマンドを入力して、Document Manager を始動します。  

```
./bcgStartServer.sh bcgdocmgr
```

または

```
bcgStartServer bcgdocmgr
```

コンポーネントの開始後、ヘルプ・システムを開始します。以下のコマンドを入力して、ヘルプ・システムを始動します。

```
./bcgStartHelp.sh
```

または

```
bcgStartHelp.bat
```

コンポーネントを開始したら、『Community Console へのログイン』で説明されているようにして、Community Console にログインします。

Data Interchange Services クライアントの開始については、「*Mapping Guide*」を参照してください。

---

## Community Console へのログイン

Community Console は、WebSphere Partner Gateway へのアクセス・ポイントです。ハブの設定で実行する作業の大半は、システムのスーパーユーザーであるハブ管理者 (hub admin) としてログインする必要があります。

Console コンポーネントが稼働しているコンピューターの IP アドレスを確認してください。HTTP コマンドでこのアドレスを入力します。

1. ブラウザーから、以下の URL を入力します。

```
http://<IP_address>:58080/console
```

2. 以下の情報を入力します。
  - a. 「ユーザー名」に hubadmin と入力します。
  - b. 「パスワード」に Pa55word と入力します。

注: すでに Community Console にサインオンし、デフォルトのパスワード Pa55word を変更している場合は、パスワード・フィールドに新しいパスワードを入力してください。

- c. 「会社ログイン名」に Operator と入力します。

「参加者の検索」ページが表示されます。Community Console にログインすると、最初に必ずこのページが表示されます。

後で説明しますが、参加者を定義するときにはこのページを使用します。

ここで「**検索**」をクリックすると、参加者の 1 人であるコミュニティー・オペレーターがリストされます。コミュニティー・オペレーターは、WebSphere Partner Gateway によって自動的に定義されます。

**注:** パスワードをデフォルトの Pa55word から変更していない場合は、「参加者の検索」ページが表示される前に、パスワードの変更を求めるプロンプトが出されます。



---

## 第 4 章 Community Console の構成

この章では、Community Console を構成して、参加者が表示できる内容、参加者がコンソールにログインする方法、およびさまざまなコンソール・タスクに必要な参加者のアクセス権を指定する方法について説明します。この章では以下のトピックを扱います。

- 『ロケール情報およびコンソールのブランドの指定』
- 35 ページの『パスワード・ポリシーの設定』
- 36 ページの『アクセス権の構成』

WebSphere Partner Gateway により提供されたデフォルト設定を使用する場合は、これらのタスクを実行する必要はありません。

---

### ロケール情報およびコンソールのブランドの指定

デフォルトでは、Community Console のページは、英語で表示されます。IBM は、内容の他言語への翻訳を、アップロード可能な一連のファイルとして提供しています。さまざまなロケールに対して IBM が提供するその他のコンソール項目は、バナー・グラフィックスです。オプションで、独自のロゴ・グラフィックスをアップロードできます。また、ページ上のテキストをフォーマットするためのカスタム・スタイル・シートをアップロードすることもできます。

このタスクは、「ロケールのアップロード」ページを使用して行います。「ロケールのアップロード」ページを表示するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「コンソール構成」>「ロケール構成」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. 「ロケール」リストからロケールを選択します。

Console に「ロケールのアップロード」ページが表示されます。

「ロケールのアップロード」ページから、以下のタスクを実行することができます。

- 固有のバナーまたはロゴ (あるいはその両方) をアップロードして、コンソールのブランドを設定する。
- IBM が提供するファイルをアップロードする。これにより、コンソール上のエレメントの内容をローカライズできます。

### コンソールのブランド設定

ブランド・イメージを変更して、Community Console の外観をカスタマイズすることができます。Community Console のブランド設定では、ヘッダーの背景と会社のロゴの 2 つのイメージがインポートされます。

- ヘッダーの背景は、Community Console の最上部一帯に表示されます。
- 会社のロゴは、Community Console の右上に表示されます。

これらのイメージは .JPG 形式のファイルで、Community Console のウィンドウに収まるように一定の仕様に従っていなければなりません。

- バナーとロゴに必要な仕様を参照するには、「ロケールのアップロード」ウィンドウで「**イメージ指定**」をクリックします。
- ヘッダーやロゴのイメージのサンプルを参照するには、ページの「**サンプル・イメージ**」部分までスクロールダウンし、**sample\_headerback.jpg** または **sample\_logo.jpg** をクリックします。
- 独自のバナーやロゴを作成するためのテンプレートとして使用するサンプルをダウンロードするには、「**サンプル・イメージ (ヘッダーの背景および会社のロゴ)**」をクリックします。

バナーまたはロゴ (あるいはその両方) を作成したら、以下のステップを実行します。

1. カスタマイズされたバナーをアップロードするには、以下のいずれかのタスクを実行します。
  - 「**バナー**」フィールドに、ヘッダーバナーに使用するイメージ・ファイルのパスと名前を入力します。
  - 「**参照**」をクリックし、バナーが入っている .jpg ファイルへ移動して、ファイルを選択します。
2. カスタマイズされたロゴをアップロードするには、以下のいずれかのステップを実行します。
  - 「**ロゴ**」フィールドに、会社のロゴに使用するファイルのパスと名前を入力します。
  - 「**参照**」をクリックし、ロゴが入っている .jpg ファイルへ移動して、ファイルを選択します。
3. 「**アップロード**」をクリックします。

**注:** 置き換えたヘッダーの背景や会社のロゴを有効にするには、Community Console を再始動する必要があります。

## スタイル・シートの変更

デフォルトと異なるスタイル・シートを指定する場合 (例えば、異なるフォント・サイズまたは色にする場合) は、以下のタスクを実行します。

1. 以下のいずれかのタスクを実行します。
  - 「**CSS**」フィールドに、カスタマイズされたスタイル・シートが入っているファイルのパスと名前を入力します。
  - 「**参照**」をクリックし、スタイル・シートが入っているファイルへ移動して、ファイルを選択します。
2. 「**アップロード**」をクリックします。

## コンソール上のデータのローカライズ

リソース・バンドルまたは他のロケール・ファイルを IBM から受信した場合は、「ロケールのアップロード」ページを使用して、これらのファイルをアップロードできます。リソース・バンドルには、以下の情報が含まれています。

- 「**コンソール・ラベル**」 - インターフェース上のすべてのテキストを表すテキスト・ストリングが含まれています。
- 「**イベント記述**」 - イベントの詳細を表示する際に使用されるテキスト・ストリング (「重複する接続を作成しようとして失敗しました」など)が含まれています。
- 「**イベント名**」 - イベント名を表すテキスト・ストリング (「接続はすでに存在します」など)が含まれています。
- 「**EDI イベント記述**」 - EDI イベントの詳細を表示する際に使用されるテキスト・ストリング (「FA の調整に失敗しました。EDI 肯定応答内にトランザクションのアクティビティ ID がありません。」など)が含まれています。
- 「**EDI イベント名**」 - EDI イベント名を表すテキスト・ストリング (「FA の調整に失敗しました」など)が含まれています。
- 「**拡張イベント・テキスト**」 - イベントに関する補足情報 (イベントの原因やトラブルシューティング情報など)を示すテキスト・ストリングが含まれています。

リソース・バンドルまたは他のロケール・ファイルをアップロードするには、以下のステップを実行します。

1. リソース・バンドルまたはファイルごとに、以下のいずれかのタスクを実行します。
  - ファイルのパスおよび名前を入力します。
  - 「参照」をクリックし、使用するファイルへ移動して、ファイルを選択します。
2. ファイルのアップロードが終了したら、「アップロード」をクリックします。

---

## パスワード・ポリシーの設定

システム設定されたデフォルト値以外の値を使用したい場合は、ハブ・コミュニティのパスワード・ポリシーを設定します。パスワード・ポリシーは、Community Console にログインするすべてのユーザーに適用されます。

パスワード・ポリシーの以下のエレメントを変更することができます。

- 「**最小長**」 - 参加者がパスワードに最低限使用しなければならない文字数を表します。デフォルトは 8 文字です。
- 「**有効期限**」 - パスワードが期限切れになるまでの日数を表します。デフォルトは 30 日です。
- 「**固有性**」 - ヒストリー・ファイルに保持されるパスワードの数を指定します。ヒストリー・ファイル内にはない旧パスワードは、参加者が使用できません。デフォルトのパスワード数は 10 です。
- 「**特殊文字**」 - これを選択すると、以下のタイプの特殊文字のうち、少なくとも 3 つがパスワードに含まれていなければならないことを示します。
  - 大文字
  - 小文字
  - 数字
  - 特殊文字

パスワードが英字 (ASCII) で構成される場合は、この設定をすることで、より厳しいセキュリティ要件を設けることができます。デフォルト設定はオフです。パスワードが各国文字で構成される場合は、「特殊文字」をオフにしておくことをお勧めします。英語以外の言語の文字セットには、4 つの文字タイプのうち必要となる 3 つが含まれていない場合もあります。

システムでサポートされている特殊文字は、「#」、「@」、「\$」、「&」、「+」です。

- 「名前との差異の検査」 - これを選択すると、ユーザーのログイン名や氏名から推測されやすいパスワードを使用できなくなります。このフィールドは、デフォルトで選択されています。

デフォルト値を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「コンソール構成」>「パスワード・ポリシー」をクリックします。「パスワード・ポリシー」ページが表示されます。
2. 「編集」アイコンをクリックします。
3. 任意のデフォルト値を、パスワード・ポリシーに使用したい値に変更します。
4. 「保管」をクリックします。

---

## アクセス権の構成

アクセス権とは、ユーザーが Console の各種モジュールにアクセスするために必要な権限です。

### ユーザーへのアクセス権の付与方法

アクセス権を構成する前に、個々のユーザーへのアクセス権の付与方法について理解しておく役立ちます。ハブ・コミュニティ内の 3 つのタイプのエンティティ (コミュニティ・オペレーター、コミュニティ・マネージャー、および参加者) は、管理ユーザーを持ちます。コミュニティ・マネージャーまたは参加者を作成する場合は、実際には、そのエンティティの管理ユーザーを作成します。(コミュニティ・オペレーターの場合は、ハブの別の管理ユーザーの場合と同様に、ハブ管理者が自動的に作成されます。)

参加者を作成する場合 (163 ページの『参加者プロファイルの作成』を参照) は、参加者のログイン情報 (ログインに使用する名前やパスワードなど) を指定します。参加者は、ログインした後に、組織内の追加ユーザーを作成します。また、参加者は、グループを作成して、ユーザーをそのグループに割り当てます。例えば、文書ボリュームをモニターするユーザーのグループが組織で必要となる場合があります。参加者は、ボリューム・グループを作成して、このグループにユーザーを割り当てます。

注: ハブ管理ユーザーは、参加者に対してユーザーおよびグループを定義することもできます。

次に、参加者の管理ユーザーが、ユーザーのグループにアクセス権を割り当てます。例えば、管理ユーザーは、ボリューム・グループが文書ボリューム・レポートと文書分析レポートのみを参照するようにすることができます。また、管理ユーザー

ーは、「グループの詳細」ページを使用して、ボリューム・グループの文書レポート・モジュールを使用可能に、その他のモジュールを使用不可にすることができます。

ハブ管理者が「アクセス権」ページで行った設定によって、「グループの詳細」ページにモジュールがリストされるかどうか決定されます。

一部のモジュールはハブ・コミュニティの特定のメンバー（ハブ管理者など）に制限されています。したがって、このようなモジュールを参加者に対して使用可能に設定しても、モジュールは参加者の「グループの詳細」ページには表示されません。

## アクセス権の使用可能化と使用不可化

「アクセス権リスト」ページから、アクセス権を使用可能または使用不可にして、ユーザーのグループに割り当てることができるアクセス権を決定できます。ただし、新しいアクセス権を定義することはできません。

デフォルトのアクセス権を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「コンソール構成」>「アクセス権」をクリックします。「アクセス権リスト」が表示されます。
2. デフォルトを変更したい場合は、以下のステップを実行します。
  - a. 現在の設定（「使用可能」または「使用不可」）をクリックして、設定を変更します。
  - b. 変更を確認するプロンプトが出されたら、「OK」をクリックします。



---

## 第 5 章 ターゲットの定義

この章では、WebSphere Partner Gateway にターゲットを設定する方法について説明します。以下のトピックを扱います。

- 『概要』
- 40 ページの『ユーザー定義ハンドラーのアップロード』
- 41 ページの『グローバルなトランスポート値の設定』
- 42 ページの『HTTP/S ターゲットの設定』
- 43 ページの『FTP ターゲットの設定』
- 44 ページの『SMTP ターゲットの設定』
- 45 ページの『JMS ターゲットの設定』
- 47 ページの『ファイル・システム・ターゲットの設定』
- 48 ページの『FTP スクリプト記述ターゲットの設定』
- 52 ページの『ユーザー定義トランスポートのターゲットの設定』
- 53 ページの『構成ポイントの変更』

---

### 概要

7 ページの『文書処理の概要』に記載されているように、受信側は特定のトランスポートからのインバウンド文書を受信します。ターゲットは特定の配置用に構成された Receiver のインスタンスです。

ハブ上のターゲットで受信される文書は、コミュニティの参加者から送信される (最終的にはコミュニティ・マネージャーに配信される) 場合もあれば、コミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションから送信される (最終的には参加者に配信される) 場合もあります。

40 ページの図 16 に、4 つのターゲットがセットアップされた WebSphere Partner Gateway サーバーを示します。ターゲットのうち 2 つ (HTTP/S および FTP/S) は参加者から発信される文書用です。これらの 2 つのターゲットは HTTP URI および FTP ディレクトリーを表します。参加者が文書をユーザーに送信する場所を指定するために、これらのターゲットに関する情報を参加者に提供します。その他の 2 つのターゲット (JMS およびファイル・ディレクトリー) は、コミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションから発信される文書用です。これらのターゲットはキューおよびディレクトリーを表します。

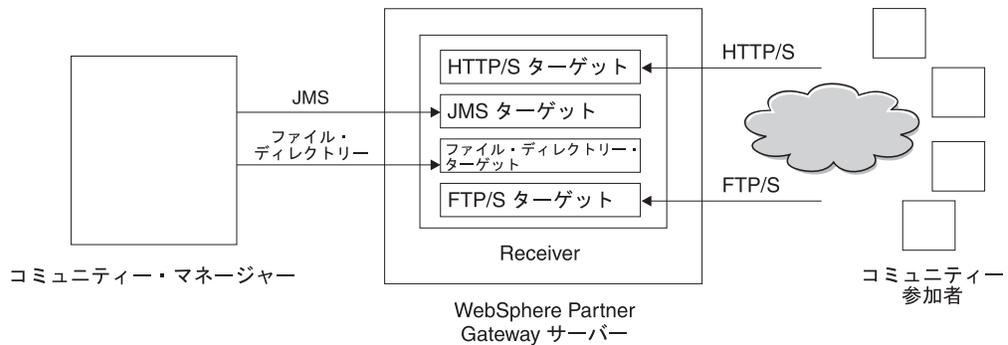


図 16. トランスポートおよび関連付けられたターゲット

ハブへの文書の送信に使用するトランスポートのタイプごとに、少なくとも 1 つのターゲットを設定する必要があります。例えば、HTTP または HTTPS トランスポートで送信される文書を受信するには、HTTP ターゲットを設定します。コミュニティの参加者が FTP で文書を送信する場合は、FTP ターゲットを設定します。

Receiver コンポーネントは、ターゲットの 1 つにメッセージが着信した時期を検出します。一部のターゲットは、新規メッセージが着信したかどうかを判別するためにトランスポートを定期的に、またはスケジュールに従ってポーリングし、メッセージを検出します。ポーリング・ベースの WebSphere Partner Gateway ターゲットは、JMS、FTP、SMTP、File、および FTP スクリプト記述です。HTTP/S ターゲットはコールバック・ベースです。これは、メッセージが着信すると、トランスポートから通知を受信することを意味します。ユーザー定義のトランスポートは、ポーリング・ベースまたはコールバック・ベースのいずれかに設定できます。

## ユーザー定義ハンドラーのアップロード

ターゲットの構成ポイントを変更するには、ターゲットのハンドラーを指定します。WebSphere Partner Gateway 提供のハンドラー、またはユーザー定義のハンドラーを使用できます。ここでは、ユーザー定義のハンドラーをアップロードする方法について説明します。このセクションでは、ユーザー定義のハンドラーの場合のみ使用します。WebSphere Partner Gateway 提供のハンドラーは、すでに使用可能です。

ハンドラーをアップロードするには、以下のステップを実行します。

1. メインメニューから、「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」をクリックします。
2. 「ターゲット」を選択します。

ターゲットに対して現在定義されているハンドラーのリストが表示されます。WebSphere Partner Gateway から提供されているハンドラーのプロバイダー ID は「製品」となっています。

3. 「ハンドラー・リスト」ページで、「インポート」をクリックします。
4. 「ハンドラーのインポート」ページで、目的のハンドラーが記述されている XML ファイルへのパスを指定するか、または「参照」を使用してその XML ファイルを検索します。

ハンドラーがアップロードされたら、そのハンドラーを使用して、ターゲットの構成ポイントをカスタマイズすることができます。

---

## グローバルなトランスポート値の設定

すべての HTTP/S および FTP スクリプト記述ターゲットに適用されるグローバル・トランスポート属性を設定します。HTTP/S または FTP スクリプト記述ターゲットを定義しない場合は、このセクションは適用されません。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」を表示します。
2. 「ターゲット・リスト」から「グローバル・トランスポート属性」を選択します。
3. デフォルト値がご使用の構成に対して適切である場合は、「キャンセル」をクリックします。それ以外の場合は、このセクションの残りのステップを継続します。
4. 「カテゴリ別にリストされたグローバル属性」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
5. 「FTP スクリプト・トランスポート」および「FTP スクリプト記述: ターゲットおよびゲートウェイ」値を検討し、必要に応じて変更します。

FTP スクリプト・トランスポートには、複数の FTP スクリプト記述インスタンスが同じターゲットに同時にアクセスできないようにする、ロック機構が使用されています。文書の送信準備を終えた FTP スクリプト・トランスポートには、このロックが必要です。ロックを取得するまでにターゲット・インスタンスが待機する時間や、ロックが使用中の場合にロックを取得するために試行する回数などに、デフォルト値が設定されています。これらのデフォルト値を使用することも、変更することもできます。1 つ以上の値を変更するには、新しい値を入力します。以下の値を変更できます。

- 「FTP スクリプト・トランスポート」値
    - 「ロック再試行カウント」。ロックが現在使用中である場合に、ロックを取得するためにターゲットが試行する回数を指定します。デフォルトは 3 です。
    - 「ロック再試行間隔 (秒)」。ロックの取得を試みてから次に試みるまでの経過時間を指定します。デフォルトは 260 秒です。
  - 「FTP スクリプト記述: ターゲットおよびゲートウェイ」値
    - 「最大ロック時間 (秒)」。ターゲットがロックを保持できる期間を指定します。デフォルト値は 240 秒です。
    - 「最大キュー存続期間 (秒)」。ターゲットがロックを取得するためにキューに待機する期間を指定します。デフォルトは 740 秒です。
6. 「HTTP/S トランスポート」値を検討し、必要に応じて変更します。以下の値を変更できます。
    - 「最大同期タイムアウト (秒)」。同期接続を開いたまま保持できる秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。
    - 「最大同時同期接続数」。システムで使用できる同期接続数を指定します。デフォルトは、100 個の接続です。

7. 「保管」をクリックします。

---

## HTTP/S ターゲットの設定

Receiver コンポーネントには、事前定義された `bcgreceiver` サブレットがあります。これは HTTP/S POST メッセージの受信に使用されます。サブレットが受信したメッセージにアクセスするには、HTTP ターゲットを 1 つ以上作成します。

HTTP/S ターゲットに必要な情報を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」ページを表示します。
2. 「ターゲット・リスト」ページで、「ターゲットの作成」をクリックします。

### ターゲットの詳細

「ターゲットの詳細」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、`HttpTarget1` というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。
2. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
3. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
4. 「トランスポート」リストから、「HTTP/S」を選択します。

### ターゲット構成

「ターゲット構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. (オプション) ゲートウェイ・タイプを指定します。ゲートウェイ・タイプによって、送信の性質が定義されます。例えば、文書交換を製品に書き込む前にテストする場合は、「テスト」を指定します。デフォルトは「実動」です。
2. HTTP/S ターゲットの URI を入力します。この名前は `bcgreceiver` で始める必要があります。例えば、`bcgreceiver/submit` と入力します。HTTP/S でサーバーに着信した文書は、その後 `bcgreceiver/submit` で受信されます。

注: 「同期ルーティング」値はすでに入力されていて、このページから編集することはできません。これらの値を変更するには、「グローバル・トランスポート属性」ページを使用します (41 ページの『グローバルなトランスポート値の設定』を参照)。

### ハンドラー

分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を含むファイルを受信した場合は、前処理構成ポイントに適切なスプリッター・ハンドラーを構成します。

同期交換を通して特定のタイプのビジネス文書 (RosettaNet、cXML、SOAP、および AS2) を送受信する場合は、同期検査構成ポイントで関連するプロトコルのハンドラーを指定します。ターゲットの後処理構成ポイントを変更することもできます。

構成ポイントを変更する場合は、53ページの『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## FTP ターゲットの設定

FTP ターゲットは設定された間隔で FTP サーバーをポーリングし、新規文書を検索します。

FTP ターゲットに必要な情報を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」ページを表示します。
2. 「ターゲット・リスト」ページで、「**ターゲットの作成**」をクリックします。

### ターゲットの詳細

「**ターゲットの詳細**」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、FTPtarget1 というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。
2. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「**使用可能**」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
3. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
4. 「**トランスポート**」リストから、「**FTP ディレクトリー**」を選択します。

### ターゲット構成

「**ターゲット構成**」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「**FTP ルート・ディレクトリー**」フィールドに、FTP サーバーのルート・ディレクトリーを入力します。Document Manager は FTP ルート・ディレクトリー内で参加者のサブディレクトリーを自動的にポーリングして、文書ルーティングを行います。このフィールドは必須です。FTP サーバーのディレクトリーのセットアップについては、19ページの『文書を受信する FTP サーバーの構成』を参照してください。

注: ルート FTP ディレクトリーで終了するディレクトリー・パスを入力します。参加者のサブディレクトリーは含めないでください。

2. (オプション) 「**ファイル未変更間隔**」に、ファイル・サイズが未変更の状態を保つ時間 (秒数) を指定します。この時間を過ぎると、Document Manager が処理する文書を取り出します。この未変更間隔期間により、Document Manager が文書を取得する場合に、文書の送信が完了し、転送されていない状態が確保されます。デフォルト値は 3 秒です。
3. (オプション) 「**スレッド番号**」に、Document Manager が同時に処理できる文書の数を指定します。デフォルト値の 1 を使用することをお勧めします。
4. (オプション) 「**除外するファイル拡張子**」に、Document Manager が FTP ディレクトリー内で文書を検出した場合に無視する (処理対象から除外する) 文書のタイプを指定します。例えば、Document Manager がスプレッドシート・ファイルは無視するようにしたい場合は、そのファイルの拡張子を入力します。拡張子

を入力したら、「追加」をクリックします。無視するファイル拡張子リストに拡張子が追加されます。デフォルトでは、どのファイル・タイプも除外されません。

注: ファイル名拡張子の前にドットを使用しないでください (.exe または .txt など)。ファイル拡張子を示す文字列のみを使用します。

## ハンドラー

分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を含むファイルを受信した場合は、前処理構成ポイントに適切なスプリッター・ハンドラーを構成します。

前処理構成ポイントを変更する場合は、53 ページの『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## SMTP ターゲットの設定

SMTP ターゲットは (指定されたスケジュールに従って) POP3 メール・サーバーをポーリングして、新規文書を検索します。

SMTP (POP3) ターゲットに必要な情報を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」ページを表示します。
2. 「ターゲット・リスト」ページで、「ターゲットの作成」をクリックします。

## ターゲットの詳細

「ターゲットの詳細」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、POP3Target1 というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。
2. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
3. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
4. 「トランスポート」リストから、「POP3」を選択します。

## ターゲット構成

ページの「ターゲット構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. (オプション) ゲートウェイのタイプを指定します。ゲートウェイ・タイプによって、送信の性質が定義されます。例えば、文書交換を製品に書き込む前にテストする場合は、「テスト」を指定します。デフォルトは「実動」です。
2. メールを配信する POP3 サーバーの場所を入力します。例えば、IP アドレスを入力します。
3. (オプション) ポート番号を入力します。何も入力しなかった場合は、値 110 が使用されます。

4. ユーザー ID とパスワードが必要な場合は、メール・サーバーへのアクセスに必要なユーザー ID とパスワードを入力します。
5. (オプション) 「スレッド番号」に、Document Manager が同時に処理できる文書の数を指定します。デフォルト値の 1 を使用することをお勧めします。

## スケジュール

ページの「スケジュール」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「間隔を基にしたスケジューリング」または「カレンダーを基にしたスケジューリング」を選択します。
2. 以下のいずれかのステップを実行します。
  - 「間隔を基にしたスケジューリング」を選択した場合は、POP3 サーバーを再びポーリングするまでの経過時間を秒数で選択します (またはデフォルト値を受け入れます)。デフォルト値を受け入れた場合、POP3 サーバーは 5 秒おきにポーリングされます。
  - 「カレンダーを基にしたスケジューリング」を選択した場合は、スケジューリングのタイプ (「日次スケジュール」、「週次スケジュール」、または「カスタム・スケジュール」) を選択します。
    - 「日次スケジュール」を選択した場合は、POP3 サーバーがポーリングされる時刻 (時分) を選択します。
    - 「週次スケジュール」を選択した場合は、時刻のほかに曜日を 1 つ以上選択します。
    - 「カスタム・スケジュール」を選択した場合は、まず時刻を選択し、次に週および月について「範囲」または「選択できる日」を選択します。「範囲」では、開始日と終了日を指定します。(例えば、平日の特定の時刻にのみサーバーをポーリングする場合は、「月」 および「金」をクリックしてください。) 「選択できる日」では、週および月の特定の日付を選択します。

---

## JMS ターゲットの設定

JMS ターゲットは (指定されたスケジュールに従って) JMS キューをポーリングして、新規文書を検索します。

JMS ターゲットに必要な情報を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」ページを表示します。
2. 「ターゲット・リスト」ページで、「ターゲットの作成」をクリックします。

## ターゲットの詳細

「ターゲットの詳細」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、JMSTarget1 というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。

- (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「**使用可能**」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
- (オプション) ターゲットの説明を入力します。
- 「**トランスポート**」リストから、「**JMS**」を選択します。

## ターゲット構成

ページの「**ターゲット構成**」セクションで、以下のステップを実行します。

- (オプション) ゲートウェイのタイプを指定します。ゲートウェイ・タイプによって、送信の性質が定義されます。例えば、文書交換を製品に書き込む前にテストする場合は、「**テスト**」を指定します。デフォルトは「**実動**」です。
- JMS プロバイダーの URL を入力します。これは、WebSphere Partner Gateway を JMS 対応として構成した際に入力した値 (バインディング・ファイルのファイル・システム・パス) と一致していなければなりません (ステップ 5 (24 ページ))。また、JMS コンテキストのサブフォルダーを JMS プロバイダー URL の一部として指定することもできます。

例えば、JMS コンテキストを指定しない場合、`c:/temp/JMS` と入力します。JMS コンテキストを指定する場合は、`c:/temp/JMS/JMS` と入力します。

- ユーザー ID とパスワードが必要な場合は、JMS キューへのアクセスに必要なユーザー ID とパスワードを入力します。
- JMS キュー名の値を入力します。このフィールドは必須です。この名前は、バインディング・ファイルの作成時 (ステップ 4 (26 ページ)) に `define q` コマンドで指定した名前と一致している必要があります。

ステップ 2 で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力した場合、ここではキュー名だけを入力します (例えば、`inQ`)。JMS プロバイダー URL で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力しなかった場合は、ファクトリー名の前にサブフォルダーを指定します (例えば、`JMS/inQ`)。

- JMS ファクトリー名の値を入力します。このフィールドは必須です。この名前は、バインディング・ファイルの作成時 (ステップ 4 (26 ページ)) に `define qcf` コマンドで指定した名前と一致している必要があります。

ステップ 2 で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力した場合、ここではファクトリー名だけを入力します (例えば、`Hub`)。JMS プロバイダー URL で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力しなかった場合は、ファクトリー名の前にサブフォルダーを指定します (例えば、`JMS/Hub`)。

- (オプション) プロバイダー URL パッケージを入力します。
- JNDI ファクトリー名を入力します。何も入力しなかった場合は、値 `com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory` が使用されます。このフィールドは必須です。
- (オプション) 「**タイムアウト**」に、ターゲットが文書を調べるために JMS キューをモニターする時間 (秒数) を指定します。このフィールドはオプションです。
- (オプション) 「**スレッド番号**」に、Document Manager が同時に処理する文書の数を指定します。デフォルト値の 1 を使用することをお勧めします。

例えば、24 ページの『JMS トランスポート・プロトコル用のハブの構成』の JMS 構成例と一致するように JMS ターゲットを設定したい場合は、以下のようにします。

1. 「ターゲット名」ボックスに、値 **JMSTarget** を入力します。
2. 「JMS プロバイダー URL」ボックスに、値 **file:/C:/TEMP/JMS/JMS** を入力します。
3. 「JMS キュー名」ボックスに、値 **inQ** を入力します。
4. 「JMS ファクトリー名」ボックスに、値 **Hub** を入力します。

## ハンドラー

分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を含むファイルを受信した場合は、前処理構成ポイントに適切なスプリッター・ハンドラーを構成します。

このターゲットの構成ポイントを変更する場合は、53 ページの『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## ファイル・システム・ターゲットの設定

ファイル・システム・ターゲットは設定された間隔でディレクトリーをポーリングし、新規文書を検索します。

ファイル・システム・ターゲットに必要な情報を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックして、「ターゲット・リスト」ページを表示します。
2. 「ターゲット・リスト」ページで、「ターゲットの作成」をクリックします。

## ターゲットの詳細

「ターゲットの詳細」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、FileTarget1 というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。
2. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
3. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
4. 「トランスポート」リストから、「ファイル・ディレクトリー」を選択します。

## ターゲット構成

ページの「ターゲット構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. (オプション) ゲートウェイのタイプを指定します。ゲートウェイ・タイプによって、送信の性質が定義されます。例えば、文書交換を製品に書き込む前にテストする場合は、「テスト」を指定します。デフォルトは「実動」です。
2. 「文書ルート・パス」に、文書を受信するディレクトリーを指定します。

3. (オプション) 「ポーリング間隔」に、新しい文書を調べるためにディレクトリーをポーリングする間隔を指定します。何も入力しなかった場合は、5 秒間隔でディレクトリーがポーリングされます。
4. (オプション) 「ファイル未変更間隔」に、ファイル・サイズが未変更の状態を保つ時間 (秒数) を指定します。この時間を過ぎると、Document Manager が処理する文書を取り出します。この未変更間隔期間により、Document Manager が文書を取得する場合に、文書の送信が完了し、転送されていない状態が確保されます。デフォルト値は 3 秒です。
5. (オプション) 「スレッド番号」に、Document Manager が同時に処理できる文書の数を指定します。デフォルト値の 1 を使用することをお勧めします。

## ハンドラー

分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を含むファイルを受信した場合は、前処理構成ポイントに適切なスプリッター・ハンドラーを構成します。

前処理構成ポイントを変更する場合は、53 ページの『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## FTP スクリプト記述ターゲットの設定

FTP スクリプト記述ターゲットは、設定されたスケジュールに従って動作するポーリング・ターゲットです。FTP スクリプト記述ターゲットの動作は、FTP コマンド・スクリプトによって管理されます。

ご使用の FTP サーバーのディレクトリーをポーリングする FTP ターゲットと異なり、FTP スクリプト記述ターゲットは別のサーバー (VAN など) のディレクトリーをポーリングします。

## FTP スクリプトの作成

FTP サーバーには、受け入れられるコマンドに関する具体的な要件を保持できません。FTP スクリプト記述ターゲットを使用するには、接続先の FTP サーバーで必要な FTP コマンドをすべて含むファイルを作成します。(FTP サーバー管理者からこの情報を入手する必要があります。)

1. ターゲットのスクリプトを作成して、実行するアクションを指定します。次のスクリプトは、(名前およびパスワードを指定して) 指定された FTP サーバーに接続し、FTP サーバー上の指定ディレクトリーに移動して、このディレクトリー内のすべてのファイルを受信する例です。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
cd %BCGOPTION1%
mget *
quit
```

FTP スクリプト記述ターゲットの特定のインスタンスを作成するとき入力した値に応じてターゲットを処理する場合は、プレースホルダー (%BCGSERVERIP% など) が置き換えられます。この例の %BCGOPTION% は、cd コマンド内のディレクトリー名です。スクリプト・パラメーターおよび関連する FTP スクリプト記述ターゲット・フィールドを 49 ページの表 2 に示します。

表 2. スクリプト・パラメーターと FTP スクリプト記述ターゲット・フィールドの項目のマッピング

| スクリプト・パラメーター  | FTP スクリプト記述ターゲット・フィールドの項目 |
|---------------|---------------------------|
| %BCGSERVERIP% | サーバー IP                   |
| %BCGUSERID%   | ユーザー ID                   |
| %BCGPASSWORD% | パスワード                     |
| %BCGOPTIONx%  | ユーザー定義属性の下のオプション <i>x</i> |

2. ファイルを保存します。

## FTP スクリプト記述コマンド

スクリプトを作成する場合は、以下のコマンドを使用できます。

- `ascii`、`binary`、`passive`

これらのコマンドは FTP サーバーに送信されません。各コマンドにより、FTP サーバーへの転送モード (ASCII、バイナリー、またはパッシブ) が変更されます。

- `cd`

指定されたディレクトリーに移動します。

- `delete`

FTP サーバーからファイルを削除します。

- `get`

このコマンドは、リモート・システムから取得するファイルの名前である単一の引数を取ります。要求されたファイルが WebSphere Partner Gateway に転送されます。このコマンドは、名前が既知である単一ファイルを取り出す場合にのみ使用します。それ以外の場合は、`mget` コマンドをワイルドカードとともに使用します。

- `getdel`

このコマンドは、WebSphere Partner Gateway が処理用のファイルを取得するときにリモート・システムからファイルが除去される点を除き、`get` コマンドと同じです。

- `mget`

このコマンドは、取得するファイルのグループについて説明する単一の引数を取ります。説明には、標準のワイルドカード文字 (「\*」および「?」) を含めることができます。1 つ以上のファイルがリモート・システムから取得されます。

- `mgetdel`

このコマンドは、FTP サーバーから取得し、その後サーバー上から削除するファイルのグループについて説明する単一の引数を取ります。説明には、標準のワイルドカード文字 (「\*」および「?」) を含めることができます。1 つ以上のファイルがリモート・システムから取得され、その後リモート・システムから削除されます。

- mkdir

FTP サーバー上にディレクトリーを作成します。

- open

このコマンドは、FTP サーバー IP アドレス、ユーザー名、およびパスワードの 3 つのパラメーターを取ります。これらのパラメーターは、%BCGSERVERIP%、%BCGUSERID%、および %BCGPASSWORD% 変数に対応します。

したがって、FTP スクリプト記述ターゲット・スクリプトの最初の行は次のようになります。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
```

- quit、bye

FTP サーバーへの既存の接続を終了します。

- quote

QUOTE の後に指定されているものをすべてコマンドとしてリモート・システムに送信するように指定します。これにより、標準の FTP プロトコルに定義されていないコマンドをリモート FTP サーバーに送信できるようになります。

- rename

FTP サーバー上のファイルの名前を変更します。

- rmdir

FTP サーバーからディレクトリーを削除します。

- site

このコマンドは、サイト固有のコマンドをリモート・システムに発行するときに使用できます。リモート・システムは、このコマンドの内容が有効かどうかを判別します。

## ターゲットの詳細

FTP スクリプト記述ターゲットに指定する必要がある情報については、以下のステップで説明します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**ターゲット**」をクリックして、「**ターゲット・リスト**」ページを表示します。
2. 「**ターゲット・リスト**」ページで、「**ターゲットの作成**」をクリックします。

「**ターゲットの詳細**」セクションで、以下のステップを実行します。

1. ターゲットの名前を入力します。例えば、FTPScriptingTarget1 というターゲット名を付けます。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「**ターゲット**」リストに表示されます。
2. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「**使用可能**」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
3. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
4. 「**トランスポート**」リストから、「**FTP Scripting**」を選択します。

## ターゲット構成

ページの「**ターゲット構成**」セクションで、以下のステップを実行します。

1. (オプション) ゲートウェイのタイプを指定します。ゲートウェイ・タイプによって、送信の性質が定義されます。例えば、文書交換を製品に書き込む前にテストする場合は、「**テスト**」を指定します。デフォルトは「**実動**」です。
2. 接続先の FTP サーバーのサーバー IP アドレスを入力します。FTP スクリプトが実行されると、ここに入力した値で `%BCGSERVERIP%` が置き換えられます。
3. サーバーにアクセスするために使用するユーザー ID およびパスワードを入力します。FTP スクリプトが実行されると、ここに入力した値で `%BCGUSERID%` および `%BCGPASSWORD%` が置き換えられます。
4. ターゲットが Secure Sockets Layer (SSL) モードで動作するかどうかを指定します。このモードで動作する場合は、参加者と証明書を交換する必要があります (171 ページの『第 13 章 インバウンドおよびアウトバウンド交換のセキュリティ設定』を参照)。
5. 以下のステップを実行して、スクリプト・ファイルをアップロードします。
  - a. 「**スクリプト・ファイルのアップロード**」をクリックします。
  - b. 文書を処理するスクリプトが格納されたファイルの名前を入力するか、または「**参照**」を使用して、ファイルにナビゲートします。
  - c. 「**ファイルのロード**」をクリックして、スクリプト・ファイルを「**現在ロードされているスクリプト・ファイル**」テキスト・ボックスにロードします。
  - d. このスクリプト・ファイルを使用したい場合は、「**保管**」をクリックします。
  - e. 「**ウィンドウを閉じる**」をクリックします。
6. 「**接続タイムアウト**」に、トラフィックがなくてもソケットを開いたままにしておく時間 (秒数) を入力します。
7. 「**ロック・ユーザー**」フィールドに、ターゲットがロックを要求して、FTP スクリプト記述ターゲットの他のインスタンスが同時に同じ FTP サーバー・ディレクトリーにアクセスできないようにするかどうかを指定します。

**注:** 「**グローバル FTP スクリプト記述属性**」にはすでに値が入っており、このページから編集することはできません。これらの値を変更するには、「**グローバル・トランスポート属性**」ページを使用します (41 ページの『**グローバルなトランスポート値の設定**』を参照)。

## ユーザー定義属性

追加の属性を指定する場合は、以下のステップを実行します。FTP スクリプトが実行されると、オプションに入力した値で `%BCGOPTIONx%` が置き換えられます ( $x$  はオプション番号に対応します)。

1. 「**新規**」をクリックします。
2. 「**オプション 1**」の横に値を入力します。
3. 追加の属性を指定する場合は、「**新規**」を再びクリックして、値を入力します。
4. 必要なだけステップ 3 を繰り返して、すべての属性を定義します。

例えば、FTP スクリプトが次のようになっているとします。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
cd %BCGOPTION1%
mget *
quit
```

この場合、%BCGOPTION% はディレクトリー名です。

## スケジュール

間隔を基にしたスケジューリングとカレンダーを基にしたスケジューリングのどちらが必要なのかを指定します。

- 「間隔を基にしたスケジューリング」を選択した場合は、FTP サーバーをポーリングするまでの経過時間を秒数で選択します (またはデフォルト値を受け入れます)。
- 「カレンダーを基にしたスケジューリング」を選択した場合は、スケジューリングのタイプ (「日次スケジュール」、「週次スケジュール」、または「カスタム・スケジュール」) を選択します。
  - 「日次スケジュール」を選択した場合は、FTP サーバーがポーリングされる時刻を入力します。
  - 「週次スケジュール」を選択した場合は、時刻のほかに曜日を 1 つ以上選択します。
  - 「カスタム・スケジュール」を選択した場合は、まず時刻を選択し、次に週および月について「範囲」または「選択できる日」を選択します。「範囲」では、開始日と終了日を指定します。(例えば、平日の特定の時刻にのみサーバーをポーリングする場合は、「月」 および「金」をクリックしてください。) 「選択できる日」では、週および月の特定の日付を選択します。

## ハンドラー

分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を含むファイルを受信した場合は、前処理構成ポイントに適切なスプリッター・ハンドラーを構成します。

前処理構成ポイントを変更する場合は、53 ページの『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## ユーザー定義トランスポートのターゲットの設定

ユーザー定義トランスポートのターゲットを定義する場合、フィールド名およびその他の情報はトランスポートを記述するファイル内で定義します。

以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「ターゲット」 をクリックします。
2. 「トランスポート・タイプの管理」 をクリックします。
3. トランスポートを定義する XML ファイルの名前を入力します (または、「参照」を使用して、必要なファイルへ移動します)。
4. 「アップロード」 をクリックします。

注: 「ターゲット・リスト」からユーザー定義のトランスポート・タイプを削除することもできます。 WebSphere Partner Gateway で提供されているトランスポートは、削除できません。また、ユーザー定義のトランスポートを使用してターゲットを作成した後は、このユーザー定義のトランスポートを削除できません。

5. 「**ターゲットの作成**」をクリックします。
6. ターゲットの名前を入力します。このフィールドは必須です。ここで入力した名前は「ターゲット」リストに表示されます。
7. (オプション) ターゲットの状況を指定します。デフォルトは「**使用可能**」です。使用可能状態のターゲットは、文書を受信することができます。使用不可状態のターゲットは、文書を受信できません。
8. (オプション) ターゲットの説明を入力します。
9. リストからユーザー定義トランスポートを選択します。
10. フィールドに入力します (フィールドはユーザー定義トランスポートごとに固有です)。
11. このターゲットの構成ポイントを変更する場合は、『構成ポイントの変更』に進みます。それ以外の場合は、「**保管**」をクリックします。

---

## 構成ポイントの変更

使用できる構成ポイント数、およびこれらの構成ポイントの関連ハンドラー数は、セットアップ中のターゲット・タイプに応じて変わります。例えば、同期検査構成ポイントは HTTP/S および JMS ターゲットの場合にのみ使用できます。

同期交換に参与する特定のビジネス・プロトコル (RosettaNet、cXML、SOAP、および AS2) に対して、同期検査構成ポイント内でそのプロトコルに対するハンドラーを指定する必要があります。また、ターゲットの前処理または後処理ポイントにアップロードされたユーザー定義ハンドラー (またはシステム提供のプロセス) を適用して、ターゲットの文書処理方法を変更することもできます。

これらの構成ポイントにユーザーが作成したハンドラーを適用するには、まず 40 ページの『ユーザー定義ハンドラーのアップロード』の説明に従って、ハンドラーをアップロードする必要があります。また、システム提供のハンドラーを使用することも可能です。このハンドラーは、すでに使用可能であり、アップロードする必要はありません。

## 前処理

前処理構成ハンドラーは、すべてのタイプのターゲットで使用できますが、SMTP ターゲットには適用されません。

### 前処理属性

54 ページの表 3 で、前処理ハンドラーに対して設定できる属性について説明し、属性が適用するスプリッター・ハンドラーをリストします。

この表で例として使用される ROD 属性は、247 ページの『ROD から EDI への例』で使用されるものと対応しています。この例では、ROD 属性はマップ S\_DT\_ROD\_TO\_EDI.eif に含まれています。これには、次の文書フローの定義が含まれています。

- パッケージ: なし (バージョン N/A)
- プロトコル: ROD\_TO\_EDI\_DICT (バージョン ALL)
- 文書フロー: DTROD-TO-EDI\_ROD (バージョン ALL)

このフローに関連する ROD メタ・ディレクトリーおよびメタ文書は ROD\_TO\_EDI\_DICT と DTROD-TO-EDI\_ROD です。

表 3. スプリッター・ハンドラーの属性

| 属性                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                   | スプリッター・ハンドラー            |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| エンコード                                   | 文書の文字エンコード。デフォルトは ASCII です。                                                                                                                                                                                                          | ROD<br>汎用<br>XML<br>EDI |
| BATCHDOCS                               | BCG_BATCHDOCS がオンである場合、スプリッターは文書の分割後にバッチ ID を文書に追加します。エンベロープされる EDI トランザクションに文書が変換される場合、エンベローパーはバッチ ID を使用して、トランザクションが配信前に確実に同じ EDI 交換 (可能な場合) に入れられるようにします。エンベローパーでは、バッチ属性が「オン」(デフォルト値) に設定されている必要があります。110 ページの『バッチ・モード』を参照してください。 | ROD<br>汎用<br>XML        |
| 送信元パッケージ名 (From Packaging Name)         | 文書に関連するパッケージ化。この値は、文書フロー定義で指定されたパッケージ化と一致している必要があります。例えば、パッケージ化がなしである文書の場合、この値は「なし」である必要があります。                                                                                                                                       | ROD<br>汎用               |
| 送信元パッケージ・バージョン (From Packaging Version) | 「送信元パッケージ名 (From Packaging Name)」で指定したパッケージ化のバージョン。例えば、パッケージ化がなしである文書の場合、この値は「N/A」である必要があります。                                                                                                                                        | ROD<br>汎用               |
| 送信元プロトコル名 (From Protocol Name)          | 文書に関連するプロトコル。この値は、文書フローの定義で指定されたプロトコルと一致している必要があります。例えば、ROD 文書の場合、この値は <b>ROD-TO-EDI_DICT</b> のようになります。                                                                                                                              | ROD<br>汎用               |
| 送信元プロトコル・バージョン (From Protocol Version)  | 「送信元プロトコル名 (From Protocol Name)」で指定したプロトコルのバージョン。例えば、ROD-TO-EDI_DICT プロトコルの場合、値は <b>ALL</b> になります。                                                                                                                                   | ROD<br>汎用               |
| 送信元プロセス・コード (From Process Code)         | この文書に関連するプロセス (文書フロー)。この値は、文書フローの定義内の文書フローと一致している必要があります。例えば、ROD 文書の場合、この値は DTROD-TO-EDI_ROD のようになります。                                                                                                                               | ROD<br>汎用               |

表 3. スプリッター・ハンドラーの属性 (続き)

| 属性                                      | 説明                                                                                                             | スプリッター・ハンドラー |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 送信元プロセス・バージョン<br>(From Process Version) | 「送信元プロセス・コード (From Process Code)」で指定したプロセスのバージョン。例えば、DTROD-TO-EDI_ROD の場合、この値は <b>ALL</b> になります。               | ROD<br>汎用    |
| メタディクショナリー<br>(Metadictionary)          | メタディクショナリーは、WebSphere Partner Gateway でデータを解釈するための情報を提供します。例えば、ROD 文書の場合、この値は <b>ROD-TO-EDI_DICT</b> のようになります。 | ROD<br>汎用    |
| メタ文書<br>(Metadocument)                  | メタ文書は、WebSphere Partner Gateway でデータを解釈するための情報を提供します。例えば、ROD 文書の場合、この値は <b>DTROD-TO-EDI_ROD</b> のようになります。      | ROD<br>汎用    |
| メタ構文<br>(Metasyntax)                    | メタ構文は、分割中の文書のフォーマットを示します。デフォルト値は <b>rod</b> です。                                                                | ROD<br>汎用    |

注:

1. サポートされる ROD 文書タイプはターゲット・インスタンスごとに 1 つだけです。
2. ターゲットで複数のスプリッター・ハンドラーが構成されている場合 (例えば、ROD、XML、および EDI スプリッター・ハンドラーが構成されている場合)、ROD スプリッター・ハンドラーは「構成済みリスト」内の最後の 1 つである必要があります。

### 前処理構成ポイントの変更

前処理構成ポイントを変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「構成ポイント・ハンドラー」リストから「前処理」を選択します。

「使用可能なリスト」に示すように、4 つの前処理ハンドラーが (デフォルトで) 用意されています。

- com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.EDISplitterHandler
- com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.XMLSplitterHandler
- com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.RODSplitterHandler
- com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.GenericDocumentFlowHandler

注: 前処理ハンドラーは SMTP ターゲットに適用されません。

2. 分割が必要な複数の EDI 交換または XML や ROD 文書を受信する場合は、適切なスプリッター・ハンドラーを選択します。前処理ステップを構成するには、次のようにします。
  - a. 「使用可能なリスト」でハンドラーを選択して、「追加」をクリックします。ハンドラーが「使用可能なリスト」から「構成済みリスト」に移動することに注意してください (56 ページの図 17 を参照)。

## 使用可能なリスト

## 構成済みリスト



追加

図 17. ターゲットの前処理ステップの構成

- b. 構成リストに追加するハンドラーごとに、このステップを繰り返します。

ターゲットの場合、ハンドラーは、「構成済みリスト」に表示されている順序で呼び出されます。最初に使用可能なハンドラーが要求を処理し、リストの以降のハンドラーは呼び出されません。

- c. ハンドラーを選択し、「構成」をクリックして、ハンドラーを構成します。
- EDISplitterHandler を追加する場合は、その属性であるエンコード (Encoding) を変更できます。エンコードのデフォルトは ASCII です。
  - XMLSplitterHandler を追加する場合は、その属性である BCGBATCHDOC を変更できます。デフォルトは「オン」です。この属性については、53 ページの『前処理属性』を参照してください。
  - RODSplitterHandler を追加する場合は、11 の属性値を指定できます。エンコードの BATCHDOCS およびメタ構文にはデフォルト値があります。その他の属性である送信元パッケージ名 (From Packaging Name)、送信元パッケージ・バージョン (From Packaging Version)、送信元プロトコル名 (From Protocol Name)、送信元プロトコル・バージョン (From Protocol Version)、送信元プロセス・コード (From Process Code)、送信元プロセス・バージョン (From Process Version)、メタディクショナリー (Metadictionary)、およびメタ文書 (Metadocument) には、値を入力する必要があります。これらの属性については、53 ページの『前処理属性』を参照してください。
  - GenericDocumentFlowHandler を追加した場合は、11 の属性値を指定できません。エンコード (Encoding) および BATCHDOCS にはデフォルト値があります。その他の属性である送信元パッケージ名 (From Packaging Name)、送信元パッケージ・バージョン (From Packaging Version)、送信元プロトコル名 (From Protocol Name)、送信元プロトコル・バージョン (From Protocol Version)、送信元プロセス・コード (From Process Code)、送信元プロセス・バージョン (From Process Version)、メタディクショナリー (Metadictionary)、メタ文書 (Metadocument)、およびメタ構文 (Metasyntax) には、値を入力する必要があります。これらの属性については、53 ページの『前処理属性』を参照してください。

## 同期検査

同期検査構成ポイントは、HTTP/S および JMS ターゲットの場合にのみ使用できません。

同期交換に関与するビジネス・プロトコル用のハンドラーを指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「構成ポイント・ハンドラー」リストから「同期検査」を選択します。

HTTP/S ターゲット用の 6 つの同期検査ハンドラーが (デフォルトで) 用意されています。これらのハンドラーは、「使用可能なリスト」に表示されます。

- com.ibm.bcg.server.sync.As2SyncHdlr
- com.ibm.bcg.server.sync.CxmlSyncHdlr
- com.ibm.bcg.server.sync.RnifSyncHdlr
- com.ibm.bcg.server.sync.SoapSyncHdlr
- com.ibm.bcg.server.sync.DefaultAsynchronousSyncCheckHandler
- com.ibm.bcg.server.sync.DefaultSynchronousSyncCheckHandler

例えば、HTTP/S ターゲットを構成する場合、「使用可能なリスト」は次のようになります。

### 使用可能なリスト

```
com.ibm.bcg.server.sync.As2SyncHdlr
com.ibm.bcg.server.sync.CxmlSyncHdlr
com.ibm.bcg.server.sync.RnifSyncHdlr
com.ibm.bcg.server.sync.SoapSyncHdlr
com.ibm.bcg.server.sync.DefaultAsynchronousSyncCheckHandler
com.ibm.bcg.server.sync.DefaultSynchronousSyncCheckHandler
```

追加

図 18. HTTP/S 同期検査構成ポイントで使用可能なハンドラーのリスト

命名規則からわかるように、最初の 4 つのハンドラーは、同期トランザクションに使用できる 4 つの文書タイプに固有です。

DefaultAsynchronousSyncCheckHandler を使用する要求は、非同期要求として処理されます。DefaultSynchronousSyncCheckHandler を使用する要求は、同期要求として処理されます。

DefaultAsynchronousSyncCheckHandler および DefaultSynchronousSyncCheckHandler は他のターゲット (JMS ターゲットなど) と併用できます。

2. このターゲットで同期文書を受信する場合は、以下のステップを実行します。
  - a. 「使用可能なリスト」でハンドラーを 1 つ以上選択して、「追加」をクリックします。

- b. このリストにさらにハンドラーを追加する場合は、このステップを繰り返します。ターゲットの場合、ハンドラーは、「構成済みリスト」に表示されている順序で呼び出されます。最初に使用可能なハンドラーが要求を処理し、リストの以降のハンドラーは呼び出されません。

HTTP および HTTPS ターゲットの場合は、特定の同期検査ハンドラー (例えば、AS2 トランザクションの `com.ibm.bcg.server.sync.As2SyncHdlr`) をリストしてからデフォルトの同期検査ハンドラーをリストすることをお勧めします。

## 後処理

後処理ステップにはデフォルトのハンドラーが用意されていないため、デフォルトでは「使用可能なリスト」にハンドラーが 1 つもリストされません。ただし、同期通信をサポートするすべてのターゲット・タイプに対して、この構成ポイント用のハンドラーをアップロードすることができます。後処理ステップで使用可能なハンドラー・タイプは、次のとおりです。

- RECEIVER.SYNCRESPONSEPROCESS.JMS
- RECEIVER.SYNCRESPONSEPROCESS.HttpS

これらのハンドラー・タイプの 1 つに準拠するハンドラーをアップロードして、後処理ハンドラーを追加します。「ハンドラー・リスト」ページの「インポート」選択項目を使用して、ユーザー定義のハンドラーをアップロードします。ユーザー定義のターゲット・ハンドラーをアップロードすると、このハンドラーが「ハンドラー・リスト」に追加されます。また、このハンドラーは、関連する構成ポイントのタイプの「使用可能なリスト」にも表示されます。

後処理構成ポイントを変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「構成ポイント・ハンドラー」リストから「Postprocess」を選択します。
2. 「使用可能なリスト」でユーザー定義ハンドラーを選択して、「追加」をクリックします。ハンドラーが「使用可能なリスト」から「構成済みリスト」に移動することに注意してください。

## 構成済みリストの変更

ハンドラーの順序を変更したり、ハンドラーを削除したり、ハンドラーの属性を構成したりする必要がある場合は、該当するステップを実行します。

- 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「削除」をクリックして、ハンドラーを削除します。ハンドラーが「使用可能なリスト」に移動します。
- ハンドラーを選択し、「上に移動」または「下に移動」をクリックして、ハンドラーが使用される順序を変更します。
- 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「構成」をクリックして、ハンドラーを構成します。構成可能な属性のリストが表示されます。

---

## 第 6 章 固定ワークフロー・ステップおよびアクションの構成

この章では、インバウンドおよびアウトバウンドの固定ワークフローとアクションを構成するために実行するオプションの作業について説明します。システム提供のワークフローまたはアクションの動作を変更する必要がなければ、この章は省略してください。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『ハンドラーのアップロード』
- 60 ページの『固定ワークフローの構成』
- 62 ページの『アクションの構成』

---

### ハンドラーのアップロード

コンポーネントに変更を加える場合は、まずそれらのコンポーネントのハンドラーをアップロードしてから、コンポーネントを作成または構成する必要があります。アップロードする必要があるのは、コンポーネントで必要されるユーザー定義のハンドラーのみです。例えば、独自の検証ステップを追加する場合は、「ハンドラー」の「アクション」ページから目的のハンドラーをアップロードする必要があります (ステップ 1 から 4 までを参照)。

**注:** 9 ページの『ハンドラーを使用した文書処理コンポーネントの構成』で説明されているように、ユーザー定義のハンドラーのみをアップロードします。WebSphere Partner Gateway で提供されているハンドラーは、すでに使用可能です。

固定ワークフローとアクションを変更したり、新たにアクションを作成したりできます。これらのコンポーネントは、これらのコンポーネントに関連付けたハンドラーによって変更します。

**注:** アクションおよび固定ワークフローの有効なハンドラー・タイプをリストするには、「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」>「アクション」>「ハンドラー・タイプ」をクリックするか、または「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」>「固定ワークフロー」>「ハンドラー・タイプ」をクリックします。このリストを使用して、ハンドラーが有効なタイプであることを確認してから、ハンドラーをアップロードしてください。ハンドラーは、許可されているタイプではない場合、正常にアップロードされません。

ハンドラーをアップロードするには、以下のステップを実行します。

1. メインメニューから、「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」をクリックします。
2. ハンドラーのタイプを選択します (「アクション」または「固定ワークフロー」)。

特定のコンポーネントに対して現在定義されているハンドラーのリストが表示されます。WebSphere Partner Gateway で提供されているハンドラーがリストされていることに注意してください。これらのプロバイダー ID は「製品」となっています。

3. 「ハンドラー・リスト」ページで、「インポート」をクリックします。
4. 「ハンドラーのインポート」ページで、目的のハンドラーが記述されている XML ファイルへのパスを指定するか、または「参照」を使用してその XML ファイルを検索します。
5. 「アップロード」をクリックします。

ハンドラーをアップロードしたら、そのハンドラーを使用してアクションおよびワークフローを新たに作成できます。

注: ユーザー定義のハンドラーを更新するには、変更した XML ファイルをアップロードします。例えば、アクション・ハンドラーの場合は、「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」>「アクション」をクリックし、「インポート」をクリックします。

WebSphere Partner Gateway で提供されているハンドラーは、変更したり、削除したりすることはできません。

---

## 固定ワークフローの構成

『第 1 章 概要』では、構成可能な 2 つの固定インバウンド・ワークフロー・ステップについて説明しました。1 つはプロトコルのアンパックで、もう 1 つはプロトコルの構文解析です。アウトバウンド・ワークフローの場合は、プロトコルのパッケージ化のステップが 1 つあります。

ユーザー定義のハンドラーを使用してワークフロー・ステップを構成する場合は、59 ページの『ハンドラーのアップロード』の説明に従って、ハンドラーをアップロードしてください。

固定ワークフローを構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「固定ワークフロー」をクリックします。
2. 「インバウンド」または「アウトバウンド」をクリックします。
3. 構成するステップの名前の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

ステップが、そのステップの構成済みハンドラーのリストと共にリストされます。デフォルトのハンドラーのリストについては、61 ページの『インバウンド・ワークフロー』および 61 ページの『アウトバウンド・ワークフロー』を参照してください。

4. ハンドラーのリストを編集するには、「編集」アイコンをクリックします。
5. 変更するステップごとに、以下の作業を 1 つ以上実行します。
  - a. 「使用可能なリスト」からハンドラーを選択し、「追加」をクリックして、ハンドラーを追加します。(「使用可能なリスト」にハンドラーが表示されるのは、ユーザー定義のハンドラーをアップロードした場合や、以前に「構成済みリスト」からハンドラーを削除した場合です。) ハンドラーが「構成済みリスト」に移動します。

- b. 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「削除」をクリックして、ハンドラーを削除します。ハンドラーが「使用可能なりスト」に移動します。
- c. ハンドラーを選択し、「上に移動」または「下に移動」をクリックして、ハンドラーが呼び出される順序を変更します。

ハンドラーは、「構成済みリスト」にリストされている順序で呼び出されます。要求を処理できる最初の使用可能なハンドラーのみが、要求を処理します。特定のタイプの文書 (例えば、ROD 文書) の大量受信が見込まれる場合は、その文書のタイプに関連付けられたハンドラー (この例では `com.ibm.bcg.edi.business.process.RODScannerHandler`) をリストの最上位に移動しておくことができます。

6. 「保管」をクリックします。

## インバウンド・ワークフロー

ここでは、インバウンド・ワークフロー向けに構成されているハンドラーをリストします。

### プロトコル・アンパック・ハンドラー

デフォルトでは、プロトコル・アンパック・ステップには以下のハンドラーが構成されています。

- `com.ibm.bcg.ediint.ASUnpackagingHandler`
- `com.ibm.bcg.server.pkg.NullUnpackagingHandler`
- `com.ibm.bcg.server.pkg.MIMEMultipartUnpackagingHandler`
- `com.ibm.bcg.eai.EAIUnpackagingHandler`

### プロトコル処理ハンドラー

デフォルトでは、プロトコル処理ステップには以下のハンドラーが構成されています。

- `com.ibm.bcg.server.RNOChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.server.RNSignalChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.server.RNSCChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.server.BinaryChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.xml.cXMLChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.soap.SOAPChannelParseHandler`
- `com.ibm.bcg.server.XMLRouterBizProcessHandler`
- `com.ibm.bcg.edi.EDIRouterBizProcessHandler`
- `com.ibm.bcg.edi.business.process.RODScannerHandler`
- `com.ibm.bcg.edi.business.process.NetworkAckHandler`

## アウトバウンド・ワークフロー

デフォルトでは、プロトコル・パッケージ化ステップには以下のハンドラーが構成されています。

- `com.ibm.bcg.server.pkg.NullPackagingHandler`
- `com.ibm.bcg.ediint.ASPackagingHandler`

- com.ibm.bcg.edi.server.EDITransactionHandler
- com.ibm.bcg.rosettanet.pkg.RNOPPackagingHandler
- com.ibm.bcg.server.pkg.RNPassThruPackagingHandler
- com.ibm.bcg.xml.cXMLPackagingHandler
- com.ibm.bcg.soap.SOAPPackagingHandler
- com.ibm.bcg.eai.EAIPackagingHandler

---

## アクションの構成

『第 1 章 概要』で説明されているように、アクションは 1 つ以上のステップで構成されます。WebSphere Partner Gateway には、一連のデフォルトのアクションがあります。1 つ以上のアクション・ハンドラー (アクション内のステップ) をアップロードして、アクションのリストに追加することができます。このアクション・ハンドラーは、その後、アクションで使用できます。新規アクションを作成することもできます。63 ページの『アクションの作成』を参照してください。

注: WebSphere Partner Gateway により提供されたアクションを変更することはできませんが、このようなアクションをコピーして変更することはできます。63 ページの『アクションのコピー』を参照してください。

ユーザー定義のハンドラーを使用してアクションを構成する場合は、59 ページの『ハンドラーのアップロード』の説明に従って、ハンドラーをアップロードしてください。

## ユーザー定義のアクションの変更

ユーザー定義のアクションを構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「アクション」をクリックします。
2. 構成するユーザー定義のアクションの名前の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

アクションが、そのアクションの構成済みハンドラー (アクション・ステップ) のリストと共にリストされます。

3. 変更する各アクションに対して、以下のステップを 1 つ以上実行します。
  - a. 「使用可能なリスト」から関連付けられたハンドラーを選択し、「追加」をクリックして、ステップを追加します。ハンドラーが「構成済みリスト」に移動します。
  - b. 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「削除」をクリックして、ハンドラーを削除します。ハンドラーが「使用可能なリスト」に移動します。
  - c. ハンドラーを選択し、「上に移動」または「下に移動」をクリックして、ハンドラーが呼び出される順序を変更します。
  - d. ハンドラーを選択し、「繰り返し」をクリックして、ハンドラーが複数回処理されるようにします。

アクションに対して構成されているハンドラーがすべて呼び出され、それぞれのハンドラーに関連付けられた各ステップが「構成済みリスト」に表示されている順序で実行されます。

- e. 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「構成」をクリックして、ハンドラーを構成します。構成可能な属性のリストが表示されます。
4. 「保管」をクリックします。

## アクションの作成

以下のいずれかの方法でアクションを作成できます。

- 新規アクションを作成し、そのアクションにハンドラーを関連付けます。
- 製品提供のアクションをコピーし、必要に応じてそのアクションに関連付けられているハンドラーを変更します。

### 新規アクションの作成

新規アクションを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「アクション」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. アクションの名前を入力します。このフィールドは必須です。
4. (オプション) アクションの説明を入力します。
5. アクションが使用可能かどうかを指定します。
6. アクションの一部として呼び出されるステップごとに、「使用可能なリスト」から関連付けられたハンドラーを選択し、「追加」をクリックして、そのハンドラーを追加します。ハンドラーが「構成済みリスト」に移動します。

アクションは、「構成済みリスト」に表示されている順に各ハンドラーを呼び出します。どのハンドラーも正しい順序に並んでいることを確認してください。

「上に移動」または「下に移動」を使用して、ハンドラーの順序を変更するか、または「繰り返し」を使用して、ハンドラーが複数回処理されるようにします。

7. 「構成済みリスト」からハンドラーを選択し、「構成」をクリックして、ハンドラーを構成します。構成可能な属性のリストが表示されます。
8. 「保管」をクリックします。

### アクションのコピー

既存のアクションをコピーすることにより、アクションを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「アクション」をクリックします。
2. 「アクション」リストで、コピーするアクションの横にある「コピー」アイコンをクリックします。
3. アクションの名前を入力します。このフィールドは必須です。
4. (オプション) アクションの説明を入力します。
5. アクションが使用可能かどうかを指定します。
6. 「構成済みリスト」にすでに 1 つ以上のステップが表示されていることに注意してください。これが、コピーしたアクションに関連付けられているステップです。例えば、システム提供の RosettaNet プロセスのコミュニティー・マネージャーによるキャンセル・アクションのクローンを作成した場合は、以下のように使用可能な構成済みのハンドラーのリストが表示されます。

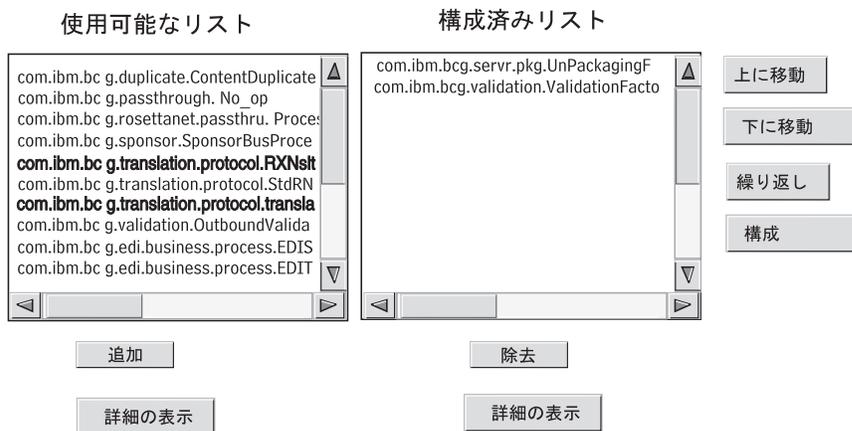


図 19. アクションのクローン作成

「構成済みリスト」を変更するには、以下のステップを 1 つ以上実行します。

- a. 「使用可能なリスト」から関連付けられたハンドラーを選択し、「追加」をクリックして、ステップを追加します。ハンドラーが「構成済みリスト」に移動します。
- b. 「構成済みリスト」から関連付けられたハンドラーを選択し、「削除」をクリックして、ステップを削除します。ハンドラーが「使用可能なリスト」に移動します。
- c. ハンドラーを選択し、「上に移動」または「下に移動」をクリックして、ハンドラーが呼び出される順序を変更します。

アクションに対して構成されているハンドラーがすべて呼び出され、それぞれのハンドラーに関連付けられた各ステップが「構成済みリスト」に表示されている順序で実行されます。

- d. 「構成済みリスト」からステップを選択し、「構成」をクリックして、ステップを構成します。構成可能な属性のリストが表示されます。
7. 「保管」をクリックします。

---

## 第 7 章 文書フローの構成

この章では、コミュニティー参加者およびバックエンド・アプリケーションと交換する EDI 以外の文書の構成方法について説明します。EDI 文書の文書フローおよび対話の構成方法 (パススルー中の EDI 文書は除く) については、95 ページの『第 8 章 EDI 文書フローの構成』で説明します。第 8 章 では、XML およびレコード単位データ (ROD) 文書の文書フローと対話を構成する方法についても説明します。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『概要』
- 69 ページの『バイナリー文書』
- 69 ページの『パススルー・アクションによる EDI 文書』
- 71 ページの『RosettaNet 文書』
- 80 ページの『Web サービス』
- 85 ページの『cXML 文書』
- 90 ページの『カスタム XML 文書』

---

### 概要

文書フロー定義は、少なくともパッケージ、プロトコル、文書フローで構成されています。プロトコルによっては、アクティビティ、アクション、シグナルを指定できる場合もあります。文書フロー定義では、WebSphere Partner Gateway で処理される文書のタイプを指定します。

パッケージ化とは、AS2 などの仕様に従って文書をパッケージ化するために必要なロジックです。プロトコル・フローとは、EDI-X12 など特定のプロトコルに準拠する文書処理するために必要なロジックです。文書フローとは、文書がどのようにになっているかを記述したものです。

以下のセクションでは、コミュニティー・マネージャーと参加者間の文書フローを設定するためのステップ全体について概説します。

### ステップ 1: 文書フロー定義が使用可能であることを確認する

(システムによって事前に定義された文書フローの) 文書フロー定義が存在しているかを確認します。文書フローが存在しない場合は、必要なファイルをアップロードするか、またはカスタム定義を手動で作成して、文書フローを作成します。

文書フロー定義を作成するときに、いくつかの属性を変更することができます。属性は、検証や暗号化の検査、再試行カウントなどのさまざまな文書処理やルーティングの機能を実行する目的で使用されます。文書フロー定義レベルで設定した属性は、関連するパッケージ、プロトコル、または文書フローのグローバル設定となります。使用可能な属性は、文書フロー定義によって異なります。例えば、EDI 文書フロー定義の属性は、RosettaNet 文書フロー定義の属性とは異なります。

例えば、AS パッケージの「応答のための時間」値を指定すると、AS によってパッケージ化されたすべての文書にこの値が適用されます。(「応答のための時間」は、元の要求を再送するまでに、MDN (メッセージ処理通知) 肯定応答を待つ時間を示します。) その後、「応答のための時間」属性を B2B 機能レベルで設定すると、文書フロー定義レベルで設定された値がこの設定によってオーバーライドされます。

文書フロー定義のすべてのレベルで設定可能な属性では、文書フロー・レベルで設定された値がプロトコル・レベルで設定された値よりも優先し、プロトコル・レベルで設定された属性がパッケージ・レベルで設定された属性よりも優先します。

対話を作成する前に、「文書フロー定義の管理」ページに文書フローをリストする必要があります。

## ステップ 2: 対話を作成する

定義済みの文書フローの対話を作成します。対話では、文書に関して実行するアクションを WebSphere Partner Gateway に指定します。交換によっては、(参加者またはコミュニティー・マネージャーから送信されて) ハブで受信される文書を記述するフローと、ハブから (参加者またはコミュニティー・マネージャーに) 送信される文書を記述するフローの 2 つのフローのみが必要な場合があります。ただし、ハブで送受信する EDI 交換が個々のトランザクションに分割されたり、肯定応答を必要としたりするものである場合は、実際には EDI 交換を実行する対話を複数に分けて作成します。

## ステップ 3: 参加者のプロフィール、ゲートウェイ、および B2B 機能を作成する

コミュニティー・マネージャーおよびコミュニティー参加者の参加者プロフィールを作成します。(文書の送信場所を決定する) ゲートウェイおよび B2B 機能を定義して、コミュニティー・マネージャーおよび参加者が送受信できる文書を指定します。「B2B 機能」ページには、すでに定義されている文書フローがすべて表示されます。

B2B 機能レベルで属性を設定できます。このレベルで設定した属性は、文書フロー定義レベルで設定された属性をオーバーライドします。例えば、AS パッケージの「応答のための時間」を文書フロー定義レベルで 30 に設定してから、B2B 機能レベルで 60 に設定した場合は、値 60 が使用されます。B2B レベルで設定された属性は、特定の参加者に合わせて調整できます。

コミュニティー・マネージャーおよび参加者のプロフィールと B2B 機能を定義してから、これらの間の接続を作成する必要があります。

## ステップ 4: 接続をアクティブ化する

コミュニティー・マネージャーおよび参加者間の接続をアクティブにします。使用可能な接続は、参加者の B2B 機能に基づきます。B2B 機能は、作成された対話に基づきます。対話は、使用可能な文書フロー定義によって異なります。

交換によっては、接続が 1 つだけ必要になることがあります。例えば、参加者がコミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションにバイナリー文書

を送信する場合、必要な接続は 1 つのみです。ただし、EDI 交換のうち、エンベロープが解除されるものや、個々のトランザクションが変換されるものでは、複数の接続を確立します。

注: そのままの状態です。やり取りされる EDI 交換では、必要な接続は 1 つのみです。

属性は接続レベルで設定できます。このレベルで設定した属性は、B2B 属性レベルで設定された属性をオーバーライドします。例えば、AS2 パッケージの「応答のための時間」を B2B 機能レベルで 60 に設定してから、120 に設定すると、値 120 が使用されます。接続レベルで属性に値を設定することで、関連する参加者とアプリケーションのルーティングの要件に応じて、属性をさらに調整することができます。

## フローの例

デフォルトでは、複数のパッケージ化方法が使用可能です。文書フロー定義を確立する手順全体を示すために、EDI-X12 標準に準拠する EDI 交換を受信するように、コミュニティ参加者と合意している場合を考えます。参加者は文書を AS2 パッケージ化内で送信します。ユーザーは交換をパッケージ化しないで (変換しないで) バックエンド・アプリケーションに送信するように指定します。

1. 「文書フロー定義の管理 (Manage Document Flow Definitions)」ページで、(コミュニティ参加者からハブに流れる文書タイプを記述する) 文書フロー定義が使用可能であるかを確認します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. 「パッケージ: AS」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。EDI-X12 がすでにリストされていることに注意してください。
  - c. 「プロトコル: EDI-X12」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。「文書フロー: ISA」がすでにリストされていることに注意してください。
2. 「文書フロー定義の管理」ページがまだ表示されている場合は、2 番目の文書フロー定義 (バックエンド・アプリケーションに流れる文書タイプを記述する) が使用可能であるかを確認します。
  - a. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。EDI-X12 がすでにリストされていることに注意してください。
  - b. 「プロトコル: EDI-X12」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。「文書フロー: ISA」がすでにリストされていることに注意してください。
3. 文書フローがソース・フローであるか、それともターゲット・フローであるかを記述する対話を作成します。
  - a. 「文書フロー定義の管理」ページがまだ表示されている場合は、「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. 「ソース」列で、「パッケージ: AS」、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開し、「文書フロー: ISA」をクリックします。
  - d. 「ターゲット」列で、「パッケージ: なし」、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開し、「文書フロー: ISA」をクリックします。

- e. この例では、変換は発生しません。したがって、「**変換マップ**」リストで何も選択しないでください。
- f. 「**アクション**」リストから「**パススルー**」を選択します。
- g. 「**保管**」をクリックします。

この時点で、ハブが AS としてパッケージ化された EDI-X12 交換 (ISA 標準) を受け入れることができるように指定されています。また、ハブがパッケージ化しなくても EDI-X12 交換 (ISA 標準) を送信できるように指定されています。さらに、交換する場合に変換が発生しないように指定されています。交換は (AS ヘッダーが削除されたあとに) バックエンド・アプリケーションに単にパススルーされます。

このタイプの交換をハブに送信できるコミュニティー参加者は、まだ指定されていません。この参加者は、参加者プロファイルおよび参加者の B2B 機能をセットアップするときに定義します (コミュニティー・マネージャーのバックエンド・システムのプロファイルおよび B2B 機能も定義します)。これらのタスクを実行したら、コミュニティー参加者とバックエンド・アプリケーション間の接続を作成します。図 20 に、この例に対応する、参加者とコミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーション間の接続を示します。

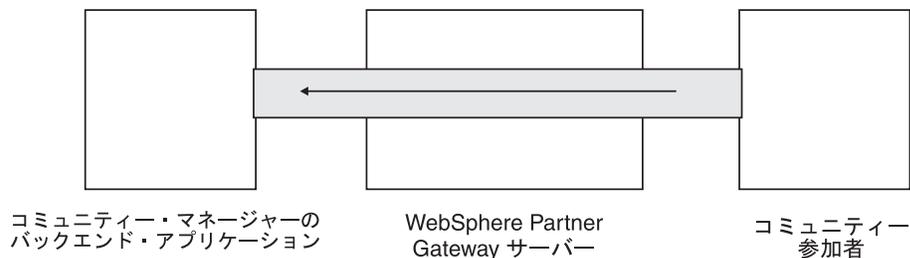


図 20. 参加者からコミュニティー・マネージャーへの片方向接続

接続が存在するかどうかは、「接続の管理」ページ (「**アカウント管理**」 > 「**参加者の接続**」) を使用して確認します。「接続の管理」ページの「**ソース**」リストで参加者を、「**ターゲット**」リストでコミュニティー・マネージャーを選択し、「**検索**」をクリックします。使用可能な接続が 1 つリストされます。以降のセクションで説明するように、必要に応じて属性およびアクションを変更できます。

文書フロー定義には 3 つのタイプがあります。コンソールから選択できるシステム提供の定義、定義済みであるにもかかわらず Community Console に表示されていない定義 (WebSphere Partner Gateway インストール・メディアまたは別の場所からこれらの定義をアップロードします)、およびユーザーが独自に作成した定義です。文書フロー定義のタイプごとに、属性を指定したり、文書フローを詳細に定義するマップをアップロードしたりすることができます (場合によってはこの作業が必須です)。

## バイナリー文書

バイナリー文書はそのままハブ内をパススルーされるため、コミュニティー参加者とコミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーション間のバイナリー文書交換は簡単に処理されます。AS、なし、および バックエンド統合パッケージに対してバイナリー・プロトコルはすでに使用可能であるため、65 ページの『ステップ 1: 文書フロー定義が使用可能であることを確認する』はすでに実行済みです。

**注:** 任意のレベル (パッケージ、プロトコル、または文書フロー) で属性を追加して、デフォルト処理を変更するには、「属性値の編集」アイコンをクリックします。デフォルトでは、どの属性もバイナリー・プロトコルまたは文書フローに関連していません。

同様に、バイナリー文書を含む 4 つの対話がデフォルトで提供されていて、これらの対話には「ステップ 2: 対話を作成する」を実行する必要がありません。対話は以下の交換用に提供されます。

表 4. システム提供の対話

| ソース・パッケージ/プロトコル/文書フロー | ターゲット・パッケージ/プロトコル/文書フロー |
|-----------------------|-------------------------|
| AS/バイナリー/バイナリー        | バックエンド統合/バイナリー/バイナリー    |
| バックエンド統合/バイナリー/バイナリー  | AS/バイナリー/バイナリー          |
| AS/バイナリー/バイナリー        | なし/バイナリー/バイナリー          |
| なし/バイナリー/バイナリー        | AS/バイナリー/バイナリー          |

バイナリー文書の交換では、以下の処理を実行する必要があります。

- ステップ 3: 参加者のプロファイル、ゲートウェイ、および B2B 機能を作成する (137 ページの『第 9 章 コミュニティー・マネージャーのプロファイルおよび B2B 機能の作成』、163 ページの『第 11 章 参加者およびその B2B 機能の作成』、および 141 ページの『第 10 章 ゲートウェイの作成』を参照)
- ステップ 4: 接続をアクティブ化する (167 ページの『第 12 章 接続の管理』を参照)

## パススルー・アクションによる EDI 文書

WebSphere Partner Gateway には、EDI 交換のエンベロープを解除して、変換する機能があります (プロセスについては、95 ページの『第 8 章 EDI 文書フローの構成』を参照)。

70 ページの図 21 に、参加者からコミュニティー・マネージャーにパススルーされている EDI 交換のフローを示します。

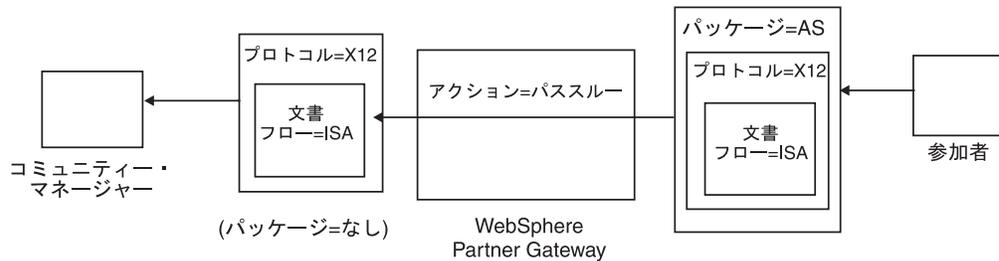


図 21. パススルー・アクションによる着信 EDI 交換

この例では、AS2 ヘッダーが削除されますが、それ以外は交換がそのまま残り、システムを経由してコミュニティー・マネージャーのゲートウェイに流れます。

## 文書フロー定義の作成

EDI パススルー交換の文書フローは、「文書フロー定義の管理」ページに (デフォルトで) 表示されています (67 ページの『フローの例』を参照)。デフォルト値を持つ属性を変更したり、値が割り当てられていない属性を設定する場合は、「文書フロー定義の管理」ページを使用して、このタスクを実行できます。

例えば、AS でパッケージ化された EDI 文書の「応答のための時間」属性を変更するとします。これを行うには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「パッケージ: AS」の横にある「属性値の編集」アイコンをクリックします。
3. 「文書フロー・コンテキスト属性」というタイトルのページのセクションが表示されるまでスクロールダウンします。
4. 「応答のための時間」行の「更新」列に、別の値を入力します。
5. 「保管」をクリックします。

この例では、パッケージ属性を変更しました。プロトコル (EDI-X12 など) および文書フロー (ISA など) の属性は、パススルー・アクションには関係しません。このパッケージ属性は、AS パッケージ化でラップされたすべての文書に適用されます。

## 対話の作成

パススルー・アクションでの EDI 交換の対話を作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「文書フロー定義の管理」ページで、「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。
4. 「ソース」の下で、「パッケージ: AS」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
6. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

ステップ 1 から 6 により、WebSphere Partner Gateway は、ソース参加者からの AS としてパッケージ化された EDI-X12 交換を受信したり、パッケージ化されてい

ない EDI-X12 交換をターゲット参加者に送信したり、ソースからターゲットに交換をパススルーしたりできるようになりました。

なし/EDI-X12/ISA としてパッケージ化されたソース文書および AS/EDI-X12/ISA としてパッケージ化されたターゲット文書を含む対話を設定する場合は、ステップ 4 (70 ページ) で「パッケージ: なし」を展開し (「ソース」列内)、ステップ 5 (70 ページ) で「パッケージ: AS」を展開します (「ターゲット」列内)。

---

## RosettaNet 文書

このセクションでは、RosettaNet 文書の概要、および文書フロー定義やこれらの文書の対話をセットアップする方法について説明します。

### 概要

RosettaNet は、取引先間でのビジネス・メッセージの交換をサポートするためのオープン・スタンダードを規定する組織です。RosettaNet について詳しくは、<http://www.rosettanet.org> を参照してください。この標準には、RosettaNet Implementation Framework (RNIF) および Partner Interface Process (PIP) 仕様が含まれます。RNIF はメッセージ・パッケージ化、転送プロトコル、およびセキュリティーのフレームワークを提供することにより、取引先のメッセージ交換方法を定義します。公開されているバージョンは 1.1 と 2.0 の 2 つがあります。PIP は、パブリック・ビジネス・プロセス、およびこのプロセスをサポートするための XML ベースのメッセージ・フォーマットを定義します。

WebSphere Partner Gateway では、RNIF 1.1 および 2.0 を使用する RosettaNet メッセージングをサポートします。PIP メッセージを受信すると、ハブはメッセージを検証し、変換して、適切なバックエンド・システムに送信します。WebSphere Partner Gateway には、変換されたメッセージをバックエンド・システムが処理可能な RosettaNet Service Content (RNSC) メッセージにパッケージ化するためのプロトコルが備わっています。ルーティング情報を提供するためにこれらのメッセージで使用されるパッケージ化については、「エンタープライズ統合ガイド」を参照してください。

ハブはバックエンド・システムから RNSC メッセージを受信し、適切な PIP メッセージを作成して、適切な取引先 (参加者) にメッセージを送信することもできます。使用する RNIF のバージョンおよび PIP 用の文書フロー定義を準備してください。

WebSphere Partner Gateway は RosettaNet メッセージのルーティング機能を提供するだけでなく、処理する各メッセージの状態を維持します。これにより、試行回数が指定されたしきい値に到達するまで、失敗したメッセージを再送信できます。PIP メッセージを配信できない場合は、イベント通知メカニズムによってバックエンド・システムにアラートが送信されます。また、ハブはバックエンド・システムから特定のイベント通知メッセージを受信した場合に、自動的に 0A1 PIP を生成して、適切な参加者に送信できます。イベント通知については、「エンタープライズ統合ガイド」を参照してください。

## RNIF および PIP の文書フロー・パッケージ

RosettaNet メッセージングをサポートするために、WebSphere Partner Gateway にはパッケージと呼ばれる 2 組の ZIP ファイルが用意されています。*RNIF* パッケージは、RNIF プロトコルをサポートするために必要な文書フロー定義で構成されます。これらのパッケージは B2BIntegrate ディレクトリーに格納されています。

RNIF V1.1 の場合、パッケージは以下のとおりです。

- Package\_RNIF\_1.1.zip
- Package\_RNSC\_1.0\_RNIF\_1.1.zip

RNIF V02.00 の場合、パッケージは以下のとおりです。

- Package\_RNIF\_V02.00.zip
- Package\_RNSC\_1.0\_RNIF\_V02.00.zip

各ペアの最初のパッケージは、参加者との RosettaNet 通信をサポートするために必要な文書フロー定義を提供し、2 番目のパッケージは、バックエンド・システムとの RosettaNet 通信をサポートするために必要な文書フロー定義を提供します。

2 組目のパッケージ・セットは、PIP 文書フロー・パッケージで構成されています。各 PIP 文書フロー・パッケージには、XML ファイルが格納された Packages ディレクトリー、および XSD ファイルが格納された GuidelineMaps ディレクトリーが含まれます。XML ファイルでは、WebSphere Partner Gateway が PIP を処理する方法、および交換されるメッセージや信号を定義する文書フロー定義を指定します。XSD ファイルでは、PIP メッセージのフォーマットを指定し、メッセージ内の XML エレメントの許容値を定義します。0A1 PIP の ZIP ファイルには、0A1 文書を作成するためのテンプレートとしてハブが使用する XML ファイルも含まれています。

WebSphere Partner Gateway が PIP 文書フロー・パッケージを提供している PIP は、次のとおりです。

- PIP 0A1 Notification of Failure v1.0
- PIP 0A1 Notification of Failure V02.00.00
- PIP 2A1 Distribute New Product Information V02.00.00
- PIP 2A12 Distribute Product Master V01.03.00
- PIP 3A1 Request Quote V02.00.00
- PIP 3A2 Request Price and Availability R02.01.00
- PIP 3A4 Request Purchase Order V02.02.00
- PIP 3A4 Request Purchase Order V02.00
- PIP 3A5 Query Order Status R02.00.00
- PIP 3A6 Distribute Order Status V02.02.00
- PIP 3A7 Notify of Purchase OrderUpdate V02.02.00
- PIP 3A8 Request Purchase Order Change V01.02.00
- PIP 3A8 Request Purchase Order Change V01.03.00
- PIP 3A9 Request Purchase Order Cancellation V01.01.00
- PIP 3B2 Notify of Advance Shipment V01.01.00

- PIP 3B3 Distribute Shipment Status R01.00.00
- PIP 3B11 Notify of Shipping Order R01.00.00A
- PIP 3B12 Request Shipping Order V01.01.00
- PIP 3B13 Notify of Shipping Order Confirmation V01.01.00
- PIP 3B14 Request Shipping Order Cancellation V01.00.00
- PIP 3B18 Notify of Shipping Documentation V01.00.00
- PIP 3C1 Return Product V01.00.00
- PIP 3C3 Notify of Invoice V01.01.00
- PIP 3C4 Notify of Invoice Reject V01.00.00
- PIP 3C6 Notify of Remittance Advice V01.00.00
- PIP 3C7 Notify of Self-Billing Invoice V01.00.00
- PIP 3D8 Distribute Work in Process V01.00.00
- PIP 4A1 Notify of Strategic Forecast V02.00.00
- PIP 4A3 Notify of Threshold Release Forecast V02.00.00
- PIP 4A4 Notify of Planning Release Forecast R02.00.00A
- PIP 4A5 Notify of Forecast Reply V02.00.00
- PIP 4B2 Notify of Shipment Receipt V01.00.00
- PIP 4B3 Notify of Consumption V01.00.00
- PIP 4C1 Distribute Inventory Report V02.03.00
- PIP 4C1 Distribute Inventory Report V02.01
- PIP 5C1 Distribute Product List V01.00.00
- PIP 5C2 Request Design Registration V01.00.00
- PIP 5C4 Distribute Registration Status V01.02.00
- PIP 5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization V01.00.00
- PIP 6C1 Query Service Entitlement V01.00.00
- PIP 6C2 Request Warranty Claim V01.00.00
- PIP 7B1 Distribute Work in Process V01.00.00
- PIP 7B5 Notify of Manufacturing Work Order V01.00.00
- PIP 7B6 Notify of Manufacturing Work Order Reply V01.00.00

PIP ごとに 4 つの PIP 文書フロー・パッケージがあります。

- 参加者との RNIF 1.1 メッセージング用
- バックエンド・システムとの RNIF 1.1 メッセージング用
- 参加者との RNIF 2.0 メッセージング用
- バックエンド・システムとの RNIF 2.0 メッセージング用

パッケージが WebSphere Partner Gateway と参加者間のメッセージに対応しているのか、それとも WebSphere Partner Gateway とバックエンド・システム間のメッセージに対応しているかを識別する場合に使用できる特定の命名規則に、各 PIP 文書フロー・パッケージは従っています。この命名規則により、RNIF のバージョン、PIP、およびパッケージがサポートする PIP のバージョンも識別されます。

WebSphere Partner Gateway と参加者間のメッセージングに使用される PIP 文書フロー・パッケージのフォーマットは、次のとおりです。

BCG\_Package\_RNIF<RNIF\_version>\_<PIP><PIP\_version>.zip

WebSphere Partner Gateway とバックエンド・システム間のメッセージングに使用される PIP 文書フロー・パッケージのフォーマットは、次のとおりです。

BCG\_Package\_RNSC<Backend\_Integration\_version>\_RNIF<RNIF\_version>\_<PIP><PIP\_version>.zip

例えば、BCG\_Package\_RNIF1.1\_3A4V02.02.zip は、RNIF 1.1 プロトコルを使用して参加者と WebSphere Partner Gateway 間で送信される、バージョン 02.02 の 3A4 PIP について文書を検証します。バックエンド・システムとの通信に関する PIP 文書フロー・パッケージの場合は、RosettaNet の内容をバックエンド・システムに送信するためのプロトコルも、パッケージ名で指定する必要があります。これらのメッセージで使用されるパッケージ化については、「エンタープライズ統合ガイド」を参照してください。

## 文書フロー定義の作成

WebSphere Partner Gateway で RosettaNet メッセージングを処理するには、メッセージの送信に使用される RNIF のバージョンに対応する RNIF パッケージが必要です。WebSphere Partner Gateway がサポートする PIP ごとに、RNIF のバージョンに対応する 2 つの PIP 文書フロー・パッケージが必要です。例えば、RNIF 2.0 で 3A4 PIP をサポートするには、WebSphere Partner Gateway に次のパッケージが必要です。

- Package\_RNIF\_V02.00.zip
- Package\_RNSC\_1.0\_RNIF\_V02.00.zip
- BCG\_Package\_RNIFV02.00\_3A4V02.02.zip
- BCG\_Package\_RNSC1.0\_RNIFV02.00\_3A4V02.02.zip

最初のパッケージは参加者との RosettaNet メッセージングを、2 番目のパッケージはバックエンド・システムとの RosettaNet メッセージングをサポートします。3 番目と 4 番目のパッケージは、WebSphere Partner Gateway に、RNIF 2.0 を使用して参加者とバックエンド・システム間で 3A4 メッセージの受け渡しを行うための機能を提供します。

RosettaNet パッケージをアップロードするには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「パッケージのアップロード/ダウンロード」をクリックします。
3. 「WSDL パッケージ」に対して「いいえ」を選択します。
4. 「参照」をクリックし、参加者と通信するための RNIF パッケージを選択します。

RNIF パッケージは、デフォルトで、インストール・メディアの B2BIntegrate/Rosettanet ディレクトリー内にあります。例えば、RNIF バージョン 2.00 パッケージをアップロードする場合は、B2BIntegrate/Rosettanet ディレクトリーをブラウズして、Package\_RNIF\_V0200.zip を選択します。

5. 「データベースへのコミット」が「はい」に設定されていることを確認します。

6. 「アップロード」をクリックします。
7. 「参照」を再度クリックし、バックエンド・アプリケーションと通信するための RNIF パッケージを選択します。

例えば、RNIF バージョン 2.00 パッケージをアップロードする場合は、B2BIntegrate/Rosettanet ディレクトリーをブラウズして、Package\_RNSC\_1.0\_RNIF\_V02.00.zip を選択します。

8. 「アップロード」をクリックします。

参加者またはバックエンド・システムと通信するために必要なパッケージは、システムにインストールされました。「文書定義の管理 (Manage Document Definitions)」ページを調べる場合は、参加者との通信用のパッケージ化を表す「パッケージ: RNIF/プロトコル: RosettaNet (Package: RNIF/Protocol: RosettaNet)」、およびバックエンド・アプリケーションとの通信用のパッケージ化を表す「パッケージ: バックエンド統合/プロトコル: RNSC (Package: Backend Integration/Protocol: RNSC)」の項目を参照します。

9. サポートする PIP ごとに、PIP およびサポートする RNIF のバージョンに対応する PIP 文書フロー・パッケージをアップロードします。例えば、3A6 PIP (送金通知の通知) をアップロードして参加者に送信するには、以下のステップを実行します。
  - a. 「参照」をクリックし、B2BIntegrate/Rosettanet ディレクトリーから BCG\_Package\_RNIFV02.00\_3C6V02.02 を選択します。
  - b. 「データベースへのコミット」が「はい」に設定されていることを確認します。
  - c. 「アップロード」をクリックします。

3C6V02.02 PIP が、「文書定義の管理 (Manage Document Definitions)」ページの「パッケージ: RNIF/プロトコル: RosettaNet (Package: RNIF/Protocol: RosettaNet)」の下に文書フローとして表示されます。アクティビティ、アクション、および 2 つのシグナルも表示されます。これらは PIP のアップロードに含まれます。

3A6 PIP をアップロードしてバックエンド・アプリケーションに送信するには、以下のステップを実行します。

- a. 「参照」をクリックし、BCG\_Package\_RNSC1.0\_RNIFV02.00\_3C6V02.02.zip を選択します。
- b. 「データベースへのコミット」が「はい」に設定されていることを確認します。
- c. 「アップロード」をクリックします。

3C6V02.02 PIP が、「文書フロー定義の管理」ページの「パッケージ: バックエンド統合/プロトコル: RNSC (Package: Backend Integration/Protocol: RNSC)」の下に文書フローとして表示されます。使用する PIP または PIP のバージョンに対応するパッケージが WebSphere Partner Gateway に用意されていない場合は、独自のパッケージを作成して、アップロードできます。詳細については、257 ページの『PIP 文書フロー・パッケージの作成』を参照してください。

## 属性値の構成

PIP 文書フロー定義の場合、ほとんどの属性値はすでに設定されているため、設定する必要はありません。ただし、以下の属性を設定する必要があります。

### RNIF (1.0) パッケージ

- **GlobalSupplyChainCode** - 参加者が使用するサプライ・チェーンのタイプを識別します。タイプは電子部品、情報技術、および半導体製造です。この属性にはデフォルト値がありません。

### RNIF (V02.00) パッケージ

- **暗号化** - PIP のペイロードを暗号化するか、コンテナとペイロードを暗号化するか、または暗号化しないかを設定します。デフォルト値は「なし」です。
- **同期応答が必要** - 参加者が受信肯定応答の受信を必要とする場合は、「はい」に設定します。200 を要求する場合は、「いいえ」に設定します。
- **同期サポートあり** - PIP が同期メッセージ交換をサポートするかどうかを設定します。デフォルト値は「いいえ」です。

WebSphere Partner Gateway が PIP 文書フロー・パッケージを提供している PIP は、同期されないことに注意してください。したがって、これらの PIP の「同期応答が必要」および「同期サポートあり」属性を変更する必要はありません。

注: 「同期応答が必要」属性の動作は、1 方向 PIP と 2 方向 PIP では異なります。2 方向 PIP の場合、「同期応答が必要」を「いいえ」に設定すると、この設定は「受信の否認防止」の「はい」設定よりも優先します。例えば、次の設定を使用して 3A7 を送信するとします。

- SiqReq=Y
- NonRepofRec=Y
- SyncSupported=Y
- SyncAckReq=N

2 方向 PIP の場合は、着信文書に関するエラー・メッセージが表示されます。ただし、1 方向 PIP の場合は、コンソールに着信文書が表示され、OKB 200 が参加者に戻されます。

属性を設定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「展開 (Expand)」アイコンをクリックして個々にノードを適切な文書フロー定義レベルまで展開するか、「すべて」を選択して表示されたすべての文書フロー定義のノードを展開します。
3. 「アクション」列で、編集するパッケージ(「パッケージ: RNIF (1.1)」や「パッケージ: RNIF (V02.00)」など)の「属性値の編集」アイコンをクリックします。
4. 「文書フロー・コンテキスト属性」セクションで、設定する属性の「更新」列に移動し、値を選択するか、または新しい値を入力します。設定する属性ごとに、この手順を繰り返します。
5. 「保管」をクリックします。

注: ソースまたはターゲットの「属性」をクリックしてから、「更新」列で値を入力するかまたは値を変更して、RosettaNet 属性を接続レベルで更新することもできます。168 ページの『属性の指定または変更』を参照してください。

## 対話の作成

次のプロセスでは、バックエンド・システムと参加者との間の対話を作成する方法について説明します。送信する PIP および受信する PIP ごとに、対話を 1 つ作成する必要があることに注意してください。

開始する前に、適切な RNIF 文書フロー定義がアップロードされ、使用する PIP に対応したパッケージがアップロードされていることを確認してください。0A1 PIP (Notification of Failure) を生成する機能が必要な場合は、その PIP がステップ 9 (75 ページ) の説明に従ってアップロードされていることを確認してください。

特定の PIP の対話を作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。
4. 「ソース」ツリーを「アクション」レベルまで展開し、「ターゲット」ツリーを「アクション」レベルまで展開します。
5. ツリー内で、ソース・コンテキストおよびターゲット・コンテキストに使用する文書フロー定義を選択します。例えば、参加者が 3C6 PIP (1 アクション PIP) を開始する場合は、次の文書フロー定義を選択します。

表 5. 参加者が開始する 3C6 PIP

| ソース                        | ターゲット                 |
|----------------------------|-----------------------|
| パッケージ: RNIF (V02.00)       | パッケージ: バックエンド統合 (1.0) |
| プロトコル: RosettaNet (V02.00) | プロトコル: RNSC (1.0)     |
| 文書フロー: 3C6 (V01.00)        | 文書フロー: 3C6 (V01.00)   |
| アクティビティ: 送金通知の通知           | アクティビティ: 送金通知の通知      |
| アクション: 送金通知の通知アクション        | アクション: 送金通知の通知アクション   |

バックエンド・システムが 3C6 PIP を開始する場合は、次の文書フロー定義を選択します。

表 6. バックエンド・システムが開始する 3C6 PIP

| ソース                   | ターゲット                      |
|-----------------------|----------------------------|
| パッケージ: バックエンド統合 (1.0) | パッケージ: RNIF (V02.00)       |
| プロトコル: RNSC (1.0)     | プロトコル: RosettaNet (V02.00) |
| 文書フロー: 3C6 (V01.00)   | 文書フロー: 3C6 (V01.00)        |
| アクティビティ: 送金通知の通知      | アクティビティ: 送金通知の通知           |
| アクション: 送金通知の通知アクション   | アクション: 送金通知の通知アクション        |

参加者が 3A4 などの 2 アクション PIP を開始する場合は、最初のアクションに次の文書フロー定義を選択します。

表 7. 参加者が開始する 3A4 PIP

| ソース                        | ターゲット                 |
|----------------------------|-----------------------|
| パッケージ: RNIF (V02.00)       | パッケージ: バックエンド統合 (1.0) |
| プロトコル: RosettaNet (V02.00) | プロトコル: RNSC (1.0)     |
| 文書フロー: 3A4 (V02.02)        | 文書フロー: 3A4 (V02.02)   |
| アクティビティ: 仕入れ注文の要求          | アクティビティ: 仕入れ注文の要求     |
| アクション: 仕入れ注文の要求アクション       | アクション: 仕入れ注文の要求アクション  |

バックエンド・システムが 2 アクション 3A4 PIP を開始する場合は、最初のアクションに次の文書フロー定義を選択します。

表 8. バックエンド・システムが開始する 3A4 PIP

| ソース                   | ターゲット                      |
|-----------------------|----------------------------|
| パッケージ: バックエンド統合 (1.0) | パッケージ: RNIF (V02.00)       |
| プロトコル: RNSC (1.0)     | プロトコル: RosettaNet (V02.00) |
| 文書フロー: 3A4 (V02.02)   | 文書フロー: 3A4 (V02.02)        |
| アクティビティ: 仕入れ注文の要求     | アクティビティ: 仕入れ注文の要求          |
| アクション: 仕入れ注文の要求アクション  | アクション: 仕入れ注文の要求アクション       |

6. 「アクション」フィールドで、「**RosettaNet と RosettaNet サービス・コンテンツの間の双方向変換 (検証あり)**」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。
8. 2 アクション PIP を設定する場合は、必要なステップを繰り返して、2 番目のアクション用の対話を作成します。例えば、参加者が開始する 3A4 PIP の 2 番目のアクションに対して、次の文書フロー定義を選択します。このアクションで、バックエンド・システムは応答を送信します。

表 9. 参加者が開始する 3A4 PIP (2 番目のアクション)

| ソース                   | ターゲット                      |
|-----------------------|----------------------------|
| パッケージ: バックエンド統合 (1.0) | パッケージ: RNIF (V02.00)       |
| プロトコル: RNSC (1.0)     | プロトコル: RosettaNet (V02.00) |
| 文書フロー: 3A4 (V02.02)   | 文書フロー: 3A4 (V02.02)        |
| アクティビティ: 仕入れ注文の要求     | アクティビティ: 仕入れ注文の要求          |
| アクション: 仕入れ注文の確認アクション  | アクション: 仕入れ注文の確認アクション       |

バックエンド・システムが開始する 3A4 PIP の 2 番目のアクションに対して、次の文書フロー定義を選択します。

表 10. バックエンド・システムが開始する 3A4 PIP (2 番目のアクション)

| ソース                        | ターゲット                 |
|----------------------------|-----------------------|
| パッケージ: RNIF (V02.00)       | パッケージ: バックエンド統合 (1.0) |
| プロトコル: RosettaNet (V02.00) | プロトコル: RNSC (1.0)     |
| 文書フロー: 3A4 (V02.02)        | 文書フロー: 3A4 (V02.02)   |
| アクティビティ: 仕入れ注文の要求          | アクティビティ: 仕入れ注文の要求     |

表 10. バックエンド・システムが開始する 3A4 PIP (2 番目のアクション) (続き)

| ソース                  | ターゲット                |
|----------------------|----------------------|
| アクション: 仕入れ注文の確認アクション | アクション: 仕入れ注文の確認アクション |

9. 0A1 Notification of Failure を生成する場合は、XMLEvent の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. 「対話の管理」をクリックします。
  - c. 「対話の作成」をクリックします。
  - d. 「ソース」ツリーを「文書フロー」レベルまで展開し、「ターゲット」ツリーを「文書フロー」レベルまで展開します。
  - e. 以下の文書フロー定義を選択します。

表 11. XML Event 文書フロー定義

| ソース                   | ターゲット                 |
|-----------------------|-----------------------|
| パッケージ: バックエンド統合 (1.0) | パッケージ: バックエンド統合 (1.0) |
| プロトコル: XMLEvent (1.0) | プロトコル: XMLEvent (1.0) |
| 文書フロー: XMLEvent (1.0) | 文書フロー: XMLEvent (1.0) |

- f. 「アクション」フィールドで、「パススルー」を選択します。
  - g. 「保管」をクリックします。
10. 0A1 RNSC に対する XMLEvent の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. 「対話の管理」をクリックします。
  - c. 「対話の作成」をクリックします。
  - d. 「ソース」ツリーを「文書フロー」レベルまで展開し、「ターゲット」ツリーを「アクティビティ」レベルまで展開します。
  - e. 以下の文書フロー定義を選択します。

表 12. 0A1 に対する XML Event の文書フロー定義

| ソース                   | ターゲット                 |
|-----------------------|-----------------------|
| パッケージ: バックエンド統合 (1.0) | パッケージ: バックエンド統合 (1.0) |
| プロトコル: XMLEvent (1.0) | プロトコル: RNSC (1.0)     |
| 文書フロー: XMLEvent (1.0) | 文書フロー: 0A1 (V02.00)   |
|                       | アクティビティ: 障害通知の配布      |

- f. 「アクション」フィールドで、「RosettaNet と XML の間の双方向変換 (検証あり)」を選択します。
  - g. 「保管」をクリックします。

## Web サービス

参加者は、コミュニティー・マネージャーによって提供される Web サービスを要求できます。同様に、コミュニティー・マネージャーは、参加者によって提供されるよう Web サービスを要求できます。参加者やコミュニティー・マネージャーは、WebSphere Partner Gateway サーバーを起動して、Web サービスを取得します。WebSphere Partner Gateway は、プロキシとして動作し、Web サービス要求を Web サービス・プロバイダーに渡し、プロバイダーからの同期的な応答をリクエストに戻します。

ここでは、参加者やコミュニティー・マネージャーが使用する Web サービスの設定に関する以下の情報について説明します。

- Web サービスの参加者の識別
- Web サービスに対する文書フロー定義の設定
- 参加者の B2B 機能への文書フロー定義の追加
- Web サービス・サポートの制限

### Web サービスの参加者の識別

コミュニティー・マネージャーによって、参加者が使用する Web サービスが提供される際、WebSphere Partner Gateway は、参加者の身元の識別 (ID) を要求します。Web サービス要求を送付するときは、以下の 2 つの方法のいずれかで ID を設定します。

1. `<participant's_business_ID>/<console_user_name>` の形式のユーザー ID (例: 123456789/joesmith) と、コンソール・ユーザー名のパスワードと同じパスワードによる HTTP 基本認証を使用します。
2. 参加者の WebSphere Partner Gateway に前もってロードしてある SSL クライアント証明書を提示します。

コミュニティー・マネージャーが使用する Web サービスを参加者が提供する場合は、コミュニティー・マネージャーが Web サービスの呼び出しに使用するパブリック URL に照会ストリング「`?to=<participant's_business_ID>`」が含まれていることが必要です。例えば、以下のようになります。

```
http://<IP_address>/bcgreceiver/Receiver?to=123456789
```

これにより、Web サービスのプロバイダーがビジネス ID 123456789 の参加者であることが WebSphere Partner Gateway に通知されます。

### 文書フロー定義の作成

文書フロー定義を設定するには、Web サービスを定義する WSDL (Web サービス記述言語) ファイルをアップロードするか、または Community Console を通して同等な文書フロー定義を手動で入力します。

#### Web サービスの WSDL ファイルのアップロード

Web サービスの定義は、拡張子 `.wsdl` の 1 次 WSDL ファイルに含まれている必要があります。この定義では、インポート・エレメントを使用して追加 WSDL フ

ファイルをインポートすることができます。インポートするファイルがある場合、これらのファイルは、以下のいずれかの方法を使用して、1 次ファイルと共にアップロードできます。

- 各インポート・エレメントの `location` 属性のファイル・パスまたは (HTTP) URL が **Community Console** のサーバー (ユーザーのマシンではなく) から到達可能である場合、1 次ファイルを直接アップロードすることができ、インポートされるファイルは自動的にアップロードされます。
- インポート・ファイルと 1 次ファイルがすべて 1 つの ZIP ファイルに圧縮され、各ファイルのパスがインポートの `location` 属性のパス (ある場合) に対応している場合は、ZIP ファイルをアップロードすると、含まれている 1 次 WSDL ファイルおよびインポート WSDL ファイルがすべてアップロードされます。

例えば、1 次 WSDL ファイル `helloworldRPC.wsdl` に、次のインポート・エレメントが含まれているものとします。

```
<import namespace="http://www.helloworld.com/wsdl/helloRPC.wsdl" location="bindingRPC.wsdl"/>
```

また、インポートされる WSDL ファイル `bindingRPC.wsdl` に、以下のインポート・エレメントが含まれているものとします。

```
<import namespace="http://www.helloworld.com/wsdl/helloRPC.wsdl" location="port/porttypeRPC.wsdl"/>
```

ファイルには、以下が含まれている必要があります。

Name	Path
<code>helloworldRPC.wsdl</code>	
<code>bindingRPC.wsdl</code>	
<code>porttypeRPC.wsdl</code>	<code>port¥</code>

Web サービスの WSDL ファイル定義がアップロードされると、元の WSDL は検証マップとして保管されます。(Web サービス・メッセージは、実際には **WebSphere Partner Gateway** によって検証されません。Web サービス・メッセージは、元のサービス・エンドポイント URL を使用して直接渡されます。) この WSDL は、プライベート WSDL と呼ばれます。

また、パブリック WSDL は、「パッケージのアップロード/ダウンロード」ページで指定されたターゲット URL で置き換えられたプライベート URL と共に保管されます。パブリック WSDL は、ターゲットの URL (パブリック URL) で Web サービスを呼び出す Web サービスのユーザーに提供されます。**WebSphere Partner Gateway** は、その後、元の Web サービス・プロバイダーのプライベート URL であるゲートウェイに Web サービス要求を送付します。**WebSphere Partner Gateway** は、プロキシとして動作し、プライベート・プロバイダー URL (Web サービス利用者には表示されない) に Web サービス要求を転送します。

プライベート WSDL およびパブリック WSDL (インポート・ファイルを含む) は、WSDL がアップロードされた後に **Community Console** からダウンロードできます。

**Community Console** を使用した WSDL ファイルのアップロード: **WebSphere Partner Gateway** では、WSDL ファイルをインポートすることができます。Web サ

ービスが単一の WSDL ファイルに定義されている場合は、WSDL ファイルを直接アップロードできます。Web サービスが複数の WSDL ファイルを使用して定義されている場合 (1 次 WSDL ファイル内に WSDL ファイルをインポートした場合)、WSDL ファイルは、ZIP アーカイブの形式でアップロードされます。

**重要:** ZIP アーカイブに格納された WSDL ファイルは、WSDL インポート・エレメントに指定されているディレクトリーに入れる必要があります。例えば、以下のインポート・エレメントがあるものとします。

```
<import namespace="http://www.helloworld.com/wsdl/helloRPC.wsdl"
location="path1/bindingRPC.wsdl"/>
```

ZIP アーカイブ内のディレクトリー構造は、path1/bindingRPC.wsdl になります。

ここで、以下の例を考えて見ます。

```
<import namespace="http://www.helloworld.com/wsdl/helloRPC.wsdl"
location="bindingRPC.wsdl"/>
```

bindingRPC.wsdl ファイルは、ZIP アーカイブ内のルート・レベルにあります。

単一の WSDL ファイルまたは ZIP アーカイブをアップロードするには、以下の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「パッケージのアップロード/ダウンロード」をクリックします。
3. 「WSDL パッケージ」の場合は、「はい」をクリックします。
4. 「Web サービス・パブリック URL」の場合は、以下のステップの 1 つを実行します。

- Web サービスが (参加者から呼び出された) コミュニティー・マネージャーによって提供される場合は、Web サービスのパブリック URL を入力します。以下に例を示します。

```
https://<target_host:port>/bcgreceiver/Receiver
```

この URL は一般に、ターゲットに定義されている実動 HTTP ターゲットと同じになります。

- Web サービスが (コミュニティー・マネージャーから呼び出された) 参加者によって提供される場合は、参加者のパブリック URL と照会ストリングを入力します。以下に例を示します。

```
https://<target_host:port>/bcgreceiver/Receiver?to=<participant_business_ID>
```

5. 「参照」をクリックし、WSDL ファイルまたは ZIP アーカイブを選択します。
6. ファイルをテスト・モードでアップロードする場合は、「データベースへのコミット」で「いいえ」を選択します。「いいえ」を選択すると、ファイルはシステムにインストールされません。「メッセージ」ボックスに表示されているシステム生成メッセージを使用して、アップロード・エラーのトラブルシューティングを行います。システム・データベースにファイルをアップロードするには、「はい」を選択します。
7. 現在データベース内にあるデータを置き換える場合は、「データの上書き」で「はい」を選択します。データベースにファイルを追加する場合は、「いいえ」を選択します。

8. 「アップロード」をクリックします。WSDL ファイルがシステムにインストールされます。

**スキーマ・ファイルを使用したパッケージの検証:** コンソールを使用してアップロードできる XML ファイルを記述する一連の XML スキーマが、WebSphere Partner Gateway のインストール・メディアで提供されています。アップロード・ファイルは、このスキーマと照合して検証されます。スキーマ・ファイルは、XML に準拠していないためにファイルをアップロードできない場合、エラーの原因を判断するのに役立ちます。ファイルは、wsdl.xsd、wsdlhttp.xsd、および wsdlsoap.xsd で、有効な Web サービス記述言語 (WSDL) ファイルを記述するスキーマが含まれています。

ファイルは B2BIntegrate¥packagingSchemas にあります。

## 文書フロー定義の手動作成

同等の文書フロー定義を手動で入力する場合は、このセクションの手順に従います。また、**プロトコル: Web サービス**で文書フロー、アクティビティ、およびアクションの各項目を作成する必要があります。アクションの要件およびその受信 SOAP メッセージとの関連に特に注意してください。

文書フロー定義のパッケージ/プロトコル/文書フロー/アクティビティ/アクション階層では、サポートされている Web サービスは以下のように表されます。

- **パッケージ:** なし
- **プロトコル: Web サービス (1.0)**
- **文書フロー:** {<Web\_service\_namespace>:<Web\_service\_name>} (名前とコード)。Web サービス・プロトコルの文書フローの間で固有である必要があります。これは通常は WSDL のネーム・スペースと名前です。
- **アクティビティ:** 各 Web サービス操作に対するアクティビティ (名前とコード)  
{<operation\_namespace>:<operation\_name>}
- **アクション:** 各操作の入力メッセージに対するアクション (名前とコード)  
{<namespace\_of\_identifying\_xml\_element = first\_child\_of\_soap:body>:<name\_of\_identifying\_xml\_element = first\_child\_of\_soap:body>}

WebSphere Partner Gateway はアクションのネーム・スペースおよび名前を使用して、着信 Web サービス要求 SOAP メッセージを識別し、定義された参加者接続に基づいて適切に送付するため、アクションは重要な定義となります。受信した SOAP メッセージの soap:body エレメントの最初の XML 子エレメントのネーム・スペースおよび名前は、WebSphere Partner Gateway の文書フロー定義の既知のアクションのネーム・スペースおよび名前と一致する必要があります。

例えば、文書リテラル SOAP バインディングの場合の Web サービス要求 SOAP メッセージが以下になるものとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:xsd=
"http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">
 <soapenv:Body>
```

```

<nameAndAddressElt xmlns="http://www.helloworld.com/xsd/helloDocLitSchema">
 <titleElt xmlns="">Mr</titleElt>
 <nameElt xmlns="">Joe Smith</nameElt>
 <addressElt xmlns="">
 <numberElt>123</numberElt>
 <streetElt>Elm St</streetElt>
 <cityElt>Peoria</cityElt>
 </addressElt>
</nameAndAddressElt>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>

```

WebSphere Partner Gateway は、以下のコードで定義されている Web サービス・アクションを探します。

```
{http://www.helloworld.com/xsd/helloDocLitSchema}:nameAndAddressElt
```

RPC バインディング・スタイル SOAP 要求メッセージは、以下のようになります。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
 xmlns:xsd=
 "http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
 2001/XMLSchema-instance">
 <soapenv:Body>
 <ns1:helloWorldRPC soapenv:encodingStyle="http://schemas.xmlsoap.org/soap/
 encoding/" xmlns:ns1="http://www.helloworld.com/helloRPC">
 <name xsi:type="xsd:string">Joe Smith</name>
 </ns1:helloWorldRPC>
 </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>

```

WebSphere Partner Gateway は、以下のコードで定義されている Web サービス・アクションを探します。

```
{http://www.helloworld.com/helloRPC}:helloWorldRPC
```

RPC バインディングでは、SOAP 要求メッセージの `soap:body` の最初の子エレメントのネーム・スペースおよび名前が、関連 Web サービス操作のネーム・スペースおよび名前である必要があります。

文書リテラル・バインディングでは、SOAP 要求メッセージの `soap:body` の最初の子エレメントのネーム・スペースおよび名前が、Web サービスの入力「message」定義の「part」エレメントの XML 「element」属性のネーム・スペースおよび名前である必要があります。

## 対話の作成

Web サービスの対話を作成するには、ソースとターゲットの両方に同じ Web サービス文書フロー・アクションを使用します。

対話を作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。

4. 「ソース」の下で、「パッケージ: なし」>「プロトコル: Web サービス」>「文書フロー: <document flow> (Document Flow: < document flow)」>「アクション: <action> (Action: <action>)」を展開します。このステップを「ターゲット」列で繰り返します。
5. ページの下部にある「アクション」リストから、「パススルー」を選択します（「パススルー」は、Web サービスに対して WebSphere Partner Gateway でサポートされている、唯一有効なオプションです）。

## Web サービス・サポートの制限

WebSphere Partner Gateway では、以下の標準がサポートされています。

- WSDL 1.1
- SOAP 1.1
- WS-I Basic Profile v. 1.0 (文書リテラル・バインディングの SOAP メッセージの形式に関する重要な制限を含む)

注:

- SOAP/HTTP バインディングはサポートされています。
- 再バインドはサポートされていません。
- RPC エンコード/RPC リテラルおよび文書リテラル・バインディング・スタイルはサポートされています (WS-I Basic Profile の制限に従います)。
- 添付ファイル付きの SOAP はサポートされていません。

---

## cXML 文書

このセクションでは、cXML サポートの概要を示し、cXML 交換の文書フロー定義の作成について説明します。

### 概要

WebSphere Partner Gateway Document Manager は、XML 文書のルート・エレメント名 cXML および cXML DOCTYPE (DTD) によって識別されるバージョンにより、cXML 文書を識別します。例えば、以下の DOCTYPE は、cXML バージョン 1.2.009 用です。

```
<!DOCTYPE cXML SYSTEM "http://xml.cxml.org/schemas/cXML/1.2.009/cXML.dtd">
```

Document Manager が cXML 文書に対する DTD 検証を実行しますが、WebSphere Partner Gateway は cXML DTD を提供していません。これは、[www.cxml.org](http://www.cxml.org) からダウンロードし、Community Console の検証マップ・モジュールを使用して WebSphere Partner Gateway にアップロードすることができます。DTD をアップロードした後に、cXML 文書フローと関連付けます。DTD の cXML 文書フローへの関連付けについて詳しくは、93 ページの『マップと文書フロー定義の関連付け』を参照してください。

Document Manager は、文書管理のために cXML ルート・エレメントの 2 つの属性 payloadID と timestamp を使用します。cXML payloadID と timestamp は、文書 ID 番号および文書タイム・スタンプとして使用されます。いずれも文書管理用に Community Console で表示可能です。

cXML ヘッダー内の From エlementと To エlementには、文書のルーティングおよび認証に使用される Credential エlementが含まれます。以下の例は、cXML 文書のソースおよび宛先としての From エlementと To エlementを示しています。

注: この例および本書全体を通して、DUNS 番号はすべて例として示されています。

```
<Header>
<From>

 <Credential domain="AcmeUserId">
 <Identity>admin@acme.com</Identity>
 </Credential>
 <Credential domain="DUNS">
 <Identity>130313038</Identity>
 </Credential>
</From>
<To>

 <Credential domain="DUNS">
 <Identity>987654321</Identity>
 </Credential>
 <Credential domain="IBMUserId">
 <Identity>test@ibm.com</Identity>
 </Credential>
</To>
```

複数の Credential エlementが使用されている場合、Document Manager は、ルーティングおよび認証のビジネス ID として DUNS 番号を使用します。指定されている DUNS 番号がない場合は、最初の信任状が使用されます。

WebSphere Partner Gateway は、Sender エlementの情報を使用しません。

同期トランザクションでは、cXML 応答文書に From および To ヘッダーは使用されません。応答文書は、要求文書によって確立されたのと同じ HTTP 接続を使用して送信されます。

## cXML 文書タイプ

cXML 文書は、要求、応答、またはメッセージという 3 つタイプのいずれかになります。

**要求:** cXML 要求には、多くのタイプがあります。cXML 文書内の要求エlementは、WebSphere Partner Gateway の文書フローに対応します。標準的な要求エlementは、以下のとおりです。

- OrderRequest
- ProfileRequest
- PunchOutSetupRequest
- StatusUpdateRequest
- GetPendingRequest
- ConfirmationRequest
- ShipNoticeRequest

以下のテーブルは、cXML 要求文書のエlementと WebSphere Partner Gateway 内の文書フロー定義の間の関係を示しています。

<b>cXML エlement</b>	<b>文書フロー定義</b>
cXML DOCTYPE	プロトコル
DTD バージョン	プロトコル・バージョン
要求 (タイプ)	
例: OrderRequest	文書フロー

**応答:** ターゲット参加者は、cXML 応答を送信して、ソース参加者に cXML 要求の結果を通知します。一部の要求の結果にはデータがない場合があるため、応答エレメントにはオプションで状況エレメントのみを含めることができます。また、応答エレメントには、アプリケーション・レベルのデータが含まれることがあります。例えば、PunchOut 時には、PunchOutSetupResponse エレメントにアプリケーション・レベルのデータが含まれます。標準的な応答エレメントは、以下のとおりです。

- ProfileResponse
- PunchOutSetupResponse
- GetPendingResponse

以下のテーブルは、cXML 応答文書のエレメントと WebSphere Partner Gateway 内の文書フロー定義の間の関係を示しています。

<b>cXML エlement</b>	<b>文書フロー定義</b>
cXML DOCTYPE	プロトコル
DTD バージョン	プロトコル・バージョン
応答 (タイプ)	
例: ProfileResponse	文書フロー

**メッセージ:** cXML メッセージでは、cXML メッセージ・エレメントに WebSphere Partner Gateway 文書フロー情報が含まれます。このエレメントには、応答エレメント内にあるのと同じオプションの状況エレメントを含めることができます。この状況エレメントは、要求メッセージへの応答となるメッセージで使用されます。

メッセージの内容は、ユーザーのビジネス・ニーズによってカスタム定義されます。<Message> エレメントのすぐ下のエレメントは、WebSphere Partner Gateway で作成された文書フローに対応しています。以下の例の SubscriptionChangeMessage は文書フローです。

```
<Message>
<SubscriptionChangeMessage type="new">
 <Subscription>
 <InternalID>1234</InternalID>
 <Name xml:lang="en-US">Q2 Prices</Name>
 <Changetime>1999-03-12T18:39:09-08:00</Changetime>
 <SupplierID domain="DUNS">942888711</SupplierID>
 <Format version="2.1">CIF</Format>
 </Subscription>
</SubscriptionChangeMessage>
</Message>
```

以下のテーブルは、cXML メッセージのエレメントと WebSphere Partner Gateway 内の文書フロー定義の間の関係を示しています。

cXML エレメント	文書フロー定義
cXML DOCTYPE	プロトコル
DTD バージョン	プロトコル・バージョン
メッセージ	文書フロー

片方向メッセージと要求/応答文書の違いは、簡単に言うと、要求エレメントや応答エレメントではなく、メッセージ・エレメントがあることです。

メッセージは、以下の属性を持つことができます。

- `deploymentMode`: メッセージがテスト文書であるか、実動文書であることを示します。指定可能な値は、`production` (デフォルト) または `test` です。
- `inReplyTo`: このメッセージが応答するメッセージを指定します。`inReplyTo` 属性の内容は、先に受信したメッセージの `payloadID` です。この属性は、多くのメッセージを持つ両方向トランザクションを構成する場合に使用します。

## Content-Type ヘッダーと添付文書

すべての cXML 文書には、Content-Type ヘッダーが含まれている必要があります。添付ファイルのない cXML 文書の場合は、以下の Content-Type ヘッダーが使用されます。

- Content-Type: `text/xml`
- Content-Type: `application/xml`

cXML プロトコルは、MIME を介して、外部ファイルの添付をサポートしています。例えば、パイヤーは、通常、対応するメモ、図面、FAX などによって仕入れ注文を明確にしなければならない場合があります。添付ファイルを含む cXML 文書では、以下にリストした Content-Type ヘッダーのいずれかを使用する必要があります。

- Content-Type: `multipart/related; boundary=<something_unique>`
- Content-Type: `multipart/mixed; boundary=<something_unique>`

`boundary` エレメントは、MIME メッセージの本文とペイロード部分を区切るために使用される固有のテキストです。詳しくは、[www.cxml.org](http://www.cxml.org) にある「cXML User Guide」を参照してください。

## 有効な cXML 対話

WebSphere Partner Gateway では、以下の cXML 文書フロー定義の対話がサポートされています。

- 参加者からコミュニティー・マネージャーへ: なし/cXML からなし/cXML (パススルーおよび検証あり)
- コミュニティー・マネージャーから参加者へ:
  - なし/cXML からなし/cXML (パススルーおよび検証あり)
  - なし/XML からなし/cXML (パススルー、検証、および変形あり)

## 文書フロー定義の作成

以下のプロセスに従って、cXML 文書の新規文書フロー定義を作成します。

注: cXML 文書フロー定義を作成する前に、正しいバージョンの cXML が定義されていることを確認してください。デフォルトはバージョン 1.2.009 です。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「文書フロー定義の作成」をクリックします。「文書フロー定義の作成」ページが表示されます。
3. 文書フロー・タイプの「文書フロー」を選択します。
4. 文書のタイプに応じて、以下のいずれかのタスクを実行します。
  - 要求の場合は、「コード」 および「名前」 フィールドに要求タイプ (OrderRequest など) を入力します。
  - 応答の場合は、応答に <Status> 以外の子タグがない場合は、Response と入力します。それ以外の場合は、<Status> の後に次のタグ名を入力します。以下の例では、最初の応答エレメントに Response を、2 番目の応答エレメントに Profile Response と入力します。

```
<cXML>
 <Response>
 <Status code="200" text="OK"/>
 </Response>
</cXML>
<cXML>
 <Response>
 <Status code="200" text="OK"/>
 <ProfileResponse>
 </Response>
</cXML>
```

5. 「バージョン」に **1.0** と入力します。

バージョン番号は参照用です。実際のプロトコル・バージョンは、cXML 文書内の DTD バージョンから派生しています。

6. オプションの「説明」を入力します。
7. 「文書レベル」に対して「はい」を選択します。
8. 「状況」に対して「使用可能」を選択します。
9. 「可視」のすべての属性に対して「はい」を選択します。
10. 「パッケージ: なし」フォルダーをクリックして、パッケージ選択オプションを展開します。
11. 「プロトコル: cXML (1.2.009): cXML」を選択します。
12. 「保管」をクリックします。

## 対話の作成

文書フロー定義を作成したら、cXML 文書の対話をセットアップします。

対話を作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。
4. cXML 文書がソースの場合は、「ソース」の下で「パッケージ: なし」および「プロトコル: cXML (Protocol: cXML)」を展開し、「文書フロー: <document\_flow> (Document Flow:<document\_flow>)」を選択します。cXML 文書がター

ゲットの場合は、「パッケージ: なし」および「プロトコル: cXML (Protocol: cXML)」を展開し、「ターゲット」列で「文書フロー: <document\_flow> (Document Flow: <document\_flow>)」を選択します。

5. もう半分の対話 (cXML に変換される文書または cXML から変換される文書) のソースまたはターゲット列を展開し、パッケージおよびプロトコルを展開して、文書フローを選択します。
6. ページの下部にある「アクション」リストから、「パススルー」を選択します (「パススルー」は、cXML 文書に対してサポートされている、唯一有効なオプションです)。

---

## カスタム XML 文書

このセクションでは、カスタム XML 文書の作成方法について説明します。

### 概要

XML (Extensible Markup Language) は、Web 上で扱われる構造化文書およびデータの統一形式です。「XML プロトコルの管理 (Manage XML Protocols)」ページでは、カスタム XML 形式の作成と管理を行うことができます。カスタム XML 形式は、使用可能な文書フロー定義のリストに追加できます。

XML 形式では、一連の XML 文書内にパスを定義します。これにより、Document Manager はそれらの値を取り出して、着信文書を一意的に識別し、正しいルーティングと処理に必要な文書内の情報にアクセスできるようになります。

XML 形式を作成するには、以下のステップを実行します。

1. XML 形式のプロトコルを作成し、パッケージ (複数可) と関連付けます。
2. XML 形式の文書フローを作成し、新規作成したプロトコルと関連付けます。
3. XML 形式を作成します。

この後、新規作成した XML 形式に有効な対話を作成します。

これらのステップについては、以降のセクションで説明します。また、これらのステップの例については、212 ページの『カスタム XML 文書用のハブ設定』を参照してください。

### プロトコル定義形式の作成

ここでは、カスタム XML プロトコル定義形式の作成方法について説明します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「文書フロー定義の作成」をクリックします。
2. 「文書フロー・タイプ」で、「プロトコル」を選択します。
3. 「コード」に、前のステップで選択したオブジェクトのタイプの値を入力します。例えば、XML と入力します。
4. 「名前」に、文書フロー定義の ID を入力します。例えば、カスタム XML プロトコルの場合は、Custom\_XML と入力します。このフィールドは必須です。
5. 「バージョン」に、1.0 と入力します。
6. (オプション) プロトコルの説明を入力します。

7. 文書フローではなくプロトコルを定義するため、「**文書レベル**」を「**いいえ**」に設定します (文書フローの定義については、次のセクションを参照してください)。
8. 「**状況**」を「**使用可能**」に設定します。
9. このプロトコルの「**可視/不可視**」を設定します。一般には、すべての参加者に対して可視に設定します。
10. この新規プロトコルがラップされるパッケージを選択します。例えば、このプロトコルを AS、なし、バックエンド統合の各パッケージに関連付ける場合は、「**パッケージ: AS**」、「**パッケージ: なし**」、「**パッケージ: バックエンド統合**」を選択します。
11. 「**保管**」をクリックします。

## 文書定義フローの作成

次に、再度「文書フロー定義の作成」ページを使用して、文書フローを作成します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**文書フロー定義**」>「**文書フロー定義の作成**」をクリックします。
2. 「**文書フロー・タイプ**」で、「**文書フロー**」を選択します。
3. 「**コード**」に、前のステップで選択したオブジェクト (文書フロー) のタイプの値を入力します。
4. 「**名前**」に、文書フロー定義の ID を入力します。例えば、文書フローの名前として、XML\_Tester と入力します。このフィールドは必須です。
5. 「**バージョン**」に、**1.0** と入力します。
6. (オプション) プロトコルの説明を入力します。
7. 文書レベルを定義するため、「**文書レベル**」を「**はい**」に設定します。
8. 「**状況**」を「**使用可能**」に設定します。
9. このフローの「**可視/不可視**」を設定します。一般には、すべての参加者に対して可視に設定します。
10. ステップ 10 で選択した各パッケージを展開するために、「**展開 (Expand)**」アイコンをクリックします。フォルダーを展開し、前のセクションで作成したプロトコルの名前を選択します (例: プロトコル: CustomXML)。
11. 「**保管**」をクリックします。

「文書フロー定義の管理」ページの AS、なし、およびバックエンド統合パッケージには、文書フロー XML\_Tester およびプロトコル CustomXML が表示されています。

## XML 形式の作成

カスタム XML プロトコルを作成し (およびパッケージまたはパッケージのセットにカスタム XML プロトコルを関連付け)、関連文書フローを作成すると、XML 形式を作成することができます。

XML 形式を作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**XML 形式**」をクリックします。

2. 「XML 形式の作成」をクリックします。
3. 「ルーティング形式」で、形式を関連付ける文書フロー定義を選択します。
4. 「ファイル・タイプ」で「XML」を選択します。

注: ファイル・タイプの使用可能なオプションは、XML のみです。

5. 「ID タイプ」で、着信文書タイプを識別するのに使用するエレメントを選択します。「DTD」、「ネーム・スペース」、または「ルート・タグ」を選択します。
6. タイプを選択するフィールドごとに、「エレメント・パス」(文書内の値のパス)または「定数」(文書内の実際の値)を選択します。その後、値を指定します。
  - a. 「ソース・ビジネス ID」、「ターゲット・ビジネス ID」にビジネス ID を入力します。このフィールドは必須です。
  - b. 「ソース文書フロー・バージョン」に XML 文書の文書フローおよびバージョン値のパスを定義する式を入力します。このフィールドは必須です。
  - c. 「文書 ID」に文書 ID 番号のパスを入力します。
  - d. 「文書タイム・スタンプ」に文書作成タイム・スタンプのパスを入力します。
  - e. 「重複検査キー 1」から「重複検査キー 5」に、重複文書のルーティングを識別する際に使用するパスを入力します。
7. 「保管」をクリックします。

---

## 検証マップの使用

WebSphere Partner Gateway では、検証マップを使用して特定の文書の構造を検証します。検証マップと文書を関連付けるには、最初にその検証マップが WebSphere Partner Gateway で使用可能であることを確認します (『検証マップの追加』を参照)。

### 検証マップの追加

宛先の参加者やバックエンド・システムが文書を構文解析できるように、アクションに検証マップを関連付けることができます。なお、検証マップは文書の構造のみを検証することに注意してください。メッセージの内容については検証されません。

注: 検証マップと文書フロー定義を一度関連付けたら、その関連付けを解除することはできません。

新しい検証マップをハブに追加するには、以下の手順を実行します。

1. 検証マップ・ファイルをハブに保管するか、WebSphere Partner Gateway がファイルを読み取ることのできる場所に保管します。
2. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「検証マップ」をクリックします。
3. 「作成」をクリックします。
4. 検証マップの説明を入力します。
5. 文書の検証に使用するスキーマ・ファイルにナビゲートして、「オープン」をクリックします。

6. 「保管」をクリックします。

## マップと文書フロー定義の関連付け

検証マップと文書フロー定義を関連付けるには、以下の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「検証マップ」をクリックします。
2. 文書フロー定義と関連付ける検証マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. パッケージの横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、個々に適切なレベルまで (例えば、RosettaNet 文書では「アクション」など) 展開します。
4. 検証マップと関連付ける文書フロー定義を選択します。
5. 「保管」をクリックします。

---

## 文書の表示

文書ビューアーは、文書フローを構成する文書に関する情報を表示します。ロー文書とそれに関連する文書処理の詳細およびイベントを、特定の検索条件を使用して表示することができます。文書が正常に配信されたかどうかを調べたり、問題の原因を判別するときに、この情報が役に立ちます。

文書ビューアーを表示するには、「ビューアー」>「文書ビューアー」をクリックします。文書ビューアーの使用法については、「管理者ガイド」を参照してください。



---

## 第 8 章 EDI 文書フローの構成

この章では、標準の EDI 交換向けに文書フロー定義と対話を構成する方法について説明します。また、XML 文書とレコード単位データ (ROD) 文書の受信および変換についてもこの章で説明します。この章では以下のトピックを扱います。

- 『EDI の概要』
- 98 ページの『XML 文書と ROD 文書の概要』
- 99 ページの『文書フロー作成と属性設定の概要』
- 101 ページの『有効なフローの概要』
- 106 ページの『EDI 交換の処理方法』
- 109 ページの『XML 文書または ROD 文書の処理方法』
- 110 ページの『EDI 環境の設定』
- 123 ページの『文書交換を定義するための一般的なステップ』
- 136 ページの『EDI 交換およびトランザクションの表示』

EDI 交換では、エンベロープ解除や変換を実施しなくても、情報をやり取りできます。このタイプの交換に必要な対話を作成するステップについては、69 ページの『パススルー・アクションによる EDI 文書』を参照してください。

---

### EDI の概要

EDI とは、承認済みの国家標準または業界標準で情報を変換および交換することに同意した仕事関係者間でビジネス情報をネットワーク経由で伝送する手段のことです。WebSphere Partner Gateway は、以下の EDI 標準に対してエンベロープ解除、変換、およびエンベロープを実施する機能を備えています。

- X12。米国規格協会承認されている共通の EDI 標準です。
- UN/EDIFACT (United Nations Electronic Data Interchange for Administration Commerce and Support)。
- UCS (Uniform Communication Standard)

以下のセクションでは、X12、EDIFACT、および UCS 標準に準拠した EDI 交換と、それぞれの EDI 交換に含まれるトランザクションおよびグループについて概説します。また、XML 文書、ROD 文書、および EDI 交換がどのように変換されるのかについても説明します。

### EDI 交換の構造

EDI 交換には、1 つ以上のビジネス・トランザクションが含まれています。X12 およびその関連する標準では、ビジネス・トランザクションはトランザクション集合と呼ばれています。EDIFACT およびその関連する標準では、ビジネス・トランザクションはメッセージと呼ばれています。本書では、通常、X12 または UCS のトランザクション集合や EDIFACT メッセージのことをトランザクション またはビジネス・トランザクション と呼びます。

EDI 交換はいくつかのセグメントで構成されており、各セグメントにはデータ・エレメントが含まれています。データ・エレメントとは、具体的には名前、数量、日付、時間などのことです。セグメントとは、関連するデータ・エレメントが 1 つにまとめられたグループのことです。セグメントは、その先頭に表示されるセグメント名またはセグメント・タグで識別されます。(データ・エレメントは、名前では識別されません。その代わり、区切ることを目的として予約された特殊な区切り文字で区切られています。)

トランザクション内の詳細またはデータ・セグメントを管理目的用に使用するその他のセグメントと区別すると、便利な場合があります。管理目的のセグメントは、X12 では制御セグメントと呼ばれ、EDIFACT ではサービス・セグメントと呼ばれています。EDI 交換の境界を区切るエンベロープ・セグメントは、こうした制御セグメントやサービス・セグメントの一例です。

EDI 交換に含まれるセグメントには、3 つのレベルがあります。どのレベルでも、先頭にはヘッダー・セグメントがあり、末尾にはトレーラー・セグメントがあります。

どの交換にも、交換ヘッダー・セグメントと、交換トレーラー・セグメントがあります。

交換には、1 つ以上のグループを含めることができます。各グループには、1 つ以上の関連するトランザクションが含まれています。グループにもレベルがあり、EDIFACT ではオプションですが、X12 およびその関連する標準では必須です。複数のグループが含まれている場合、それぞれのグループごとにグループ・ヘッダーとグループ・トレーラー・セグメントがあります。

グループ (グループが存在しない場合には交換) には、1 つ以上のトランザクションが含まれています。各トランザクションには、トランザクション集合ヘッダーおよびトランザクション集合トレーラーがあります。

トランザクションは、購入注文などのビジネス・ドキュメントになります。ビジネス・ドキュメントの内容は、トランザクション集合ヘッダー・セグメントとトランザクション集合トレーラー・セグメントの間にある明細セグメントで示されます。

各 EDI 標準では、交換内にデータを表示する方法をそれぞれ独自に規定しています。以下の表は、サポートされている 3 つの EDI 標準のセグメントを示しています。

表 13. サポートされている EDI 標準のセグメント

標準のセグメント	X12	UCS	EDIFACT
交換開始	ISA	BG	UNB
交換終了	IEA	EG	UNZ
グループ開始	GS	GS	UNG
グループ終了	GE	GE	UNE
トランザクション開始	ST	ST	UNH
トランザクション終了	SE	SE	UNT

図 22 では、X12 交換とそれを構成するセグメントの例を紹介しています。

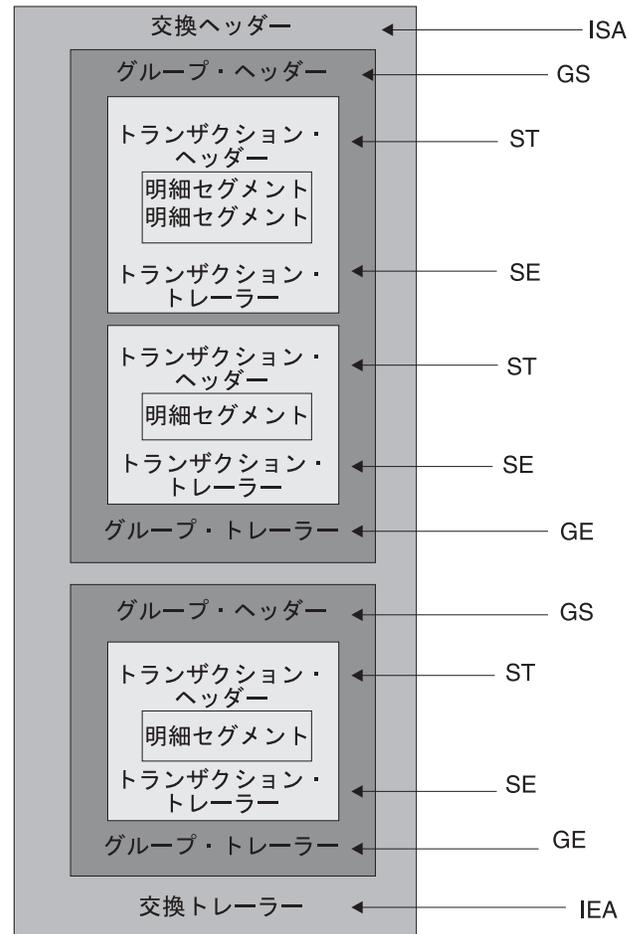


図 22. 交換エンベロープ

## マップ

Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者が、形式の異なる文書間の変換方法を記述した変換マップを作成します。例えば、X12 トランザクションを EDIFACT メッセージに変更する変換マップなどがあります。また、EDI トランザクションを XML 文書またはレコード単位データ文書に変換することもできます。

変換マップでは、1 つの文書から複数の文書を作成することもできます。このタイプのマップでは、マップ・チェーニングを使用して、単一トランザクションから複数の出力を生成します。マップ・チェーニングでは、ソース文書が正常にターゲット文書に変換された後、後続のマップを使用して再度そのソース文書が別のターゲット文書を生成するために変換されます。これを何度も繰り返して、必要な数だけの文書を生成できます。

変換マップのほかに、機能肯定応答マップと検証マップも使用できます。機能肯定応答マップは、機能肯定応答の生成方法に関する指示を記載したものです (機能肯

定応答は、EDI 文書が相手に届いたことを送信側に通知するものです。WebSphere Partner Gateway をインストールすると、EDI 標準の機能肯定応答マップがいくつかインストールされます。この各マップのリストについては、133 ページの『機能肯定応答』を参照してください。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、このほかに別の機能肯定応答マップを作成することもできます。

WebSphere Partner Gateway は、EDI トランザクションが検証されたときに、EDI トランザクションに関連する機能肯定応答マップがあれば、機能肯定応答を生成します。ソース文書は、EDI 文書でなければなりません。

WebSphere Partner Gateway では、標準レベルの検証で EDI 文書が検証されます。機能肯定応答を生成しようとする、EDI 文書の検証結果が保管されます。EDI 文書に対してさらに検証を行うには、検証マップを作成します。機能肯定応答の生成時には、機能肯定応答マップと EDI 文書の検証結果が使用されます。機能肯定応答マップにはマッピング・コマンドが記載されており、特定の機能肯定応答を作成するために検証結果をどのように使用するかを示します。検証プロセスが文書を変換対象として承認すると、適切なデータ変換マップを使用してソース文書が変換されます。

---

## XML 文書と ROD 文書の概要

Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、XML 文書およびレコード単位データ文書の文書定義を作成し、それぞれのタイプの文書を別のタイプの文書に変換する変換マップを作成できます。

### XML 文書

XML 文書は、XML DTD または XML スキーマによって定義されます。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、この DTD またはスキーマに基づいて変換マップを作成し、XML 文書を別の形式にどのように変換するかを記述します。XML 文書は、別の XML 文書、レコード単位データ文書、または EDI トランザクションに変換できます。

### ROD 文書

レコード単位データ (ROD) とは、専有の形式に準拠した文書のことです。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者が ROD 文書定義を定義します。これは、ビジネス・アプリケーションが文書内のデータを構造化する方法を定義したものです。文書定義を定義したら、マッピング担当者は ROD 文書を別の ROD 文書、XML 文書、または EDI トランザクションに変換するためのマップを作成できます。

### スプリッターと複数の文書

XML 文書または ROD 文書は、個々の文書として、または同じファイル内の文書のグループとして、ハブに参加させることができます。同じファイルに複数の文書が存在する場合があります。例えば、参加者またはコミュニティー・マネージャーのスケジュールされたジョブによって送信対象の文書が定期的にアップロードされる場合などです。複数の XML 文書または ROD 文書が 1 つのファイルで届いた場合は、Receiver が関連するスプリッター・ハンドラー (XMLSplitterHandler または RODSplitterHandler) を呼び出してその一連の文書を分割します。(スプリッター・

ハンドラーは、ターゲットを作成すると構成されます。53 ページの『前処理』を参照してください。) その後文書が再び Document Manager に導入されて、個別に処理されることとなります。

**注:** 送信側 ID および受信側 ID は、変換マップに関連付けられている ROD 文書定義に含まれている必要があります。また、文書タイプおよびディクショナリー値を判別するために必要な情報も、文書定義に含まれている必要があります。変換マップを作成する場合、Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者が、これらの要件を把握していることを確認してください。

1 つのファイルで複数の EDI 交換を送信することもできます。複数の EDI 交換が 1 つのファイルで届いた場合は、Receiver が EDISplitterHandler を呼び出してその一連の交換を分割します。その後交換が再び Document Manager に導入されて、個別に処理されることとなります。

**注:** 分割は、交換について分割が行われるのであって、交換内の個々のトランザクションについて行われるわけではありません。交換内のトランザクションには、エンベロープ解除が行われます。

---

## 文書フロー作成と属性設定の概要

文書フロー定義は、少なくともパッケージ、プロトコル、文書フローで構成されています。文書フロー定義では、WebSphere Partner Gateway で処理される文書のタイプを指定します。

パッケージ化とは、AS2 などの仕様に従って文書をパッケージ化するために必要なロジックです。プロトコル・フローとは、EDI-X12 など特定のプロトコルに準拠する文書进行处理するために必要なロジックです。文書フローとは、文書がどのようになっているかを記述したものです。

以下のセクションでは、コミュニティー・マネージャーと参加者間の文書フローを設定するためのステップ全体について概説します。また、これらのセクションでは属性を設定できるポイントについても説明します。

### ステップ 1: 文書フロー定義が使用可能であることを確認する

どの文書も、文書に対して文書フロー定義を定義しなければ送受信できません。WebSphere Partner Gateway には、機能肯定応答を表すものも含め、デフォルトの文書フロー定義がいくつか用意されています。EDI トランザクション、XML 文書、または ROD 文書の変換マップをインポートすると、それに関連付けられた文書フロー定義が「文書フロー定義」ページに表示されます。同じく、まだ定義されていない機能肯定応答マップをインポートすると、その肯定応答の文書フロー定義が「文書フロー定義」ページに表示されます。文書フロー定義は、独自に作成することもできます。

文書フロー定義を作成するときに、いくつかの属性を変更することができます。属性は、検証や暗号化の検査、再試行カウントなどのさまざまな文書処理やルーティングの機能を実行する目的で使用されます。文書フロー定義レベルで設定した属性は、関連するパッケージ、プロトコル、または文書フローのグローバル設定となり

ます。使用可能な属性は、文書フロー定義によって異なります。EDI 文書フロー定義の属性は、RosettaNet 文書フロー定義の属性とは異なります。

例えば、ISA 文書フロー・レベルで「**TA1 要求を許可**」の値を指定した場合、その設定値はすべての ISA 文書に適用されます。その後、参加者またはコミュニティ・マネージャーの B2B 機能レベルで **TA1 許可属性**を設定した場合は、その値で文書フロー定義レベルの値がオーバーライドされます。

文書フロー定義の複数のレベルで設定可能な属性の場合、文書フロー・レベルで設定した値はプロトコル・レベルで設定した値よりも優先され、プロトコル・レベルで設定した値はパッケージ・レベルで設定した値よりも優先されます。例えば、&X44TA1 プロトコル・レベルでエンベロープ・プロファイルを指定し、さらに TA1 文書フロー・レベルでも別のエンベロープ・プロファイルを指定している場合、TA1 文書フロー・レベルで指定したエンベロープ・プロファイルが使用されません。

対話を作成する前に、「文書フロー定義の管理」ページに文書フローをリストする必要があります。

## ステップ 2: 対話を作成する

次のステップとして、対話を設定します。対話は、参加者の接続を作成するためのテンプレートとなります。対話により、文書の着信の仕方、文書に対して実行される処理、文書をハブから送信する方法を通知します。

プロトコルによっては、(参加者またはコミュニティ・マネージャーから送信されて) ハブで受信される文書を記述するフローと、ハブから (参加者またはコミュニティ・マネージャーに) 送信される文書を記述するフローの 2 つのフローのみが必要な場合があります。ただし、ハブで送受信する EDI 交換がエンベロープ解除されて個々のトランザクションに分割されたり、肯定応答を必要としたりするものである場合は、実際には複数の対話を作成します。例えば、ハブで EDI 交換を受信する場合、交換をハブに送信する方法、およびそれをハブで処理する方法を記述した対話を作成します。また、ハブ内のトランザクションごとに、トランザクションの処理方法を記述した対話も作成することになります。ハブから送信される EDI 交換では、交換のエンベロープを宛先に送信する方法を記述した対話を作成します。

## ステップ 3: 参加者のプロファイル、ゲートウェイ、および B2B 機能を作成する

次は、コミュニティ・マネージャーおよびコミュニティ参加者の参加者プロファイルを作成します。ゲートウェイと B2B 機能も定義します。ゲートウェイは文書の送信先を決定するもので、B2B 機能はコミュニティ・マネージャーまたは参加者が送受信可能な文書を指定するものです。「B2B 機能」ページには、すでに定義されている文書フローがすべて表示されます。

B2B 機能レベルで属性を設定できます。このレベルで設定した属性は、文書フロー定義レベルで設定された属性をオーバーライドします。例えば、「**TA1 要求を許可**」を ISA 文書の文書フロー定義レベルで「**いいえ**」に、B2B 機能レベルでは「**はい**」に設定した場合、「**はい**」の値が使用されます。B2B レベルで設定された属性は、特定の参加者に合わせて調整できます。

プロトコル・レベルまたは文書フロー・レベルでエンベロープ・プロファイルを設定し (つまり、「文書フロー定義の管理」ページで設定)、次に「B2B 機能」ページで同じエンベロープ・プロファイルに別の値を設定した場合、後者の値が使用されます。

コミュニティー・マネージャーおよび参加者のプロファイルと B2B 機能を定義してから、これらの間の接続を作成する必要があります。

## ステップ 4: 接続をアクティブ化する

最後に、コミュニティー・マネージャーと参加者間の接続をアクティブ化します。使用可能な接続は、参加者の B2B 機能と作成した対話に基づいて決まります。対話は、使用可能な文書フロー定義によって異なります。

交換によっては、接続が 1 つだけ必要になることがあります。例えば、参加者がコミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションにバイナリー文書を送信する場合、必要な接続は 1 つのみです。ただし、EDI 交換のうち、エンベロープが解除されるものや、個々のトランザクションが変換されるものでは、複数の接続を確立します。

注: そのままの状態ですり取りされる EDI 交換では、必要な接続は 1 つのみです。

属性は接続レベルで設定できます。このレベルで設定した属性は、B2B 属性レベルで設定された属性をオーバーライドします。例えば、「TA1 要求を許可」を B2B 機能レベルでは「はい」に、接続レベルでは「いいえ」に設定した場合、「いいえ」の値が使用されます。接続レベルで属性に値を設定することで、関連する参加者とアプリケーションのルーティングの要件に応じて、属性をさらに調整することができます。

---

## 有効なフローの概要

ここでは、WebSphere Partner Gateway で実行可能な変換のタイプについて概説します。これらの変換の詳細と設定に必要な作業については、123 ページの『文書交換を定義するための一般的なステップ』で説明します。

## EDI 間のフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから EDI 交換を受信し、それをタイプの異なる EDI 交換に変換し (例えば、EDI-X12 から EDIFACT への変換など)、変換後の文書を参加者またはコミュニティー・マネージャーに送信することができます。EDI 交換が別の EDI 交換に変換される場合には、以下のステップが実行されます。

1. ハブに届いた EDI 交換のエンベロープが解除されます。
2. EDI 交換内の個々のトランザクションが受信側の EDI 形式に変換されます。
3. 変換された EDI トランザクションがエンベロープされて受信側に送信されます。

図 23 は、3 つのトランザクションがエンベロープ解除される X12 交換を示しています。まず各トランザクションが EDIFACT 形式に変換され、その後エンベロープされて参加者に送信されます。

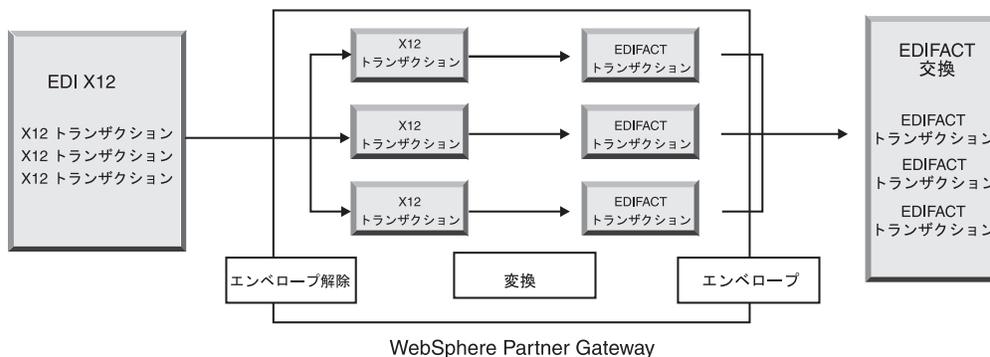


図 23. EDI 交換間のフロー

トランザクションのそれぞれに変換マップが関連付けられており、そのマップにはトランザクションをどのように変換するかが指定されています。トランザクションは、単一トランザクションに変換することができます。マップの作成時にマップ・チェーニングが使用されている場合は、複数のトランザクションに変換できます。エンベローパーのバッチ機能がオンになっている場合、1 つのエンベロープとしてハブに入るトランザクションは、1 つのエンベロープとしてハブから出ます。ただし、エンベロープのブレイクポイントがある場合 (例えば、EDI 属性に異なる値が指定されている場合やエンベロープ・プロファイルが異なる場合)、またはバッチ機能がオフの場合、トランザクションは別々のエンベロープとしてハブから送信されます。エンベローパー (参加者に送信される一連のトランザクションを収集し、それらをエンベロープに包んで送信するコンポーネント) の一般的な説明は、110 ページの『エンベローパー』を参照してください。バッチ機能についての詳細は、110 ページの『バッチ・モード』を参照してください。

また、トランザクションに検証マップを関連付けることもできます。

## EDI から XML または ROD へのフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから EDI 交換を受信し、そのエンベロープを解除し、解除後の EDI トランザクションを XML 文書または ROD 文書に変換することができます。

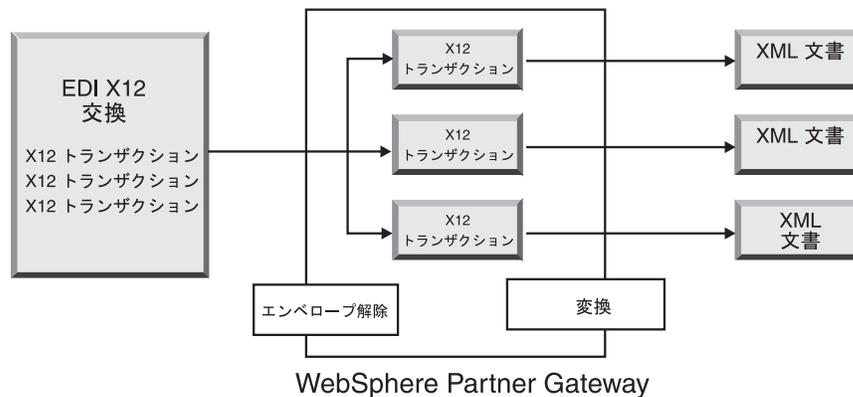


図 24. EDI 交換から XML 文書へのフロー

トランザクションは、単一文書に変換することができます。マップの作成時にマップ・チェーニングが使用されている場合は、複数の文書に変換できます。

## XML または ROD から EDI へのフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから XML 文書または ROD 文書を受信し、それを EDI トランザクションに変換し、そのトランザクションをエンベロープして参加者またはコミュニティー・マネージャーに送信することができます。

図 25 に、XML 文書が X12 トランザクションに変換され、その後エンベロープされる様子を示します。

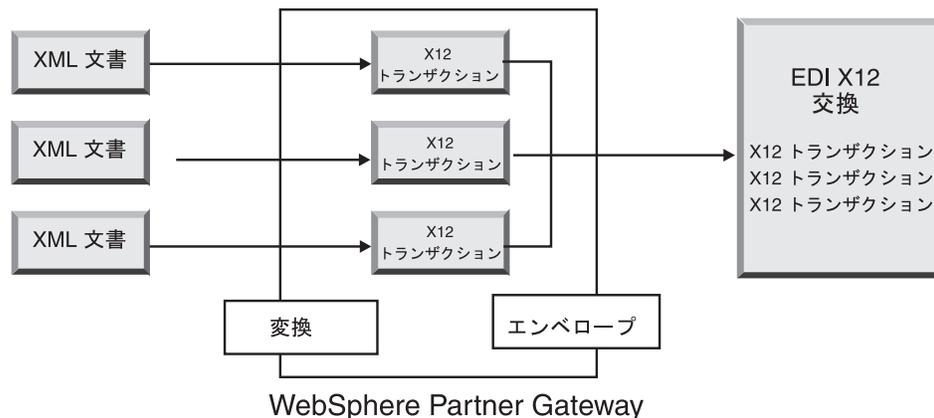


図 25. XML 文書から EDI 交換へのフロー

1 つの文書を複数のトランザクションに変換することができ (マップ・チェーニングを使用してマップが作成された場合)、その各トランザクションを別の交換としてエンベロープすることができます。104 ページの図 26 は、3 つの X12 トランザクションに変換される XML 文書を示しています。このうちの 2 つのトランザクションは、一緒にエンベロープされます。残りの 1 つは、別のエンベロープに含まれます。

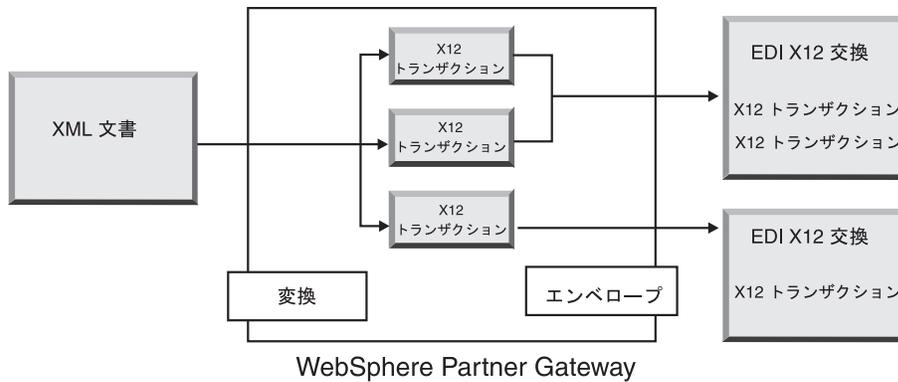


図 26. XML 文書から複数の EDI トランザクションへのフロー

## 複数の XML 文書または ROD 文書から EDI 交換へのフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから 1 つ以上の XML 文書または ROD 文書からなるファイルを受信し、それを EDI トランザクションに変換し、その EDI トランザクションを複数のエンベロープに包んで参加者またはコミュニティー・マネージャーに送信することができます。

各文書は、単一トランザクションに変換することができます。マップの作成時にマップ・チェーニングが使用されている場合は、複数のトランザクションに変換できません。

注:

1. 1 つのファイルで送信する各文書は、タイプが同じである必要があります。XML 文書か ROD 文書のどちらか一方のみで、両者を混在させることはできません。
2. どの ROD 文書も、同じタイプのものである必要があります。

図 27 は、個々の XML 文書に分割される一連の XML 文書を示しています。各 XML 文書が X12 トランザクションに変換され、それぞれのトランザクションがエンベロープされます。

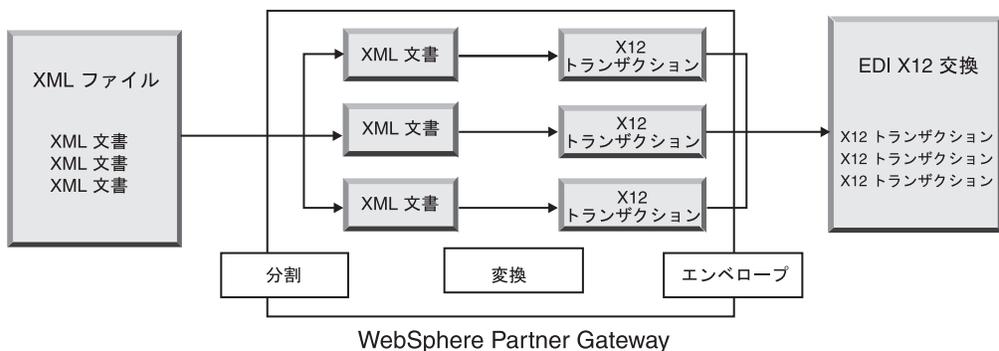


図 27. 複数の XML 文書から EDI 交換へのフロー

図 27 では、文書は (XML スプリッター・ハンドラーによって) 分割され、変換されたトランザクションと一緒にエンベロープされます。このシナリオを実行するた

めには、XML スプリッター・ハンドラーの BCG\_BATCHDOCS オプションがオン (デフォルト値) に設定されていることが必要です。BCG\_BATCHDOCS がオンに設定されており、エンベローパーのバッチ・モードがオンであれば、これらのトランザクションを同じ EDI エンベロープに入れることができます。エンベローパーのバッチ・モード属性については、110 ページの『バッチ・モード』で説明します。

## XML から ROD、または ROD から XML へのフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから XML 文書または ROD 文書を受信し、それを他のタイプの文書に変換し (XML から ROD、または ROD から XML への変換)、その文書を参加者またはコミュニティー・マネージャーに送信することができます。

図 28 は、ROD 文書に変換される一連の XML 文書を示しています。

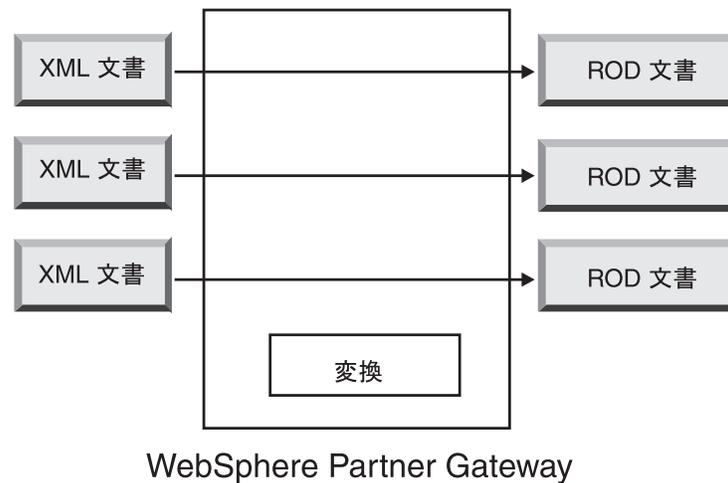


図 28. XML 文書から ROD 文書へのフロー

文書は、単一文書に変換することができます。マップの作成時にマップ・チェーニングが使用されている場合は、複数の文書に変換できます。

## XML から XML、または ROD から ROD へのフロー

WebSphere Partner Gateway では、参加者またはコミュニティー・マネージャーから XML 文書または ROD 文書を受信し、それを同じタイプの文書に変換し (XML から XML、または ROD から ROD への変換)、その文書を参加者またはコミュニティー・マネージャーに送信することができます。

106 ページの図 29 は、別の形式の XML 文書に変換される XML 文書を示しています。

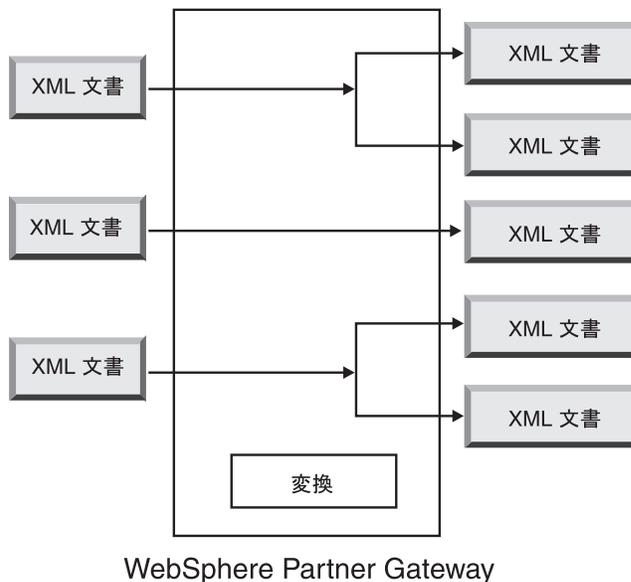


図 29. XML 文書から XML 文書へのフロー

文書は、単一文書に変換することができます。マップの作成時にマップ・チェーニングが使用されている場合は、複数の文書に変換できます。

## EDI 交換の処理方法

一般的に、ハブに届いた EDI 交換は、エンベロープ解除され、それから個々のトランザクションが処理されます。多くの場合、標準の EDI トランザクション (X12 850 や EDIFACT ORDERS (購入注文) など) は、バックエンド・アプリケーションが認識する形に変換されます。また、相手に交換が届いたことを示す機能肯定応答が参加者に送信されるのが普通です。したがって、EDI 交換のやり取りでは複数のアクション (EDI のエンベロープ解除や EDI 変換、EDI 検証など) が必要になります。例えば、交換に 2 つのトランザクションが含まれている場合に、肯定応答を必要なしとすると、WebSphere Partner Gateway は以下のアクションを実行します。

1. 交換のエンベロープを解除します。

WebSphere Partner Gateway は、交換レベル、グループ・レベル、およびトランザクション・レベルでエンベロープ・ヘッダーおよびトレーラー・セグメントから交換に関する情報を抽出します。これには以下の情報が含まれています。

- 交換レベルでは、送信側および受信側である参加者のビジネス ID、使用標識 (交換が実稼働環境向けか、テスト環境向けかを指定するもの)、および交換が作成された日時です。
- グループ・レベルでは、送信側および受信側のアプリケーション ID、およびグループが作成された日時です。
- トランザクション・レベルでは、トランザクションのタイプです (X12 850 や EDIFACT ORDERS など)。

2. 関連付けられたマップに従って最初のトランザクションを変換します。
3. 関連付けられたマップに従って 2 番目のトランザクションを変換します。
4. 変換後の文書をバックエンド・アプリケーションに配信します。

同じく、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションで生成された文書をハブが送信するときにも、文書は標準の EDI トランザクションに変換されます。変換後の EDI トランザクションは、エンベロープされてから参加者に送信されます。EDI 交換を受信する場合と同じように、EDI 交換を作成し、エンベロープし、送信する場合にも、複数のアクションが必要になります。

個々のトランザクション、グループ、および交換は、制御番号で識別されます。交換が発生すると、WebSphere Partner Gateway がこの制御番号を設定します。ただし、制御番号は 119 ページの『制御番号』に示すように、カスタマイズすることもできます。

以下の図は、AS としてパッケージ化されている EDI 交換が参加者から送信される全体像を示しています。その最終目的は、変換された 2 つの XML 文書をコミュニティー・マネージャーのバックエンド・システムの 2 つの異なるゲートウェイに配信することです。この例では、850 トランザクションが、バックエンド・アプリケーションが処理できる購入注文に変換されます。890 トランザクションは、バックエンド・アプリケーションが処理できる倉庫出荷命令に変換されます。

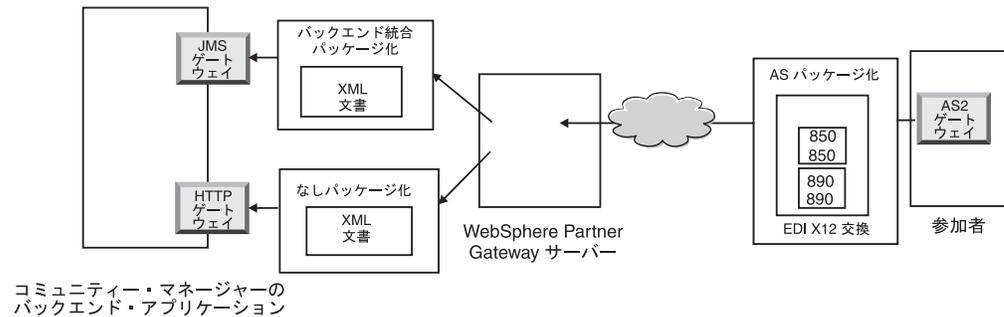


図 30. 参加者からコミュニティー・マネージャーへのフローの全体像

この交換では、参加者からコミュニティー・マネージャーまで 1 つの接続ではなく、3 つの接続を必要としています。

- 1 つは参加者からハブまでの接続で、交換のエンベロープを解除するためのものです。これは中間ステップであるため (交換はエンベロープ解除されますが、参加者に配信されません)、参加者接続のターゲット側は該当なしです。

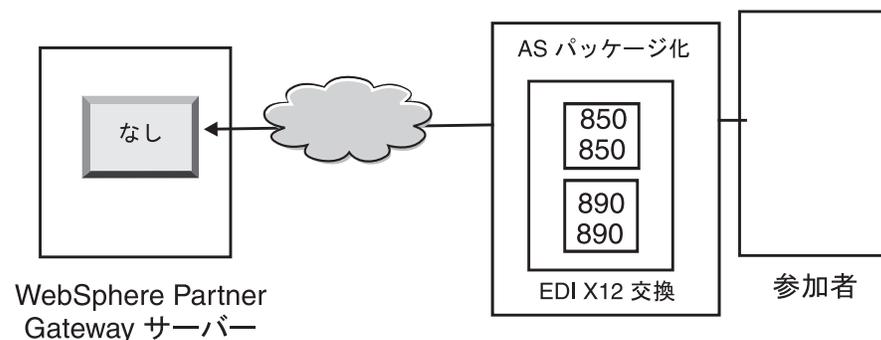


図 31. エンベロープ解除の接続

- 2 つ目は最初のトランザクションを変換してコミュニティー・マネージャーの JMS ゲートウェイに配信するための接続で、3 つ目は 2 番目のトランザクションを変換してコミュニティー・マネージャーの HTTP ゲートウェイに配信するための接続です。

トランザクションは、システムによってエンベロープ解除された元の交換に届いているため、ソース・パッケージ化は適用されません。したがって、トランザクションのソース側で、参加者接続に「パッケージ化: N/A (Packaging: N/A)」を指定する必要があります。

XML に変換され、JMS を介してバックエンド・アプリケーションに送信されるトランザクションの場合、このトランザクションの参加者接続のターゲット・ゲートウェイをコミュニティー・マネージャーの JMS ゲートウェイとして指定する必要があります。XML に変換され、HTTP を介してバックエンド・アプリケーションに送信されるトランザクションの場合は、このトランザクションの参加者接続のターゲット・ゲートウェイを HTTP ゲートウェイとして指定する必要があります。

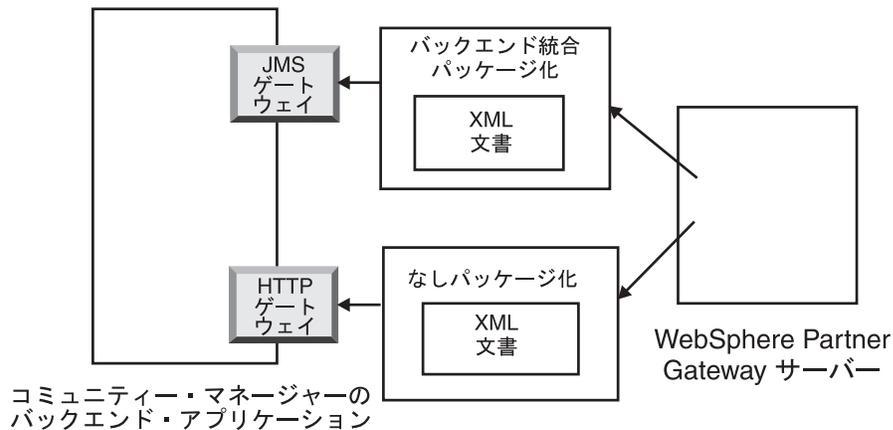


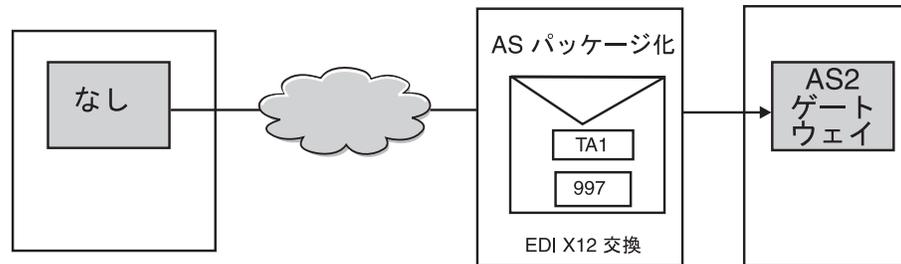
図 32. 個々のトランザクション用の接続

交換と個々のトランザクションを表示する場合に、文書ビューアーを使用することができます。個々のトランザクションは文書ビューアーから見れば、交換の子です。文書ビューアーを使用すると、ソース交換またはターゲット交換に関連付けられた子、および子に関連付けられたイベントを表示することができます。文書ビューアーについては、「管理者ガイド」の『イベントおよび文書の表示』のセクションを参照してください。

送信側から肯定応答を求められた場合は、さらに接続を追加する必要があります。

- 各肯定応答を参加者に送り返すための接続です。機能肯定応答はシステムによって生成されるため、参加者接続のソース側で「パッケージ化: N/A (Packaging: N/A)」を指定する必要があります。機能肯定応答は、エンベロープされた後配信されるため、参加者接続のターゲット側でも、「パッケージ化: N/A (Packaging: N/A)」を指定する必要があります。スケジュールを設定しておけば、エンベローパーがそのスケジュールに従って各肯定応答を収集します。スケジュールの設定については、110 ページの『エンベローパー』を参照してください。

- 参加者に送り返す前に肯定応答をエンベロープするための接続も必要です。エンベロープはシステムによって生成されるため、参加者接続のソース側で「パッケージ化: NA (Packaging: NA)」を指定する必要があります。参加者接続のターゲット側では、ターゲット・ゲートウェイを参加者のゲートウェイに設定する必要があります。この場合、「パッケージ化: AS」を指定します。エンベロープは、EDI 標準のデフォルトのものを使用することも、カスタマイズすることもできます。エンベロープのカスタマイズについては、112 ページの『エンベロープ・プロファイル』を参照してください。



WebSphere Partner  
Gateway サーバー

参加者

図 33. 肯定応答のエンベロープおよびオリジネーターへの送信

## XML 文書または ROD 文書の処理方法

XML 文書または ROD 文書は、個々の文書または同じファイル内の文書のグループとしてハブで受信されます。同じファイル内の文書のグループとしてハブに届いたときには、WebSphere Partner Gateway は以下のアクションを実行します。

1. 文書のセットを個々の文書に分割します。
2. 関連付けられたマップに従って各文書を変換します。
3. 文書を EDI トランザクションに変換する場合は、そのトランザクションをエンベロープしてバックエンド・アプリケーションに配信します。文書を XML 文書または ROD 文書に変換する場合は、変換後の文書をそのままバックエンド・アプリケーションに配信します。

XML 文書または ROD 文書が単一の文書として届いた場合には、WebSphere Partner Gateway は以下のアクションを実行します。

1. 関連付けられたマップに従ってその文書を変換します。
2. 文書を EDI トランザクションに変換する場合は、そのトランザクションをエンベロープしてバックエンド・アプリケーションに配信します。文書を別の XML 文書または ROD 文書に変換する場合は、その文書をバックエンド・アプリケーションに配信します。

同じく、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションで生成された文書をハブが送信するときにも、文書は XML 文書、ROD 文書、または EDI トランザクションに変換されます。EDI トランザクションの場合は、エンベロープされてから参加者に送信されます。EDI 交換を受信する場合と同じように、文

書を変換する場合、変換後のトランザクションをエンベロープする場合、および EDI 交換を送信する場合にも、複数のアクションが必要になります。

---

## EDI 環境の設定

前のセクションで触れたように、EDI 交換のやり取りに関連する数多くの属性を指定できます。例えば、システム提供のエンベロープ・プロファイルを変更したり、特定の接続に使用する固有のエンベロープを定義したり、交換の各要素に割り当てられる制御番号を設定したり、同じ交換を異なる方法で配信できるように接続プロファイルを設定したりできます。ここでは、この各作業について説明します。

### エンベローパー

エンベローパーは、参加者に送信される一連のトランザクションを収集し、それらをエンベロープに包んで送信するコンポーネントです。送信待機中のトランザクションをいつエンベローパーで探すかを WebSphere Partner Gateway に指示する必要があるため、エンベローパーをスケジュールします (デフォルトのスケジュールのままでもかまいません)。また、ロック時間、キュー存続期間、およびバッチ・モードのデフォルト値を更新することもできます。

**注:** エンベローパーの設定はオプションです。エンベローパーのどの値も変更しない場合は、システム提供のデフォルト値が使用されます。

### ロック

Document Manager のインスタンスごとにエンベローパーが用意されます。Document Manager を 2 つシステムにインストールすれば、エンベローパーも 2 つになります。したがって、エンベローパーのインスタンスを 2 つ以上使用して、エンベロープ待機中のトランザクションをポーリングすることも可能です。特定のトランザクションが 1 つだけのエンベローパーによってポーリングされるように設定するために、ロックが使用されます。ロックによって、複数のエンベローパーが関与する場合に、1 つのエンベローパーのみが特定のトランザクションをポーリングし、処理するように設定できます。複数のエンベローパーが同時にポーリングしますが、別々のトランザクションに対して機能します。

ロックには、制限時間が設定されます。エンベローパーのインスタンスがロックを保持できる時間のデフォルト値は 240 秒です。

ロックの待機が必要な場合、エンベローパーはキューに入れられます。最大キュー存続期間 (エンベローパーが待機しなければならない時間) は 740 秒です。

通常は、ロック用のデフォルト値を変更する必要はありません。

### バッチ・モード

1 つのファイルで到着した複数の文書は、その文書のタイプに設定してあるスプリッター・ハンドラーに従って分割されます。(ターゲットの定義の一部であるスプリッター・ハンドラーの構成については、53 ページの『構成ポイントの変更』で説明しています。) スプリッター・ハンドラーの属性の 1 つに BCG\_BATCHDOCS があります。BCG\_BATCHDOCS をオン (デフォルト値) に設定すると、スプリッターは文書の分割後に文書にバッチ ID を追加します。

エンベローパーには、BCG\_BATCHDOCS 属性に関連したバッチ・モード用の属性があります。個々の文書にバッチ ID が割り当てられている場合に、バッチ・モードのデフォルト値 (オン) を受け入れると、エンベローパーは、トランザクションと一緒にエンベロープされるように、同じファイルと一緒に到着した文書すべてを処理してからエンベロープして送信します。例えば、5 つの XML 文書が同じファイルで届いたとします。各 XML 文書は、EDI トランザクションに変換されて、同じ受信側に配信されることになります。この文書を 3 つのみ変換した時点で、エンベローパーがあらかじめスケジュールされたトランザクションのポーリングを開始します。バッチ・モードを選択していれば、準備の整った 3 つのトランザクションをエンベローパーが処理 (エンベロープ) することはありません。そうではなく、5 つすべてのトランザクションの処理が完了するまで待機し、それから各トランザクションをエンベロープして送信します。適用可能な EDI 標準で回避していないかぎり、各トランザクションは同じエンベロープに含まれます。

## デフォルト値の変更

エンベローパーのデフォルト値を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベローパー」をクリックします。
2. 「編集」アイコンをクリックします。
3. 「最大ロック時間 (秒)」属性および「最大キュー存続期間 (秒)」属性に割り当てられている時間を増減する場合は、新しい値を入力します。

**注:** 通常は、デフォルト値を変更する必要はありません。

4. バッチ・モードをオフにする場合は、「バッチ・モードの使用」の横にあるチェックを外します。
5. 送信待機中のトランザクションをエンベローパーがチェックする回数を変更する場合は、以下の一連の作業のいずれかを実行します。
  - 間隔を基にしたスケジューリング (デフォルト値) の時間を変更するには、「間隔」の横に新しい時間を入力します。例えば、この値を 30 秒に変更すると、エンベローパーが 30 秒おきに文書をチェックし、対象の文書をエンベロープして受信側に送信するようになります。
  - カレンダーを基にしたスケジューリングを使用するには、以下の作業を実行します。
    - a. 「カレンダーを基にしたスケジューリング」をクリックします。
    - b. スケジューリングのタイプ (「日次スケジュール」、「週次スケジュール」、または「カスタム・スケジュール」) を選択します。
      - 「日次スケジュール」を選択した場合は、エンベローパーが文書をチェックする時刻 (時分) を選択します。
      - 「週次スケジュール」を選択した場合は、時刻のほかに曜日を 1 つ以上選択します。
      - 「カスタム・スケジュール」を選択した場合は、まず時刻を選択し、次に週および月について「範囲」または「選択できる日」を選択します。「範囲」では、開始日と終了日を指定します。(例えば、平日の特定の時刻にのみエンベローパーに文書をチェックさせる場合は、「月」および「金」をクリックしてください。) 「選択できる日」では、週および月の特定の日付を選択します。
6. 「保管」をクリックします。

## エンベロープ・プロファイル

エンベロープ・プロファイルによって、エンベロープの特定のエレメントに配置される値が決まります。エンベロープ・プロファイルは、文書フロー定義の「エンベロープ・プロファイル」属性で EDI トランザクションに割り当てます。

WebSphere Partner Gateway には、サポートされている標準 (X12、EDIFACT、または UCS) ごとに定義済みのエンベロープ・プロファイルが用意されています。この定義済みの各エンベロープ・プロファイルを直接使用することも、変更することも、新しいエンベロープ・プロファイルにコピーすることもできます。エンベロープ・プロファイルを変更または作成するステップについては、113 ページの『デフォルト値の変更』を参照してください。

エンベロープ・プロファイルには、エンベロープ標準のエレメントごとに 1 つのフィールドがあります。また、プロファイルには、トランザクション集合、メッセージ、機能グループ、および交換のヘッダーまたはトレーラー・セグメントとなるリテラル・データまたは定数データを用意しておくことができます。ここで用意する値は、取り込む必要があり、かつ別のソースに用意されていない値のみにします。

フィールド名が、容易に相互参照できるように意図されています。例えば、UNB03 フィールドは UNB セグメントの 3 番目のデータ・エレメントです。

『エンベロープ属性』で説明しているように、エンベロープ・プロファイルで設定した値よりも、他の場所で設定した属性の方が優先されます。属性の中には、文書フロー定義関連の属性またはマップでオーバーライドできるものもあります。

### エンベロープ属性

エンベロープ属性は、構成プロセス中にいくつかの異なるポイントで設定することができます。また、文書に関連付けられた変換マップに設定することもできます。例えば、Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、マップの定義時に CtlNumFlag プロパティを指定できます。このプロパティは、エンベロープ・プロファイルの一部として (「トランザクション ID 別制御番号」フィールドで) 設定することもできます。変換マップで設定した属性は、Community Console で設定した関連する値よりも優先されます。例えば、変換マップで CtlNumFlag に N (いいえ) を設定し、「トランザクション ID 別制御番号」フィールドに Y (はい) の値を入力した場合、この項目の値として使用されるのは N の値です。

エンベロープ・プロファイルは、このほか、プロトコル・レベルで設定したり (参加者に関連付けられた「文書フロー定義の管理」ページまたは「B2B 機能」ページ)、接続の一部として設定したりすることもできます。優先順位は、以下のようになっています。

1. 変換マップで設定したプロパティは、Community Console で設定した関連する属性よりも優先されます。
2. 接続レベルで設定した属性は、B2B 機能レベルで設定した属性よりも優先されます。
3. B2B 機能レベルで設定した属性は、文書フロー定義レベルで設定した属性よりも優先されます。
4. どこで設定した属性も (変換マップ、文書フロー定義レベル、B2B 機能レベル、または接続レベル)、エンベロープ・プロファイルで設定した値よりも優先されます。

変換マップのプロパティおよび関連する Community Console 属性のリストについては、326 ページの『Data Interchange Services クライアント・プロパティ』を参照してください。

## デフォルト値の変更

315 ページの『エンベロープ・プロファイル属性』では、プロファイルに値を入力しない場合やプロファイルを作成しない場合に、EDI 標準の各エンベロープ属性で使用されるデフォルト値を表にまとめています。使用するエンベロープ・プロファイルに、実行時にシステムによって提供されない必須エレメントを必ず指定してください。

エンベロープ・プロファイルを設定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 以下のステップのいずれかを実行します。
  - エンベロープの作成
    - a. 「作成」をクリックします。
    - b. プロファイルの名前を入力します。この名前が、「エンベロープ・プロファイル」リストに表示されることになります。
    - c. (オプション) プロファイルの説明を入力します。
    - d. エンベロープが準拠する EDI 標準をクリックします。例えば、EDI-X12 標準に準拠した文書を交換する場合は、「X12」をクリックします。
  - エンベロープを変更します。
    - a. プロファイルの名前の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックして、既存のエンベロープ・プロファイルのいずれかを選択します。
    - b. 「編集」アイコンをクリックします。
3. デフォルトでは、「一般」ボタンが選択されています。ENVTYPE を除くどのフィールドにも値を入力できます。ENVTYPE には、ステップ 2d で選択した標準が事前に入力されています。

値を追加できるフィールドは、次のとおりです。

- 「交換制御番号の長さ」。エンベロープ内の交換に制御番号を割り当てるときに使用する文字数です。
- 「グループ制御番号の長さ」。エンベロープ内のグループに制御番号を割り当てるときに使用する文字数です。
- 「トランザクション制御番号の長さ」。エンベロープ内のトランザクションに制御番号を割り当てるときに使用する文字数です。
- 「最大トランザクション番号」。このエンベロープで許可されている最大トランザクション数です。
- 「トランザクション ID 別制御番号」。設定された番号をデータベース内で検索するときにトランザクション ID を (キーの一部として) 使用するかどうかを示します。使用する場合は、トランザクション ID ごとに別個の制御番号セットが使用されます。

一般エンベロープ・プロファイルの上記の各フィールドは、3 つのどの標準でも同じです。ただし、EDIFACT にはもう 1 つ別のフィールドがあります。「**EDI 用のグループの作成**」です。

「一般」ページで何らかの変更を加えた場合は、「**保管**」をクリックします。

4. 交換の値を指定するには、「**交換**」をクリックします。新たに一連のフィールドがページに表示されます。表示されるフィールドは、EDI 標準によって異なります。一部のフィールドにはすでに値が入っており、また実行時に値が設定されるフィールドもあります。

- EDI-X12 標準の場合は、以下のフィールドを変更できます。

- **ISA01: 許可情報修飾子**。ISA02 内の情報のタイプを表すコードです。
- **ISA02: 許可情報**。交換データの送信側をさらに識別または許可するための情報です。
- **ISA03: セキュリティー情報修飾子**。ISA04 内の情報のタイプを表すコードです。有効な値は、以下のとおりです。

**00** ISA04 は意味のある情報ではありません

**01** ISA04 にはパスワードが含まれています

- **ISA04: セキュリティー情報**。送信側または交換データに関するセキュリティー情報です。ISA03 内のコードは、情報のタイプを定義します。
- **ISA11: 交換標準 ID**。交換を管理する機関を表すコードです。有効な値: U (米国の EDI コミュニティー ASC X12)、**TDCC**、および **UCS**。

注: この属性は、X12 の 4010 までのバージョンで使用されます。X12 4020 では、ISA11 エlementが反復分離記号として使用されます。

- **ISA12: 交換バージョン ID**。交換と機能グループ制御セグメントで使用される構文のバージョン番号です。
- **ISA14: 応答要求済み**。肯定応答を要求するための送信側のコードです。有効な値は、以下のとおりです。

**0** 肯定応答を要求しません

**1** ISA および IEA セグメントが受信され、認識されたという肯定応答を要求します

- **ISA15: テスト標識**。交換がテスト用であるか、実動用であるかを示す標識です。有効な値は、以下のとおりです。

**T** テスト・データの場合

**P** 実動データの場合

- UCS 標準の場合は、以下のフィールドを変更できます。

- **BG01: 通信 ID**。送信する側の会社の ID です。
- **BG02: 通信パスワード**。受信側が割り当てたパスワードで、参加者との合意に従って使用されます。

- EDIFACT 標準の場合は、以下のフィールドを変更できます。

- **UNB0101: 構文 ID**。使用される構文を管理する機関の ID です。制御機関は UNO です。レベルは A または B です。

- **UNB0102: 構文バージョン。**構文 ID によって識別される構文のバージョン番号です。
- **UNB0601: 受信側参照/パスワード。**受信側が割り当てたパスワードで、参加者との合意に従って使用されます。
- **UNB0602: 受信側参照/パスワード修飾子。**受信側のパスワードに対する修飾子で、参加者との合意に従って使用されます。
- **UNB07: アプリケーション参照。**交換メッセージが関係する機能領域の送信側の ID です。
- **UNB08: 優先順位。**処理の優先順位を決めるための送信側のコードで、参加者との合意に従って使用されます。コード A が最も高い優先順位です。
- **UNB09: 肯定応答要求。**肯定応答を要求するための送信側のコードです。
- **UNB10: 通信契約 ID。**この交換で使用される契約のタイプを表す名前またはコードで、参加者との合意に従って使用されます。
- **UNB11: テスト標識 (使用標識)。**交換がテスト目的であることを示す標識です。「1」はテスト交換を示します。

「交換」ページで何らかの変更を加えた場合は、「**保管**」をクリックします。

5. 交換内のグループの値を指定するには、「**グループ**」をクリックします。新たに一連のフィールドが表示されます。表示されるフィールドは、EDI 標準によって異なります。

このページの各フィールドでは、グループの送信側と受信側を定義するのが一般的です。

- EDI-X12 標準および UCS 標準の場合は、以下のフィールドに値を入力できます。
  - **GS01: 機能グループ ID。**グループ内のトランザクション集合のタイプの ID です。
  - **GS02: アプリケーション送信側。**送信側の会社の特定の部門を表す名前またはコードです。
  - **GS03: アプリケーション受信側。**グループを受信する受信側の会社の特定の部門を表す名前またはコードです。
  - **GS07: グループ機関。**標準を管理する機関を示すために GS08 と共に使用されるコードです。
  - **GS08: グループ・バージョン。**標準のバージョン、リリース、および業界を表すコードです。
- EDIFACT 標準の場合は、以下のフィールドに値を入力できます。
  - **UNG01: 機能グループ ID。**グループ内のメッセージのタイプの ID です。
  - **UNG0201: アプリケーション送信側 ID。**送信側の会社の特定の部門を表す名前またはコードです。
  - **UNG0202: アプリケーション送信側 ID 修飾子。**送信側 ID コードの修飾子です。このコードの修飾子については、データ・エレメント・ディレクトリーを参照してください。
  - **UNG0301: アプリケーション受信側 ID。**グループを受信する受信側の会社の特定の部門を表す名前またはコードです。

- **UNG0302: アプリケーション受信側 ID 修飾子。**受信側 ID コードの修飾子です。このコードの修飾子については、データ・エレメント・ディレクトリーを参照してください。
- **UNG06: 制御機関。**機能グループ内のメッセージ・タイプを管理している機関を示すコードです。
- **UNG0701: メッセージ・バージョン。**メッセージ・タイプのバージョン番号です。
- **UNG0702: メッセージ・リリース。**メッセージ・タイプのバージョン番号の中のリリース番号です。
- **UNG0703: 関連割り当て済み。**メッセージ・タイプをさらに識別するために担当関連によって割り当てられたコードです。
- **UNG08: アプリケーション・パスワード。**受信側の会社の特定の部門が割り当てたパスワードです。

「グループ」ページで何らかの変更を加えた場合は、「**保管**」をクリックします。

6. グループ内のトランザクションの値を指定するには、「**トランザクション**」をクリックします。ただし、EDIFACT の場合は「**メッセージ**」をクリックします。新たに一連のフィールドが表示されます。表示されるフィールドは、EDI 標準によって異なります。
  - EDI-X12 または USC 標準の場合は、「**ST03: インプリメンテーション規則 ID ストリング**」の値を入力できます。
  - EDIFACT 標準の場合は、以下のフィールドに値を入力できます。
    - **UNH0201: メッセージ・タイプ。**メッセージ・タイプを識別するために制御機関が割り当てたコードです。
    - **UNH0202: メッセージ・バージョン。**メッセージ・タイプのバージョン番号です。
    - **UNH0203: メッセージ・リリース。**メッセージ・タイプのバージョン番号の中のリリース番号です。
    - **UNH0204: 制御機関。**メッセージ・タイプを管理している機関を表すコードです。
    - **UNH0205: 関連割り当て済みコード。**メッセージ・タイプをさらに識別するために担当関連によって割り当てられたコードです。
    - **UNH03: 共通アクセス参照。**後続のすべてのデータ転送を共通のファイルに関連付けるキーです。参加者は、複数の要素からなるキーの使用に同意できますが、サブエレメントの区切り文字を使用することはできません。

「トランザクション」ページで何らかの変更を加えた場合は、「**保管**」をクリックします。

7. 「**保管**」をクリックします。
8. ほかに定義または変更するエンベロープ・プロファイルがある場合は、そのプロファイルごとに、ステップ 2 (113 ページ) から 7 を繰り返します。

定義したエンベロープ・プロファイルは、「エンベロープ・プロファイル」リストに表示されます。このリストから、目的のプロファイルを選択し、「使用箇所」アイコンをクリックして、そのプロファイルを使用する接続を決定できます。

## 接続プロファイル

接続プロファイルは、エンベロープ解除されたトランザクションと併用する場合と、エンベローパー作成の EDI 交換と併用する場合があります。トランザクションの場合、接続プロファイルで、エンベロープ解除後にトランザクションをどのように処理するかを決定します。交換の場合、接続プロファイルでは交換をどのように配信するかを決定します。

以下の表は、接続プロファイルの属性、「接続プロファイルの詳細」ページの対応するフィールド名、および各属性を交換またはトランザクションのどちらに適用するかを示しています。

表 14. 接続プロファイルの属性

属性	フィールド名	EDI 交換	EDI トランザクション
接続プロファイル修飾子 1	修飾子 1	X	
交換の使用標識	EDI 使用タイプ		X
グループ・アプリケーション送信側 ID	アプリケーション送信側 ID		X
グループ・アプリケーション受信側 ID	アプリケーション受信側 ID		X
グループ・アプリケーション・パスワード	パスワード		X

## トランザクション

WebSphere Partner Gateway に EDI 交換が届いた場合、通常、その交換のエンベロープを解除して個々のトランザクションにするというのが最初のアクションです。トランザクションが作成されると、エンベロープ解除アクションによって**交換使用標識**とグループ情報 (**グループ・アプリケーション送信側 ID**、**グループ・アプリケーション受信側 ID**、および**グループ・アプリケーション・パスワード**) がトランザクション・メタデータに設定されます。次に、WebSphere Partner Gateway が独自のワークフローで各トランザクションを再処理します。

例えば、同じタイプのトランザクション (850 など) が 2 つあり、それぞれを所属グループまたは交換使用標識の値に応じて別々に処理する必要があるとします。

「使用標識」が実働 (P) の場合は、1 つ目のマップ (A) を使用し、「使用指標」がテスト (T) の場合は、2 つ目のマップ (B) を使用するものとします。この 850 トランザクションを処理するには、同種の接続が 2 つ必要になります。1 つはマップ A を使用し、もう 1 つはマップ B を使用するという点のみが異なります。

この点を除けば 2 つのトランザクションはまったく同じなので (ソース参加者、ターゲット参加者、パッケージ、プロトコル、および文書タイプは同じです)、Document Manager ではどの接続を使用するかを判断する手段が必要になります。これは、すでに設定した接続プロファイル属性をトランザクション・メタデータと

マッチングすることによって行います。この例で言うと、接続プロファイルを 2 つ作成し、その 1 つ (CPProduction) では「**EDI 使用タイプ**」を **P** に設定し、もう 1 つ (CPTest) では「**EDI 使用タイプ**」を **T** に設定した場合、Document Manager では使用標識が P のトランザクションが CPProduction プロファイルと一致します。したがって、Document Manager はマップ A を使用してトランザクションを変換すればよいと認識します。

このセクションで挙げた例では「**交換使用標識**」属性を使用しましたが、トランザクションの識別要因としてはこのほかにも「**グループ・アプリケーション送信側 ID**」、「**グループ・アプリケーション受信側 ID**」、「**グループ・アプリケーション・パスワード**」の各属性を使用することができます。

## 交換

交換の場合は、「**接続プロファイル修飾子 1**」属性を使用します。

例えば、現在、社内で VAN (「なし」パッケージ化) またはインターネット (「AS2」パッケージ化) からのマイグレーションを進めているとします。840 (見積依頼) トランザクションでは VAN を使用し、850 (購入注文) トランザクションではインターネットを使用したいと考えています。参加者の接続を 2 つ設定します。どちらでも、ソース交換は同じですが、ターゲットは異なります (1 つは「なし」パッケージ化で、もう 1 つは「AS2」パッケージ化です)。接続プロファイルが、この 2 つの接続を区別するのに役立ちます。

交換用の接続プロファイルを設定するには、いくつかのステップを踏む必要があります。この例の 2 つの接続プロファイルを作成するには、以下のステップを実行します。

1. トランザクションに必要な 2 つの接続を確立します。どちらの接続でも、「宛先」側で「**接続プロファイル修飾子 1**」属性を設定します。この値は、分かりやすいものにしてください (例えば、ConNone や ConAS2 など)。
2. 接続プロファイルを 2 つ定義します (例えば、CPNone および CPAS2)。各プロファイルでは、「**修飾子 1**」の値を、ステップ 1 で設定した「**接続プロファイル修飾子 1**」属性と一致する値 (ConNone および ConAS2) に設定します。
3. 交換に必要な 2 つの接続を確立します。各接続では、ソース・パッケージ化は同じです (「N/A」) が、ターゲット・パッケージ化は異なります (「なし」および「AS2」)。接続プロファイル CPNone を持つ参加者接続では、ターゲット・ゲートウェイは、VAN に接続可能な FTP スクリプト記述ゲートウェイに設定されます。接続プロファイル CPAS2 を持つ参加者接続では、ターゲット・パッケージ化は AS に設定されます。
4. 適切な接続プロファイルを各接続に関連付けます。

エンベローパーでは、参加者接続の「宛先」側の「**接続プロファイル修飾子 1**」属性がエンベロープのブレイクポイントとして使用されます。したがって、「**接続プロファイル修飾子 1**」属性の値が異なるトランザクションは、別々のエンベロープに入れられます。トランザクションに異なる値を設定した場合、エンベローパーは 840 トランザクションと 850 トランザクションを同じ交換にエンベロープすることはありません。

Document Manager が接続を検索すると、接続が 2 つ見つかりますが、接続プロファイルの一致する 1 つのみが使用されます。

## 接続プロファイルの設定

接続プロファイルの設定はオプションです。参加者が交換する文書のタイプに合わせて接続を複数確立する必要がない場合には、このセクションを省略してください。

接続プロファイルを設定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「接続プロファイル」をクリックします。
2. 「接続プロファイルの作成」をクリックします。
3. 「接続プロファイルの詳細」ページで、この接続プロファイルの名前を入力します (必須)。
4. (オプション) 接続プロファイルの説明を入力します。

名前と説明 (説明を入力した場合) が「接続プロファイル・リスト (Connection Profile List)」ページに表示されます。

5. (オプション) 「修飾子 1」の値を入力します。この値によって、EDI 交換で使用する接続が決まります。「修飾子 1」の使用例については、118 ページの『交換』を参照してください。
6. (オプション) これがテスト、実動、または情報交換なのかを示す値を「EDI 使用タイプ」に入力します。「EDI 使用タイプ」の使用例については、117 ページの『トランザクション』を参照してください。
7. (オプション) グループの送信側に関連付けられたアプリケーションまたは会社部門を示す値を「アプリケーション送信側 ID」に入力します。
8. (オプション) グループの受信側に関連付けられたアプリケーションまたは会社部門を示す値を「アプリケーション受信側 ID」に入力します。
9. (オプション) アプリケーション送信側とアプリケーション受信側間でパスワードが必要な場合には、「パスワード」に値を入力します。
10. 「保管」をクリックします。

特定の交換のエンベロープに入れるトランザクションでは、「接続プロファイル修飾子 1」属性値を、同じ「修飾子 1」属性値を持つ接続プロファイルに対応するように指定することができます。「接続プロファイル修飾子 1」属性は、文書フロー定義の Protokol・レベルで設定できます (例えば、「文書フロー定義の管理」画面で X12V5R1 プロトコルの属性を編集して、対応する「接続プロファイル修飾子 1」属性値をクリックすることによって、使用する接続プロファイルを示すように設定することができます)。この後、交換接続をアクティブ化したときに、「接続プロファイル」ボタンをクリックしてリストからプロファイルを選択することによって、接続プロファイルを関連付けます。

## 制御番号

エンベローパーでは、エンベロープ内の交換、グループ、およびトランザクションに固有の番号付けを行うために、制御番号を使用しています。制御番号は、コミュニティー・マネージャーと参加者に対して設定されます。文書の交換が行われるときにも、参加者のペアに対して制御番号が生成されます。

EDI B2B 機能を備える参加者ごとに、制御番号用の一連の初期シード値があります。各値は、はじめて EDI 交換が作成されて参加者ペア間で送信されるときに使用されます。交換の送信先となる参加者に、この初期シード値が適用されます。参加者間で文書の送信が完了したら、最後に使用された番号を「現行制御番号」ページで参照できます。「トランザクション ID 別制御番号」を Y に設定している場合は、特定の参加者のペアに対していくつかの記入項目を作成してもかまいません。作成された記入項目は、新しい制御番号の生成に使用されます。

制御番号を初期化するときに、マスクを使用して、エンベローパーによる通常の制御番号生成を変更できます。マスクは、交換またはグループの制御番号に基づいた制御番号を生成するために使用します。マスクとは、以下のようなものです。編集マスク内の「n」は、制御番号値の生成に使用するバイト数に置き換えてください。使用可能なコードの説明については、表 15 を参照してください。

表 15. 制御番号マスク

コード	制御番号	説明
G	トランザクション	トランザクション制御番号は、グループ制御番号と同じです。グループごとに 1 つのトランザクションのみが許可されます。
Gn	トランザクション	グループ制御番号から n バイトが取得されます。残りのトランザクション制御番号には、その最大サイズまでゼロが埋め込まれます。グループごとに 1 つのトランザクションのみが許可されます。
C	グループ、トランザクション	グループまたはトランザクションの制御番号フィールドの残りのバイトが、この参加者の制御番号の保守に使用されます。
V	グループ、トランザクション	先頭のグループまたはトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。
Vn	トランザクション	先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、n バイトの長さの増分値が使用されます。
GnC	トランザクション	グループ制御番号から n バイトが取得され、トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトが制御番号の保守に使用されます。残りの位置の数によって、制御番号の最大値が決まります。例えば、G5C の場合は 4 つの位置が残るので、最大値は 9999 になります。最大値に達すると、制御番号は 1 へと循環します。
GnV	トランザクション	グループ制御番号から n バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。
GnVm	トランザクション	グループ制御番号から n バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、最大 m バイトまで、先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。

表 15. 制御番号マスク (続き)

コード	制御番号	説明
I	グループ、トランザクション	グループまたはトランザクションの制御番号が、交換制御番号と同じである必要があります。交換では 1 つのグループのみが許可され、グループまたは交換では 1 つのトランザクションのみが許可されます。
In	グループ、トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得されます。残りのグループ制御番号またはトランザクション制御番号フィールドには、その最大サイズまでゼロが埋め込まれます。交換ごとに 1 つのグループのみが許可され、グループごとに 1 つのトランザクションのみが許可されます。
InC	グループ、トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得されます。グループまたはトランザクション制御番号フィールドの残りのバイトが、制御番号の保守に使用されます。残りの位置の数によって、制御番号の最大値が決まります。例えば、I5C の場合は 4 つの位置が残るので、最大値は 9999 になります。最大値に達すると、制御番号は 1 へと循環します。
InV	グループ、トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得されます。グループ制御番号またはトランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、先頭のグループまたはトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。
InVm	トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、最大 $m$ バイトまで、先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。
InGm	トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得され、グループ制御番号から最大で $m$ バイトが取得されます。 $n$ と $m$ の合計が 9 を超える場合は、グループ制御番号から $9 - n$ バイトのみが取得されます。例えば、I4G6 の場合は、交換から 4 バイトが取得されます。
InGmC	トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得され、グループ制御番号から $m$ バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトが、制御番号の保守に使用されます。残りの位置の数によって、制御番号の最大値が決まります。例えば、I2G4C の場合は 3 つの位置が残るので、最大値は 999 になります。最大値に達すると、制御番号は 1 へと循環します。
InGmV	トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得され、グループ制御番号から $m$ バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。

表 15. 制御番号マスク (続き)

コード	制御番号	説明
InGmVo	トランザクション	交換制御番号から $n$ バイトが取得され、グループ制御番号から $m$ バイトが取得されます。トランザクション制御番号フィールドの残りのバイトでは、最大 $o$ バイトまで、先頭のトランザクションの値が 1、2 番目の値が 2 という具合になるように、増分値が使用されます。

## 制御番号初期化

エンベローパーが使用する制御番号を構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「制御番号の初期化」をクリックします。
2. 参加者の名前を入力して「検索」をクリックするか、または名前を入力しないで「検索」をクリックしてすべての参加者を表示します。「EDI 対応 (EDI-capable)」にチェック・マークを付けておくと、検索対象が EDI 文書 B2B 機能を備えた参加者に限定されます。このチェック・マークを外すと、すべての参加者が検索されます。
3. 参加者の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 参加者の現行の制御番号割り当てが「制御番号構成の詳細」ページにリストされます (割り当てがある場合)。「編集」アイコンをクリックして、値を追加または変更します。
5. 交換用の制御番号生成の初期化に使用する番号を「交換」の横に入力 (または変更) します。
6. グループ用の制御番号生成の初期化に使用する番号を「グループ」の横に入力 (または変更) します。この方法以外に、「マスク」をクリックし、固定値ではなく、使用するマスクを入力することもできます。
7. トランザクション用の制御番号生成の初期化に使用する番号を「トランザクション」の横に入力 (または変更) します。この方法以外に、「マスク」をクリックし、固定値ではなく、使用するマスクを入力することもできます。
8. 「保管」をクリックします。

## 現行の制御番号

参加者ペアのデータがすでに制御テーブルに存在する場合は、制御番号生成を変更できます。以下の処理を実行できます。

- 参加者ペアの制御番号生成を初期状態にリセットします。
- 交換、グループ、またはトランザクションの番号 (あるいは、これらの番号の組み合わせ) を編集し、新しい値で保管します。

**注:** 制御番号生成をリセットしたり、グループまたはマスクを編集したりするときには、番号の順序が崩れたり、制御番号の重複問題が発生したりしないように十分に注意してください。こうしたアクションを実行するのは、テスト段階のときか、パートナーから特に別の制御番号が要求された場合のみにすることをお勧めします。

どの参加者にどんな制御番号が割り当てられているのかを判断するには、現行制御番号という機能を使用します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「現行制御番号」をクリックします。
2. 以下のステップのいずれかを実行します。
  - すべての参加者の現状を参照する場合は、参加者リストの「すべての参加者」を選択状態のままにしておき、「現在の状況の表示」をクリックします。
  - 選択した参加者の状態を表示する場合は、以下のステップを実行します。
    - a. ソース参加者およびターゲット参加者の名前を入力し、「検索」をクリックします。EDI 文書を交換している参加者のみに検索結果を限定する場合は、「EDI 対応の検索」にチェック・マークを付けたままにしておきます。
    - b. 検索結果のリストから、1 つ以上の参加者を選択し、「現在の状況の表示」をクリックします。

---

## 文書交換を定義するための一般的なステップ

ここでは、ハブを EDI 交換に参加させ、ハブで文書またはトランザクションを変換し、ハブから EDI 交換を送信できるように文書交換を設定するために必要な作業についてに概説します。以下のセクションで示すステップは、一般的なものであり、マップのインポートと対話の設定にのみ適用されるものです。参加者の B2B 機能を使用可能にする一般的なステップ (あらゆるタイプの文書交換に適用されます) については、164 ページの『B2B 機能の設定』を参照してください。接続の管理に関する一般的なステップ (あらゆるタイプの文書交換に適用されます) については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』を参照してください。マップのインポートから接続の管理まで EDI 文書交換の包括的な例を参照する場合は、217 ページの『付録 B. EDI の例』を参照してください。付録には、以下の例が掲載されています。

- 217 ページの『EDI から ROD への例』
- 233 ページの『EDI から XML への例』
- 247 ページの『ROD から EDI への例』
- 239 ページの『XML から EDI への例』

## マップのインポート

EDI 文書、XML 文書、またはレコード単位データ (ROD) 文書用の変換マップは、Data Interchange Services クライアント・プログラムで作成できます。Data Interchange Services クライアントは、XML スキーマ文書定義、XML DTD 文書定義、EDI 標準、ROD 文書定義、およびマップを作成および保守するために使用するプログラムです。

Data Interchange Services クライアントは、単独でインストールされるプログラムとして WebSphere Partner Gateway のメディアに収録されていますが、別のコンピューターに常駐するのが一般的です。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者が、ある文書のエレメントを形式の異なる別の文書のエレメントにどのように移動するかということを示すマップを作成します。Data Interchange Services は、文書の形式を文書を一つの形式から別の形式にどのように変換するか

という指示を保持するほか、ソース文書とターゲット文書のレイアウト (形式) を認識している必要があります。Data Interchange Services では、文書のレイアウトが文書定義になります。

変換マップを WebSphere Partner Gateway にインポートすると、Data Interchange Services で作成した文書定義が「変換マップ」ページと「文書フロー定義の管理」ページに文書フロー定義 (パッケージ、プロトコル、および文書フロー) として表示されます。

例えば、XML 文書を X12 トランザクションに変換する場合は、XML と X12 のトランザクション文書定義、および変換の内容が定義されているマップをインポートします。

Data Interchange Services からマップ・ファイルを受け取る方法は 2 つあります。Data Interchange Services クライアントから WebSphere Partner Gateway データベースに直接接続できる場合は、Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者がマップ・ファイルをデータベースに直接エクスポートできます。一般には、マップ・ファイルを E メールまたは FTP 転送で受け取るという方法が取られます。マップ・ファイルを FTP 経由で受け取る場合は、ファイル形式がバイナリーである必要があります。

Data Interchange Services クライアントからのマップのエクスポート時にエラーが発生した場合でも、Community Console にはマップ名が表示されている場合があります。このマップを使用して、文書を変換することはできません。このマップを使用して文書を変換するためには、Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者に、エクスポートの問題を知らせて、マッピング担当者にマップの再エクスポートを依頼することが必要になります。

マップをインポートするには、以下のステップを実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドまたはスクリプトを入力します。

- UNIX システムの場合

```
<ProductDir>/bin/bcgDISImport.sh <database_user_ID>
<password> <control_string_map>
```

- Windows システムの場合

```
<ProductDir>%bin%bcgDISImport.bat <database_user_ID>
<password> <control_string_map>
```

ここで、<database\_user\_ID> と <password> は、WebSphere Partner Gateway のインストール作業の一部としてデータベースをインストールしたときに使用した値です。<control\_string\_map> は、Data Interchange Services クライアントからエクスポートしたマップ制御ストリング・ファイルの完全パスです。

3. 変換マップの場合は、文書フロー定義がインポートされたことを確認します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」の順にクリックします。
  - b. 「変換マップ」ページから、Data Interchange Services のマップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。ソースおよびターゲットの文書フロー定義が表示され、ハブで受信する文書の形式とハブから配信される文書の形式を知ることができます。

- c. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」をクリックします。
- d. 「変換マップ」ページに表示された文書定義に関連付けられているパッケージとプロトコルを展開して、「文書フロー定義の管理」ページに文書フローが表示されていることを確認します。

変換マップと共に検証マップを使用すると、EDI 標準を必要とする変換プロセスにEDI 標準の検証を追加できます。検証マップでは、EDI 文書の検証を完全に制御できます。

Data Interchange Services クライアントからエクスポートした変換マップおよび検証マップ、または bcgDISImport ユーティリティを使用してインポートした変換マップおよび検証マップは、WebSphere Partner Gateway Community Console からはダウンロードできないことに注意してください。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、Data Interchange Services クライアントを介して WebSphere Partner Gateway データベースに接続することにより、これらのマップを管理します。

## EDI 間フローの設定

ここでは、EDI 交換の受信、EDI 交換のエンベロープ解除、EDI 形式間でのトランザクションの変換、トランザクションのエンベロープ、およびトランザクションの配信に必要な対話について説明します。

1. ハブで受信する EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認します。交換がエンベロープ解除された後は、元のエンベロープが処理されなくなる点に注意してください。つまり、配信ポイントがなくなります。したがって、ターゲットの対話ではパッケージに対して「N/A」を使用することになります。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順をクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。例えば、参加者が AS パッケージ化、EDI-X12 プロトコル、および ISA 文書フローで EDI 交換を送信しようとしている場合、その定義はすでに使用可能になっています。同じく、N/A/EDI-X12/ISA 文書フロー定義もすでに存在しています。
  - c. プロファイルに関連付ける属性の値を入力します (あるいは、リストから値を選択します)。例えば、いずれかのトランザクションでエラーが発生したらエンベロープを廃棄するように指定する場合は、「文書フロー」の横にある「属性値の編集」アイコンをクリックします。「エラーが発生した場合はエンベロープを廃棄」行で、リストから「はい」を選択します。
  - d. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は、「パッケージ」、「プロトコル」、および「文書フロー」を選択して作成します。
2. 交換に必要な対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」を選択します。
  - c. ソースとターゲットの文書フロー定義を選択します。パッケージ化を除き (パッケージ化では、ターゲットが「N/A」になります)、文書フロー定義は同じになります。
  - d. 「アクション」リストから、「EDI エンベロープ解除」を選択します。

3. EDI トランザクションの文書定義と EDI 形式間でのトランザクション変換方法について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。

交換に複数のトランザクションが含まれている場合は、トランザクションごとにこのステップを繰り返します。

4. マップに関連付けられた文書定義の属性を編集する場合は、以下のステップを実行します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. プロトコルの横にある「属性値の編集」アイコンをクリックします。EDI プロトコルの場合は、設定可能な属性が数多く記載されたリストが表示されます。
  - c. プロトコルに関連付ける属性の値を入力します (あるいは、リストから値を選択します)。
  - d. 文書フローの横にある「属性値の編集」アイコンをクリックします。通常は、プロトコルに関連したものよりも数が少ない属性のリストが表示されます。
  - e. 文書フローに関連付ける属性の値を入力します (あるいは、リストから値を選択します)。例えば、文書フローに関連付けられた「**検証マップ**」を変更できます。

トランザクションには必ずエンベロープ・プロファイルを選択してください。

5. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. 「ソース」で、トランザクションに関連付けられた文書フローを選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。通常、これは「**N/A**」(トランザクション自体は参加者から発せられたものではないため)、マップに定義されているプロトコル (例えば、**X12V4R1** など)、およびマップに定義されている実際の EDI 文書 (例えば、**850** など) になります。
  - d. 「ターゲット」の下で、変換した文書の文書フロー定義を選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。トランザクションがエンベロープされるため (そして直接には参加者に配信されないため)、パッケージ化も再び「**N/A**」になります。
  - e. 変換マップ・リストから、この文書の変換方法が定義されているマップを選択します。
  - f. 「アクション」リストから「**EDI 検証および EDI 変換**」を選択します。
6. ハブから送信される EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認し、その EDI 交換に関連付ける属性を設定します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。ソース・パッケージは「**N/A**」になり、そのプロトコルと文書フローは交換の配信に使

用されるプロトコルと文書フローになります。例えば、EDI 交換が AS/EDI-X12/ISA として配信される場合、ソースは N/A/EDI-X12/ISA になります。

- c. 配信対象の交換に適用する属性を編集します。
  - d. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は、「パッケージ」、「プロトコル」、および「文書フロー」を選択して作成します。
7. トランザクションの変換後にハブから送信される EDI 交換用の対話を作成します。
- a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。パッケージ化を除き (パッケージ化では、ソース文書が「N/A」になります)、文書フロー定義は同じになります。
  - d. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

フローに肯定応答を追加するには、133 ページの『肯定応答の設定』を参照してください。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、(「ソースの設定」の下で) 3 つの文書フロー定義 (ソース文書フロー用、EDI トランザクション用、およびエンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「ターゲットの設定」の下で) 3 つの文書フロー定義 (エンベロープ解除された文書フロー用、変換された EDI トランザクション用、および EDI エンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。以下の 3 つの接続が必要です。

- ソース参加者からハブへのエンベロープのための接続。
- ソース EDI トランザクションからターゲット EDI トランザクションへの接続。
- ハブからターゲット参加者へのエンベロープのための接続。

接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

## EDI から XML または ROD へのフローの設定

ここでは、EDI 交換の受信、EDI 交換のエンベロープ解除、EDI 形式から XML 文書または ROD 文書へのトランザクションの変換、およびトランザクションの配信に必要な対話について説明します。

注: EDI から XML へのフローの包括的な例については、233 ページの『EDI から XML への例』を参照してください。EDI から ROD へのフローの包括的な例については、217 ページの『EDI から ROD への例』を参照してください。

1. ハブで受信する EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認します。交換のエンベロープが解除された後は、エンベロープが処理されなくなる点に注意してください。つまり、配信ポイントがなくなります。したがって、ターゲットの対話ではパッケージに対して「N/A」を使用することになります。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。例えば、参加者が AS パッケージ化、EDI-X12 プロトコル、および ISA 文書フローで EDI 交換を送信しようとしている場合、その定義はすでに使用可能になっています。同じく、N/A/EDI-X12/ISA 文書フロー定義もすでに存在しています。
  - c. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は作成します。
2. ハブで受信する EDI 交換用の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」を選択します。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。パッケージ化を除き (パッケージ化では、ターゲットが「N/A」になります)、文書フロー定義は同じになります。
  - d. 「アクション」リストから、「EDI エンベロープ解除」を選択します。
3. EDI トランザクションの文書定義、XML 文書または ROD 文書の定義、および XML 文書または ROD 文書へのトランザクション変換方法について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。

交換に複数のトランザクションが含まれている場合は、トランザクションごとにこのステップを繰り返します。

4. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. 「ソース」で、トランザクションに関連付けられた文書フローを選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。通常、これは「N/A」(トランザクション自体は参加者から発せられたものではないため)、マップに定義されているプロトコル (例えば、**X12V4R1** など)、およびマップに定義されている実際の EDI 文書 (例えば、**850** など) になります。
  - d. 「ターゲット」の下で、変換した (XML または ROD) 文書の文書フロー定義を選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。
  - e. 変換マップ・リストから、この文書の変換方法が定義されているマップを選択します。
  - f. 「アクション」リストから「EDI 検証および EDI 変換」を選択します。

フローに肯定応答を追加するには、133 ページの『肯定応答の設定』を参照してください。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、(「**ソースの設定**」の下で) 2 つの文書フロー定義 (エンベロップ用、および EDI トランザクション用の各文書フロー定義) を使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「**ターゲットの設定**」の下で) 2 つの文書フロー定義 (EDI エンベロップ用、および XML または ROD 文書用の各文書フロー定義) を使用可能にします。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『**B2B 機能の設定**』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。以下の 2 つの接続が必要です。

- ソース参加者からハブへのエンベロップのための接続。
- ソース EDI トランザクションから XML または ROD 文書への接続。

接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『**第 12 章 接続の管理**』で説明します。

## XML または ROD から EDI へのフローの設定

ここでは、XML 文書または ROD 文書の受信、その文書の EDI トランザクションへの変換、トランザクションのエンベロップ、およびトランザクションの配信に必要な対話について説明します。

**注:** XML から EDI へのフローの包括的な例については、239 ページの『XML から EDI への例』を参照してください。ROD から EDI へのフローの包括的な例については、247 ページの『ROD から EDI への例』を参照してください。

1. XML 文書または ROD 文書の定義、EDI トランザクションの文書定義、およびその文書の EDI トランザクションへの変換方法について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。
2. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**文書フロー定義**」>「**対話の管理**」をクリックします。
  - b. 「**対話の作成**」をクリックします。
  - c. 「**ソース**」の下で、XML 文書または ROD 文書に関連付けられた文書フロー定義を選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。
  - d. 「**ターゲット**」の下で、EDI トランザクションに関連付けられた文書フローを選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。トランザクションは直接には配信されないため (配信の前にエンベロップに入れられます)、「**パッケージ**」には「**N/A**」がリストされます。
  - e. 変換マップ・リストから、この文書の変換方法が定義されているマップを選択します。
  - f. 「**アクション**」リストから、「**XML 変換および EDI 検証**」または「**ROD 変換および EDI 検証**」を選択します。

3. ハブから送信される EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認し、その EDI 交換に関連付ける属性を設定します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。ソース文書 (ハブから送信される交換) の「パッケージ」には、「N/A」を使用する必要があります。
  - c. 配信対象の交換に適用する属性を編集します。
  - d. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は、「パッケージ」、「プロトコル」、および「文書フロー」を選択して作成します。
4. 文書の変換後にハブから送信される EDI 交換用の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。ソース文書とターゲット文書のパッケージ化は異なりますが (ソース文書のパッケージは「N/A」)、同じプロトコル (EDI-X12 など) および文書フロー (ISA など) にする必要があります。
  - d. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、(「ソースの設定」の下で) 設定する必要がある文書フロー定義の数は、文書フローのタイプによって異なります。
  - 例えば、文書フローが ICGPO、変換後の EDI トランザクションが MX12V3R1 である XML 文書の場合は、「ソースの設定」の下で、3 つの文書フロー定義 (XML (ICGPO) 文書用、EDI トランザクション (MX12V3R1) 用、およびハブから送信されるエンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。
  - その他の XML 文書および ROD 文書では、(「ソースの設定」の下で) 2 つの文書フロー定義 (XML または ROD 文書用、およびハブから送信されるエンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「ターゲットの設定」の下で) 2 つの文書フロー定義 (EDI トランザクション用、および受信した EDI エンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。EDI トランザクションでは、プロトコルの横にある「属性値の編集」アイコンをクリックして、エンベロープ・プロファイルを指定します。ほかの属性も同様に指定することができます。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。以下の 2 つの接続が必要です。

- ソース XML または ROD 文書から EDI トランザクションへの接続。
- ハブから参加者へのエンベロープのための接続。

接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

## 1 つのファイル内の複数の XML 文書または ROD 文書から EDI へのフローの設定

このセクションでは、複数の XML 文書または ROD 文書を 1 つのファイルで受信し、その各文書を EDI トランザクションへ変換し、トランザクションをエンベロープして、EDI 交換を配信するために必要な対話について説明します。

1. XML 文書または ROD 文書の定義、EDI トランザクションの文書定義、および変換について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。
2. ソース文書とターゲット文書用の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソース文書とターゲット文書を選択し、「アクション」リストから、「XML 変換および EDI 検証」または「ROD 変換および EDI 検証」を選択します。
3. 変換マップで生成されるソース文書とターゲット文書ごとにステップ 2 を繰り返します。
4. ハブから送信される EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認し、その EDI 交換に関連付ける属性を設定します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。ソースは「N/A」になり、そのプロトコルと文書フローは交換の配信に使用されるプロトコルと文書フローになります。例えば、EDI 交換が AS/EDI-X12/ISA として配信される場合、ソースは N/A/EDI-X12/ISA になります。
  - c. 配信対象の交換に適用する属性を編集します。
  - d. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は、「パッケージ」、「プロトコル」、および「文書フロー」を選択して作成します。
5. トランザクションの変換後にハブから送信される EDI 交換用の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。ソース文書とターゲット文書のパッケージ化は異なりますが（ソース文書のパッケージは「N/A」）、同じプロトコル（EDI-X12 など）および文書フロー（ISA など）にする必要があります。
  - d. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、（「ソースの設定」の下で）設定する必要のある文書フロー定義の数は、文書フローのタイプによって異なります。
  - 例えば、文書フローが ICGPO、変換後の EDI トランザクションが MX12V3R1 である XML 文書の場合は、「ソースの設定」の下で、3 つの文

書フロー定義 (XML (ICGPO) 文書用、EDI トランザクション (MX12V3R1) 用、およびハブから送信されるエンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。

- その他の XML 文書および ROD 文書では、(「ソースの設定」の下で) 2 つの文書フロー定義 (XML または ROD 文書用、およびハブから送信されるエンベロープ用の各文書フロー定義) を使用可能にします。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。以下のいくつかの接続が必要です。

- EDI トランザクションに変換される各 XML または ROD 文書用の接続。
- ハブから参加者へのエンベロープのための接続。

接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

## XML から ROD または ROD から XML への文書フローの設定

ここでは、XML 文書または ROD 文書の受信、その文書の他の文書タイプ (XML から ROD または ROD から XML) への変換、およびその文書の配信に必要な対話について説明します。

1. XML 文書と ROD 文書の定義、および文書の変換方法について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。
2. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」をクリックし、今インポートしたマップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
4. ソース文書とターゲット文書を選択し、「アクション」リストから、「XML 変換および EDI 検証」または「ROD 変換および EDI 検証」を選択します。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、(「ソースの設定」の下で) XML または ROD 文書用の文書フロー定義を使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「ターゲットの設定」の下で) XML または ROD 文書用の文書フロー定義を使用可能にします。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。XML から ROD へのフロー、または ROD から XML へのフロー用の接続が 1 つ必要です。接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

## XML から XML または ROD から ROD へのフローの設定

ここでは、XML 文書または ROD 文書の受信、その文書の同じ文書タイプ (XML から XML または ROD から ROD) への変換、およびその文書の配信に必要な対話について説明します。

1. XML 文書または ROD 文書の定義、および文書の変換方法について記述されている変換マップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。
2. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」をクリックし、今インポートしたマップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。
  - d. 「アクション」リストから、「XML 変換および EDI 検証」または「ROD 変換および EDI 検証」を選択します。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。

- ソース参加者では、(「ソースの設定」の下で) XML または ROD 文書用の 1 つの文書フロー定義を使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「ターゲットの設定」の下で) XML または ROD 文書用の 1 つの文書フロー定義を使用可能にします。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。XML から XML へのフロー、または ROD から ROD へのフロー用の接続が 1 つの要です。接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

## 肯定応答の設定

ここでは、交換またはトランザクションの受信側の肯定応答を文書のオリジネーターに送信するために必要な対話の設定方法について説明します。

### 機能肯定応答

機能肯定応答マップは、参加者から受け取った EDI 文書に回答するときに、機能肯定応答を生成する目的で使用します。WebSphere Partner Gateway には、よく使用される EDI 機能肯定応答を生成する機能肯定応答マップ・セットが用意されています。ただし、マッピング担当者が FA マップと検証マップを作成することもできます。この場合、作成されたマップは WebSphere Partner Gateway にアップロードされます。

注: 機能肯定応答マップを作成するのは、カスタム機能肯定応答が必要なときのみに行ってください。

WebSphere Partner Gateway に用意されている機能肯定応答マップのほかに、&FUNC\_ACK\_METADATA\_DICTIONARY プロトコルおよび関連する &FUNC\_ACK\_META も用意されています。いずれも、「文書フロー定義」ページの「パッケージ: なし」にリストされます。&FUNC\_ACK\_META は、すべての機能肯定応答マップに共通のソース文書定義です。このマップは、機能肯定応答の構造を備えています。機能肯定応答は参加者に送信され、機能肯定応答マップによりシステムに、肯定応答の生成方法が通知されます。ソース文書定義の名前は変更できません。Data Interchange Services クライアントのマッピング担当者は、データベースにソース文書定義がなければ、機能肯定応答マップを作成できません。

機能肯定応答マップのターゲット文書定義は、機能肯定応答のレイアウトを記述したものです。これは、997、999、または CONTRL という名前が付けられた EDI 文書定義である必要があります。

以下の機能肯定応答マップが WebSphere Partner Gateway と共にインストールされ、「文書フロー定義の管理」ページの「パッケージ: N/A」の下に表示されます。

表 16. システム提供の機能肯定応答マップ

プロトコル	文書フロー	説明
&DTCTL21	CONTRL	機能肯定応答 CONTRL - UN/EDIFACT バージョン 2 リリース 1 (D94B)
&DTCTL	CONTRL	機能肯定応答 CONTRL - UN/EDIFACT (D94B より前)
&DT99933	999	機能肯定応答 999 - UCS バージョン 3 リリース 3
&DT99737	997	機能肯定応答 997 - X12 バージョン 3 リリース 7
&DT99735	997	機能肯定応答 997 - X12 バージョン 3 リリース 5
&DT99724	997	機能肯定応答 997 - X12 バージョン 2 リリース 4

また、&X44TA1 プロトコル (および関連する TA1 文書フロー) が「パッケージ: N/A」の下にリストされます。このマップは、TA1 の生成に使用されます。TA1 は、受信した X12 交換用に生成される機能肯定応答です。

&WDIEVAL プロトコル (および関連する X12ENV) も、「パッケージ: N/A」の下に用意されています。

EDI トランザクションと同じく、機能肯定応答も、必ず配信前に EDI 交換に含められます。

## TA1 肯定応答

TA1 は、X12 交換肯定応答を提供する EDI セグメントです。その役割は、X12 交換ヘッダーおよびトレーラー (ISA および IEA) のペアの受信と構文の正確さを確認することです。送信側は、ISA 交換制御ヘッダーの要素 14 を 1 に設定することによって、受信側に TA1 を要求できます。TA1 の交換制御番号が同じ制御番号の以前に送信済みの X12 交換と一致すると、肯定応答プロセスが完了します。

EDI トランザクションおよび機能肯定応答と同じく、TA1 も、必ず配信前に EDI 交換に含まれます。

## 文書フローへの肯定応答の追加

肯定応答をフローに追加するには、以下のステップを実行します。

1. WebSphere Partner Gateway が機能肯定応答マップを提供しない場合は、Data Interchange Services クライアントからマップをインポートします。123 ページの『マップのインポート』を参照してください。
2. FA マップと文書フロー定義を関連付けます。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「EDI FA マップ」の順にクリックします。
  - b. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
  - c. パッケージの横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、個々に適切なレベルまで展開します (例えば、「パッケージ」および「プロトコル」のフォルダーを展開して、トランザクションを選択します)。
  - d. 「保管」をクリックします。
3. 今インポートしたマップの対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. 「ソース」で、機能肯定応答に関連付けられた文書フローを選択します。パッケージとプロトコルを展開し、目的の文書フローを選択します。
  - d. 「ターゲット」で、同じ値を選択します。
  - e. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
4. ハブから送信される EDI 交換用の文書フロー定義が存在することを確認し、その EDI 交換に関連付ける属性を設定します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
  - b. すでに文書フロー定義が存在しているかどうかをチェックします。ソースは「N/A」になり、そのプロトコルと文書フローは交換の配信に使用されるプロトコルと文書フローになります。例えば、EDI 交換が AS/EDI-X12/ISA として配信される場合、ソースは N/A/EDI-X12/ISA になります。
  - c. 配信対象の交換に適用する属性を編集します。
  - d. 文書フロー定義がまだ存在していない場合は、「パッケージ」、「プロトコル」、および「文書フロー」を選択して作成します。
5. 文書の変換後にハブから送信される EDI 交換用の対話を作成します。
  - a. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」>「対話の管理」をクリックします。
  - b. 「対話の作成」をクリックします。
  - c. ソースとターゲットの文書をそれぞれ選択します。
  - d. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

対話を設定したら、参加者用の B2B 機能を作成します。機能肯定応答送信のターゲット参加者は、元の EDI 文書のソース参加者であることに注意してください。

- ソース参加者では、(「ソースの設定」の下で) 機能肯定応答用の文書フロー定義を使用可能にします。また、ハブから送信されるエンベロープ用の文書フロー定義も使用可能にします。
- ターゲット参加者では、(「ターゲットの設定」の下で) 機能肯定応答用の文書フロー定義を使用可能にします。また、受信する EDI エンベロープ用の文書フロー定義も使用可能にします。

機能肯定応答では、プロトコルの横にある「属性値の編集」アイコンをクリックして、エンベロープ・プロファイルを指定します。

B2B 機能を作成するための詳細な手順については、164 ページの『B2B 機能の設定』で説明します。

参加者用の B2B 機能を設定したら、接続を作成します。以下の 2 つの接続が必要です。

- 機能肯定応答用の接続。
- ハブから参加者へのエンベロープのための接続。

接続を作成するための詳細な手順については、167 ページの『第 12 章 接続の管理』で説明します。

---

## EDI 交換およびトランザクションの表示

この章で既に述べたように、文書フローを構成する EDI 交換やトランザクションについての情報を表示する場合に、文書ビューアーを使用できます。ロー文書とそれに関連する文書処理の詳細およびイベントを、特定の検索条件を使用して表示することができます。EDI 交換が正常に配信されたかどうかを調べたり、問題の原因を判別するときにこの情報が役に立ちます。

文書ビューアーを表示するには、「ビューアー」>「文書ビューアー」をクリックします。文書ビューアーの使用法については、「管理者ガイド」を参照してください。

---

## 第 9 章 コミュニティー・マネージャーのプロファイルおよび B2B 機能の作成

ターゲット、文書フロー定義、および対話の設定など、ハブの設定が完了したら、ハブ・コミュニティのコミュニティ・マネージャーを作成できます。続いて、コミュニティ・マネージャーの B2B 機能を設定します。163 ページの『第 11 章 参加者およびその B2B 機能の作成』の説明に従って参加者を作成したら、文書を交換できるように、コミュニティ・マネージャーと参加者を実際につなぐ接続をアクティブにします。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『コミュニティ・マネージャー・プロファイルの作成』
- 139 ページの『B2B 機能の設定』

---

### コミュニティ・マネージャー・プロファイルの作成

通常は、WebSphere Partner Gateway サーバーを所有し、そのサーバーを使用して参加者と通信している会社がコミュニティ・マネージャーになります。また、コミュニティ・マネージャーはハブの参加者とも見なされるため、プロファイル、ゲートウェイ、および B2B 機能が設定されています。

コミュニティ・マネージャー・プロファイルを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. 「会社ログイン名」では、コミュニティ・マネージャーがハブへのログイン時に使用する名前を「会社」フィールドに入力します。例えば、Manager などと入力します。
4. 「参加者表示名」では、コミュニティ・マネージャーの会社名または他の記述名を入力します。これが、「参加者の検索」リストに表示される名前です。
5. 「参加者タイプ」リストで、「コミュニティ・マネージャー」を選択します。

**注:** WebSphere Partner Gateway では、コミュニティ・マネージャーとコミュニティ・オペレーターを 1 人ずつしかサポートしません。コミュニティ・オペレーターは、WebSphere Partner Gateway をインストールすると自動的に作成されます。

6. コミュニティー・マネージャーの状況を選択します。通常は、デフォルト値の「使用可能」を使用します。
7. (オプション) 「ベンダー」フィールドに、会社のタイプを入力します。
8. (オプション) コミュニティー・マネージャーの Web サイトを入力します。
9. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。

10. リストからタイプを指定し、適切な ID を入力します。WebSphere Partner Gateway では、ここで入力された番号を使用して、コミュニティー・マネージャーと文書をやり取りしています。

ID を入力する際には、以下のガイドラインに従ってください。

- a. DUNS 番号は 9 桁であること。
- b. DUNS+4 は 13 桁であること。
- c. フリー・フォーム ID 番号は 60 文字以内の英数字および特殊文字で構成すること。

**注:** コミュニティー・マネージャーには、複数のビジネス ID を割り当てることができます。複数のビジネス ID が必要になる場合もあります。例えば、ハブが EDI X12 および EDIFACT 文書を送受信する場合は、文書交換時に DUNS およびフリー・フォーム ID が使用されます。

このタイプの文書フローに関わるコミュニティー・マネージャーと参加者は、DUNS およびフリー・フォーム ID を持っている必要があります。フリー・フォーム ID は、ID と修飾子の両方を持つ EDI ID を表すために使用されます。例えば、EDI 修飾子が「ZZ」で、EDI ID が「810810810」であるとし、フリー・フォーム ID は ZZ-810810810 として指定できます。

11. (オプション) コミュニティー・マネージャーの IP アドレスを入力するには、以下のステップを実行します。
  - a. 「**IP アドレス**」の下の「**新規**」をクリックします。
  - b. ゲートウェイのタイプを指定します。
  - c. コミュニティー・マネージャーの IP アドレスを入力します。
12. 「**保管**」をクリックします。
13. コミュニティー・マネージャーがハブにログオンするとき使用するパスワードが表示されます。そのパスワードを書き留めます。それを後でコミュニティー・マネージャー管理ユーザーに渡します。

**注:** コミュニティー・マネージャー・プロファイルを作成するというのは、実際には、コミュニティー・マネージャーの管理ユーザーを作成することになります。その後、管理ユーザーが組織内の個々のユーザーを作成するか、またはハブ管理者が参加者のユーザーを作成します。

コミュニティー・マネージャーのプロファイルを作成したら、ハブがそのコミュニティー・マネージャーに文書を送信するとき使用するゲートウェイを設定します。コミュニティー・マネージャーのゲートウェイの設定については、以下のセクションを参照してください。

- 144 ページの『**HTTP ゲートウェイの設定**』
- 146 ページの『**HTTPS ゲートウェイの設定**』
- 150 ページの『**JMS ゲートウェイの設定**』
- 152 ページの『**ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイの設定**』

コミュニティー・マネージャーのゲートウェイを設定したら、コミュニティー・マネージャーの **B2B** 機能を設定します。

## B2B 機能の設定

コミュニティー・マネージャーは、コミュニティー・マネージャーが送受信できる文書のタイプを定義した B2B 機能を提供します。

B2B 機能は、コミュニティー・マネージャーの B2B 機能を文書フロー定義に関連付けるために使用します。

コミュニティー・マネージャーの B2B 機能を設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. コミュニティー・マネージャーの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「B2B 機能」をクリックします。「B2B 機能」ページが表示されます。このページの右側には、文書フロー定義としてシステムでサポートされるパッケージ、プロトコル、および文書フローが表示されます。
5. 右側のパッケージに対して、「ソースの設定」列の下で、「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。このパッケージには、コミュニティー・マネージャーが参加者に送信する文書が格納されています。
6. 同じ文書を参加者から受け取るようにする場合は、「ターゲットの設定」を選択します。文書フロー定義が使用可能な場合は、Community Console にチェックマークが表示されます。

注: 「ソースの設定」の選択項目は、双方向 PIP のどのアクションでも同じになります。これは、ある参加者から要求が発信され、別の参加者から対応する確認が発信される場合でも同じです。また、これは「ターゲットの設定」にも該当します。

7. 「パッケージ」レベルで「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、個々のノードを適切な文書フロー定義レベルまで展開します。あるいは、「0」から「4」の数値または「すべて」を選択して、表示されているすべての文書フロー定義を選択済みのレベルまで展開します。
8. 再度、システムがサポートする文書フロー定義ごとに、低レベルの「プロトコル」および「文書フロー」の各レベルに対して、「ソースの設定」または「ターゲットの設定」、あるいはその両方の役割を選択します。

「文書フロー」レベルで定義をアクティブにした場合は、「アクション」および「アクティビティ」の定義も (存在する場合)、自動的にアクティブになります。

9. (オプション) 「使用可能」列の下の「使用可能」をクリックして、文書フロー定義をオフラインにします。(「ソースの設定」または「ターゲットの設定」を選択すると、レコードが自動的に使用可能になります。) オンラインにするには、「使用不可」をクリックします。

パッケージが使用不可の場合は、同じノード内にある低レベルの文書フロー定義が、個々の状況が使用可能であるかどうかにかかわらず、すべて使用不可になります。低レベルの文書フロー定義を使用不可にした場合、同じコンテキスト内にある高レベルの定義はすべて使用可能なままになります。文書フロー定義が使用不可になっても、それまでに存在していた接続や属性はすべて機能し続けます。文書フロー定義が使用不可の場合は、接続の新規作成のみが制限されます。

10. プロトコル、パッケージ、文書フロー、アクション、アクティビティ、またはシグナルの属性を編集する場合は、「編集」アイコンをクリックします。これにより、属性がある場合は、属性の設定が表示されます。属性を変更するには、値を入力するか、または「更新」列から値を選択して、「保管」をクリックします。

ステップ 10 (138 ページ) で述べているように、コミュニティー・マネージャーには複数のビジネス ID を割り当てることができます (そうしなければならない場合もあります)。参加者が受け取る ID を 1 つの形式のみにする必要がある場合は、その ID に適した値を選択する必要があります。ID を選択するには、以下の手順を実行します。

- a. 「なし」の横にある「編集」アイコンをクリックします。

「なし」パッケージに関連付けられている属性 (「AS ビジネス ID (AS Business ID)」) が表示されます。

- b. 「更新」リストから、参加者が受け入れ可能な形式の AS2 ビジネス ID を選択します。
- c. 「保管」をクリックします。

**注:** この属性を B2B 機能の画面で設定すると、その設定はコミュニティー・マネージャーが「なし」パッケージで開始するすべての交換に適用されます。選択を特定の接続に適用するには、接続レベルで値を設定できます (ここで設定した値をオーバーライドすることもできます)。167 ページの『参加者接続のアクティブ化』を参照してください。

## 第 10 章 ゲートウェイの作成

参加者を作成したら、参加者のゲートウェイを定義します。ゲートウェイは、参加者のシステムへの入り口点を定義するものです。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『概要』
- 142 ページの『グローバルなトランスポート値の設定』
- 143 ページの『フォワード・プロキシの構成』
- 144 ページの『HTTP ゲートウェイの設定』
- 146 ページの『HTTPS ゲートウェイの設定』
- 147 ページの『FTP ゲートウェイの設定』
- 149 ページの『SMTP ゲートウェイの設定』
- 150 ページの『JMS ゲートウェイの設定』
- 152 ページの『ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイの設定』
- 154 ページの『FTPS ゲートウェイの設定』
- 155 ページの『FTP スクリプト記述ゲートウェイの設定』
- 159 ページの『ハンドラーの構成』
- 160 ページの『ユーザー定義トランスポートのゲートウェイの設定』
- 160 ページの『デフォルト・ゲートウェイの指定』

### 概要

WebSphere Partner Gateway では、ゲートウェイを使用して文書を正しい宛先にルーティングします。受信者は、コミュニティ参加者またはコミュニティ・マネージャーになります。

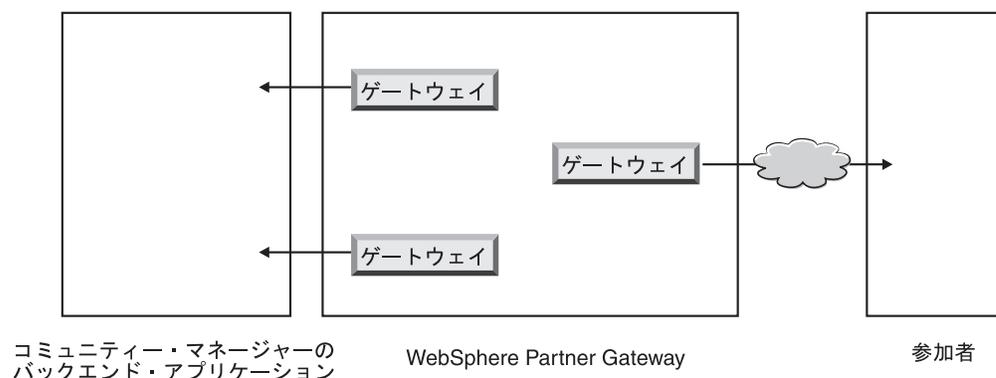


図 34. コミュニティ・マネージャーおよび参加者へのゲートウェイ

ゲートウェイの構成時にどの情報を使用するかは、アウトバウンド・トランスポート・プロトコルによって決まります。

参加者ゲートウェイのトランスポートとしてデフォルトでサポートされているのは、次のとおりです。

- HTTP/1.1
- HTTPS/1.0
- HTTPS/1.1
- FTP
- FTPS
- JMS
- SMTP

注: SMTP ゲートウェイは、参加者に対してのみ定義できます (コミュニティー・マネージャーに対しては定義できません)。

- ファイル・ディレクトリー
- FTP スクリプト記述

また、ゲートウェイの作成時にユーザー定義のトランスポートをアップロードして、それを指定することも可能です。

ハブ管理者は各参加者のゲートウェイを設定できますが、参加者各自がこのタスクを実行することも可能です。ここでは、参加者の代わりにタスクを実行する方法について説明します。

---

## グローバルなトランスポート値の設定

すべての FTP スクリプト記述ゲートウェイに適用されるグローバル・トランスポート属性を設定します。FTP スクリプト記述ゲートウェイを 1 つも定義しない場合には、このセクションの記述は必要ありません。

FTP スクリプト・トランスポートではロック・メカニズムを使用しており、複数の FTP スクリプト記述インスタンスが同じゲートウェイに同時にアクセスすることができないようになっています。ゲートウェイ・インスタンスがロックを取得するまでに待機する時間や、ロックが使用されている場合にロックの取得を試みる回数などについては、デフォルト値が用意されています。これらのデフォルト値を使用することも、変更することもできます。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「ゲートウェイ」をクリックします。
3. 「ゲートウェイ・リスト」から「グローバル・トランスポート属性」を選択します。

ターゲットの作成時にグローバルなトランスポート値を指定したとき、「最大ロック時間 (秒)」または「最大キュー時間 (秒) (Maximum Queue Time (Seconds))」を更新した場合は、ここにその更新された値が反映されます。

4. デフォルト値がご使用の構成に対して適切である場合は、「キャンセル」をクリックします。それ以外の場合は、このセクションの残りのステップを継続しません。

5. 「FTP スクリプト・トランスポート」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
6. 1 つ以上の値を変更するには、新しい値を入力します。以下の値を変更できません。
  - 「ロック再試行カウント」。ロックが現在使用されている場合にゲートウェイがロックの取得を試みる回数を指定します。デフォルトは 3 です。
  - 「ロック再試行間隔 (秒)」。ロックの取得を試みてから次に試みるまでの経過時間を指定します。デフォルトは 260 秒です。
  - 「最大ロック時間 (秒)」。ゲートウェイがロックを保持できる時間を指定します。ターゲットの作成時に変更されていないかぎり、デフォルトは 240 秒です。
  - 「最大キュー存続期間 (秒)」。ターゲットがロックを取得するためにキューに待機する期間を指定します。ターゲットの作成時に変更されていないかぎり、デフォルトは 740 秒です。
7. 「保管」をクリックします。

---

## フォワード・プロキシの構成

HTTP および HTTPS トランスポートでは、文書が構成済みのプロキシ・サーバー経由で送信されるように、フォワード・プロキシ・サポートを設定できます。WebSphere Partner Gateway では、次のタイプのサポートを設定できます。

- HTTP 経由のプロキシ・サポート
- HTTPS 経由のプロキシ・サポート
- 認証付き HTTPS 経由のプロキシ・サポート
- SOCKS 経由のプロキシ・サポート

フォワード・プロキシを設定したら、それをデフォルトのゲートウェイにすると、トランスポートでグローバルに利用することができます (例えば、すべての HTTP ゲートウェイがそのフォワード・プロキシを利用するなどです)。

フォワード・プロキシを設定するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「ゲートウェイ」をクリックします。
3. 「順方向プロキシのサポート」をクリックします。
4. 「順方向プロキシ・リスト」ページで、「作成」をクリックします。
5. プロキシの名前を入力します。
6. (オプション) プロキシの説明を入力します。
7. リストからトランスポート・タイプを選択します。

注: 選択できるトランスポートは、HTTP および HTTPS です。

8. 以下の情報を入力します。「プロキシ・ホスト」と「プロキシ・ポート」または「Socks プロキシ・ホスト」と「Socks プロキシ・ポート」のいずれかを入力します。

- 「プロキシ・ホスト」には、使用するプロキシ・サーバー (例えば、`http://proxy.abc.com`) を入力します。
  - 「プロキシ・ポート」には、ポート番号を入力します。
  - プロキシ・サーバーにユーザー名とパスワードが必要な場合は、「ユーザー名」フィールドおよび「パスワード」フィールドにそれぞれ指定します。
  - 「Socks プロキシ・ホスト」には、使用する Socks プロキシ・サーバーを入力します。
  - 「Socks プロキシ・ポート」には、ポート番号を入力します。
9. このプロキシをデフォルトのプロキシにする場合は、チェック・ボックスを選択します (プロキシ・サポートが指定されているすべての参加者がそのプロキシを使用できるようになります)。
  10. 「保管」をクリックします。

---

## HTTP ゲートウェイの設定

ハブから参加者の IP アドレスに文書を送信できるように、HTTP ゲートウェイを設定します。HTTP ゲートウェイを設定するとき、構成済みのプロキシ・サーバー経由で文書が送信されるように指定することもできます。

HTTP ゲートウェイの作成プロセスを開始するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。この名前が、ゲートウェイのリストに表示されることとなります。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

### ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「HTTP/1.1」を選択します。
2. (オプション) 使用するプロキシ・サーバーを選択します。「順方向プロキシ・リスト」には、デフォルトのプロキシ・サーバーも含め、すでに作成し

たプロキシ・サーバーがすべて掲載されています。このフィールドのデフォルト値は、「**デフォルトの順方向プロキシの使用**」です。選択した参加者に別のプロキシ・サーバーを使用させる場合は、リストからそのサーバーを選択します。選択した参加者にこの機能を使用させない場合は、「**順方向プロキシを使用しない**」を選択します。

3. 「**アドレス**」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

形式は、`http://<server_name>:<optional_port>/<path>` です。

例えば、以下のような形式になります。

`http://anotherserver.ibm.com:57080/bcgreceiver/Receiver`

Web サービス用に使用するゲートウェイを設定するときは、Web サービス・プロバイダーから提供されたプライベート URL を指定します。この URL は、WebSphere Partner Gateway が Web サービス・プロバイダーのプロキシとして動作する際に、Web サービスを呼び出す URL です。

4. (オプション) HTTP サーバーへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
5. 「**再試行カウント**」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
6. 「**再試行間隔**」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
7. 「**スレッド数**」フィールドに、同時に処理可能な文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
8. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「**クライアント IP の検証**」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
9. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「**自動キュー**」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

「**自動キュー**」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。

10. 「**接続タイムアウト**」フィールドに、トラフィックがない場合にソケットがオープン状態を保つ時間 (秒数) を入力します。デフォルトは 120 秒です。
11. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『**ハンドラーの構成**』を参照してください。それ以外の場合は、「**保管**」をクリックします。

## HTTPS ゲートウェイの設定

ハブから参加者の IP アドレスに文書を送信できるように、HTTPS ゲートウェイを設定します。HTTPS ゲートウェイを設定するとき、構成済みのプロキシ・サーバー経由で文書が送信されるように指定することもできます。

HTTPS ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロフィールを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

### ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「HTTPS/1.0」または「HTTPS/1.1」を選択します。
2. (オプション) 使用するプロキシ・サーバーを選択します。「順方向プロキシ・リスト」には、デフォルトのプロキシ・サーバーも含め、すでに作成したプロキシ・サーバーがすべて掲載されています。このフィールドのデフォルト値は、「デフォルトの順方向プロキシの使用」です。選択した参加者に別のプロキシ・サーバーを使用させる場合は、リストからそのサーバーを選択します。選択した参加者にこの機能を使用させない場合は、「順方向プロキシを使用しない」を選択します。
3. 「アドレス」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

形式は、`https://<server_name>:<optional_port>/<path>` です。

以下に例を示します。

`https://anotherserver.ibm.com:57443/bcgreceiver/Receiver`

4. (オプション) セキュア HTTP サーバーへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

5. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
6. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
7. 「スレッド数」フィールドに、同時に処理可能な文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
8. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「クライアント IP の検証」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
9. 文書に関連付けられたビジネス ID と照合して、送信パートナーのデジタル証明書を検証する場合は、「クライアント SSL 証明書の検証」フィールドで「はい」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
10. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「自動キュー」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

「自動キュー」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。
11. 「接続タイムアウト」フィールドに、トラフィックがない場合にソケットがオープン状態を保つ時間 (秒数) を入力します。デフォルトは 120 秒です。
12. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## FTP ゲートウェイの設定

FTP ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイの詳細」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。

4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

## ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「FTP」を選択します。
2. 「アドレス」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

形式は、`ftp://<ftp_server_name>:<portno>` です。

以下に例を示します。

```
ftp://ftpsrv1.ibm.com:2115
```

ポート番号を入力しなかった場合は、標準の FTP ポートが使用されます。

3. (オプション) FTP サーバーへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
5. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
6. 「スレッド数」フィールドに、同時に処理可能な文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
7. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「クライアント IP の検証」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
8. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「自動キュー」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

「自動キュー」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。

9. 「接続タイムアウト」フィールドに、トラフィックがない場合にソケットがオープン状態を保つ時間 (秒数) を入力します。デフォルトは 120 秒です。
10. 文書が宛先に送信されるときに、その文書が元の名前を持つようにする場合は、「固有ファイル名の使用」フィールドのボックスにチェック・マークを付けたままにしておきます。それ以外の場合は、ボックスをクリックしてチェック・マークを外します。この場合は、WebSphere Partner Gateway によってファイル名が割り当てられます。
11. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## SMTP ゲートウェイの設定

SMTP ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロフィールを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

### ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「SMTP」を選択します。
2. 「アドレス」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

形式は、mailto:<user@server\_name> です。

以下に例を示します。

mailto:admin@anotherserver.ibm.com

3. (オプション) SMTP サーバーへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
5. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
6. 「スレッド数」フィールドに、同時に処理可能な文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
7. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「クライアント IP の検証」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

8. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「自動キュー」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。  
  
「自動キュー」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。
9. 「認証が必要」フィールドで、文書にユーザー名とパスワードが必要かどうかを指定します。デフォルトは「いいえ」です。
10. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## JMS ゲートウェイの設定

JMS ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロフィールを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

### ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「JMS」を選択します。
2. 「アドレス」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

WebSphere MQ JMS の場合、ターゲット URI の形式は以下のようになります。

```
file:///<user_defined_MQ_JNDI_bindings_path>
```

以下に例を示します。

file:///opt/JNDI-Directory

このディレクトリーには、ファイル・ベースの JNDI の「.bindings」ファイルが含まれています。このファイルは、WebSphere Partner Gateway が目的の宛先に文書をルーティングする方法を示します。

- 内部 JMS ゲートウェイ (バックエンド・システムに対するゲートウェイ) では、これは WebSphere Partner Gateway を JMS 対応として構成した際 (ステップ 5 (24 ページ) を参照) に入力した値 (バインディング・ファイルのファイル・システム・パス) と一致していなければなりません。また、JMS コンテキストのサブフォルダーを JMS プロバイダー URL の一部として指定することもできます。

例えば、JMS コンテキストを指定しない場合、c:/temp/JMS と入力します。JMS コンテキストを指定する場合は、c:/temp/JMS/JMS と入力します。

- 参加者用ゲートウェイの場合、参加者が「.bindings」ファイルを指定する可能性があります。

このフィールドは必須です。

3. (オプション) JMS キューへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
5. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
6. 「スレッド数」フィールドに、同時に処理可能な文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
7. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「クライアント IP の検証」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
8. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「自動キュー」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

「自動キュー」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。

9. 「認証が必要」フィールドで、文書にユーザー名とパスワードが必要かどうかを指定します。デフォルトは「いいえ」です。
10. 「JMS ファクトリー名」フィールドに、JMS プロバイダーが JMS キューへの接続に使用する Java クラスの名前を入力します。このフィールドは必須です。

内部 JMS ゲートウェイの場合、この名前は、バインディング・ファイルの作成時 (ステップ 4 (26 ページ)) に define qcf コマンドで指定した名前と一致していなければなりません。

ステップ 2 (150 ページ) で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力した場合、ここではファクトリー名だけを入力します (例えば、Hub)。「アドレス」フ

フィールドに JMS コンテキストのサブフォルダーを入力しなかった場合は、ファクトリー名の前にサブフォルダーを指定してください (例えば、JMS/Hub)。

11. 「**JMS メッセージ・クラス**」フィールドにメッセージ・クラスを入力する入力します。 TextMessage や BytesMessage など、有効な JMS メッセージ・クラスを入力します。このフィールドは必須です。
12. 「**JMS メッセージ・タイプ**」フィールドに、メッセージのタイプを入力します。これはオプションのフィールドです。
13. 「**プロバイダー URL パッケージ**」フィールドに、Java で JMS コンテキスト URL を認識するために使用するクラス (または JAR ファイル) の名前を入力します。このフィールドはオプションです。値を指定しなかった場合は、バインディング・ファイルのファイル・システム・パスが使用されます。
14. 「**JMS キュー名**」フィールドに、文書を送信する JMS キューの名前を入力します。このフィールドは必須です。

内部 JMS ゲートウェイの場合、この名前は、バインディング・ファイルの作成時 (ステップ 4 (26 ページ)) に define q コマンドで指定した名前と一致していなければなりません。

ステップ 2 (150 ページ) で JMS コンテキストのサブフォルダーを入力した場合、ここではキュー名だけを入力します (例えば、outQ)。JMS プロバイダー URL に JMS コンテキストのサブフォルダーを入力しなかった場合は、キュー名の前にサブフォルダーを指定してください (例えば、JMS/outQ)。

15. 「**JMS JNDI ファクトリー名**」フィールドに、ネーム・サービスへの接続に使用するファクトリー名を入力します。このフィールドは必須です。24 ページの『JMS トランスポート・プロトコル用のハブの構成』の説明に従って独自の JMS 構成を設定した場合、使用する値は、おそらく com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory です。
16. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「**保管**」をクリックします。

---

## ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイの設定

ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「**アカウント管理**」 > 「**プロファイル**」 > 「**コミュニティー参加者**」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「**検索**」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「**検索**」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「**詳細の表示**」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「**ゲートウェイ**」をクリックします。
5. 「**作成**」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。

2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「**使用可能**」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「**オンライン**」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

## ゲートウェイの構成

このページの「**ゲートウェイ構成**」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「**トランスポート**」リストから、「**ファイル・ディレクトリー**」を選択します。
2. 「**アドレス**」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

WebSphere Partner Gateway がインストールされているドライブと同じドライブにファイル・ディレクトリーがある UNIX システムおよび Windows システムの場合、形式は `file:///<path_to_target_directory>` になります。

以下に例を示します。

```
file:///localfiledir
```

ここで、`localfiledir` は、ルート・ディレクトリー以外のディレクトリーです。

WebSphere Partner Gateway とは別のドライブにファイル・ディレクトリーがある Windows システムの場合、形式は、`file:///<drive_letter>:/<path>` になります。

3. 「**再試行カウント**」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
4. 「**再試行間隔**」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
5. 「**スレッド数**」フィールドに、同時に処理する文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
6. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「**クライアント IP の検証**」フィールドで「**はい**」を選択します。それ以外の場合は、「**いいえ**」を選択します。デフォルトは「**いいえ**」です。
7. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「**自動キュー**」フィールドで「**はい**」を選択します。それ以外の場合は、「**いいえ**」を選択します。デフォルトは「**いいえ**」です。

「**自動キュー**」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。

8. 文書が宛先に送信されるときに、その文書が元の名前を持つようにする場合は、「**固有ファイル名の使用**」フィールドのボックスにチェック・マークを付けたままにしておきます。それ以外の場合は、ボックスをクリックしてチェック・マークを外します。この場合は、WebSphere Partner Gateway によってファイル名が割り当てられます。

9. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## FTPS ゲートウェイの設定

FTPS ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

### ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

### ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「FTPS」を選択します。
2. 「アドレス」フィールドに、文書の配信先となる URI を入力します。このフィールドは必須です。

形式は、`ftp://<ftp_server_name>:<portno>` です。

以下に例を示します。

```
ftp://ftpserver1.ibm.com:2115
```

ポート番号を入力しなかった場合は、標準の FTP ポートが使用されます。

3. (オプション) セキュア FTP サーバーへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
5. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。

6. 「スレッド数」フィールドに、同時に処理する文書の数を入力します。デフォルトは 3 です。
7. 文書进行处理する前に送信者の IP アドレスを検証するには、「クライアント IP の検証」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。
8. 指定した回数の再試行が終わって配信エラーになりそうな場合に、ゲートウェイを自動的にオフラインにするには、「自動キュー」フィールドで「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」を選択します。デフォルトは「いいえ」です。

「自動キュー」を選択した場合は、ゲートウェイを手動でオンラインにするまで、すべての文書がキューに入ったままになります。

9. 「接続タイムアウト」フィールドに、トラフィックがない場合にソケットがオープン状態を保つ時間 (秒数) を入力します。デフォルトは 120 秒です。
10. 文書が宛先に送信されるときに、その文書が元の名前を持つようにする場合は、「固有ファイル名の使用」フィールドのボックスにチェック・マークを付けたままにしておきます。それ以外の場合は、ボックスをクリックしてチェック・マークを外します。この場合は、WebSphere Partner Gateway によってファイル名が割り当てられます。
11. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、159 ページの『ハンドラーの構成』を参照してください。それ以外の場合は、「保管」をクリックします。

---

## FTP スクリプト記述ゲートウェイの設定

FTP スクリプト記述ゲートウェイは、設定されたスケジュールに従って動作します。FTP スクリプト記述ゲートウェイの動作は、FTP コマンド・スクリプトで制御します。

### FTP スクリプトの作成

FTP スクリプト記述ゲートウェイを使用するには、必要な FTP コマンドのうち、ご使用の FTP サーバーで認められているものをすべて記載したファイルを作成します。

1. ゲートウェイに対して実行するアクションを指定したスクリプトを作成します。例えば、以下のスクリプトは、名前とパスワードで指定された FTP サーバーに接続して、FTP サーバー上で指定のディレクトリーに移動し、その中のすべてのファイルをサーバー上の指定のディレクトリーに送信するという例です。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD% %BCGOPTIONx%
cd %BCGOPTIONx%
mput *
quit
```

ゲートウェイがサービスを提供するとき、プレースホルダー (例えば、%BCGSERVERIP% など) は、FTP スクリプト記述ゲートウェイの特定のインスタンスを作成するときに入力した値に置き換えられます (以下の表を参照してください)。

表 17. スクリプト・パラメーターと FTP スクリプト記述ゲートウェイのフィールド記入項目との対応

スクリプト・パラメーター	FTP スクリプト記述ゲートウェイのフィールド記入項目
%BCGSERVERIP%	サーバー IP
%BCGUSERID%	ユーザー ID
%BCGPASSWORD%	パスワード
%BCGOPTIONx%	ユーザー定義属性の下のオプション <i>x</i>

ユーザー定義オプションは、最大 10 個まで設定できます。

2. ファイルを保存します。

## FTP スクリプト・コマンド

スクリプトを作成する場合は、以下のコマンドを使用できます。

- ascii、binary、passive

これらのコマンドは FTP サーバーに送信されません。各コマンドにより、FTP サーバーへの転送モード (ASCII、バイナリー、またはパッシブ) が変更されません。

- cd

指定されたディレクトリーに移動します。

- delete

FTP サーバーからファイルを削除します。

- mkdir

FTP サーバー上にディレクトリーを作成します。

- mput

このコマンドは、リモート・システムに転送する 1 つ以上のファイルを指定する単一の引数を取ります。この引数に標準のワイルドカード文字 (「\*」および「?」) を指定して、複数のファイルを示すことができます。

- open

このコマンドは、FTP サーバー IP アドレス、ユーザー名、およびパスワードの 3 つのパラメーターを取ります。これらのパラメーターは、%BCGSERVERIP%、%BCGUSERID%、および %BCGPASSWORD% 変数に対応します。

したがって、FTP スクリプト記述ゲートウェイ・スクリプトの最初の行は、以下のようになります。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
```

- quit、bye

FTP サーバーへの既存の接続を終了します。

- quote

QUOTE の後に指定されているものをすべてコマンドとしてリモート・システムに送信するように指定します。これにより、標準の FTP プロトコルに定義されていないコマンドをリモート FTP サーバーに送信できるようになります。

- rmdir

FTP サーバーからディレクトリーを削除します。

- site

このコマンドは、サイト固有のコマンドをリモート・システムに発行するときに使用できます。リモート・システムは、このコマンドの内容が有効かどうかを判別します。

## FTP スクリプト記述ゲートウェイ

FTP スクリプト記述ゲートウェイを使用する場合は、以下の作業を実行します。

FTP スクリプト記述ゲートウェイを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。

## ゲートウェイの詳細

「ゲートウェイ・リスト」ページから、以下のステップを実行します。

1. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
2. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
3. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
4. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。

## ゲートウェイの構成

このページの「ゲートウェイ構成」セクションで、以下のステップを実行します。

1. 「トランスポート」リストから、「FTP Scripting」を選択します。
2. 文書の送信先となる FTP サーバーの IP アドレスを入力します。FTP スクリプトが実行されると、ここに入力した値で %BCGSERVERIP% が置き換えられます。
3. FTP サーバーへのアクセスに必要なユーザー ID とパスワードを入力します。FTP スクリプトが実行されると、ここに入力した値で %BCGUSERID% および %BCGPASSWORD% が置き換えられます。
4. ターゲットがセキュア・モードの場合は、「FTPS モード」に対してデフォルトの「はい」を使用してください。それ以外は、「いいえ」をクリックします。

5. 以下のステップを実行して、スクリプト・ファイルをアップロードします。
  - a. 「スクリプト・ファイルのアップロード」をクリックします。
  - b. 文書を処理するスクリプトが格納されたファイルの名前を入力するか、または「参照」を使用して、ファイルにナビゲートします。
  - c. 「ファイルのロード」をクリックして、スクリプト・ファイルを「現在ロードされているスクリプト・ファイル」テキスト・ボックスにロードします。
  - d. このスクリプト・ファイルを使用したい場合は、「保管」をクリックします。
  - e. 「ウィンドウを閉じる」をクリックします。
6. 「再試行カウント」フィールドに、ゲートウェイが文書の送信を試行する回数を入力します。この回数を超えると送信エラーとなります。デフォルトは 3 です。
7. 「再試行間隔」フィールドに、ゲートウェイが文書の再送信を試行するまでの待ち時間を入力します。デフォルトは 300 秒です。
8. 「接続タイムアウト」に、トラフィックがなくてもソケットを開いたままにしておく時間 (秒数) を入力します。デフォルトは 120 秒です。
9. 「ロック・ユーザー」フィールドに、ゲートウェイがロックを要求して、FTP スクリプト記述ゲートウェイの他のインスタンスが同時に同じ FTP サーバー・ディレクトリーにアクセスできないようにするかどうかを指定します。

注: 「グローバル FTP スクリプト記述属性」にはすでに値が入っており、このページから編集することはできません。これらの値を変更するには、「グローバル・トランスポート属性」ページを使用します (142 ページの『グローバルなトランスポート値の設定』を参照)。

## ユーザー定義属性

追加の属性を指定する場合は、以下のステップを実行します。FTP スクリプトが実行されると、オプションに入力した値で %BCGOPTION<sub>x</sub>% が置き換えられます (<sub>x</sub> はオプション番号に対応します)。

1. 「新規」をクリックします。
2. 「オプション 1」の横に値を入力します。
3. 追加の属性を指定する場合は、「新規」を再びクリックして、値を入力します。
4. 必要なだけステップ 3 を繰り返して、すべての属性を定義します。

例えば、FTP スクリプトが次のようになっているとします。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
 cd %BCGOPTION1%
 mput *
 quit
```

この場合、%BCGOPTION% はディレクトリー名です。

## スケジュール

このページの「スケジュール」セクションから、以下のステップを実行します。

1. 間隔を基にしたスケジューリングとカレンダーを基にしたスケジューリングのどちらが必要なのかを指定します。

- 「**間隔を基にしたスケジューリング**」を選択した場合は、ゲートウェイがポーリングされるまでの経過秒数を選択します (またはデフォルト値を受け入れます)。
  - 「**カレンダーを基にしたスケジューリング**」を選択した場合は、スケジューリングのタイプ (「**日次スケジュール**」、「**週次スケジュール**」、または「**カスタム・スケジュール**」) を選択します。
    - 「**日次スケジュール**」を選択した場合は、ゲートウェイがポーリングされる時刻を入力します。
    - 「**週次スケジュール**」を選択した場合は、時刻のほかに曜日を 1 つ以上選択します。
    - 「**カスタム・スケジュール**」を選択した場合は、まず時刻を選択し、次に週および月について「**範囲**」または「**選択できる日**」を選択します。「**範囲**」では、開始日と終了日を指定します。(例えば、特定の曜日にのみサーバーをポーリングする場合は、「**月**」および「**金**」をクリックします。)「**選択できる日**」では、週および月の特定の日付を選択します。
2. ゲートウェイの前処理または後処理ステップを構成する場合は、『**ハンドラーの構成**』を参照してください。それ以外の場合は、「**保管**」をクリックします。

---

## ハンドラーの構成

『第 1 章 概要』で説明されているように、ゲートウェイの 2 つの処理ポイント (前処理と後処理) は、変更できます。

前処理または後処理ステップにはデフォルトのハンドラーが用意されていないため、デフォルトでは「**使用可能なリスト**」にハンドラーが 1 つもリストされません。ハンドラーをすでにアップロードしている場合には、そのハンドラーを選択し、「**構成済みリスト**」に移動できます。

これらの構成ポイントにユーザーが作成したハンドラーを適用するには、まず 40 ページの『ユーザー定義ハンドラーのアップロード』の説明に従って、ハンドラーをアップロードする必要があります。(ステップ 2 (40 ページ) では、「**ターゲット**」ではなく、「**ゲートウェイ**」を選択します。)次に、以下のステップを実行します。

1. 「**構成ポイント・ハンドラー**」リストから、「**preprocess**」または「**postprocess**」を選択します。
2. 「**使用可能なリスト**」からハンドラーを選択し、「**追加**」をクリックします。
3. ハンドラーの属性を変更する場合は、「**構成済みリスト**」からそのハンドラーを選択し、「**構成**」をクリックします。変更可能な属性のリストが表示されます。必要な変更を加え、「**値の設定 (Set Values)**」をクリックします。
4. 「**保管**」をクリックします。

「**構成済みリスト**」では、以下のようにさらに変更を加えることもできます。

- 「**構成済みリスト**」からハンドラーを選択し、「**削除**」をクリックして、ハンドラーを削除します。ハンドラーが「**使用可能なリスト**」に移動します。
- ハンドラーを選択し、「**上に移動**」または「**下に移動**」をクリックして、ハンドラーが処理される順序を変更します。

---

## ユーザー定義トランスポートのゲートウェイの設定

ユーザー定義のトランスポートをアップロードする場合は、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「ゲートウェイ」をクリックします。
3. 「トランスポート・タイプの管理」をクリックします。
4. トランスポートを定義する XML ファイルの名前を入力します (または、「参照」を使用して、必要なファイルへ移動します)。
5. 「データベースへのコミット」では、デフォルトの「はい」を使用します。実動に移す前にこのトランスポートをテストする場合には、「いいえ」を選択します。
6. データベースにすでに同じ名前のファイルが存在した場合、このファイルに置き換えるかどうかを指定します。
7. 「アップロード」をクリックします。

注: 「トランスポート・タイプの管理」ページから、ユーザー定義のトランスポート・タイプを削除することもできます。 WebSphere Partner Gateway で提供されているトランスポートは、削除できません。また、ゲートウェイを作成するときに使用されたユーザー定義のトランスポートも削除することはできません。

8. 「作成」をクリックします。
9. ゲートウェイを識別する名前を入力します。このフィールドは必須です。
10. (オプション) ゲートウェイの状況を指定します。デフォルトは「使用可能」です。使用可能状態のゲートウェイは、文書を送信することができます。使用不可状態のゲートウェイは、文書を送信できません。
11. (オプション) ゲートウェイがオンラインかオフラインかを指定します。デフォルトは「オンライン」です。
12. (オプション) ゲートウェイの説明を入力します。
13. フィールド (フィールドの内容はユーザー定義のトランスポートごとに固有) に入力し、「保管」をクリックします。

---

## デフォルト・ゲートウェイの指定

コミュニティ・マネージャーまたは参加者のゲートウェイを作成したら、そのゲートウェイのいずれかをデフォルト・ゲートウェイとして選択します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロファイルを表示します。
4. 「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。

参加者に対して定義されているゲートウェイのリストが表示されます。

6. 「実動」リストから、この参加者のデフォルトにするゲートウェイを選択します。デフォルト・ゲートウェイは、「テスト」など他のタイプのゲートウェイに対しても設定できます。
7. 「保管」をクリックします。



---

## 第 11 章 参加者およびその B2B 機能の作成

文書交換の相手となる参加者ごとに、参加者プロフィールを作成します。次に、その参加者の B2B 機能を設定します (または、参加者自身がこのステップを実行することもできます)。

この章では以下のトピックを扱います。

- 『参加者プロフィールの作成』
- 164 ページの『B2B 機能の設定』

---

### 参加者プロフィールの作成

参加者を作成するには、少なくとも参加者に関する以下の情報が必要です。

- 参加者の IP アドレス。
- 参加者が使用するビジネス ID。以下のものを使用できます。
  - DUNS - 各会社に割り当てられた標準の Dun & Bradstreet 番号。
  - DUNS+4 - DUNS 番号の拡張版。
  - フリー・フォーム - 参加者が会社の識別に使用する任意の番号。

ハブ・コミュニティに追加したい参加者ごとに、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. 「会社ログイン名」では、参加者がハブへのログイン時に使用する名前を「会社」フィールドに入力します。
4. 「参加者表示名」では、参加者の会社名または他の記述名を入力します。これが、「参加者の検索」リストに表示される名前です。
5. 参加者のタイプを選択します。WebSphere Partner Gateway では、コミュニティ・マネージャーとコミュニティ・オペレーターを 1 人ずつしか指定できないため、選択できるのは「コミュニティ参加者」に限られます。
6. 参加者の状況を選択します。参加者を作成する場合は、一般にデフォルト値の「使用可能」を使用します。
7. (オプション) 「ベンダー」フィールドに、会社のタイプを入力します。
8. (オプション) 参加者の Web サイトを入力します。
9. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。
10. リストからタイプを指定し、適切な ID を入力します。WebSphere Partner Gateway では、ここで入力した番号を使用して、参加者へ (または参加者から) の文書をルーティングします。

ID を入力する際には、以下のガイドラインに従ってください。

- a. DUNS 番号は 9 桁であること。
- b. DUNS+4 は 13 桁であること。

- c. フリー・フォーム ID 番号は 60 文字以内の英数字および特殊文字で構成すること。

**注:** 参加者には、複数のビジネス ID を割り当てることができます。複数のビジネス ID が必要になる場合もあります。例えば、ハブが EDI X12 および EDIFACT 文書を送受信する場合は、文書交換時に DUNS およびフリー・フォーム ID が使用されます。

このタイプの文書フローに関わるコミュニティー・マネージャーと参加者は、DUNS およびフリー・フォーム ID を持っている必要があります。フリー・フォーム ID は、ID と修飾子の両方を持つ EDI ID を表すために使用されます。例えば、EDI 修飾子が「ZZ」で、EDI ID が「810810810」であるとし、フリー・フォーム ID は ZZ-810810810 として指定できます。

11. (オプション) 以下のステップを実行して、参加者の IP アドレスを入力します。
  - a. 「IP アドレス」の下の「新規」をクリックします。
  - b. ゲートウェイのタイプを指定します。
  - c. 参加者の IP アドレスを入力します。
12. 「保管」をクリックします。
13. 参加者がハブにログオンするときに使用するパスワードが表示されます。そのパスワードを書き留めます。それを後で参加者管理ユーザーに渡します。

参加者を作成する場合は、実際には、その参加者の管理ユーザーを作成します。その後、管理ユーザーが組織内の個々のユーザーを作成するか、またはハブ管理者が参加者のユーザーを作成します。

参加者のプロフィールを作成したら、ハブがその参加者に文書を送信するときに使用するゲートウェイを設定します。参加者のゲートウェイの設定については、以下のセクションを参照してください。

- 142 ページの『グローバルなトランスポート値の設定』

**注:** これらの値は、FTP スクリプト記述ゲートウェイでのみ必要になるものです。

- 144 ページの『HTTP ゲートウェイの設定』
- 146 ページの『HTTPS ゲートウェイの設定』
- 147 ページの『FTP ゲートウェイの設定』
- 149 ページの『SMTP ゲートウェイの設定』
- 150 ページの『JMS ゲートウェイの設定』
- 152 ページの『ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイの設定』
- 154 ページの『FTPS ゲートウェイの設定』
- 155 ページの『FTP スクリプト記述ゲートウェイの設定』

---

## B2B 機能の設定

B2B 機能を使用すると、各参加者が送受信できる文書のタイプを定義することができます。

ハブ管理者は各参加者の B2B 機能を設定できますが、参加者各自がこのタスクを実行することも可能です。ここでは、参加者の代わりにタスクを実行する方法について説明します。

B2B 機能は、参加者の B2B 機能を文書フロー定義に関連付けるために使用します。

各参加者の B2B 機能を設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 検索条件を入力し、「検索」をクリックするか、または検索条件を入力せずに「検索」をクリックして、すべての参加者のリストを表示します。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、参加者のプロフィールを表示します。
4. 「B2B 機能」をクリックします。「B2B 機能」ページが表示されます。このページの右側には、文書フロー定義としてシステムでサポートされているパッケージ、プロトコル、文書が表示されます。
5. 右側のパッケージに対して、「ソースの設定」列の下で「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。このパッケージには、参加者がコミュニティ・マネージャーに送信する文書が格納されています。
6. 参加者が同じ文書を送受信する場合は、「ソースの設定」と「ターゲットの設定」の両方を選択します。文書フロー定義が使用可能な場合は、Console にチェックマークが表示されます。

注: 「ソースの設定」の選択項目は、双方向 PIP のどのアクションでも同じになります。これは、ある参加者から要求が発信され、別の参加者から対応する確認が発信される場合でも同じです。また、これは「ターゲットの設定」にも該当します。

7. 「パッケージ」レベルで「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、個々のノードを適切な文書フロー定義レベルまで展開します。あるいは、「0」から「4」の数値または「すべて」を選択して、表示されているすべての文書フロー定義を選択済みのレベルまで展開します。
8. 再度、システムがサポートする文書フロー定義ごとに、低レベルの「プロトコル」および「文書フロー」の各レベルに対して、「ソースの設定」または「ターゲットの設定」、あるいはその両方の役割を選択します。

「文書フロー」レベルで定義をアクティブにした場合は、「アクション」および「アクティビティ」の定義も (存在する場合)、自動的にアクティブになります。

9. (オプション) 「使用可能」列の下の「使用可能」をクリックして、文書フロー定義をオフラインにします。(「ソースの設定」または「ターゲットの設定」を選択すると、レコードが自動的に使用可能になります。) オンラインにするには、「使用不可」をクリックします。

パッケージが使用不可の場合は、同じノード内にある低レベルの文書フロー定義が、個々の状況が使用可能であるかどうかにかかわらず、すべて使用不可になります。低レベルの文書フロー定義を使用不可にした場合、同じコンテキスト

ト内にある高レベルの定義はすべて使用可能なままになります。文書フロー定義が使用不可になっても、それまでに存在していた接続や属性はすべて機能し続けます。文書フロー定義が使用不可の場合は、接続の新規作成のみが制限されます。

10. (オプション) プロトコル、パッケージ、文書フロー、アクション、アクティビティ、またはシグナルの属性を編集する場合は、「**編集**」アイコンをクリックします。これにより、属性がある場合は、属性の設定が表示されます。属性を変更するには、値を入力するか、または「**更新**」列から値を選択して、「**保管**」をクリックします。

---

## 第 12 章 接続の管理

参加者の B2B 機能を作成したら、コミュニティー・マネージャーと参加者間の接続を確立します。この章では以下のトピックを扱います。

- 『概要』
- 『参加者接続のアクティブ化』
- 168 ページの『属性の指定または変更』

---

### 概要

接続は、参加者間で交換される文書のタイプごとに設定します。例えば、コミュニティー・マネージャーから同じ 1 人の参加者に対して複数の接続を確立することもあります。パッケージ化、プロトコル、文書フロー、アクション、またはマップが異なる場合があるからです。

接続をアクティブ化すると、ソース参加者またはターゲット参加者の属性を指定できるようになります。接続レベルで設定した属性は、特定の参加者の B2B 機能レベルまたは文書フロー定義レベルで設定した属性よりも優先されます。

EDI、XML、ROD の各文書を交換するときにエンベロープまたは変換が伴う場合は、それぞれの交換ごとに接続を確立します。接続に関連付けられたプロファイルのセットからプロファイルを選択して、これらの文書タイプに応じた接続を詳しく定義することができます。詳細については、117 ページの『接続プロファイル』を参照してください。

---

### 参加者接続のアクティブ化

参加者接続には、文書フローごとに正しい交換を行うために必要な情報が含まれています。文書をルーティングするには、コミュニティー・マネージャーといずれかの参加者間の接続が確立されていなければなりません。

システムは、各自の B2B 機能に基づいて、コミュニティー・マネージャーと参加者間の接続を自動的に作成します。

これらの接続をアクティブ化するには、まず接続を検索する必要があります。

ソースとターゲットを選択する際には、以下のガイドラインに従ってください。

- ソースとターゲットは、固有でなければなりません。
- ソースとターゲットを選択する際には、実動ゲートウェイとテスト・ゲートウェイを混用するとエラーが発生するため、混用しないでください。
- ソースとターゲットの両方に実動ゲートウェイを選択するか、あるいは両方にテスト・ゲートウェイを選択する必要があります。

基本的な接続検索を実行し、接続をアクティブ化するには、以下の手順を実行します。

1. 「アカウント管理」 > 「参加者の接続」 をクリックします。「接続の管理」 ページが表示されます。
2. 「ソース」 の下で、ソースを選択します。例えば、コミュニティー・マネージャーから開始される交換を設定する場合は、そのコミュニティー・マネージャーを選択します。
3. 「ターゲット」 の下で、ターゲットを選択します。例えば、参加者が受け取る交換を設定する場合は、その参加者を選択します。

注: 新規接続を作成する場合は、ソースおよびターゲットは一意である必要があります。

4. 「検索」 をクリックし、基準を満たす接続を検索します。

注: より詳細な検索条件を入力する場合は、「拡張検索」 ページを使用します。

5. 接続をアクティブ化するには、「アクティブ化」 をクリックします。「接続の管理」 ページが再度表示され、今度は接続が緑色で強調表示されます。このページに、ソースとターゲットのパッケージ、プロトコル、文書フローが表示されます。また、ここに表示されるボタンをクリックすると、パートナー接続の状況やパラメーターを表示し、変更することができます。
6. ソースまたはターゲットの属性を指定したり、接続プロファイルを選択したりするには、『属性の指定または変更』を参照してください。

2 アクション PIP の場合は、双方向の接続をアクティブ化して、2 番目の PIP アクションをサポートするようにします。そのためには、2 番目のアクションのソースおよびターゲットを最初のアクションのソースおよびターゲットと反対にします。

EDI、XML、または ROD の文書にすでに複数の対話を定義している場合は、それぞれの対話に関連付けられた接続をすべてアクティブ化してください。

---

## 属性の指定または変更

接続をアクティブ化すると、属性を設定したり、以前に定義された属性を変更したりできます。接続の属性を指定または変更するには、以下のステップを実行します。

1. 属性値を表示または変更するには、「属性」 をクリックします。

例えば、コミュニティー・マネージャーが「なし」としてパッケージ化されている文書を参加者に送信しようとしているとします。参加者は AS としてパッケージ化されている文書を受け取ろうとしています。この場合、コミュニティー・マネージャーは複数のビジネス ID を文書に割り当てることができます。使用する ID を WebSphere Partner Gateway に指示するには、以下のステップを実行します。

- a. 接続のソース側で「属性」 をクリックします。
- b. 「接続属性」 ページが表示されたら、「なし」 フォルダーを展開します。
- c. 「更新」 リストから、参加者に送信する AS ID を選択します。
- d. 「保管」 をクリックします。

注: 以前に AS ID を指定している場合は (例えば、「B2B 機能」ページなどで)、ここで入力した値で以前の値がオーバーライドされます。

また、参加者から AS としてパッケージ化されている文書を受け取る際には MDN アドレスの値を入力しますが、これも属性を設定する一例です。このアドレスには、MDN の配信先を指定します。

2. この接続に関連付けられたアクションまたは変換マップを表示または変更する場合は、「アクション」をクリックします。そのアクションまたはマップにすでに値が設定してある場合は、ここで変更した値でオーバーライドされます。
3. ソースまたはターゲット・ゲートウェイを表示または変更するには、「ゲートウェイ」をクリックします。
4. 「接続プロファイルの追加」ボタンおよび「アクティブ・プロファイル」リストが表示された場合は、以前に定義した特定のプロファイルにこの接続を関連付けることができます。

接続レベルで設定した属性は、プロトコル・レベルまたは文書フロー・レベルで設定した属性よりも優先されます。



---

## 第 13 章 インバウンドおよびアウトバウンド交換のセキュリティー設定

WebSphere Partner Gateway では、インバウンド・トランザクションおよびアウトバウンド・トランザクション用に複数のタイプの証明書をインストールし、使用することができます。この章では以下のトピックを扱います。

- 『セキュリティーの用語と概念』
- 176 ページの『SSL 証明書の作成とインストール』
- 183 ページの『シグニチャー証明書の作成とインストール』
- 185 ページの『暗号化証明書の作成とインストール』
- 189 ページの『Console および Receiver でのインバウンド SSL の構成』
- 189 ページの『証明書の概要』

---

### セキュリティーの用語と概念

ここでは、セキュリティーのタイプ、証明書の生成とアップロードに使用するツール、および WebSphere Partner Gateway でインストールされるデータ・ストアのタイプについて概説します。

### WebSphere Partner Gateway で使用されるセキュリティーのメカニズムとプロトコル

ここでは、SSL、デジタル署名、および暗号化について説明します。

#### SSL

WebSphere Partner Gateway では、SSL を使用してインバウンドおよびアウトバウンド文書を保護することができます。インバウンド文書とは、ハブに送信される文書のことです。アウトバウンド文書とは、ハブから送信される文書のことです。

SSL は、インターネットのセキュリティーを管理するためによく利用されるプロトコルです。SSL では、ネットワーク接続を介してリンクされている 2 つのアプリケーションが互いに相手の ID を認証できるようにし、データ機密性とデータ完全性を確実にすることによって、接続の安全性を確保しています。

クライアントが HTTP ベースの SSL 接続を開始する場合は必ず、http:// ではなく https:// で始まる URL が使用されます。SSL 接続はハンドシェイクによって開始されます。このステージでアプリケーションは、デジタル証明書を交換し、使用する暗号化アルゴリズムに同意して、残りのセッションで使用される暗号鍵を生成します。

注:

1. WebSphere Partner Gateway では、RC2 および TripleDES アルゴリズムがサポートされています。RC5 アルゴリズムはサポートされません。以前のリリースで RC5 アルゴリズムを使用していた場合は、サポートされているアルゴリズムに切り替えてください。

2. WebSphere Partner Gateway では、AES および DES アルゴリズムもサポートされています。これらのアルゴリズムは、bcg.properties ファイルまたは SecurityService API で設定できます。bcg.properties ファイルについては、「管理者ガイド」を参照してください。セキュリティー・サービスについては、「プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

SSL プロトコルには、以下のセキュリティー機能があります。

- サーバー認証。サーバーは、サーバーのデジタル証明書を使用して、クライアントに対してサーバー自体を認証します。
- クライアント認証。クライアントが、クライアントのデジタル証明書を提供して、サーバーに対してクライアント自体を認証する必要があるオプションのステップです。

## デジタル署名

デジタル署名は、否認防止を保証するメカニズムです。否認防止とは、参加者がメッセージを生成して送信したことを否認できないことを意味します。また、参加者はメッセージを受信したことも否認できません。

デジタル署名の場合、オリジネーターはメッセージに署名できるため、オリジネーターが実際にメッセージを送信したユーザーとして証明されます。また、メッセージが、署名された後に変更されていないことも保証されます。

WebSphere Partner Gateway は、PKCS#7 SignedData の分離型デジタル署名フォーマットをビジネス・プロトコルの一部としてサポートしています。

## 暗号化

WebSphere Partner Gateway は、公開鍵暗号化と呼ばれる暗号システムを使用して、参加者とハブの間の通信を保護します。公開鍵暗号化では、数学的に関連した鍵のペアが使用されます。最初の鍵で暗号化された文書は、2 番目の鍵を使用して暗号化解除する必要があります。また、2 番目の鍵で暗号化された文書は、最初の鍵を使用して暗号化解除する必要があります。

公開鍵システムの各参加者は、鍵のペアを持ちます。1 つの鍵は秘密にされ、秘密鍵となります。もう 1 つの鍵は、必要とするユーザーに配布され、公開鍵となります。WebSphere Partner Gateway は、参加者の公開鍵を使用して、文書を暗号化します。秘密鍵は、文書を暗号化解除するときに使用されます。

## iKeyman ユーティリティ

以降のセクションで説明するように、IBM 鍵管理ツール (IKEYMAN) を使用して、鍵データベース、公開鍵と秘密鍵のペア、および認証要求を作成します。IKEYMAN を使用して自己署名証明書を作成することもできます。iKeyman ユーティリティは、WebSphere Partner Gateway をインストールすると作成される `<ProductDir>/was/bin` ディレクトリーにあります。

また、IKEYMAN を使用すると、認証局 (CA) に対する証明書の要求を生成することもできます。

## Community Console

Community Console を使用すると、WebSphere Partner Gateway ストレージに必要なクライアント、署名、および暗号化証明書をすべてインストールすることができます。また、Community Console を使用して、ルート証明書および中間 CA (認証局) 証明書をインストールすることもできます。

注: 参加者の証明書の有効期限が切れている場合は、参加者自身が新規証明書を取得する必要があります。Community Console のアラート機能には、WebSphere Partner Gateway に格納されている証明書の有効期限アラートが含まれています。

## 鍵ストアとトラストストア

WebSphere Partner Gateway をインストールすると、Receiver と Console の鍵ストアとトラストストアがインストールされます。

- 鍵ストア: 公開鍵と秘密鍵が含まれているファイル。
- トラストストア: 参加者の自己署名証明書および CA 証明書の公開鍵が含まれている鍵データベース・ファイル。公開鍵は、署名者証明書として保管されます。商業用の CA の場合は、CA ルート証明書が追加されています。トラストストア・ファイルは、より公にアクセス可能な鍵データベース・ファイルで、信頼できる証明書がすべて含まれています。

デフォルトでは、2 つの鍵ストアと 2 つのトラストストアが `<ProductDir>/common/security/keystore` ディレクトリーに作成されます。名前は、以下のとおりです。

- receiver.jks
- receiverTrust.jks
- console.jks
- consoleTrust.jks

## デフォルトのパスワードの変更

4 つのストアにアクセスするためのデフォルトのパスワードは、WebAS です。組み込みの WebSphere Application Server は、これら 4 つのストアを使用するよう構成されています。iKeyman ユーティリティーを使用してパスワードを変更できます。あるいは、次の UNIX コマンドを使用して鍵ストア・ファイルのパスワードを変更できます。

```
/<ProductDir>/console/was/java/bin/keytool
-storepasswd -new $NEW_PASSWORD$ -keystore $KEYSTORE_LOCATION$
-storepass $CURRENT_PASSWORD$ -storetype JKS
```

鍵ストア・パスワードを変更する場合は、各 WebSphere Application Server インスタンスの構成も変更する必要があります。この場合、bcgChgPassword.jacl スクリプトを使用します。Console インスタンスにおいて、以下のディレクトリーに移動します。

```
/<ProductDir>/bin
```

次に、以下のコマンドを発行します。

```
./bcgwsadmin.sh -f /<ProductDir>/scripts/
bcgChgPassword.jacl -conntype NONE
```

Receiver および Document Manager の WebSphere Application Server インスタンスに対して、このコマンドを繰り返します。

**注:** Windows インストールの場合は、./bcgwsadmin.sh の代わりに bcgwsadmin.bat を使用します。

新規パスワードを求めるプロンプトが出されます。

## 期限切れ証明書の置換

トラストストアの証明書の有効期限が切れている場合は、以下の手順に従って、新規証明書を追加し、証明書を置き換える必要があります。

1. IKEYMAN が実行されていない場合は、開始します。
2. トラストストア・ファイルを開きます。
3. パスワードを入力し、「OK」をクリックします。
4. メニューから、「署名者証明書」を選択します。
5. 「追加」をクリックします。
6. 「データ・タイプ」をクリックし、Base64 でエンコードされた ASCII データなどのデータ・タイプを選択します。

このデータ・タイプは、インポートする証明書のデータ・タイプと一致している必要があります。

7. 証明書ファイルの名前および CA ルート・デジタル証明書の場所を入力するか、または「参照」をクリックして、名前と場所を選択します。
8. 「OK」をクリックします。
9. インポートする証明書のラベルを入力します。
10. 「OK」をクリックします。

## 証明書チェーン

証明書チェーンは、参加者の証明書およびその証明書の認証に使用された証明書で構成されています。例えば、ある CA を使用して参加者の証明書を作成した場合、その CA 自体もすでに別の CA によって認証されていることがあります。トラストのチェーンは、ルート CA (トラスト・アンカー) から始まります。ルート CA のデジタル証明書は自己署名です。つまり、認証局が自身の秘密鍵を使用してデジタル証明書に署名します。トラスト・アンカーと参加者の証明書 (ターゲット証明書) の間にある証明書が、中間証明書です。

CA で発行された証明書には必ず、チェーン内のすべての証明書を追加する必要があります。例えば、A (トラスト・アンカー) が B の発行者で、B が C (ターゲット証明書) の発行者となっている証明書チェーンの場合、証明書 A および B は CA 証明書としてアップロードする必要があります。

WebSphere Partner Gateway では、すべての自己署名証明書がトラスト・アンカーとして扱われます。自己署名証明書は、認証局 (CA) であることもあれば、参加者が生成した自己署名証明書であることもあります。

## 1 次証明書と 2 次証明書

特定のタイプの証明書を複数作成し、そのうちの 1 つを 1 次証明書として、また別の 1 つを 2 次証明書として指定することができます。1 次証明書の有効期限が切れた場合や、他の理由で 1 次証明書を使用できない場合は、WebSphere Partner Gateway によって 2 次証明書に切り替えられます。どの証明書が 1 次で、どの証明書が 2 次かは、Community Console で指定します。

1 次証明書と 2 次証明書という機能は、以下の証明書に用意されています。

- 参加者の暗号化証明書
- ハブ・オペレーターの署名証明書
- ハブ・オペレーターの SSL クライアント証明書

## 暗号化の強度の変更

暗号化証明書を使用する場合は、次の重要な制限に注意してください。WebSphere Partner Gateway に同梱されている Java ランタイム環境 (JRE) では、使用可能な暗号アルゴリズムおよび最大暗号強度が制限されています。例えば、許容される長さを制限ポリシーで規定して、結果として暗号鍵の強度を制限します。こうした制限は、管轄権ポリシー・ファイル というファイルで指定します。最大許容長は 2048 バイトです。2048 バイトを超える鍵サイズの証明書をサポートする場合には、強度に制約や制限のない管轄権ポリシー・ファイルを使用してください。JRE のインストール先のサブディレクトリーに新しいポリシー・ファイルをインストールすれば、強度が高く制約のないポリシーを使用できるようになります。DES3 など、対称鍵アルゴリズムに関する暗号化制限もあります。強度が高い対称鍵アルゴリズムが必要な場合は、管轄権ポリシー・ファイルを置換すると、対称鍵の制限が除去されます。

制限のない管轄権ポリシー・ファイルを WebSphere Partner Gateway にインストールする場合は、次のステップを実行します。

1. Web サイト <http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/security/142/> の「**IBM SDK Policy files**」リンクから制限のない管轄権強度ポリシー・ファイルをダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを一時フォルダーに unzip します。
3. 一時フォルダーから local\_policy.jar および US\_export\_policy.jar をコピーします。
4. フォルダー `<ProductDir>%was%java%jre%lib%security` に移動します。
5. 既存の local\_policy.jar および US\_export\_policy.jar を local\_policy.jar.bak および US\_export\_policy.jar.bak に名前変更します。
6. ステップ 3 でコピーした JAR ファイルをフォルダー `<ProductDir>%was%java%jre%lib%security` に貼り付けます。
7. サーバーを再始動します。

これらのステップは、構成されるすべての WebSphere Application Server インスタンスに適用されます。

---

## SSL 証明書の作成とインストール

以降のセクションでは、WebSphere Partner Gateway で使用する SSL 証明書の作成とインストールの方法について説明します。また、SSL ハンドシェイク処理についても簡単に紹介します。コミュニティーで SSL を使用していない場合は、ハブ管理者も参加者も、インバウンドまたはアウトバウンド SSL 証明書は必要ありません。

### SSL ハンドシェイク

各 SSL セッションは、ハンドシェイクで始まります。

クライアント (参加者またはコミュニティー・マネージャー) がメッセージ交換を開始すると、以下のステップが実行されます。

1. クライアントが「client hello」メッセージを送信します。このメッセージには、クライアントの暗号機能 (SSL のバージョンなど。各機能はクライアント優先順序でソートされています)、クライアントがサポートしている暗号スイート、およびクライアントがサポートしているデータ圧縮方法がリストされています。また、メッセージには 28 バイトの乱数も含まれています。
2. サーバーが「hello done」メッセージで応答します。このメッセージには、サーバーが選択した暗号方式 (暗号スイート) とデータ圧縮方法、セッション ID、および別の乱数が記述されています。

**注:** クライアントとサーバーで、共通の暗号スイートが少なくとも 1 つサポートされている必要があります。サポートされていない場合は、ハンドシェイクが失敗します。通常は、サーバーが共通の暗号スイートの中からもっとも強度の高いものを選択します。

3. サーバーが自身のデジタル証明書を送信します。

サーバー認証はこのステップで実行されます。

4. サーバーが「digital certificate request」メッセージを送信します。「digital certificate request」メッセージでは、サーバーは、サポートしているデジタル証明書の種類、および受け入れ可能な認証局の識別名のリストを送信します。
5. サーバーは「server hello done」メッセージを送信し、クライアントからの応答を待ちます。
6. クライアントは「server hello done」メッセージを受け取って、サーバーのデジタル証明書の妥当性を検証し、サーバーの「hello」パラメーターを受け入れることができるかどうかを確認します。
7. サーバーがクライアントのデジタル証明書を要求した場合、クライアントはデジタル証明書を送信します。適切なデジタル証明書が使用可能でなければ、クライアントは「no digital certificate」アラートを送信します。このアラートは警告のみですが、クライアント認証が必須の場合には、サーバー・アプリケーションでセッションが失敗することがあります。
8. クライアントは「client key exchange」メッセージを送信します。このメッセージには、プリマスター・シークレット (対称暗号鍵の生成に使用される 46 バイトの乱数)、およびメッセージ確認コード (MAC) 鍵 (サーバーの公開鍵で暗号化済み) が記述されています。

9. デジタル証明書をサーバーに送信した場合には、クライアントは自身の秘密鍵で署名した「digital certificate verify」メッセージを送信します。このメッセージの署名を検証することによって、サーバーはクライアント・デジタル証明書の所有権を明示的に検証できます。

**注:** サーバー・デジタル証明書を検証するために、追加の処理は必要ありません。デジタル証明書に所属する秘密鍵がサーバーにない場合は、サーバーはプリマスター・シークレットの暗号化を解除できず、対称暗号化アルゴリズムの正しい鍵を生成できないため、ハンドシェイクは失敗します。

10. クライアントが一連の暗号操作を使用してプリマスター・シークレットをマスター・シークレットに変換します。暗号化とメッセージ認証に必要な鍵材料はすべて、このマスター・シークレットから派生します。次に、新たに折衝された暗号スイートにサーバーを切り替えるため、クライアントは「change cipher spec」メッセージを送信します。この次にクライアントから送信されるメッセージ（「finished」メッセージ）が、この暗号方式と鍵で暗号化された最初のメッセージになります。
11. サーバーは、自身の「change cipher spec」メッセージと「finished」メッセージで応答します。

クライアント認証にはステップ 4 (176 ページ)、7 (176 ページ)、および 9 が必要です。

SSL ハンドシェイクが終了し、暗号化されたアプリケーション・データを送信できるようになります。

## インバウンド SSL 証明書

ここでは、参加者からのインバウンド接続要求に対してサーバー認証とクライアント認証をどのように構成するかについて説明します。

### サーバー認証

WebSphere Application Server は、SSL を介して参加者からの接続要求を受信するときに、SSL 証明書を使用します。この証明書は、Receiver が参加者に対してハブを識別するために示す証明書です。このサーバー証明書は、自己署名証明書または CA が署名した証明書になります。通常、セキュリティを高めるために CA 証明書を使用します。テスト環境では、自己署名証明書を使用する可能性があります。IKEYMAN を使用して、証明書および鍵ペアを生成します。IKEYMAN の使用についての詳細は、IBM の資料を参照してください。

証明書と鍵ペアを作成した後に、すべての参加者に対してインバウンド SSL トラフィックの証明書を使用します。Receiver または Console が複数ある場合は、結果として作成された鍵ストアを各インスタンスにコピーします。証明書が自己署名である場合は、この証明書を参加者に提供します。この証明書を取得するには、IKEYMAN を使用して、ファイルに公開証明書を抽出します。

**自己署名証明書の使用:** 自己署名サーバー証明書を使用する場合は、以下の手順を実行します。

1. `/<ProductDir>/was/bin` にある IKEYMAN ユーティリティを開始します。初めて IKEYMAN を使用する場合は、鍵ストアにある「ダミー」の証明書を削除します。

2. IKEYMAN を使用して、Receiver または Console 鍵ストアの自己署名証明書および鍵ペアを生成します。
3. IKEYMAN を使用して、ご使用の公開鍵を含む証明書をファイルに抽出します。  
鍵ストアを JKS、PKCS12、JCEK のいずれかのファイルに保管します。
4. ファイルを対応する Receiver または Console 鍵ストアにインストールします。
5. 参加者に証明書を配布します。配布方法としては、証明書をパスワードで保護された ZIP ファイルにして、E メールで送信することをお勧めします。参加者は、管理者に連絡して、ZIP ファイルのパスワードを求めする必要があります。

**CA 生成証明書の使用:** CA が署名した証明書を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. `/<ProductDir>/was/bin` ディレクトリーにある IKEYMAN ユーティリティーを開始します。
2. IKEYMAN を使用して、Receiver の認証要求および鍵ペアを生成します。
3. CA に証明書署名要求 (CSR) をサブミットします。
4. CA から署名証明書を受信したら、IKEYMAN を使用して、この署名証明書を鍵ストアに配置します。
5. すべての参加者に CA 証明書を配布します。

## クライアント認証

文書を送信した参加者を認証する場合は、ここでのステップを実行します。

**クライアント証明書のインストール:** クライアント認証では、以下の手順に従います。

1. 参加者の証明書を取得します。
2. iKeyman を使用して証明書をトラストストアにインストールします。
3. 関連する CA を関連する鍵ストアに配置します。

**注:** ハブ・コミュニティにさらに参加者を追加する場合は、IKEYMAN を使用して、トラストストアにその参加者の証明書を追加します。参加者がコミュニティを出た場合は、IKEYMAN を使用して、トラストストアからその参加者の証明書を削除します。

**クライアント認証の設定:** 証明書をインストールしたら、ユーティリティー・スクリプト `bcgClientAuth.jacl` を実行して、WebSphere Application Server がクライアント認証を使用するように構成します。

1. ディレクトリー `/<ProductDir>/bin` に移動します。
2. クライアント認証を有効にするには、以下のようにスクリプトを呼び出します。

```
./bcgwsadmin.sh -f /<ProductDir>/scripts/bcgClientAuth.jacl
-conntype NONE set
```

**注:** クライアント認証を無効にするには、以下のようにスクリプトを呼び出します。

```
./bcgwsadmin.sh -f /<ProductDir>/receiver/scripts/bcgClientAuth.jacl
-conntype NONE clear
```

これらの変更内容を有効にするには、bcgreceiver サーバーを再始動する必要があります。

**クライアント証明書の検証:** SSL クライアント認証で使用できる追加機能があります。この機能を使用可能にするには、Community Console を使用します。HTTPS の場合、WebSphere Partner Gateway は、証明書をインバウンド文書のビジネス ID と照合して検査します。この機能を使用するには、参加者のプロファイルを作成し、クライアント証明書をインポートして、SSL としてフラグを立てます。

1. クライアント証明書をインポートします。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックして、参加者のプロファイルを検索します。
  - b. 「証明書」をクリックします。
  - c. 「証明書のロード」をクリックします。
  - d. 証明書のタイプとして「SSL クライアント」を選択します。
  - e. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - f. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - g. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
  - h. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
  - i. 「実動」(デフォルト)以外のゲートウェイ・タイプを選択する場合は、リストから目的のタイプを選択します。
  - j. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。
2. クライアント・ゲートウェイを更新します。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックして、参加者のプロファイルを検索します。
  - b. 「ゲートウェイ」をクリックします。
  - c. 以前に作成した HTTPS ゲートウェイを選択します。まだ HTTPS ゲートウェイを作成していない場合は、146 ページの『HTTPS ゲートウェイの設定』を参照してください。
  - d. ゲートウェイを編集するには、「編集」アイコンをクリックします。
  - e. 「SSL クライアント証明書の検証 (Validate SSL Client Certificate)」に対して、「はい」を選択します。
  - f. 「保管」をクリックします。

## アウトバウンド SSL 証明書

コミュニティで SSL を使用していない場合、インバウンドまたはアウトバウンド SSL 証明書は必要ありません。

### サーバー認証

SSL を使用して参加者にアウトバウンド文書を送信する場合、WebSphere Partner Gateway は、参加者からのサーバー・サイド証明書を要求します。複数の参加者に対して同じ CA 証明書を使用することができます。証明書は X.509 DER 形式でなければなりません。

注: フォーマットは iKeyman ユーティリティで変換できます。iKeyman を使用してフォーマットを変換するには、次のステップを実行します。

1. IKEYMAN を始動します。
2. 新規ブランク鍵ストアを作成するか、既存の鍵ストアを開きます。
3. 「鍵データベース・コンテンツ (Key Database Content)」で「署名者証明書」を選択します。
4. 「追加」オプションを使用して ARM 証明書を追加します。
5. 「抽出」オプションを使用して、バイナリー DER データと同じ証明書を抽出します。
6. iKeyman を閉じます。

参加者の自己署名証明書をハブ・オペレーター・プロファイルにインストールします。証明書がすでに CA で署名されているにもかかわらず、CA ルート証明書や証明書チェーンに所属する証明書の中にまだハブ・オペレーター・プロファイルにインストールされていないものがある場合は、それらの証明書をハブ・オペレーター・プロファイルにインストールします。

1. 「証明書」をクリックします。
2. 「証明書のロード」をクリックします。
3. 証明書のタイプとして「ルートおよび中間」を選択します。
4. 証明書の説明を入力します (必須)。
5. 「状況」を「使用可能」に変更します。
6. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
7. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
8. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

注: CA 証明書がすでにインストールされている場合には、このステップを実行する必要はありません。

## クライアント認証

SSL クライアント認証が必要な場合には、参加者がハブからの証明書を要求します。Community Console を使用して、WebSphere Partner Gateway に証明書をインポートします。iKeyman を使用すると、証明書を生成できます。証明書が自己署名証明書の場合は、この証明書を参加者に提供する必要があります。CA が署名した証明書の場合は、CA ルート証明書を参加者に渡す必要があります。これにより、参加者は、この証明書を信頼できる証明書に追加できます。

SSL 証明書は、複数持つことができます。そのうちの 1 つが、デフォルトで使用される 1 次証明書になります。他の 1 つは 2 次証明書となり、1 次証明書の有効期限が切れた場合や、他の理由で 1 次証明書を使用できない場合に使用されます。

**自己署名証明書の使用:** 自己署名証明書を使用する場合は、以下の手順を実行します。

1. IKEYMAN ユーティリティを始動します。
2. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書および鍵ペアを生成します。
3. IKEYMAN を使用して、ご使用の公開鍵を含む証明書をファイルに抽出します。

4. 参加者に証明書を配布します。配布方法としては、証明書をパスワードで保護された ZIP ファイルにして、E メールで送信することをお勧めします。参加者は、管理者に連絡して、ZIP ファイルのパスワードを求める必要があります。
5. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 ファイルの形式でエクスポートします。
6. Community Console を使用して、自己署名証明書と鍵をインストールします。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「証明書」をクリックして、「証明書リスト」ページを表示します。

ハブ・オペレーターとして Community Console にログインしてください。

- b. 「PKCS12 のロード」をクリックします。

注: アップロードされる PKCS12 ファイルには、秘密鍵が 1 つだけと、それに関連する証明書が含まれている必要があります。

- c. 証明書のタイプとして「SSL クライアント」を選択します。
  - d. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - e. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - f. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
  - g. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
  - h. パスワードを入力します。
  - i. 「実動」(デフォルト)以外のゲートウェイ・タイプを選択する場合は、リストから目的のタイプを選択します。
  - j. SSL 証明書が 2 つある場合は、「証明書の使用法」リストから「1 次」または「2 次」を選択して、証明書が 1 次証明書なのか 2 次証明書なのかを指定します。
  - k. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

SSL クライアント認証とデジタル署名の両方の 1 次証明書と 2 次証明書をアップロードし、さらに 1 次証明書を 2 つの異なるエントリーとしてアップロードする場合は、対応する 2 次証明書を 2 つの異なるエントリーとしてアップロードしてください。

**CA が署名した証明書の使用:** CA が署名した証明書を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. IKEYMAN を使用して、Receiver の認証要求および鍵ペアを生成します。
2. CA に証明書署名要求 (CSR) をサブミットします。
3. CA から署名証明書を受信したら、IKEYMAN を使用して、この署名証明書を鍵ストアに配置します。
4. すべての参加者に署名 CA 証明書を配布します。

## 証明書失効リスト (CRL) の追加

WebSphere Partner Gateway には、証明書失効リスト (CRL) 機能があります。認証局 (CA) が発行する CRL は、スケジュールされていた有効期限よりも前に失効した証明書を持つ参加者を識別します。失効した証明書を持つ参加者は、WebSphere Partner Gateway へのアクセスを拒否されます。

各失効証明書は、CRL で証明書シリアル番号によって識別されます。Document Manager は、60 秒ごとに CRL をスキャンし、CRL リストに含まれている証明書を拒否します。

CRL は、`<shared_data_directory>/security/crl` に保管されます。WebSphere Partner Gateway では、`bcg.properties` ファイルの設定 `bcg.CRLDir` を使用して、CRL ディレクトリーの場所を識別しています。

失効証明書を含む `.crl` ファイルを作成し、このファイルを CRL ディレクトリーに配置します。

例えば、`bcg.properties` ファイルで次の設定を使用するとします。

```
bcg.CRLDir=<shared_data_directory>/security/crl
```

## CRL 配布ポイントへのアクセスの使用可能化

CA は CRL を保守および更新します。これらの CRL は、通常、CRL 配布ポイントに保管されます。CRL は、証明書を取り消すかどうかを決めるため、証明書の取り消し検査中に使用されます。

`bcgSetCRLDP.jacl` スクリプトを使用して、取り消し検査の実行時に CRL 配布ポイント検査を使用可能または使用不可にすることができます。証明書の取り消し検査の実行時に CRL 配布ポイントにアクセスする必要がある場合は、CRL 配布ポイントを使用可能にします。インストールした証明書に CRL DP 拡張が含まれている場合は、取り消し検査の実行時に CRL 配布ポイントにアクセスするよう CRL 配布ポイントを使用可能にできます。プロパティ `bcg.CRLDir` の `bcg.properties` 内のディレクトリー・セットに必要な CRL をすべてダウンロードした場合、CRL 配布ポイントを使用可能にする必要はありません。現在の CRL を `bcg.CRLDir` ディレクトリーで使用できない可能性がある場合は、CRL 配布ポイントを使用可能にする必要があります。

HTTP および LDAP を介してアクセスできる CRL 配布ポイントは、サポートされます。CRL 配布ポイントにアクセスするプロキシを構成することもできます。

注: Windows インストールの場合は、このセクションのコマンド・リストにある `./bcgwsadmin.sh` の代わりに `bcgwsadmin.bat` を使用します。

CRL 配布ポイントを使用可能にするには、`<ProductDir>/bin` ディレクトリーから次のコマンドを実行します。

```
./bcgwsadmin.sh -f <ProductDir>/scripts/bcgSetCRLDP.jacl install
<nodename> <serverName> CRLDP
```

コマンドについて次に説明します。

`<server_root>`

サーバーのルート・ディレクトリー (例えば、`/opt/ibm/receiver/was/profiles/bcgreceiver`)

`<serverName>`

`bcgdocmgr`、`bcgreceiver`、または `bcgconsole` を指定できます。コマンドは、対応する `<server_root>` から実行する必要があります。

CRL 配布ポイントを使用不可にするには、<ProductDir>/bin ディレクトリーから次のコマンドを実行します。

```
./bcgwsadmin.sh -f <ProductDir>/scripts/bcgSetCRLDP.jacl uninstall
<nodename> <serverName> CRLDP
```

プロキシー付きで CRL 配布ポイントを使用可能にするには、<ProductDir>/bin ディレクトリーから次のコマンドを実行します。

```
./bcgwsadmin.sh -f <ProductDir>/scripts/bcgSetCRLDP.jacl install
<nodename> <serverName> CRLDP <proxyHost> <proxyPort>
```

プロキシーを使用しないよう指定するには、<ProductDir>/bin ディレクトリーから次のコマンドを実行します。

```
./bcgwsadmin.sh -f <ProductDir>/scripts/bcgSetCRLDP.jacl
uninstall <nodename> <serverName> PROXY
```

受信側ユーザー出口を使用しているときに、ユーザー出口が SecurityService API を使用している場合は、上記の設定を bcgreceiver サーバーにも適用できます。上記のコマンドを Receiver に対して実行するには、bcgdocmgr を bcgreceiver に置換します。

---

## シグニチャー証明書の作成とインストール

ここでは、否認防止および署名者の検証に使用されるシグニチャー証明書について説明します。

### インバウンドのシグニチャー証明書

Document Manager は、文書を受信すると、参加者の署名証明書を使用して、送信者の署名を確認します。参加者は、自己署名証明書を X.509 DER 形式で管理者に送信します。管理者は、Community Console を使用して、参加者の証明書をそれぞれの参加者のプロファイルにインストールします。

証明書をインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 参加者の X.509 シグニチャー証明書を DER 形式で受信します。
2. Community Console を使用して、証明書を参加者のプロファイルにインストールします。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックして、参加者のプロファイルを検索します。
  - b. 「証明書」をクリックします。
  - c. 「証明書のロード」をクリックします。
  - d. 証明書のタイプとして「デジタル署名」を選択します。
  - e. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - f. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - g. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
  - h. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
  - i. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

3. 証明書がすでに CA で署名されているにもかかわらず、CA ルート証明書や証明書チェーンに所属する証明書の中にまだハブ・オペレーター・プロファイルにインストールされていないものがある場合は、ここでそれらの証明書をインストールします。

- a. 「**アカウント管理**」>「**プロファイル**」>「**証明書**」をクリックして、「**証明書リスト**」ページを表示します。

Community Console にハブ・オペレーターとしてログインし、証明書を自分のプロファイルにインストールしてください。

- b. 「**証明書のロード**」をクリックします。
- c. 「**ルートおよび中間**」を選択します。
- d. 証明書の説明を入力します (必須)。
- e. 「**状況**」を「**使用可能**」に変更します。
- f. 「**参照**」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
- g. 証明書を選択し、「**オープン**」をクリックします。
- h. 「**アップロード**」をクリックし、次に「**保管**」をクリックします。

注: CA 証明書がすでにインストールされている場合は、このステップを実行する必要がありません。

4. パッケージ (最も高いレベル)、参加者、または接続レベル (最も低いレベル) で署名を使用可能にします。この設定により、接続レベルの他の設定をオーバーライドできます。必要な属性が欠落している場合は、接続の要約によって通知されます。

例えば、参加者接続の属性を変更するには、「**アカウント管理**」>「**参加者の接続**」をクリックし、参加者を選択します。「**属性**」をクリックし、属性を編集します (「**AS 署名済み**」など)。

## アウトバウンド署名証明書

Document Manager は、参加者にアウトバウンド署名文書を送信するときにこの証明書を使用します。すべてのポートおよびプロトコルに対して同じ証明書および鍵が使用されます。

デジタル署名証明書は、複数持つことができます。そのうちの 1 つが、デフォルトで使用される 1 次証明書になります。他の 1 つは 2 次証明書となり、1 次証明書の有効期限が切れた場合や、他の理由で 1 次証明書を使用できない場合に使用されます。

### 自己署名証明書の使用

自己署名証明書を使用する場合は、以下の手順を実行します。

1. IKEYMAN ユーティリティーを始動します。
2. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書および鍵ペアを生成します。
3. IKEYMAN を使用して、ご使用の公開鍵を含む証明書をファイルに抽出します。
4. 参加者に証明書を配布します。配布方法としては、証明書をパスワードで保護された ZIP ファイルにして、E メールで送信することをお勧めします。参加者は、管理者に連絡して、ZIP ファイルのパスワードを求めする必要があります。

5. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 ファイルの形式でエクスポートします。
6. Community Console を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 ファイルの形式でエクスポートします。

- a. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「証明書」をクリックして、「証明書リスト」ページを表示します。

ハブ・オペレーターとして Community Console にログインしてください。

- b. 「PKCS12 のロード」をクリックします。

注:

- 1) アップロードされる PKCS12 ファイルには、秘密鍵が 1 つだけと、それに関連する証明書が含まれている必要があります。
  - 2) 証明書と秘密鍵を DER エンコード証明書および PKCS#8 エンコード秘密鍵としてアップロードすることもできます。
- c. 証明書のタイプとして「デジタル署名」を選択します。
  - d. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - e. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - f. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
  - g. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
  - h. パスワードを入力します。
  - i. デジタル署名証明書が 2 つある場合は、「証明書の使用」リストから「1次」または「2次」を選択して、証明書が 1 次証明書なのか 2 次証明書なのかを指定します。
  - j. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。
7. 参加者がもう 1 つ署名証明書を持っている場合には、ステップ 6 を繰り返します。

SSL クライアント認証とデジタル署名の両方の 1 次証明書と 2 次証明書をアップロードし、さらに 1 次証明書を 2 つの異なるエントリーとしてアップロードする場合は、対応する 2 次証明書を 2 つの異なるエントリーとしてアップロードしてください。

## CA が署名した証明書の使用

CA が署名した証明書を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. IKEYMAN ユーティリティーを始動します。
2. IKEYMAN を使用して、Receiver の認証要求および鍵ペアを生成します。
3. CA に証明書署名要求 (CSR) をサブミットします。
4. CA から署名証明書を受信したら、IKEYMAN を使用して、この署名証明書を鍵ストアに配置します。
5. すべての参加者に署名 CA 証明書を配布します。

---

## 暗号化証明書の作成とインストール

ここでは、暗号化証明書について説明します。

## インバウンド暗号化証明書

この証明書は、ハブが参加者から受信した暗号化ファイルの暗号化を解除するとき  
に使用されます。ハブでは、秘密鍵を使用して、文書の暗号化を解除します。暗号  
化によって、送信者と目的の受信者以外は、転送中の文書を参照することができま  
せん。

暗号化された AS2 メッセージを参加者から受信するときには、次の重要な制限に注  
意してください。参加者が暗号化された AS2 メッセージを送信するときに間違った  
証明書を使用した場合は、暗号化解除が失敗します。ただし、MDN が返されない  
ため、参加者は暗号化解除が失敗したことを知ることができます。こうした状態の  
ときに参加者が MDN を受信できるようにするには、以下の文書フロー定義で参加  
者への接続を作成します。

- パッケージ: AS
- プロトコル: バイナリー
- 文書フロー: バイナリー

### 自己署名証明書の使用

自己署名証明書を使用する場合は、以下の手順を実行します。

1. IKEYMAN ユーティリティを始動します。
2. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書および鍵ペアを生成します。
3. IKEYMAN を使用して、ご使用の公開鍵を含む証明書をファイルに抽出します。
4. 参加者に証明書を配布します。参加者は、このファイルを暗号化証明書として使  
用するために、B2B 製品にインポートする必要があります。暗号化されたファ  
イルを Community Manager に送信する際はこのファイルを使用するよう参加者  
に助言してください。CA で署名された証明書の場合は、CA 証明書も提供しま  
す。
5. IKEYMAN を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 ファイルの  
形式で保管します。
6. Community Console を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 フ  
ァイルの形式でエクスポートします。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「証明書」をクリックして、「証明  
書リスト」ページを表示します。

ハブ・オペレーターとして Community Console にログインしてください。

- b. 「PKCS12 のロード」をクリックします。

注:

- 1) アップロードされる PKCS12 ファイルには、秘密鍵が 1 つだけと、それ  
に関連する証明書が含まれている必要があります。
  - 2) 証明書と秘密鍵を DER エンコード証明書および PKCS#8 エンコード秘  
密鍵としてアップロードすることもできます。
- c. 証明書のタイプとして「暗号化」を選択します。
  - d. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - e. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - f. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。

- g. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
  - h. パスワードを入力します。
  - i. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。
7. パッケージ (最も高いレベル)、参加者、または接続レベル (最も低いレベル) で暗号化を使用可能にします。この設定により、接続レベルの他の設定をオーバーライドできます。必要な属性が欠落している場合は、接続の要約によって通知されます。

例えば、参加者接続の属性を変更するには、「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックし、参加者を選択します。「属性」をクリックし、属性を編集します (「AS 暗号化」など)。

## CA が署名した証明書の使用

CA が署名した証明書を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. IKEYMAN ユーティリティを始動します。
2. IKEYMAN を使用して、Receiver の認証要求および鍵ペアを生成します。
3. CA に証明書署名要求 (CSR) をサブミットします。
4. CA から署名証明書を受信したら、IKEYMAN を使用して、この署名証明書を鍵ストアに配置します。
5. すべての参加者に署名 CA 証明書を配布します。

## アウトバウンド暗号化証明書

アウトバウンド暗号化証明書は、ハブが参加者に暗号化された文書を送信するときに使用されます。WebSphere Partner Gateway が、参加者の公開鍵を使用して文書を暗号化し、参加者が、自分の秘密鍵を使用して文書を暗号化解除します。

参加者は、暗号化証明書を複数持つことができます。そのうちの 1 つが、デフォルトで使用される 1 次証明書になります。他の 1 つは 2 次証明書となり、1 次証明書の有効期限が切れた場合や、他の理由で 1 次証明書を使用できない場合に使用されます。

1. 参加者の暗号化証明書を取得します。証明書は X.509 DER 形式でなければなりません。WebSphere Partner Gateway でサポートされているのは、X5.09 証明書のみであることに注意してください。
2. Community Console を使用して、証明書を参加者のプロファイルにインストールします。
  - a. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックして、参加者のプロファイルを検索します。
  - b. 「証明書」をクリックします。
  - c. 「証明書のロード」をクリックします。
  - d. 証明書のタイプとして「暗号化」を選択します。
  - e. 証明書の説明を入力します (必須)。
  - f. 「状況」を「使用可能」に変更します。
  - g. 「参照」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
  - h. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。

- i. 参加者が暗号化証明書を 2 つ持っている場合には、「**証明書の使用法**」リストから「**1 次**」または「**2 次**」を選択して、証明書が 1 次証明書なのか 2 次証明書なのかを指定します。
  - j. 「**アップロード**」をクリックし、次に「**保管**」をクリックします。
3. 参加者がもう 1 つ暗号化証明書を持っている場合には、ステップ 2 (187 ページ) を繰り返します。
  4. 証明書がすでに CA で署名されているにもかかわらず、CA ルート証明書や証明書チェーンに所属する証明書の中にまだハブ・オペレーター・プロファイルにインストールされていないものがある場合は、ここでそれらの証明書をインストールします。
    - a. 「**アカウント管理**」>「**プロファイル**」>「**証明書**」をクリックして、「**証明書リスト**」ページを表示します。

Community Console にハブ・オペレーターとしてログインし、証明書を自分のプロファイルにインストールしてください。

- b. 「**証明書のロード**」をクリックします。
- c. 「**ルートおよび中間**」を選択します。
- d. 証明書の説明を入力します (必須)。
- e. 「**状況**」を「**使用可能**」に変更します。
- f. 「**参照**」をクリックし、証明書の保管先のディレクトリーに移動します。
- g. 証明書を選択し、「**オープン**」をクリックします。
- h. 「**アップロード**」をクリックし、次に「**保管**」をクリックします。

**注:** CA 証明書がすでにインストールされている場合は、このステップを実行する必要がありません。

5. パッケージ (最も高いレベル)、参加者、または接続レベル (最も低いレベル) で暗号化を使用可能にします。この設定により、接続レベルの他の設定をオーバーライドできます。必要な属性が欠落している場合は、接続の要約によって通知されます。

例えば、参加者接続の属性を変更するには、「**アカウント管理**」>「**参加者の接続**」をクリックし、参加者を選択します。「**属性**」をクリックし、属性を編集します (「**AS 暗号化**」など)。

エラー・メッセージ「有効な暗号化証明書が見つかりません」が表示された場合は、1 次証明書も 2 次証明書も有効ではありません。証明書は、有効期限が切れているか、失効している可能性があります。証明書の有効期限が切れている場合や失効している場合は、イベント・ビューアーに、対応するイベント (「**証明書が失効しているか有効期限が切れています (Certificate revoked or expired)**」) も表示されます。これら 2 つのイベントは、その他のイベントによって分離される場合があります。イベント・ビューアーを表示するには、「**ビューアー**」>「**イベント・ビューアー**」の順にクリックします。

---

## Console および Receiver でのインバウンド SSL の構成

WebSphere Partner Gateway 鍵ストアは、WebSphere Application Server にあらかじめ構成されています。このセクションは、別の鍵ストアを使用する場合にのみ適用されます。

WebSphere Partner Gateway の Console および Receiver に対して SSL を構成するには、以下の手順に従います。

1. 以下の情報を取得します。

- 鍵ファイルおよび信頼ファイルの絶対パス名。例えば、Receiver の場合は、以下ようになります。`<ProductDir>/common/security/keystore/receiver.jks` および `<ProductDir>/common/security/keystore/receiverTrust.jks`

これらの名前は正確に入力してください。UNIX 環境では、これらの名前は大文字と小文字が区別されます。

- 各ファイルの新規パスワード。
  - 各ファイルの形式。JKS、JCEK、または PKCS12 のいずれかの値を選択する必要があります。この値は、大文字で表示されているとおりに入力してください。
  - スクリプト・ファイル `bcgssl.jacl` のパス。
2. 「Community Console」ウィンドウを開き、`/<ProductDir>/bin` に移動します。パスワードは、サーバーが稼働していない場合でも変更できます。
3. 以下のコマンドを入力します。<> で囲まれた値は適切な値に置き換えてください。すべての値を入力する必要があります。

```
./bcgwsadmin.sh -f /<ProductDir>/
scripts/bcgssl.jacl -conntype NONE install
<keyFile_pathname>
<keyFile_password> <keyFile_format> <trustFile_pathname>
<trustFile_password> <trustFile_format>
```

4. サーバーを始動します。サーバーの始動に失敗した場合は、`bcgssl.jacl` の実行時のエラーが原因である可能性があります。間違えた場合は、スクリプトに戻って修正します。
5. `bcgClientAuth.jacl` を使用して `clientAuthentication` SSL プロパティを設定した場合は、`bcgssl.jacl` を使用した後に `clientAuthentication` をリセットします。これは、`bcgssl.jacl` がクライアント認証に対して設定された値を偽の値で上書きしてしまうためです。

注: Console に対してこれらのステップを繰り返します。パス名の **receiver** は、**console** に置き換えてください。

---

## 証明書の概要

190 ページの表 18 に、WebSphere Partner Gateway で証明書を使用する方法を要約します。証明書のロケーションは括弧 ( ) で示されています。

表 18. 証明書要約情報

メッセージ配信方法 (注 1 を参照)	ハブ・オペレーター証明書	参加者から証明書と CA を取得	CA (注 2 を参照)	証明書を参加者に提供 (注 3 を参照)	コメント
インバウンド SSL	WebSphere Application サーバー側 SSL でインストール。 (WebSphere Application Server 鍵ストアに置きます。)	なし	クライアント認証が使用されている場合のみ必要です。(CA または自己署名証明書を WebSphere Application Server トラストストアに置きます。)	自己署名の場合はハブ・オペレーター証明書、CA 認証の場合は CA ルート証明書。	
アウトバウンド SSL	クライアント認証が使用されている場合。(WebSphere Partner Gateway)	参加者のサーバー側証明書または CA 認証の場合は CA ルート証明書。	WebSphere Partner Gateway	自己署名の場合はハブ・オペレーター証明書、サード・パーティーによって署名されている場合は公開鍵。	
インバウンド暗号化	秘密鍵 (WebSphere Partner Gateway)	なし	なし	ハブ・オペレーター証明書	メッセージの暗号化解除用
インバウンド署名	なし	デジタル署名に使用する証明書の検証用の証明書。 (WebSphere Partner Gateway)	WebSphere Partner Gateway	なし	検証および否認防止用
アウトバウンド暗号化	なし	参加者から取得した証明書を使用します。(証明書は参加者のプロフィールにインストールされます)	自己署名でない場合は、クライアント証明書用の CA	なし	アウトバウンド・メッセージの暗号化用
アウトバウンド署名	秘密鍵 (WebSphere Partner Gateway)	なし	なし	パートナーによってはオプションです。WebSphere Partner Gateway 公開鍵を提供します。	
DUNS 検証への証明書	なし	参加者プロフィールにロード	CA 証明書 (左側の列にある証明書) と同じ証明書をハブ・オペレーター・プロフィールにロード		SSL 検査の実行時にこの証明書がこの DUNS ID 用であることを確認します。

**注:**

1. インバウンド・メッセージは、参加者から WebSphere Partner Gateway に着信するメッセージです。アウトバウンド・メッセージは、WebSphere Partner Gateway から参加者へ発信されるメッセージです。
2. 証明書が CA 発行である場合は、発行される CA 証明書を取得し保管する必要があります。これは、ハブ・オペレーター証明書または参加者の証明書に適用されます。
3. 秘密鍵が含まれている場合、この証明書は秘密鍵に対応しています。



---

## 第 14 章 構成の終了

ここでは、ハブの構成時に実行できるその他のタスクについて説明します。以下のトピックを扱います。

- 『API の使用可能化』
- 『イベント用に使用するキューの指定』
- 195 ページの『アラート可能イベントの指定』
- 195 ページの『ユーザー定義のトランスポートの更新』

---

### API の使用可能化

WebSphere Partner Gateway に用意されている一連の API を使用すると、Community Console で一般に実行される各種機能にアクセスすることができます。これらの API については、「プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

XML ベースの API を使用可能にすると、参加者が WebSphere Partner Gateway サーバーへの API 呼び出しを実行できるようになります。そのためには、以下の手順を実行します。

1. メインメニューから、「システム管理」>「機能の管理」>「管理 API」をクリックします。
2. 「XML ベースの API の使用可能化」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
3. XML ベースの API を使用可能にするチェック・ボックスを選択します。
4. 「保管」をクリックします。

---

### イベント用に使用するキューの指定

JMS 構成を使用して構成された外部キューにイベントを送達するよう、ハブを構成することができます。

デフォルトの JMS 構成は、ハブのインストール時に設定されます。これらの値の一部は、「イベント・パブリッシュ・プロパティ」ページで確認できます。「プロバイダー URL パッケージ」フィールドまたは「JMS プロバイダー URL」フィールドに値を指定しなかった場合は、bcg.properties ファイルの MQ Properties セクションにあるデフォルトが使用されます。このデフォルトは、インストール時に生成された JMS バインディングを使用します。デフォルトを使用する場合、JMS バインディングは、インストール時に指定した MQ サーバーのポート 9999 を使用します。

JMS バインディングの別のセットを指すには、自分で作成した JMS バインディング・ファイルを含むディレクトリを指すように、「プロバイダー URL パッケージ」を変更します。また、「キュー接続ファクトリー」の名前および「キュー名」も、JMS バインディングで選択した名前と一致するように変更します。この変更

は、インストール時に指定した MQ サーバーとは異なる MQ サーバーのキューにイベントをパブリッシュする場合に行います。

API イベントの送達先を指定するには、以下のステップを実行します。

1. メインメニューから、「システム管理」>「イベント処理」>「イベント送達情報」をクリックします。
2. 「イベント送達の使用可能化」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
3. 「イベント送達の使用可能化」チェック・ボックスにチェック・マークを付け、イベントのパブリッシュをアクティブにします。
4. デフォルト値がご使用のシステムに対して適切である場合は、そのままにしておきます。デフォルト値は、インストール時に構成した JMS サーバーで提供されるキュー DeliveryQ へのイベント送達をサポートします。

イベントの送達先を変更する場合は、以下の情報を参照しながらフィールドを更新します。

- キューにアクセスするときにユーザー ID とパスワードが必要な場合は、「ユーザー ID」および「パスワード」の値を入力します。
- 「JMS キュー・ファクトリー名」に、使用している JMS .bindings ファイルの JMS キュー接続ファクトリーの名前を入力します。

注: Windows のバージョン (XP 以前) によっては、デフォルトのイベント送達機能を使用する場合に、「JMS キュー・ファクトリー名」フィールドのデフォルト値を変更する必要があります。「JMS キュー・ファクトリー名」の値を WBIC/QCF から WBIC¥¥QCF へ変更します。

- 「JMS メッセージ・タイプ」に、送達されるメッセージのタイプを入力します。選択項目は、バイトまたはテキストです。
- 「JMS キュー名」に、イベントがパブリッシュされる JMS キューの名前を入力します。このキューは、WebSphere MQ で使用している JMS .bindings ファイルにすでに定義されている必要があります。

注: Windows のバージョン (XP 以前) によっては、デフォルトのイベント送達機能を使用する場合に、「JMS キュー名」フィールドのデフォルト値を変更する必要があります。「JMS キュー名」の値を WBIC/DeliveryQ から WBIC¥¥DeliveryQ. WBIC/QCF へ変更します。

- 「JNDI ファクトリー名」に、.bindings ファイルにアクセスするときに使用する名前を入力します。デフォルト値は、ファイル・システムのデフォルトのバインディングへのアクセスを提供します。
- 「プロバイダー URL パッケージ」に、JMS バインディング・ファイルにアクセスするための URL を入力します。この URL は、「JNDI ファクトリー名」と整合している必要があります。このフィールドはオプションであり、入力しなかった場合は、JMS バインディングのデフォルトのファイル・システム・ロケーションが使用されます。
- 「メッセージの文字セット」に、JMS キューに対するバイト・メッセージを作成するときに使用される文字セットを入力します。デフォルト値は、UTF-8 です。このフィールドは、バイト・メッセージにのみ関連します。

- 「JMS プロバイダー URL」に、JMS プロバイダーの URL を入力します。  
このフィールドはオプションであり、入力しなかった場合は、インストール時に指定されたデフォルトの JMS プロバイダーが使用されます。
5. 「保管」をクリックします。

---

## アラート可能イベントの指定

WebSphere Partner Gateway 内でイベントが発生すると、イベント・コードが生成されます。「イベント・コード」ページでは、イベント・コードのアラート可能状況を設定することができます。イベントがアラート可能として設定されると、「アラート」ページの「イベント名」リストにそのイベントが表示されます。この後、イベントのアラートを設定することができます。

アラート可能にするイベントを指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「イベント・コード」をクリックします。  
  
「イベント・コード」ページが表示されます。
2. アラート可能にするイベントごとに、以下のステップを実行します。
  - a. イベント・コードの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。  
「イベント・コードの詳細」ページが表示されます。
  - b. 「アラート可能 (Alertable)」を選択します。
  - c. 「保管」をクリックします。

---

## ユーザー定義のトランスポートの更新

『第 5 章 ターゲットの定義』および 141 ページの『第 10 章 ゲートウェイの作成』で説明されているように、ユーザー定義のトランスポートが記述されている XML ファイルをアップロードすることができます。「トランスポート・タイプの管理」を使用してファイルをアップロードします。XML ファイルをアップロードすると、トランスポートが使用可能になり、ターゲットやゲートウェイを定義するときに使用できます。

ユーザー定義のトランスポートが記述されている XML ファイルには、トランスポートの属性が含まれています。これらの属性は、ユーザー定義のトランスポートを指定するときに、ターゲットまたはゲートウェイのページに表示されます（「カスタム・トランスポート属性」セクション）。例えば、ゲートウェイ用のユーザー定義のトランスポートには、属性 `GatewayRetryCount` が含まれています。

トランスポートが記述された XML ファイルを作成したユーザーは、(属性の追加、削除、または変更を行うことによって) 属性を更新できます。XML ファイルが変更された場合は、再び「トランスポート・タイプの管理」を使用してファイルをアップロードします。属性に対する変更は、ゲートウェイまたはターゲットのページに反映されます。



---

## 付録 A. 基本的な例

この付録では、ハブの構成例を示します。以下のトピックを扱います。

- 『基本構成 - パススルー EDI 文書の交換』
- 204 ページの『基本構成 - インバウンドおよびアウトバウンド文書のセキュリティー設定』
- 209 ページの『基本構成の拡張』

エンベロープ解除、変換、エンベロープ化、および機能肯定応答の送信を含む EDI 交換処理の例は、別の付録に記載されています。217 ページの『付録 B. EDI の例』を参照してください。

これらの例では、システムの構成に必要なステップの概要を示します。これらの例を使用してシステムをセットアップする場合は、業務上の必要に合わせて特定の情報 (名前やビジネス ID など) を変更してください。

---

### 基本構成 - パススルー EDI 文書の交換

ここでは、単純なハブ構成の例を示します。定義されるターゲットは、参加者からハブに着信する文書用と、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・システムからハブに着信する文書用の 2 つです。この例で設定される交換処理では、WebSphere Partner Gateway に用意されている文書フロー定義を使用するため、これらのフローを基に対話を作成するだけで済みます。カスタム XML は、ここでは使用しません。

この例は、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションとコミュニティー参加者 (Partner Two) との間の交換処理を示しています。

### ハブの構成

ハブの設定では、まず 2 つのターゲットを作成します。

- 「HttpTarget」という名前の HTTP ターゲット: (Partner Two から) HTTP を介してコミュニティー・マネージャーのバックエンド・システムへ送信される文書を受信します。
- 「FileSystemTarget」という名前のファイル・ディレクトリー・ターゲット: Partner Two に送信される文書を (コミュニティー・マネージャーのバックエンド・システムの) ファイル・システムから取り出します。

### ターゲットの定義

HTTP による文書の受取用のターゲットを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」> 「ハブ構成」> 「ターゲット」をクリックします。
2. 「ターゲットの作成」をクリックします。
3. 「ターゲット名」に **HttpTarget** と入力します。
4. 「トランスポート」リストから「**HTTP/S**」を選択します。

5. 「ゲートウェイ・タイプ」には、デフォルトの「**実動**」を使用します。
6. 「URI」に `/bcgreceiver/submit` と入力します。
7. 「**保管**」をクリックします。

次に、ファイル・システム上のディレクトリーをポーリングするためのターゲットを作成します。ターゲットを作成すると、ファイル・システム上に新規ディレクトリーが自動的に作成されます。

ファイル・システム・ターゲットを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**ターゲット**」をクリックします。
2. 「**ターゲットの作成**」をクリックします。
3. 「ターゲット名」に **FileSystemTarget** と入力します。
4. 「トランスポート」リストから「**ファイル・ディレクトリー**」を選択します。
5. 「デフォルト・ゲートウェイ・タイプ」には、デフォルトの「**実動**」を使用します。
6. 「文書ルート・パス」に `¥temp¥FileSystemTarget` と入力します。

**注:** これにより、temp ディレクトリー内に FileSystemTarget ディレクトリーが作成されます。ファイル・システム上に temp ディレクトリーがあることを確認してください。

7. 「**保管**」をクリックします。

## 文書フローおよび対話の定義

この例では、EDI-X12 標準に準拠した文書の交換処理を設定します。この例では、文書は単純にハブを経由して渡されます。EDI 交換処理のエンベロープ解除は行われず、変換は発生しません。交換処理のエンベロープ解除、トランザクションの変換、および肯定応答の送信の例については、217 ページの『付録 B. EDI の例』を参照してください。

このセクションでは、以下の交換処理について説明します。

- パッケージ化なしでの、コミュニティー・マネージャーから Partner Two への EDI-X12 文書の送信。
- AS2 でパッケージ化された、Partner Two からコミュニティー・マネージャーへの EDI-X12 文書の送信。

パッケージ化とプロトコルが含まれているため、文書フロー定義を新規作成する必要はありません。パッケージ、プロトコル、文書フローは、システムで事前に定義されているものを使用します。

ただし、これらの事前定義された文書フローに基づいて、対話を定義する必要があります。

まず、1 つ目の対話 (ソースがパッケージ化なしの EDI-X12 標準準拠の ISA 形式文書で、ターゲットが AS でパッケージ化された EDI-X12 標準準拠の ISA 形式文書) を作成します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**文書フロー定義**」の順にクリックします。
2. 「**対話の管理**」をクリックし、次に「**対話の作成**」をクリックします。

3. 「ソース」列から、以下のように展開します。
  - a. パッケージ: なし
  - b. プロトコル: EDI-X12
4. 「文書フロー: ISA」をクリックします。
5. 「ターゲット」列から、以下のように展開します。
  - a. パッケージ: AS
  - b. プロトコル: EDI-X12
6. 「文書フロー: ISA」をクリックします。
7. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
8. 「保管」をクリックします。

次に、2 つ目の対話 (ソース形式が AS でパッケージ化された EDI-X12 標準準拠の ISA 形式文書で、ターゲット形式がパッケージ化なしの EDI-X12 標準準拠の ISA 形式文書) を作成します。

1. 「対話の作成」をクリックします。
2. 「ソース」列から、以下のように展開します。
  - a. パッケージ: AS
  - b. プロトコル: EDI-X12
3. 「文書フロー: ISA」をクリックします。
4. 「ターゲット」列から、以下のように展開します。
  - a. パッケージ: なし
  - b. プロトコル: EDI-X12
5. 「文書フロー: ISA」をクリックします。
6. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

## 参加者および参加者接続の作成

ここでは、外部参加者とコミュニティー・マネージャーを作成します。参加者用のゲートウェイには標準のトランスポートが組み込まれており、ゲートウェイ用の構成ポイントは定義されていません。

### 参加者の作成

新規の参加者を 2 件作成します。コミュニティー・マネージャーを定義するには、以下のステップを実行します。

1. メインメニューから、「アカウント管理」をクリックします。「参加者の検索」ページがデフォルトのビューになります。
2. 「作成」をクリックします。
3. 「会社ログイン名」に **CommMan** と入力します。
4. 「参加者表示名」に **Comm Man** と入力します。
5. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー・マネージャー」を選択します。
6. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。
7. 「タイプ」を「DUNS」のままにして、ID 値 **123456789** を入力します。

注: この例および本書全体を通して、DUNS 番号はすべて例として示されています。

8. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。
9. 「Freeform」を選択して、ID 値 **12-3456789** を入力します。
10. 「保管」をクリックします。

Partner Two を定義するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. 「会社ログイン名」に **partnerTwo** と入力します。
4. 「参加者表示名」に **Partner Two** と入力します。
5. 「参加者タイプ」で、「コミュニティ参加者」を選択します。
6. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。
7. 「タイプ」を「DUNS」のままにして、ID 値 **987654321** を入力します。
8. 「ビジネス ID」の下の「新規」をクリックします。
9. 「Freeform」を選択して、ID 値 **98-7654321** を入力します。
10. 「保管」をクリックします。

これで、ハブに対してコミュニティ・マネージャーと Partner Two の両方が定義されました。

次に、コミュニティ・マネージャーと Partner Two の両方のゲートウェイを構成します。

## ゲートウェイの作成

コミュニティ・マネージャーのファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成する前に、このゲートウェイで使用するディレクトリー構造を作成する必要があります。ここでは、ルート・ドライブに `FileSystemGateway` というディレクトリーを新規作成します。このディレクトリーは、コミュニティ・マネージャーが参加者から受信したファイルを格納するのに使用します。

コミュニティ・マネージャーの場合、ゲートウェイがバックエンド・システムへの入り口点となります。

コミュニティ・マネージャーのゲートウェイを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「Comm Man」を選択します。
4. 水平ナビゲーション・バーから「ゲートウェイ」をクリックします。
5. 「作成」をクリックします。
6. 「ゲートウェイ名」に **FileSystemGateway** と入力します。
7. 「トランスポート」で、「ファイル・ディレクトリー」を選択します。

8. 「アドレス」に **file://C:¥FileSystemGateway** と入力します。
9. 「保管」をクリックします。

次に、新規作成したこのゲートウェイをコミュニティー・マネージャーのデフォルト・ゲートウェイとして設定します。

1. 「リスト」をクリックし、コミュニティー・マネージャー用に構成されたゲートウェイをすべて表示します。
2. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
3. 「実動」リストから「**FileSystemGateway**」を選択します。
4. 「保管」をクリックします。

Partner Two のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックし、次に「詳細の表示」アイコンをクリックして「**Partner Two**」を選択します。
3. 水平ナビゲーション・バーから「ゲートウェイ」をクリックします。
4. 「作成」をクリックします。
5. 「ゲートウェイ名」に **HttpGateway** と入力します。
6. 「トランスポート」で、「**HTTP/1.1**」を選択します。
7. 「アドレス」に **http://<IP\_address>:80/input/AS2** と入力します。ここで、<IP\_address> は Partner Two のコンピューターを表します。
8. 「ユーザー名」に **Comm Man** と入力します。
9. 「パスワード」に **commMan** と入力します。
10. 「保管」をクリックします。

この例の Partner Two では、参加者がシステムにログインする際にユーザー名とパスワードが必要となる点に注意してください。

この参加者に対しても、デフォルト・ゲートウェイを定義する必要があります。

1. 「リスト」をクリックし、次に「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
2. 「実動」リストから「**HttpGateway**」を選択します。
3. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の設定

次に、コミュニティー・マネージャーの B2B 機能を定義します。

1. メインメニューから、「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「**Comm Man**」を選択します。
4. 水平ナビゲーション・バーから「**B2B 機能**」をクリックします。
5. 以下のステップを実行して、「パッケージ: なし」、「プロトコル: EDI-X12」、および「文書フロー: ISA」に対するソースとターゲットを設定します。

- a. 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- c. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
- d. ソースとターゲットの両方で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- e. 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
- f. ソースとターゲットの両方で、「文書フロー: ISA」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

次に、Partner Two の B2B 機能を設定します。

1. メインメニューから、「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「Partner Two」を選択します。
4. 水平ナビゲーション・バーから「B2B 機能」をクリックします。
5. 以下のステップを実行して、「パッケージ: AS」、「プロトコル: EDI-X12」、「文書フロー: ISA」に対する「ソースの設定」と「ターゲットの設定」を選択します。
  - a. 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: AS」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: AS」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - c. 「パッケージ: AS」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
  - d. ソースとターゲットの両方で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - e. 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
  - f. ソースとターゲットの両方で、「文書フロー: ISA」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

### 参加者接続の定義

パッケージ化なしで、コミュニティー・マネージャーから Partner Two に配信される EDI 文書用の参加者接続を定義します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「Comm Man」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから **Partner Two** を選択します。
4. 「検索」をクリックします。

5. 以下の詳細情報を指定し、この接続に対して「アクティブ化」をクリックします。
  - a. ソース
    - 1) パッケージ: なし (N/A)
    - 2) プロトコル: EDI-X12 (すべて)
    - 3) 文書フロー: ISA (すべて)
  - b. ターゲット
    - 1) パッケージ: AS (N/A)
    - 2) プロトコル: EDI-X12 (すべて)
    - 3) 文書フロー: ISA (すべて)

次に、パッケージ化なしで Partner Two からコミュニティー・マネージャーに配信される、AS2 パッケージでラップされた EDI 文書用の接続を定義します。前のセクションで定義した接続と良く似ていますが、AS2 属性も構成する点が異なります。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから **Partner Two** を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「Comm Man」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. 以下の詳細情報を指定し、この接続に対して「アクティブ化」をクリックします。
  - a. ソース
    - 1) パッケージ: AS (N/A)
    - 2) プロトコル: EDI-X12 (すべて)
    - 3) 文書フロー: ISA (すべて)
  - b. ターゲット
    - 1) パッケージ: なし (N/A)
    - 2) プロトコル: EDI-X12 (すべて)
    - 3) 文書フロー: ISA (すべて)

次に、Partner Two の「パッケージ: AS (N/A)」ボックスの横にある「属性」を選択します。

1. ページをスクロールダウンし、「パッケージ: AS (N/A)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、「パッケージ: AS (N/A)」の属性を編集します。
2. 「AS MDN E-Mail Address (AS1)」の値を入力します。有効な E メール・アドレスであれば何でも構いません。
3. 「AS MDN HTTP URL (AS2)」の値を入力します。入力値は **http://<IP\_address>:57080/bcgreceiver/submit** です。ここで、<IP\_Address> はハブを表します。
4. 「保管」をクリックします。

## 基本構成 - インバウンドおよびアウトバウンド文書のセキュリティー設定

ここでは、基本構成に以下のタイプのセキュリティーを追加する方法について説明します。

- Secure Socket Layer (SSL) サーバー認証
- 暗号化
- デジタル署名

### 着信文書に対する SSL 認証の設定

ここでは、iKeyman を使用して、Partner Two が AS2 文書を HTTPS で送信できるようにサーバー認証を設定します。

サーバー認証を設定するには、以下のステップを実行します。

1. `<ProductDir>/was/bin` ディレクトリーから `ikeyman.bat` ファイルを開き、IKEYMAN アプリケーションを始動します。
2. Receiver のデフォルトの鍵ストア `receiver.jks` を開きます。メニュー・バーから、「**鍵データベース・ファイルのオープン (Key Database File Open)**」を選択します。デフォルトのインストールでは、`receiver.jks` は以下のディレクトリーにあります。`<ProductDir>/common/security/keystore`
3. プロンプトが出されたら、`receiver.jks` のデフォルトのパスワードを入力します。パスワードは WebAS です。
4. `receiver.jks` を初めて開いた場合は、「ダミー」の証明書を削除します。

次に、自己署名証明書を新規作成します。自己署名個人証明書を作成すると、サーバーの鍵ストア・ファイル内に秘密鍵と公開鍵が作成されます。

自己署名証明書を新規作成するには、以下のステップを実行します。

1. 「**新規自己署名 (New Self Signed)**」をクリックします。
2. この証明書に、鍵ストア内で証明書を一意的に識別するための鍵ラベルを付けます。ここでは `selfSignedCert` というラベルを使用します。
3. サーバーの共通名を入力します。これは、その証明書の基本的な共通 ID であり、その証明書が表すプリンシパルを一意的に識別するものでなければなりません。
4. 所属する組織名を入力します。
5. その他のデフォルトをすべて受け入れて、「**OK**」をクリックします。

Partner Two は、セキュア HTTP を使用して、AS2 で EDI メッセージを送信したいとします。これを行うには、Partner Two が公開証明書 (自己署名証明書を作成した際に作成したもの) を参照する必要があります。

Partner Two が公開証明書を使用できるようにするには、以下のステップを実行して、サーバーの鍵ストア・ファイルから公開証明書をエクスポートします。

1. IBM 鍵管理ユーティリティーから、新規作成した自己署名証明書を選択します。
2. 「**証明書の抽出 (Extract Certificate)**」をクリックします。
3. データ型を「**バイナリー DER データ (Binary DER data)**」に変更します。

4. ファイル名として **commManPublic** を指定し、「OK」をクリックします。

最後に、IKEYMAN を使用して、自己署名証明書と秘密鍵のペアを PKCS12 ファイルの形式でエクスポートします。この PKCS12 ファイルは、後述の暗号化で使用します。

自己署名証明書と秘密鍵のペアをエクスポートするには、以下のステップを実行します。

1. 「エクスポート/インポート」をクリックします。
2. 鍵ファイルのタイプを「PKCS12」に変更します。
3. ファイル名として **commManPrivate** を指定し、「OK」をクリックします。
4. ターゲットの PKCS12 ファイルをプロテクトするためのパスワードを入力します。パスワードを確認し、「OK」をクリックします。

注: これらの変更内容を有効にするには、Receiver を一旦停止して再始動します。

入力したパスワードは、後でこの秘密証明書をハブにインポートする際に使用します。

また、Partner Two で、証明書のインポートや AS2 文書の送信先アドレスの変更などの構成ステップを実行する必要もあります。例えば、Partner Two でアドレスを以下のように変更する必要があるとします。

```
https://<IP_address>:57443/bcgreceiver/submit
```

ここで、<IP\_address> はハブを表します。

これで、Partner Two がセキュア HTTP で文書を送信する際に、Receiver のデフォルトの鍵ストアに格納された自己署名証明書が Partner Two に提示されるようになります。

逆の状態を設定するには、Partner Two がハブに .der ファイル形式の SSL キー (この場合は partnerTwoSSL.der) を提示する必要があります。また、Partner Two で必要に応じて、HTTPS トランスポートで文書を受信できるように構成を変更してください。

Partner Two の partnerTwoSSL.der ファイルは、ルート証明書として Hub Operator のプロファイルにロードします。ルート証明書とは、証明書チェーンの確立時に利用する認証機関 (CA) から発行される証明書をいいます。この例では、PartnerTwo が生成した証明書がルート証明書としてロードされ、これにより、ハブが送信者を認識および信頼できるようになります。

partnerTwoSSL.der をハブにロードするには、以下のステップを実行します。

1. メインメニューから、「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンを選択して「ハブ・オペレーター (Hub Operator)」を選択します。
4. 「証明書」をクリックし、次に「証明書のロード」をクリックします。

5. 「証明書タイプ」を「ルートおよび中間証明書 (Root and Intermediate Certificate)」に設定します。
6. 「説明」の内容を **Partner Two SSL Certificate** に変更します。
7. 「状況」を「使用可能」に設定します。
8. 「参照」をクリックし、partnerTwoSSL.der の保存先ディレクトリーに移動します。
9. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
10. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

セキュア HTTP を使用するように Partner Two のゲートウェイを変更します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして「Partner Two」を選択します。
3. 水平ナビゲーション・バーから「ゲートウェイ」をクリックします。次に、「詳細の表示」アイコンをクリックして「HttpGateway」を選択します。
4. 「編集」アイコンをクリックして編集します。
5. トランスポート値を **HTTPS/1.1** に変更します。
6. 読み取るアドレスの値を **https://<IP\_address>:443/input/AS2** に変更します。ここで、<IP\_address> は Partner Two のマシンを表します。
7. それ以外の値はすべて未変更のまま構いません。「保管」をクリックします。

## 暗号化の設定

ここでは、暗号化を設定するステップについて説明します。

Partner Two で、必要な構成ステップ (公開証明書および自己署名証明書のインポートなど) を実行し、ハブに送信される文書に対して暗号化を設定する必要があります。

WebSphere Partner Gateway では、文書の暗号化を解除する際に、秘密鍵を使用します。ハブがこれを実行できるようにするには、まず自己署名証明書から抽出された秘密鍵を Community Console にロードする必要があります。Community Console に Hub Operator としてログインしてこのタスクを実行したら、証明書を自分のプロファイルにインストールしてください。

PKCS12 ファイルをロードするには、以下のステップを実行します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「ハブ・オペレーター (Hub Operator)」を選択します。
4. 「証明書」をクリックし、次に「PKCS12 のロード」をクリックします。
5. 「暗号化」の左側にあるチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
6. 「説明」の内容を「CommManPrivate」に変更します。
7. 「使用可能」を選択します。

8. 「参照」をクリックし、PKCS12 ファイル commManPrivate.p12 の保存先ディレクトリーに移動します。
9. このファイルを選択し、「オープン」をクリックします。
10. PKCS12 ファイル用に提供されたパスワードを入力します。
11. 「ゲートウェイ・タイプ」は「実動」のままにします。
12. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

参加者がセキュア HTTP で暗号化トランザクションをハブに送信できるようにするための構成は、これで完了です。

次のセクションでは、これまでの手順とは逆に、ハブがセキュア HTTP で EDI 暗号化トランザクションを送信します。

Partner Two では、文書の暗号化を解除するための鍵ペア（この例では partnerTwoDecrypt.der）を生成し、公開証明書をハブが使用できるようにする必要があります。

前述と同様に、参加者に送信されるトランザクションをハブが暗号化する際には、公開鍵を使用します。これを行うには、公開証明書をハブにロードします。

1. メインメニューから、「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「Partner Two」を選択します。
4. 水平ナビゲーション・バーから「証明書」をクリックします。
5. 「証明書のロード」をクリックします。
6. 「暗号化」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
7. 「説明」の内容を **Partner Two Decrypt** に変更します。
8. 「状況」を「使用可能」に設定します。
9. 「参照」をクリックします。
10. 暗号化解除証明書 partnerTwoDecrypt.der の保存先ディレクトリーに移動します。
11. 証明書を選択し、「オープン」をクリックします。
12. 「ゲートウェイ・タイプ」は「実動」のままにします。
13. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

AS2 を使用してセキュア HTTP で暗号化メッセージを送信するためのハブ構成では、最後にコミュニティー・マネージャーと Partner Two 間に存在する参加者接続を変更します。

Community Console から参加者接続を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「Comm Man」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから **Partner Two** を選択します。

4. 「検索」をクリックします。
5. ターゲットの「属性」ボタンをクリックします。
6. 「接続の要約」で、「AS 暗号化」属性の現行値が「いいえ」になっていることに注意してください。「パッケージ: AS (N/A)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、この値を編集します。

注: このオプションを表示するには、ページをスクロールダウンしてください。

7. リストから、「AS 暗号化」属性を「はい」に変更し、「保管」をクリックします。

## 文書署名の設定

WebSphere Partner Gateway では、トランザクションやメッセージにデジタル署名をする際に、秘密鍵を使用して署名を作成します。メッセージの受信者は、送信者の公開鍵を使用して署名を検証します。WebSphere Partner Gateway では、デジタル署名を使用してこれを行います。

ここでは、デジタル署名で使用するハブと参加者の両方を構成するためのステップについて説明します。

Partner Two では、必要な構成ステップ (自己署名付きの文書 (この例では partnerTwoSigning.der) を作成するなど) をすべて実行した後、文書の署名を構成する必要があります。また、Partner Two では、partnerTwoSigning.der をハブが使用できるようにする必要があります。

デジタル証明書をハブにロードするには、以下のステップを実行します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティ参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「Partner Two」を選択します。
4. 水平ナビゲーション・バーから「証明書」を選択します。
5. 「証明書のロード」をクリックします。
6. 「デジタル署名」の横にあるチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
7. 「説明」の内容を「CommMan Signing」に変更します。
8. 「状況」を「使用可能」に設定します。
9. 「参照」をクリックします。
10. デジタル証明書 partnerTwoSigning.der の保存先ディレクトリーに移動し、証明書を選択して、「開く」をクリックします。
11. 「アップロード」をクリックし、次に「保管」をクリックします。

デジタル署名の初期構成はこれで完了です。

参加者は、公開証明書を使用して、ハブに送信される署名付きトランザクションを認証します。

ハブは秘密鍵を使用して、参加者に送信されるアウトバウンド・トランザクションにデジタル署名をします。まずは、秘密鍵をデジタル署名に使用できるようにします。

秘密鍵をデジタル署名に使用できるようにするには、以下のステップを実行します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「プロフィール」>「証明書」をクリックします。
2. 「ハブ・オペレーター (Hub Operator)」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「CommManPrivate」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

注: これは、以前にハブにロードされた秘密証明書です。

4. 「編集」アイコンをクリックします。
5. 「デジタル署名」の横にあるチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

注: 複数のデジタル署名証明書がある場合は、「証明書の使用法」リストから「1次」または「2次」を選択して、1次証明書と2次証明書を選択します。

6. 「保管」をクリックします。

次に、署名付き AS2 に対応できるように、コミュニティー・マネージャーと Partner Two 間で設定されている参加者接続の属性を変更します。

参加者接続の属性を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 水平ナビゲーション・バーから、「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「Comm Man」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから Partner Two を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. Partner Two の「属性」ボタンをクリックします。
6. 「パッケージ: AS (N/A)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックして、「AS 署名済み」属性を編集します。
7. 「AS 署名済み」リストから「はい」を選択します。
8. 「保管」をクリックします。

署名付きの AS2 トランザクションを WebSphere Partner Gateway から参加者に送信するために必要な構成はこれで完了です。

---

## 基本構成の拡張

ここでは、この付録で説明した基本構成に変更を加える方法について説明します。ここでは、前述と同じパートナーと設定 (DUNS ID 123456789 とファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを使用するコミュニティー・マネージャー Comm Man、DUNS ID 987654321 と HTTP ゲートウェイを使用する参加者 PartnerTwo) を使用して、以下のサポートを追加する方法について説明します。

- FTP トランスポート

- カスタム XML 文書
- バイナリー・ファイル (パッケージ化なし)

## FTP ターゲットの作成

FTP ターゲットは、受信したファイルを処理するために Document Manager に渡します。19 ページの『文書を受信する FTP サーバーの構成』で述べたように、FTP ターゲットを作成するには、FTP サーバーをインストールし、FTP ディレクトリーを作成して、FTP サーバーを構成しておく必要があります。

この例では、FTP サーバーが Partner Two 用に構成されており、ルート・ディレクトリーが c:/ftproot であるものと想定します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックします。
2. 「ターゲットの作成」をクリックします。
3. 以下の情報を入力します。
  - a. ターゲット名: **FTP\_Receiver**
  - b. トランスポート: **FTP ディレクトリー**
  - c. FTP ルート・ディレクトリー: **C:/ftproot**
4. 「保管」をクリックします。

## バイナリー・ファイルを受信するためのハブ設定

ここでは、Partner Two からコミュニティ・マネージャーに送信するバイナリー文書を受信するためのハブ構成に必要なステップについて説明します。

### バイナリー文書の対話の作成

デフォルトでは、WebSphere Partner Gateway にはバイナリー文書を使用する 4 つの対話があります。ただし、「なし」としてパッケージ化された文書とともに参加者に送信される、「なし」としてパッケージ化されたバイナリー文書用の対話は用意されていません。ここでは、バイナリー文書がシステムをパススルーするために必要な対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。
4. 「ソース」から、「パッケージ: なし」、「プロトコル: バイナリー (1.0)」、「文書フロー: バイナリー (1.0)」を選択します。
5. 「ターゲット」から、「パッケージ: なし」、「プロトコル: バイナリー (1.0)」、「文書フロー: バイナリー (1.0)」を選択します。
6. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

### コミュニティ・マネージャー用の B2B 機能の更新

ここでは、バイナリー文書を受け入れられるようにコミュニティ・マネージャーを構成する方法について説明します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックします。

2. 「検索」をクリックします。
3. 「Comm Man」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「B2B 機能」をクリックします。
5. 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
6. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
7. 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: バイナリー (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
8. 「プロトコル: バイナリー (1.0)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
9. 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: バイナリー (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

### Partner Two 用の B2B 機能の更新

ここでは、バイナリー文書を送信できるように Partner Two を構成する方法について説明します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. Partner Two の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「B2B 機能」をクリックします。
5. 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
6. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
7. 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: バイナリー (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
8. 「プロトコル: バイナリー (1.0)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
9. 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: バイナリー (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

### 参加者接続の新規作成

ここでは、バイナリー文書用にコミュニティー・マネージャーと Partner Two 間で新しい参加者接続を構成する方法について説明します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから Partner Two を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「Comm Man」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。

- なし (N/A)、バイナリー (1.0)、バイナリー (1.0) からなし (N/A)、バイナリー (1.0)、バイナリー (1.0) への接続を探し、「アクティブ化」をクリックしてこの接続をアクティブにします。

## カスタム XML 文書用のハブ設定

90 ページの『カスタム XML 文書』で述べたように、カスタム XML ファイルをルーティングできるようにハブを構成する必要があります。ここでは、以下の XML 文書をルーティングできるように Document Manager を構成するためのステップについて説明します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
 <!DOCTYPE Tester>
 <Tester>
 <From>987654321</From>
 <To>123456789</To>
 </Tester>
```

Document Manager は、ルート・タグを使用して XML 文書のタイプを識別します。この後、「送信元 (From)」および「送信先 (To)」フィールドから値を抽出して、「送信元参加者名 (From Participant Name)」と「送信先参加者名 (To Participant Name)」を識別します。

### CustomXML プロトコル定義形式の作成

まず、交換を行うカスタム XML 用のプロトコルを新規作成します。

- 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
- 「文書フロー定義の作成」をクリックします。
- 「文書フロー・タイプ」リストから「プロトコル」を選択します。
- 以下の情報を入力します。
  - コード: **CustomXML**
  - バージョン: **1.0**
  - 説明: **CustomXML**
- 「文書レベル」を「いいえ」に設定します。
- 「状況」を「使用可能」に設定します。
- 「可視/不可視: コミュニティー・オペレーター」を「はい」に設定します。
- 「可視/不可視: コミュニティー・マネージャー」を「はい」に設定します。
- 「可視/不可視: コミュニティー参加者」を「はい」に設定します。
- 以下のものを選択します。
  - パッケージ: **AS**
  - パッケージ: **なし**
  - パッケージ: **バックエンド統合**
- 「保管」をクリックします。

### Tester\_XML 文書定義の作成

次に、新しいプロトコルの文書フロー定義を作成します。

- 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
- 「文書フロー定義の作成」をクリックします。

3. 「文書フロー・タイプ」リストから「文書フロー」を選択します。
4. 以下の情報を入力します。
  - a. コード: **XML\_Tester**
  - b. バージョン: **1.0**
  - c. 説明: **XML\_Tester**
5. 「文書レベル」を「はい」に設定します。
6. 「状況」を「使用可能」に設定します。
7. 「可視/不可視: コミュニティー・オペレーター」を「はい」に設定します。
8. 「可視/不可視: コミュニティー・マネージャー」を「はい」に設定します。
9. 「可視/不可視: コミュニティー参加者」を「はい」に設定します。
10. 「パッケージ: AS」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックし、「プロトコル: CustomXML」を選択します。
11. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックし、「プロトコル: CustomXML」を選択します。
12. 「パッケージ: バックエンド統合 (Package: Backend Integration)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックし、「プロトコル: CustomXML」を選択します。
13. 「保管」をクリックします。

### Tester\_XML XML 形式の作成

最後に、新しいプロトコルと関連付ける XML 形式を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「XML 形式」をクリックします。
2. 「XML 形式の作成」をクリックします。
3. 「ルーティング形式」リストから「CustomXML 1.0」を選択します。
4. 「ファイル・タイプ」リストから「XML」を選択します。
5. 「ID タイプ」リストから「ルート・タグ」を選択し、値として **Tester** を入力します。
6. 「ソース・ビジネス ID」リストから「エレメント・パス」を選択し、値として **/Tester/From** を入力します。
7. 「ターゲット・ビジネス ID」リストから「エレメント・パス」を選択し、値として **/Tester/To** を入力します。
8. 「ソース文書フロー」リストから「定数」を選択し、値として **XML\_Tester** を入力します。
9. 「ソース文書フロー・バージョン」に対して「定数」を選択し、値として **1.0** を入力します。
10. 「保管」をクリックします。

### XML\_Tester XML 文書用の対話の作成

これで、対話の設定に使用する新規プロトコルと文書フローが準備できました。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. 「対話の作成」をクリックします。

4. 「ソース」から、以下のものを選択します。
  - a. パッケージ: なし
  - b. プロトコル: **CustomXML (1.0)**
  - c. 文書フロー: **XML\_Tester (1.0)**
5. 「ターゲット」から、以下のものを選択します。
  - a. パッケージ: なし
  - b. プロトコル: **CustomXML (1.0)**
  - c. 文書フロー: **XML\_Tester (1.0)**
6. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

### コミュニティー・マネージャー用の B2B 機能の更新

カスタム XML 文書を交換できるようにするには、参加者の B2B 機能を更新する必要があります。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「Comm Man」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「B2B 機能」をクリックします。
5. 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
6. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
7. 「ターゲットの設定」で、「プロトコル: CustomXML (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
8. 「プロトコル: CustomXML (1.0)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
9. 「ターゲットの設定」で、「文書フロー: XML\_Tester (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

### partnerTwo 用の B2B 機能の更新

新しいカスタム XML 形式の交換を実行できるようにするには、Partner Two の B2B 機能を更新します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. Partner Two の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「B2B 機能」をクリックします。
5. 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
6. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。

7. 「ソースの設定」で、「プロトコル: CustomXML (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
8. 「プロトコル: CustomXML (1.0)」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
9. 「ソースの設定」で、「文書フロー: XML\_Tester (1.0)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

### 参加者接続の新規作成

最後に、参加者接続を新規作成します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから **Partner Two** を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「Comm Man」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. なし (N/A)、CustomXML (1.0)、XML\_Tester(1.0) から なし (N/A)、CustomXML(1.0)、XML\_Tester (1.0) への接続を探し、「アクティブ化」をクリックしてこの接続をアクティブにします。



---

## 付録 B. EDI の例

この付録では、EDI 交換を送受信し、XML 文書およびレコード単位データ (ROD) 文書に変換したり、それらの文書から変換したりする例を示します。

この付録の例は、197 ページの『付録 A. 基本的な例』に示した例とは関係ありません。この付録では、例で使用している新しいターゲット、ゲートウェイ、およびプロファイルを作成します。

注: 『付録 A. 基本的な例』では、ハブを経由して渡される EDI 交換 (エンベロープ解除または変換は発生しない) の例を示しています。

これらの 4 つの例では、必要なすべての手順を示しています。例えば、EDI から XML への変換の例に従うと、その例に必要なすべての手順 (ターゲットの作成から接続のアクティブ化まで) を確認できます。

この付録のトピックは以下のとおりです。

- 『EDI から ROD への例』
- 233 ページの『EDI から XML への例』
- 239 ページの『XML から EDI への例』
- 247 ページの『ROD から EDI への例』

これらの例では、システムの構成に必要なステップの概要を示します。これらの例を使用してシステムをセットアップする場合は、業務上の必要に合わせて特定の情報 (名前やビジネス ID など) を変更してください。

---

### EDI から ROD への例

このセクションでは、EDI トランザクションを (エンベロープに包んで) ハブに送信する例を示します。EDI トランザクションはハブでレコード単位データ (ROD) 文書に変換され、コミュニティー・マネージャーに送信されます。

#### EDI 交換のエンベロープ解除と変換

この例では、Data Interchange Services のマッピング担当者が変換マップを作成したと想定しています。その変換マップは、標準の EDI 850 トランザクション (X12 のバージョン 5010 に対応した X12V5R1 ディクショナリーを使用して定義されたもの) を受け取り、レコード単位文書 (ROD) に変換します。変換された文書は、コミュニティー・マネージャーのバックエンド・アプリケーションによって処理されます。この例のマップは S\_DT\_EDI\_TO\_ROD.eif という名前です。

Data Interchange Services のマッピング担当者は、変換マップを WebSphere Partner Gateway データベースに直接エクスポートすることができます。あるいは、Data Interchange Services のマッピング担当者からユーザーにファイルを送信することもできます。その場合、ユーザーは bcgDISImport ユーティリティを使用してファイルを WebSphere Partner Gateway にインポートします。この付録では、後者のシナリオを想定しています。

## 変換マップのインポート

このセクションでは、EDI 入力を受け取ってレコード単位データ (ROD) 形式に変換する変換マップのインポート手順について説明します。変換マップをインポートするプロセスで、マップに関連付けられた文書定義もインポートします。

変換マップをインポートする前に、Data Interchange Services のマッピング担当者から変換マップを受信する必要があります。この一連の手順では、S\_DT\_EDI\_TO\_ROD.eif というファイルがシステムにあることを前提にしています。

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドまたはスクリプトを入力します。

- UNIX システムの場合:

```
<ProductDir>/bin/bcgDISImport.sh <database_user_ID>
<password> S_DT_EDI_TO_ROD.eif
```

- Windows システムの場合:

```
<ProductDir>%bin%bcgDISImport.bat <database_user_ID>
<password> S_DT_EDI_TO_ROD.eif
```

ここで、<database\_user\_ID> と <password> は、WebSphere Partner Gateway のインストール作業の一部としてデータベースをインストールしたときに使用した値です。

## 変換マップと文書フロー定義の検証

インポートした変換マップと文書定義が Community Console に表示されることを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」の順にクリックします。

S\_DT\_EDI\_TO\_ROD マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

このマップが関連付けられている文書フロー定義を確認できます。

表 19. マップに関連付けられた文書フロー定義

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A プロトコル: X12V5R1 (すべて) 文書フロー: 850 (すべて)	パッケージ: なし プロトコル: DEMO850CL_DICTIONARY (すべて) 文書フロー: DEMO850CLS UW (すべて)

S\_DT\_EDI\_TO\_ROD マップは、X12 850 トランザクション (X12V5R1 規格に準拠) を読み込み、カスタム・プロトコル (DEMO850CL\_DICTIONARY) および文書フロー (DEMO850CLS UW) に変換するように定義されています。

## ターゲットの構成

このセクションでは、ハブ用のファイル・システム・ディレクトリー・ターゲットを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックし、「ターゲットの作成」をクリックします。

2. 「ターゲット名」に **EDIFileTarget** と入力します。
3. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
4. 「ルート・パス (Root Path)」に **/Data/Manager/editarget** と入力します。
5. 「保管」をクリックします。

コミュニティー参加者は、このターゲットに EDI 交換を送信します。

## 対話の作成

2 つの対話を作成します。1 つは EDI エンベロープ用、もう 1 つは EDI エンベロープ内でのトランザクション用です。

EDI エンベロープを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「ソース」の下で、「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「EDI エンベロープ解除」を選択します。

注: この対話では、変換は発生しません。EDI 交換のエンベロープ解除が行われ、個々のトランザクション (850) が取り出されます。そのため、この対話に変換マップは必要ありません。

6. 「保管」をクリックします。

850 トランザクションを表すソースと、変換された文書を表すターゲットを持つ対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、「対話の作成」をクリックします。
3. 「ソース」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: X12V5R1」を展開し、「文書フロー: 850」を選択します。
4. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: なし」および「プロトコル: DEMO850CL\_DICTIONARY」を展開し、「文書フロー: DEMO850CLSUW」を選択します。
5. 「変換マップ」リストから「S\_DT\_EDI\_TO\_ROD」を選択します。
6. 「アクション」リストから「EDI 検証および EDI 変換」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

この対話は、標準の EDI X12 850 トランザクションから別の形式への変換を表します。したがって、変換マップを選択する必要があります。

## 参加者の作成

この例の参加者は、コミュニティー・マネージャー (Manager) と参加者 (TP1) の 2 つです。

コミュニティー・マネージャー・プロフィールを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **ComManager** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **Manager** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー・マネージャー」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000000 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000000 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

2 番目の参加者を作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **TP1** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **TP1** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー参加者」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000001 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000001 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

## ゲートウェイの作成

この例の両方の参加者用にファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成します。最初に、Manager 用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. Manager プロファイルの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) がファイル・システムにすでに存在している必要があります。
  - a. 「名前」に **ManagerFileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/Manager/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、コミュニティー・マネージャー用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。

7. 「実動」リストから、ステップ 4 (220 ページ) で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

次に、参加者用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. 「TP1」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックして、この例で作成したもう 1 つの参加者を選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) は、既存のディレクトリーである必要があります。
  - a. 「名前」に **TP1FileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/TP1/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、参加者用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の設定

この交換処理での 2 つの参加者の B2B 機能を使用可能に設定します。この例では、EDI 交換はコミュニティー参加者 (TP1) から発信され、コミュニティー・マネージャーに配信されます。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。

- 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 次に、850 トランザクションを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
  - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: 850」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
5. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (Manager) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「B2B 機能」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、変換した文書を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: DEMO850CL\_DICTIONARY (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: DEMO850CL\_DICTIONARY (すべて)」を展開します。

- 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: DEMO850CLS UW (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## 接続のアクティブ化

接続をアクティブ化するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「TP1」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「Manager」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. エンベロープを表す接続に対して「アクティブ化」をクリックします。

表 20. エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: なし (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)	パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)

6. 変換した文書に対する 850 トランザクションを表す接続の「アクティブ化」をクリックします。

表 21. ROD 文書接続に対する EDI トランザクション

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: X12V5R1 文書フロー: 850 (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: DEMO850CL_DICTIONARY (すべて) 文書フロー: DEMO850CLS UW (すべて)

## 属性の追加

重複 ID を持つ文書を許可する属性を設定します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
3. 「プロトコル: EDI-X12」の横にある「属性値の編集」アイコンをクリックします。
4. このページの「文書フロー・コンテキスト属性」セクションにスクロールダウンします。「文書 ID が重複する文書の許可 (Allow documents with duplicate document ids)」の行で、リストから「はい」を選択します。
5. 「保管」をクリックします。

この時点で、TP1 が 850 トランザクションを含む EDI 交換をコミュニティー・マネージャーに送信すると、EDI 交換のエンベロープが解除されて 850 トランザクションが取り出されます。850 トランザクションは次に DEMO850CLS UW 文書タイプに変換され、変換された文書がコミュニティー・マネージャーのゲートウェイに送信されます。

## 交換への TA1 の追加

X12 では、TA1 は交換の受信確認に使用されるオプションのセグメントです。送信側は、ISA 交換制御ヘッダーの要素 14 を 1 に設定することによって、受信側に TA1 を要求できます。WebSphere Partner Gateway の「TA1 要求を許可」属性を使用すると、送信側から要求があったときに TA1 を送信するかどうかを制御できます。

WebSphere Partner Gateway のインストール時に &WDL\_TA1\_ACK マップがインストールされるので、このマップをインポートする必要はありません。

### 関連の作成

マップと文書フロー定義を関連付けるには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「EDI FA マップ」の順にクリックします。

&WDL\_TA1\_ACK マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

マップに関する情報と、システムで使用可能な各タイプのパッケージが入っているフォルダーが表示されます。

3. 以下のステップを実行して、文書フロー定義との関連を作成します。
  - a. 「パッケージ: なし」の横にあるチェック・ボックスを選択し、フォルダーを展開します。
  - b. 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」の横にあるチェック・ボックスを選択し、フォルダーを展開します。
  - c. 「文書フロー: ISA (すべて)」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
  - d. 「保管」をクリックします。

これで、&WDL\_TA1\_ACK1 マップとエンベロープの文書フロー定義との関連を作成しました。

### 対話の作成

TA1 トランザクションを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「ソース」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: &X44TA1」を展開し、「文書フロー: TA1」を選択します。
4. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: &X44TA1」を展開し、「文書フロー: TA1」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
6. 「保管」をクリックします。

TA1 を保持する EDI エンベロープを表すソースを持つ対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。

3. 「ソース」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
6. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の使用可能化

次に、新規に作成した対話を参加者の B2B 機能に追加します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (Manager) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。

注: TA1 のフローは、ROD 文書を受信する参加者から、その文書を送信した参加者への流れです。この例では、Manager が TA1 のソースであり、参加者 TP1 がターゲットです。

3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、TA1 用の機能を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: &X44TA1」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: &X44TA1」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: TA1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、エンベロープ用の機能を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

5. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「B2B 機能」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、TA1 を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: &X44TA1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: &X44TA1 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: TA1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## エンベロープ・プロフィールの作成

次に、TA1 を含むエンベロープのプロファイルを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベロープ・プロフィール」の順にクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. プロファイルの名前として **EnvProf1** を入力します。
4. 「EDI 標準」リストから「X12」を選択します。
5. 「一般」ボタンがデフォルトで選択されています。エンベロープの一般属性として以下の値を入力します。
  - INTCTLLEN: 9
  - GRPCTLLEN: 9
  - TRXCTLLEN: 9

- MAXDOCS: 1000
6. 「交換」ボタンをクリックし、交換の属性として以下の値を入力します。
    - ISA01: 01
    - ISA02: ISA0000002
    - ISA03: 02
    - ISA04: ISA0000004
    - ISA11: ¥
    - ISA12: 00501
    - ISA15: T
  7. 「保管」をクリックします。

### 参加者接続のアクティブ化

接続をアクティブ化するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「Manager」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「TP1」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. TA1 を表す接続をアクティブにします。

表 22. TA1 接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: &X44TA1 (すべて) 文書フロー: TA1 (すべて)	パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: &X44TA1 (すべて) 文書フロー: TA1 (すべて)

6. エンベロープを表す接続をアクティブにします。

表 23. エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)

### 属性の構成

エンベロープ・プロファイルの属性を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. リストから「TP1」を選択します。
3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. 「パッケージ: なし」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
5. 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」の横にある「編集」アイコンをクリックします。

6. 「TA1 要求を許可」の行で、「はい」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。
8. 「B2B 機能」を再度クリックします。
9. 「パッケージ: N/A」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
10. 「プロトコル: &X44TA1 (すべて)」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
11. 以下の属性を指定します。
  - a. 「エンベロープ・プロファイル」の行で、リストから「EnvProf1」を選択します。
  - b. 「交換修飾子」の行に **01** と入力します。
  - c. 「交換 ID」の行に **00000001** と入力します。
  - d. 「交換の使用標識」の行に **T** と入力します。
12. 「保管」をクリックします。

この一連のタスクで、交換に TA1 肯定応答を追加しました。交換を受信すると、WebSphere Partner Gateway は送信側 (TP1) に TA1 を送信します。TA1 は、エンベロープ・プロファイル EnvProf1 に準拠したエンベロープに包まれて送信されます。

## FA マップの追加

このセクションでは、217 ページの『EDI から ROD への例』で説明したフローに標準の機能肯定応答 (997) を追加する方法について説明します。機能肯定応答により、送信側はトランザクションが受信されたことを確認できます。

注: この例は 224 ページの『交換への TA1 の追加』に似ています。ただし、その例に直接的な関連はありません。代わりに、この例は、217 ページの『EDI から ROD への例』で実行したタスクを基に作成されています。

WebSphere Partner Gateway には、事前にインストールされた、\$DT\_FA で始まる一連の機能肯定応答マップ名が含まれています。その後、機能肯定応答メッセージの名前およびメッセージのバージョンとリリースが続きます。例えば、997 機能肯定応答メッセージのバージョン 2 リリース 4 は、\$DT\_997V2R4 という名前になります。WebSphere Partner Gateway に提供されているマップのリストについては、133 ページの『機能肯定応答』を参照してください。

### 関連の作成

マップと文書フロー定義を関連付けるには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「EDI FA マップ」の順にクリックします。

&DT\_FA997V2R4 マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

マップに関する情報と、システムで使用可能な各タイプのパッケージが入っているフォルダーが表示されます。

3. 以下のステップを実行して、文書フロー定義との関連を作成します。
  - a. 「パッケージ: N/A」の横にあるチェック・ボックスを選択し、フォルダーを展開します。
  - b. 「プロトコル: X12V5R1」の横にあるチェック・ボックスを選択し、フォルダーを展開します。
  - c. 「文書フロー: 850」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
  - d. 「保管」をクリックします。

これで、この機能肯定応答 997 マップが X12 プロトコルに関連付けられました。

## 対話の作成

997 肯定応答を表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「ソース」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: &DT99724」を展開し、「文書フロー: 997」を選択します。
4. 「ターゲット」の下で、「パッケージ: N/A」および「プロトコル: &DT99724」を展開し、「文書フロー: 997」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
6. 「保管」をクリックします。

エンベロープを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。
6. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の使用可能化

次に、新規に作成した対話を参加者の B2B 機能に追加します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (Manager) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。

注: 機能肯定応答のフローは、ROD 文書を受信する参加者から、その文書を送信した参加者への流れです。この例では、Manager が機能肯定応答のソースであり、参加者 TP1 がターゲットです。

3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、FA 用の機能を使用可能に設定します。

- 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: &DT99724」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: &DT99724」を展開します。
  - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: 997 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 次に、エンベロープ用の機能を使用可能に設定します。
- 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
5. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「B2B 機能」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
- a. 最初に、997 を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
- 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: &DT99724 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: &DT99724 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: 997 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 次に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。

- 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
- 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
- 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
- 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## エンベロープ・プロファイルの作成

次に、997 機能肯定応答を含むエンベロープのプロファイルを作成します。機能肯定応答は、トランザクションと同様に、エンベロープに包んで送信する必要があります。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. プロファイルの名前として **EnvProf1** を入力します。
4. 「EDI 標準」リストから「**X12**」を選択します。
5. 「一般」ボタンがデフォルトで選択されています。エンベロープの一般属性として以下の値を入力します。
  - INTCTLLEN: **9**
  - GRPCTLLEN: **9**
  - TRXCTLLEN: **9**
  - MAXDOCS: **1000**
6. 「交換」ボタンをクリックし、交換の属性として以下の値を入力します。
  - ISA01: **01**
  - ISA02: **ISA0000002**
  - ISA03: **02**
  - ISA04: **ISA0000004**
  - ISA11: **¥**
  - ISA12: **00501**
  - ISA15: **T**
7. 「保管」をクリックします。

## 参加者接続のアクティブ化

接続をアクティブ化するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「**Manager**」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「**TP1**」を選択します。

4. 「検索」をクリックします。
5. 997 機能肯定応答を表す接続に対して「アクティブ化」をクリックします。

表 24. 機能肯定応答接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: &DT99724 (すべて) 文書フロー: 997 (すべて)	パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: &DT99724 (すべて) 文書フロー: 997 (すべて)

6. 交換の発信元に送り返される EDI エンベロープを表す接続に対して、「アクティブ化」をクリックします。

表 25. エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)

## 属性の構成

最初に、使用する FA マップを指定します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティ参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. リストから「TP1」を選択します。
3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. 「パッケージ: N/A」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
5. 「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
6. 「FA マップ (FA Map)」の行で、「&DT\_FA997V2R4」を選択します。
7. 「B2B 機能」を再度クリックします。
8. 「パッケージ: N/A」の横にある「展開 (Expand)」アイコンをクリックします。
9. 「プロトコル: &DT99724 (すべて)」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
10. 以下の属性を指定します。
  - a. 「エンベロープ・プロファイル」の行で、リストから「EnvProf1」を選択します。
  - b. 「交換修飾子」の行に **01** と入力します。
  - c. 「交換 ID」の行に **00000001** と入力します。
  - d. 「交換の使用標識」の行に **T** と入力します。
11. 「保管」をクリックします。

この一連のタスクで、EDI-X12 997 機能肯定応答を交換に追加しました。これにより、コミュニティ・マネージャーが文書を受信すると、送信側 (TP1) に 997 を

送り返します。997 肯定応答は、エンベロープ・プロファイル EnvProf1 に準拠したエンベロープに包まれて送信されます。

---

## EDI から XML への例

このセクションでは、EDI トランザクションを (エンベロープに包んで) ハブに送信する例を示します。EDI トランザクションはハブで XML 文書に変換され、コミュニティ・マネージャーに送信されます。

この例では、Data Interchange Services のマッピング担当者が変換マップを作成したと想定しています。その変換マップは、標準の EDI 879 トランザクション (X12 のバージョン 5010 に対応した X12V5R1 ディクショナリーを使用して定義されたもの) を受け取り、XML 文書に変換します。変換された文書は、コミュニティ・マネージャーのバックエンド・アプリケーションによって処理されます。この例のマッピングは S\_DT\_EDI\_TO\_XML.eif という名前です。

Data Interchange Services のマッピング担当者は、変換マップを WebSphere Partner Gateway データベースに直接エクスポートすることができます。あるいは、Data Interchange Services のマッピング担当者からユーザーにファイルを送信することもできます。その場合、ユーザーは bcgDISImport ユーティリティを使用してファイルを WebSphere Partner Gateway にインポートします。この付録では、後者のシナリオを想定しています。

### 変換マップのインポート

このセクションでは、EDI 入力を受け取って XML 形式に変換する変換マップのインポート手順について説明します。変換マップをインポートするプロセスで、マップに関連付けられた文書定義もインポートします。

変換マップをインポートする前に、Data Interchange Services のマッピング担当者から変換マップを受信する必要があります。この一連の手順では、S\_DT\_EDI\_TO\_XML.eif というファイルがシステムにあることを前提にしています。

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドまたはスクリプトを入力します。

- UNIX システムの場合:

```
<ProductDir>/bin/bcgDISImport.sh <database_user_ID>
<password> S_DT_EDI_TO_XML.eif
```

- Windows システムの場合:

```
<ProductDir>%bin%bcgDISImport.bat <database_user_ID>
<password> S_DT_EDI_TO_XML.eif
```

ここで、<database\_user\_ID> と <password> は、WebSphere Partner Gateway のインストール作業の一部としてデータベースをインストールしたときに使用した値です。

### 変換マップと文書フロー定義の検証

インポートした変換マップと文書定義が Community Console に表示されることを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」の順にクリックします。

S\_DT\_EDI\_TO\_XML マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

このマップが関連付けられている文書フロー定義を確認できます。

表 26. マップに関連付けられた文書フロー定義

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A プロトコル: X12V5R1 文書フロー: 879 (すべて)	パッケージ: なし プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて) 文書フロー: WWRE_ITEMCREATIONINTERNAL (すべて)

S\_DT\_EDI\_TO\_XML マップは、X12 879 トランザクション (X12V5R1 規格に準拠) を読み込み、カスタム・プロトコルに変換するように定義されています。

## ターゲットの構成

このセクションでは、ハブ用のファイル・システム・ディレクトリー・ターゲットを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックし、「ターゲットの作成」をクリックします。
2. 「ターゲット名」に **EDIFileTarget** と入力します。
3. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
4. 「ルート・パス (Root Path)」に **/Data/Manager/editarget** と入力します。
5. 「保管」をクリックします。

コミュニティー参加者は、このターゲットに EDI 交換を送信します。

## 対話の作成

2 つの対話を作成します。1 つは EDI エンベロープ用、もう 1 つは EDI エンベロープ内でのトランザクション用です。

EDI エンベロープを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「EDI エンベロープ解除」を選択します。

注: この対話では、変換は発生しません。EDI 交換のエンベロープ解除が行われ、個々のトランザクション (879) が取り出されます。そのため、この対話に変換マップは必要ありません。

6. 「保管」をクリックします。

879 トランザクションを表すソースと、変換された文書を表すターゲットを持つ対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順をクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: X12V5R1」を展開し、「文書フロー: 879」を選択します。
4. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: FVT-XML-TEST」を展開し、「文書フロー: WWRE\_ITEMCREATIONINTERNAL」を選択します。
5. 「変換マップ」リストから「S\_DT\_EDI\_TO\_XML」を選択します。
6. 「アクション」リストから「EDI 検証および EDI 変換」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

この対話は、標準の EDI X12 879 トランザクションから別の形式への変換を表します。したがって、変換マップを選択する必要があります。

## 参加者の作成

この例の参加者は、コミュニティー・マネージャー (Manager) と参加者 (TP1) の 2 つです。

コミュニティー・マネージャー・プロフィールを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **ComManager** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **Manager** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー・マネージャー」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000000 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000000 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

2 番目の参加者を作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **TP1** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **TP1** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー参加者」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000001 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000001 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

## ゲートウェイの作成

この例の両方の参加者用にファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成します。最初に、Manager 用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. Manager プロファイルの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) がファイル・システムにすでに存在している必要があります。
  - a. 「名前」に **ManagerFileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/Manager/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、コミュニティー・マネージャー用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

次に、参加者用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. 「TP1」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックして、この例で作成したもう 1 つの参加者を選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) は、既存のディレクトリーである必要があります。
  - a. 「名前」に **TP1FileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/TP1/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、参加者用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の設定

この交換処理での 2 つの参加者の B2B 機能を使用可能に設定します。この例では、EDI 交換はコミュニティー参加者 (TP1) から発信され、コミュニティー・マネージャーに配信されます。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、このトランザクションを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: 879」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
5. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (Manager) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「B2B 機能」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、文書フロー定義を使用可能に設定します。

- 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 次に、変換した文書を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
- 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
  - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: WWRE\_ITEMCREATIONINTERNAL (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## 接続のアクティブ化

接続をアクティブ化するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。
2. 「ソース」リストから「TP1」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「Manager」を選択します。
4. 「検索」をクリックします。
5. エンベロープを表す接続に対して「アクティブ化」をクリックします。

表 27. エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: なし (N/A)	パッケージ: N/A (N/A)
プロトコル: EDI-X12 (すべて)	プロトコル: EDI-X12 (すべて)
文書フロー: ISA (すべて)	文書フロー: ISA (すべて)

6. 変換した文書に対する 879 トランザクションを表す接続の「アクティブ化」をクリックします。

表 28. XML 文書接続に対する EDI トランザクション

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: X12V5R1 (すべて) 文書フロー: 879 (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて) 文書フロー: WWRE_ITEMCREATIONINTERNAL (すべて)

この時点で、TP1 が 879 トランザクションを含む EDI 交換をコミュニティー・マネージャーに送信すると、EDI 交換のエンベロープが解除されて 879 トランザクションが取り出されます。次に、879 トランザクションは変換され、変換された文書がコミュニティー・マネージャーのゲートウェイに送信されます。

## XML から EDI への例

このセクションでは、コミュニティー・マネージャーからハブに XML 文書を送信する例を示します。XML 文書はハブで EDI トランザクションに変換され、EDI 交換内のエンベロープに包まれて参加者に送信されます。

この例では、Data Interchange Services のマッピング担当者が変換マップを作成したと想定しています。その変換マップは、XML 文書を受け取り、標準の EDI 850 トランザクション (MX12V3R1 ディクショナリーを使用して定義されたもの) に変換します。変換されたトランザクションは、参加者によって処理されます。この例のマップは S\_DT\_XML\_TO\_EDI.eif という名前です。

Data Interchange Services のマッピング担当者は、変換マップを WebSphere Partner Gateway データベースに直接エクスポートすることができます。あるいは、Data Interchange Services のマッピング担当者からユーザーにファイルを送信することもできます。その場合、ユーザーは bcgDISImport ユーティリティを使用してファイルを WebSphere Partner Gateway にインポートします。この付録では、後者のシナリオを想定しています。

### 変換マップのインポート

このセクションでは、XML 入力を受け取って EDI トランザクションに変換する変換マップのインポート手順について説明します。変換マップをインポートするプロセスで、マップに関連付けられた文書定義もインポートします。

変換マップをインポートする前に、Data Interchange Services のマッピング担当者から変換マップを受信する必要があります。この一連の手順では、S\_DT\_XML\_TO\_EDI.eif というファイルがシステムにあることを前提にしています。

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドまたはスクリプトを入力します。

- UNIX システムの場合:

```
<ProductDir>/bin/bcgDISImport.sh <database_user_ID>
<password> S_DT_XML_TO_EDI.eif
```

- Windows システムの場合:

```
<ProductDir>%bin%bcgDISImport.bat <database_user_ID>
<password> S_DT_XML_TO_EDI.eif
```

ここで、<database\_user\_ID> と <password> は、WebSphere Partner Gateway のインストール作業の一部としてデータベースをインストールしたときに使用した値です。

## 変換マップと文書フロー定義の検証

インポートした変換マップと文書定義が Community Console に表示されることを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」の順にクリックします。

S\_DT\_XML\_TO\_EDI マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

このマップが関連付けられている文書フロー定義を確認できます。

表 29. マップに関連付けられた文書フロー定義

ソース	ターゲット
パッケージ: なし	パッケージ: N/A
プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて)	プロトコル: MX12V3R1 (すべて)
文書フロー: ICGCPO (すべて)	文書フロー: 850 (すべて)

S\_DT\_XML\_TO\_EDI マップは、XML 文書を受け取って EDI トランザクションに変換するように定義されています。

## ターゲットの構成

このセクションでは、ハブ用のファイル・システム・ディレクトリー・ターゲットを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックし、「ターゲットの作成」をクリックします。
2. 「ターゲット名」に **XMLFileTarget** と入力します。
3. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
4. 「ルート・パス (Root Path)」に **/Data/Manager/xmltarget** と入力します。
5. 「構成ポイント (Configuration Point)」リストから「**Preprocess**」を選択します。
6. 「使用可能なリスト」から「**com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.XMLSplitterHandler**」を選択し、「追加」をクリックして「構成済みリスト」に移動します。
7. 「保管」をクリックします。

コミュニティー・マネージャーは、このターゲットに XML 文書を送信します。

## 対話の作成

2 つの対話を作成します。1 つは XML から EDI への変換用、もう 1 つは EDI エンベロープ用です。

XML 文書を表すソースと、変換された 850 トランザクションを表すターゲットを持つ対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: FVT-XML-TEST」を展開し、「文書フロー: ICGCPO」を選択します。
4. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: MX12V3R1」を展開し、「文書フロー: 850」を選択します。
5. 「変換マップ」リストから「S\_DT\_XML\_TO\_EDI」を選択します。
6. 「アクション」リストから「XML 変換および EDI 検証」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

この対話は、XML 文書から EDI トランザクションへの変換を表します。したがって、変換マップを選択する必要があります。

EDI エンベロープを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

注: この対話では、変換は発生しません。

6. 「保管」をクリックします。

## 参加者の作成

この例の参加者は、コミュニティー・マネージャー (Manager) と参加者 (TP1) の 2 つです。

コミュニティー・マネージャー・プロフィールを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **ComManager** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **Manager** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー・マネージャー」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 0000000000 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、FreeForm ID として 01-0000000000 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

2 番目の参加者を作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **TP1** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **TP1** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「参加者」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000001 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000001 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

## ゲートウェイの作成

この例の両方の参加者用にファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成します。最初に、Manager 用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. Manager プロファイルの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) がファイル・システムにすでに存在している必要があります。
  - a. 「名前」に **ManagerFileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/Manager/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、コミュニティー・マネージャー用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

次に、参加者用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. 「TP1」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックして、この例で作成したもう 1 つの参加者を選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) は、既存のディレクトリーである必要があります。
  - a. 「名前」に **TP1FileGateway** と入力します。

- b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
- c. 「アドレス」に **file:///Data/TP1/filegateway** と入力します。
- d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、参加者用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 (242 ページ) で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の設定

この交換処理での 2 つの参加者の B2B 機能を使用可能に設定します。この例では、XML 文書はコミュニティー・マネージャーから発信され、参加者に配信されます。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (ComMan) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「B2B 機能」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 3 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. XML 文書を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ICGCPO (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、変換した文書を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: MX12V3R1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: MX12V3R1 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: 850」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

- c. 次に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
  - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
  - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
5. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「B2B 機能」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、EDI 850 トランザクションを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: MX12V3R1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: MX12V3R1 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: 850 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## エンベロープ・プロファイルの作成

次に、変換された 850 トランザクションを包むエンベロープのプロファイルを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. プロファイルの名前として **EnvProf1** を入力します。
4. 「EDI 標準」リストから「**X12**」を選択します。
5. 「一般」ボタンがデフォルトで選択されています。エンベロープの一般属性として以下の値を入力します。
  - INTCTLLEN: **9**
  - GRPCTLLEN: **9**
  - TRXCTLLEN: **9**
  - MAXDOCS: **1000**
6. 「交換」ボタンをクリックし、交換の属性として以下の値を入力します。
  - ISA01: **01**
  - ISA02: **ISA0000002**
  - ISA03: **02**
  - ISA04: **ISA0000004**
  - ISA11: **U**
  - ISA12: **00301**
  - ISA15: **T**
7. 「保管」をクリックします。

## XML 形式の作成

このセクションでは、カスタム XML 形式を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「XML 形式」をクリックします。
2. 「XML 形式の作成」をクリックします。
3. 「ルーティング形式」で「**FVT-XML-TEST ALL**」を選択します。
4. 「ファイル・タイプ」で「**XML**」を選択します。
5. 「ID タイプ」で「**ルート・タグ**」を選択し、**MMDoc** と入力します。
6. 「ソース・ビジネス ID」で「**定数**」を選択し、**000000000** と入力します。
7. 「ターゲット・ビジネス ID」で「**定数**」を選択し、**000000001** と入力します。
8. 「ソース文書フロー」で「**定数**」を選択し、**ICGCPO** と入力します。
9. 「ソース文書フロー・バージョン」で「**定数**」を選択し、**ALL** と入力します。
10. 「保管」をクリックします。

## 接続のアクティブ化

参加者接続をアクティブ化します。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」をクリックします。

2. 「ソース」リストから「**Manager**」を選択します。
3. 「ターゲット」リストから「**TP1**」を選択します。
4. 「**検索**」をクリックします。
5. 以下の接続に対して「**アクティブ化**」をクリックします。

表 30. XML 文書から EDI へのトランザクション接続

ソース	ターゲット
パッケージ: なし (N/A) プロトコル: FVT-XML-TEST (すべて) 文書フロー: ICGCPO (すべて)	パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: MX12V3R1 (すべて) 文書フロー: 850 (すべて)

6. EDI エンベロープを表す接続に対して「**アクティブ化**」をクリックします。

表 31. EDI エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)

## 属性の構成

ターゲット参加者 (TP1) およびソース参加者 (Manager) の B2B 機能の属性を構成します。

1. 「**アカウント管理**」>「**プロファイル**」>「**コミュニティ参加者**」をクリックし、「**検索**」をクリックします。
2. 「**TP1**」の横にある「**詳細の表示**」アイコンをクリックして選択します。
3. 「**B2B 機能**」をクリックします。
4. 「**パッケージ: N/A**」の横にある「**展開 (Expand)**」アイコンをクリックします。
5. 「**プロトコル: MX12V3R1**」の横にある「**編集**」アイコンをクリックします。
6. 以下の属性を指定します。
  - a. 「エンベロープ・プロファイル」の行で、リストから「**EnvProf1**」を選択します。
  - b. 「交換修飾子」の行に **01** と入力します。
  - c. 「交換 ID」の行に **00000001** と入力します。
  - d. 「交換の使用標識」の行に **T** と入力します。
7. 「**保管**」をクリックします。
8. 「**アカウント管理**」>「**プロファイル**」>「**コミュニティ参加者**」をクリックし、「**検索**」をクリックします。
9. 「**Manager**」の横にある「**詳細の表示**」をクリックして選択します。
10. 「**B2B 機能**」をクリックします。
11. 「**パッケージ: N/A**」の横にある「**展開 (Expand)**」アイコンをクリックします。
12. 「**プロトコル: MX12V3R1 (すべて)**」の横にある「**編集**」アイコンをクリックします。

13. 以下の属性を指定します。
  - a. 「交換修飾子」の行に **01** と入力します。
  - b. 「交換 ID」の行に **000000000** と入力します。
  - c. 「交換の使用標識」の行に **T** と入力します。
14. 「保管」をクリックします。

この時点で、ソース参加者 (コミュニティー・マネージャー) が参加者に XML 文書を送信すると、その文書は (ハブで) EDI トランザクションに変換され、エンベロープに包まれた後、参加者のゲートウェイに送信されます。

---

## ROD から EDI への例

このセクションでは、コミュニティー・マネージャーからハブに ROD 文書を送信する例を示します。ROD 文書はハブで EDI トランザクションに変換され、EDI 交換内のエンベロープに包まれて参加者に送信されます。

この例では、Data Interchange Services のマッピング担当者が変換マップを作成したと想定しています。その変換マップは、レコード単位文書 (ROD) を受け取り、標準の EDI 850 トランザクション (X12 のバージョン 5010 に対応した X12V5R1 デイクシオナリーを使用して定義されたもの) に変換します。変換されたトランザクションは、参加者によって処理されます。この例のマップは S\_DT\_ROD\_TO\_EDI.eif という名前です。

Data Interchange Services のマッピング担当者は、変換マップを WebSphere Partner Gateway データベースに直接エクスポートすることができます。あるいは、Data Interchange Services のマッピング担当者からユーザーにファイルを送信することもできます。その場合、ユーザーは bcgDISImport ユーティリティーを使用してファイルを WebSphere Partner Gateway にインポートします。この付録では、後者のシナリオを想定しています。

### 変換マップのインポート

このセクションでは、ROD 入力を受け取って X12 トランザクションに変換する変換マップのインポート手順について説明します。変換マップをインポートするプロセスで、マップに関連付けられた文書定義もインポートします。

変換マップをインポートする前に、Data Interchange Services のマッピング担当者から変換マップを受信する必要があります。この一連の手順では、S\_DT\_ROD\_TO\_EDI.eif というファイルがシステムにあることを前提にしています。

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドまたはスクリプトを入力します。

- UNIX システムの場合:

```
<ProductDir>/bin/bcgDISImport.sh <database_user_ID>
<password> S_DT_ROD_TO_EDI.eif
```

- Windows システムの場合:

```
<ProductDir>%bin%bcgDISImport.bat <database_user_ID>
<password> S_DT_ROD_TO_EDI.eif
```

ここで、<database\_user\_ID> と <password> は、WebSphere Partner Gateway のインストール作業の一部としてデータベースをインストールしたときに使用した値です。

## 変換マップと文書フロー定義の検証

インポートした変換マップと文書定義が Community Console に表示されることを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「マップ」>「変換マップ」の順にクリックします。

S\_DT\_ROD\_TO\_EDI マップが表示されます。

2. マップの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。

このマップが関連付けられている文書フロー定義を確認できます。

表 32. マップに関連付けられた文書フロー定義

ソース	ターゲット
パッケージ: なし プロトコル: ROD-TO-EDI_DICT (すべて) 文書フロー: DTROD-TO-EDI_ROD (すべて)	パッケージ: N/A プロトコル: X12V5R1(すべて) 文書フロー: 850 (すべて)

S\_DT\_ROD\_TO\_EDI マップは、ROD-TO-EDI\_DICT ディクショナリーに関連付けられた ROD 文書を受け取り、X12V5R1 規格に準拠した X12 850 トランザクションに変換するように定義されています。

## ターゲットの構成

このセクションでは、ハブ用のファイル・システム・ディレクトリー・ターゲットを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」をクリックし、「ターゲットの作成」をクリックします。
2. 「ターゲット名」に **RODFileTarget** と入力します。
3. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
4. 「ルート・パス (Root Path)」に **/Data/Manager/rodtarget** と入力します。
5. 「構成ポイント (Configuration Point)」リストから「**Preprocess**」を選択します。
6. 「使用可能なリスト」から「**com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.RODSplitterHandler**」を選択し、「追加」をクリックして「構成済みリスト」に移動します。
7. 「構成済みリスト」から「**com.ibm.bcg.edi.receiver.preprocesshandler.RODSplitterHandler**」を選択し、「構成」をクリックします。
8. 次の表に示す値を追加します。

表 33. ROD スプリッター・ハンドラーの属性

フィールド	値
送信元パッケージ名 (From Packaging Name)	なし

表 33. ROD スプリッター・ハンドラーの属性 (続き)

フィールド	値
送信元パッケージ・バージョン (From Packaging Version)	なし
送信元プロトコル名 (From Protocol Name)	ROD-TO-EDI_DICT
送信元プロトコル・バージョン (From Protocol Version)	ALL
送信元プロセス・コード (From Process Code)	DTROD-TO-EDI_ROD
送信元プロセス・バージョン (From Process Version)	ALL
METADictionary	ROD-TO-EDI_DICT
METADOCUMENT	DTROD-TO-EDI_ROD
METASyntax	rod
ENCODING	ascii
BCG_BATCHDOCS	ON

9. 「値の設定 (Set Values)」をクリックします。
10. 「保管」をクリックします。

コミュニティー・マネージャーは、このターゲットに ROD 文書を送信します。

## 対話の作成

2 つの対話を作成します。1 つはハブから送信される EDI エンベロープ用、もう 1 つは ROD 文書から EDI への変換用です。

ROD 文書を表すソースと、X12 文書をあらわすターゲットを持つ対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。
3. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: ROD-TO-EDI\_DICT」を展開し、「DTROD-TO-EDI\_ROD」を選択します。
4. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: X12V5R1」を展開し、「文書フロー: 850」を選択します。
5. 「変換マップ」リストから「S\_DT\_ROD\_TO\_EDI」を選択します。
6. 「アクション」リストから「ROD 変換および EDI 検証」を選択します。
7. 「保管」をクリックします。

この対話は、ROD 文書から標準の X12 トランザクションへの変換を表します。したがって、変換マップを選択する必要があります。

EDI エンベロープを表す対話を作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックし、次に「対話の作成」をクリックします。

3. 「パッケージ: N/A」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
4. 「パッケージ: なし」および「プロトコル: EDI-X12」を展開し、「文書フロー: ISA」を選択します。
5. 「アクション」リストから「パススルー」を選択します。

注: この対話では、変換は発生しません。この対話では、EDI 交換をエンベロープに包みます。

6. 「保管」をクリックします。

## 参加者の作成

この例の参加者は、コミュニティー・マネージャー (Manager) と参加者 (TP1) の 2 つです。

コミュニティー・マネージャー・プロフィールを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **ComManager** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **Manager** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー・マネージャー」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000000 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000000 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

2 番目の参加者を作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. 「会社ログイン名」に **TP1** と入力します。
3. 「参加者表示名」に **TP1** と入力します。
4. 「参加者タイプ」で、「コミュニティー参加者」を選択します。
5. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 000000001 を入力します。

注: DUNS ではなく Freeform を必ず選択してください。

6. 「ビジネス ID」に対して「新規」をクリックし、Freeform ID として 01-000000001 を入力します。
7. 「保管」をクリックします。

## ゲートウェイの作成

この例の両方の参加者用にファイル・ディレクトリー・ゲートウェイを作成します。最初に、Manager 用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. Manager プロファイルの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) がファイル・システムにすでに存在している必要があります。
  - a. 「名前」に **ManagerFileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/Manager/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、コミュニティー・マネージャー用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

次に、参加者用のゲートウェイを作成します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. 「TP1」の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックして、この例で作成したもう 1 つの参加者を選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックし、次に「作成」をクリックします。
4. ゲートウェイに関する以下の値を入力します。ファイル・ディレクトリー (パス全体) は、既存のディレクトリーである必要があります。
  - a. 「名前」に **TP1FileGateway** と入力します。
  - b. 「トランスポート」リストから「ファイル・ディレクトリー」を選択します。
  - c. 「アドレス」に **file:///Data/TP1/filegateway** と入力します。
  - d. 「保管」をクリックします。
5. 「リスト」をクリックし、参加者用のゲートウェイをすべてリストします。
6. 「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。
7. 「実動」リストから、ステップ 4 で作成したゲートウェイを選択します。
8. 「保管」をクリックします。

## B2B 機能の設定

この交換処理での 2 つの参加者の B2B 機能を使用可能に設定します。この例では、ROD 文書はコミュニティー・マネージャーから発信され、参加者 (TP1) に配信されます。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
2. この例のソース参加者 (Manager) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。

3. 「**B2B 機能**」をクリックします。
4. ソース参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、ROD 文書を表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: ROD-TO-EDI\_DICT (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: ROD-TO-EDI\_DICT (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: DTROD-TO-EDI\_ROD (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - b. 次に、EDI エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ソースの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ソースの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
    - 5) 「ソースの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
5. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「コミュニティー参加者」をクリックし、「検索」をクリックします。
6. この例のターゲット参加者 (TP1) に対して「詳細の表示」アイコンをクリックします。
7. 「**B2B 機能**」をクリックします。
8. ターゲット参加者に対して 2 組の機能を使用可能に設定します。
  - a. 最初に、EDI 850 トランザクションを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
    - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: N/A」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
    - 2) 「パッケージ: N/A」を展開します。
    - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
    - 4) 「プロトコル: X12V5R1 (すべて)」を展開します。

- 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: 850 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
- b. 次に、エンベロープを表す文書フロー定義を使用可能に設定します。
  - 1) 「ターゲットの設定」の下で、「パッケージ: なし」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックし、有効にします。
  - 2) 「パッケージ: なし」を展開します。
  - 3) 「ターゲットの設定」の下で、「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。
  - 4) 「プロトコル: EDI-X12 (すべて)」を展開します。
  - 5) 「ターゲットの設定」の下で、「文書フロー: ISA (すべて)」に対して「役割はアクティブではありません (Role is not active)」アイコンをクリックします。

## エンベロープ・プロファイルの作成

次に、変換された 850 トランザクションを包むエンベロープのプロファイルを作成します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「EDI」>「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. プロファイルの名前として **EnvProf1** を入力します。
4. 「EDI 標準」リストから「**X12**」を選択します。
5. 「一般」ボタンがデフォルトで選択されています。エンベロープの一般属性として以下の値を入力します。
  - INTCTLLEN: **9**
  - GRPCTLLEN: **9**
  - TRXCTLLEN: **9**
  - MAXDOCS: **1000**
6. 「交換」ボタンをクリックし、交換の属性として以下の値を入力します。
  - ISA01: **01**
  - ISA02: **ISA0000002**
  - ISA03: **02**
  - ISA04: **ISA0000004**
  - ISA11: **¥**
  - ISA12: **00501**
  - ISA15: **T**
7. 「保管」をクリックします。

## 接続のアクティブ化

接続をアクティブ化するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」 > 「参加者の接続」 をクリックします。
2. 「ソース」 リストから 「**Manager**」 を選択します。
3. 「ターゲット」 リストから 「**TP1**」 を選択します。
4. 「検索」 をクリックします。
5. ROD 文書から EDI トランザクションへのフローを表す接続に対して 「**アクティブ化**」 をクリックします。

表 34. ROD から EDI への接続

ソース	ターゲット
パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: ROD-TO-EDI_DICT (すべて) 文書 フロー: DTROD-TO-EDI_ROD (すべて)	パッケージ: なし (N/A) プロトコル: X12V5R1 (すべて) 文書フロー: 850

6. エンベロープを表す接続に対して 「**アクティブ化**」 をクリックします。

表 35. エンベロープ接続

ソース	ターゲット
パッケージ: なし (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)	パッケージ: N/A (N/A) プロトコル: EDI-X12 (すべて) 文書フロー: ISA (すべて)

## 属性の構成

エンベロープ・プロファイルの属性を指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」 > 「プロファイル」 > 「コミュニティー参加者」 をクリックし、「検索」 をクリックします。
2. リストから 「**TP1**」 を選択します。
3. 「**B2B 機能**」 をクリックします。
4. 「パッケージ: **N/A**」 の横にある 「**展開 (Expand)**」 アイコンをクリックします。
5. 「プロトコル: **X12V5R1**」 の横にある 「**編集**」 アイコンをクリックします。
6. 以下の属性を指定します。
  - a. 「エンベロープ・プロファイル」 の行で、リストから 「**EnvProf1**」 を選択します。
  - b. 「交換修飾子」 の行に **01** と入力します。
  - c. 「交換 ID」 の行に **00000001** と入力します。
  - d. 「交換の使用標識」 の行に **T** と入力します。
7. 「**保管**」 をクリックします。

この時点で、コミュニティー・マネージャーが ROD 文書をハブに送信すると、文書は 850 トランザクションに変換され、エンベロープに包まれた後、参加者のゲートウェイに送信されます。

---

## 付録 C. RosettaNet に関する追加情報

この付録では、RosettaNet のサポートに関する追加情報を示します。以下のトピックを扱います。

- 『PIP の非アクティブ化』
- 『障害通知機能』
- 257 ページの『PIP 文書フロー・パッケージの作成』
- 269 ページの『PIP 文書フロー・パッケージの内容』

---

### PIP の非アクティブ化

PIP パッケージは、WebSphere Partner Gateway にアップロードされた後は、削除できません。ただし、使用できないように PIP を非アクティブにすることはできません。

参加者とのすべての通信に対して PIP を非アクティブにするには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 文書フロー定義を展開して、使用不可にする PIP の文書フローを表示します。
3. パッケージの「状況」列で、「使用可能」をクリックします。「状況」列に「使用不可」と表示され、WebSphere Partner Gateway は PIP の文書フロー定義を使用できなくなります。

特定の参加者との PIP 通信を非アクティブにするには、PIP 用に定義された参加者との接続を非アクティブにします。

---

### 障害通知機能

このセクションでは、障害通知について説明します。

#### 0A1 PIP

PIP メッセージの処理中に障害が発生した場合、WebSphere Partner Gateway は 0A1 PIP をメカニズムとして使用して、メッセージの送信元である参加者またはバックエンド・システムに障害をブロードキャストします。例えば、バックエンド・システムが 3A4 PIP を開始するとします。WebSphere Partner Gateway は RNSC メッセージを処理して、参加者に RosettaNet メッセージを送信します。WebSphere Partner Gateway は待ち時間がタイムアウト制限に達するまで、RosettaNet メッセージへの応答を待機します。この処理が発生すると、WebSphere Partner Gateway は 0A1 PIP を作成し、参加者に送信します。0A1 PIP により例外条件が識別されるため、参加者は 3A4 PIP 障害を補正することができます。

障害通知を行うには、0A1 パッケージをアップロードし、このパッケージを使用して参加者との PIP 接続を作成します。

## 連絡先情報の更新

0A1 PIP の RosettaNet 連絡先情報を変更するには、<ProductDir>/router/lib/config ディレクトリー内の BCG.Properties ファイルを編集する必要があります。

これらのフィールドには、0A1 PIP 内の連絡先情報が取り込まれます。FAX はオプションです (値を空にすることができます) が、それ以外の情報は必須です。

- **bcg.0A1.fromContactName**
- **bcg.0A1.fromEMailAddr**
- **bcg.0A1.fromPhoneNbr**
- **bcg.0A1.fromFaxNbr**

電話番号の長さは、最大で 30 バイトです。それ以外のフィールドの長さには、制限がありません。値を変更した場合は、Document Manager を再始動する必要があります。

---

## RosettaNet 属性値の編集

RosettaNet をサポートするために、アクション・タイプの文書フロー定義に特定の属性セットが設定されています。これらの属性は、PIP メッセージの検証、PIP で使用される役割やサービスの定義、およびアクションに対する応答の定義に使用される情報を提供します。これらの属性値は、WebSphere Partner Gateway が提供する PIP パッケージによって自動的に定義されるため、通常は変更の必要がありません。

アクション文書フロー定義の RosettaNet 属性を編集するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「展開 (Expand)」アイコンをクリックして個々にノードを適切な文書フロー定義レベルまで展開するか、「すべて」を選択してツリー全体を展開します。
3. 各アクションの「アクション」列には、「RosettaNet 属性値の編集」アイコンが配置されています。このアイコンをクリックして、アクションの RosettaNet 属性を編集します。Community Console の RosettaNet 属性の下に、定義済み属性のリストが表示されます。
4. RosettaNet 属性の下に次のパラメーターを入力します。(これらの属性は、PIP をシステムにアップロードしたときに自動的に定義されます。)

表 36. RosettaNet 属性

RosettaNet 属性	説明
DTD 名	RosettaNet が提供する DTD 内の PIP アクション名を識別します。
元サービス	メッセージの送信元である参加者またはバックエンド・システムのネットワーク・コンポーネント・サービス名を格納します。
宛先サービス	メッセージの受信先である参加者またはバックエンド・システムのネットワーク・コンポーネント・サービス名を格納します。
元役割	メッセージの送信元である参加者またはバックエンド・システムの役割名を格納します。

表 36. RosettaNet 属性 (続き)

RosettaNet 属性	説明
宛先役割	メッセージの受信先である参加者またはバックエンド・システムの役割名を格納します。
ルート・タグ	PIP に関連付けられた XML 文書のルート・エレメントの名前を格納します。
アクション名からの応答	PIP で次に実行するアクションを識別します。

注: コンソールに「属性が見つかりませんでした」というメッセージが表示される場合は、属性が定義されていません。

5. コンソールに表示されたこのメッセージの定義レベルが下位レベルの場合でも、より高いレベルの定義から属性が継承されるため、定義が機能することがあります。属性および値を追加すると、継承された属性がオーバーライドされ、文書フロー定義の機能が変更されます。
6. 「保管」をクリックします。

## PIP 文書フロー・パッケージの作成

RosettaNet では PIP を随時追加しているため、これらの新しい PIP をサポートできるように、または PIP のアップグレードをサポートできるように、独自の PIP パッケージを作成しなければならない場合があります。特に明記されていない限り、このセクションでは、PIP 5C4 V01.03.00 の PIP 文書フロー・パッケージの作成手順について説明します。WebSphere Partner Gateway が提供しているのは PIP 5C4 V01.02.00 の PIP 文書フロー・パッケージです。したがって、手順で実際に説明しているのはアップグレードの実行方法です。ただし、PIP 文書フロー・パッケージの作成手順は同様であり、追加ステップについては手順内で示しています。

始める前に、[www.rosettanet.org](http://www.rosettanet.org) から新しいバージョンの PIP 仕様をダウンロードします。アップグレードを実行する場合は、古いバージョンもダウンロードします。例えば、この手順に記載されたアップグレードを実行する場合は、5C4\_DistributeRegistrationStatus\_V01\_03\_00.zip および 5C4\_DistributeRegistrationStatus\_V01\_02\_00.zip をダウンロードします。仕様には次のファイル・タイプが含まれます。

- RosettaNet XML メッセージ・ガイドライン - PIP のカーディナリティー、語彙、構造、および許容データ・エレメント値や値タイプを定義する 5C4\_MG\_V01\_03\_00\_RegistrationStatusNotification.htm などの HTML ファイル
- RosettaNet XML メッセージ・スキーマ - PIP の順序またはシーケンス、エレメントの命名、構成、および属性を定義する 5C4\_MS\_V01\_03\_RegistrationStatusNotification.dtd などの DTD ファイル
- PIP 仕様 - PIP の業務パフォーマンスを規定する 5C4\_Spec\_V01\_03\_00.doc などの DOC ファイル
- PIP リリース・ノート - このバージョンと以前のバージョンの違いを示す 5C4\_V01\_03\_00\_ReleaseNotes.doc などの DOC ファイル

PIP 文書フロー・パッケージを作成またはアップグレードする手順では、以下の作業を行います。

- XSD ファイルの作成
- XML ファイルの作成
- パッケージの作成

## XSD ファイルの作成

PIP 文書フロー・パッケージには、メッセージ・フォーマットおよびエレメントの許容値を定義する XML スキーマ・ファイルが含まれます。次の手順では、PIP 仕様ファイルの内容に基づいてこれらのファイルを作成する方法について説明します。

PIP 仕様ファイル内の DTD ファイルごとに、XSD ファイルを少なくとも 1 つ作成します。PIP 5C4 V01.03.00 ではメッセージ・フォーマットが変更されているため、このバージョンにアップグレードする例では、BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.03.xsd ファイルの作成方法を例として示します。XSD ファイルについては、268 ページの『検証の概要』を参照してください。

PIP 文書フロー・パッケージの XSD ファイルを作成するには、以下のステップを実行します。

1. DTD ファイルを WebSphere Studio Application Developer などの XML エディターにインポートまたはロードします。例えば、5C4\_MS\_V01\_03\_RegistrationStatusNotification.dtd ファイルをロードします。
2. XML エディターを使用して、DTD を XML スキーマに変換します。ここでは、Application Developer を使用した変換方法について説明します。
  - a. XML パースペクティブの「ナビゲーション」ペインで、インポートされた DTD ファイルを含むプロジェクトを開きます。
  - b. DTD ファイルを右クリックし、「生成」>「XML スキーマ」を選択します。
  - c. 「生成」パネルで、新しい XSD ファイルを保存する場所を入力するか、または選択します。「ファイル名」フィールドに新しい XSD ファイルの名前を入力します。この例の場合は、BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.03.xsd のような名前を入力します。
  - d. 「完了」をクリックします。
3. 新しい XSD ファイルに仕様を追加して、RosettaNet XML ガイドライン内で複数のカーディナリティー値を持つエレメントを補正します。ガイドラインでは、メッセージ内のエレメントはツリー形式で示され、エレメントの左側に各エレメントのカーディナリティーが表示されます。

一般に、ガイドライン内のエレメントは、DTD ファイル内のエレメントの定義と一致します。ただし、ガイドラインには、名前が同じであってもカーディナリティーが異なるエレメントが含まれる場合があります。この場合、DTD はカーディナリティーを提供できないため、XSD を変更する必要があります。例えば、5C4\_MG\_V01\_03\_00\_RegistrationStatusNotification.htm ガイドライン・ファイルでは、次のカーディナリティーを持つ 5 つの子エレメントを含む ContactInformation が 15 行目で定義されています。

- 1 contactName
- 0..1 EmailAddress
- 0..1 facsimileNumber
- 0..1 PhysicalLocation
- 0..1 telephoneNumber

150 行目の ContactInformation 定義には、次のカーディナリティーを持つ 4 つの子エレメントが含まれます。

- 1 contactName
- 1 EmailAddress
- 0..1 facsimileNumber
- 1 telephoneNumber

ただし、XSD ファイルの ContactInformation のそれぞれの子には、両方の定義に適合するカーディナリティーが 1 つ含まれます。

```
<xsd:element name="ContactInformation">
 <xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
 <xsd:element ref="contactName"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" ref="EmailAddress"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" ref="facsimileNumber"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" ref="PhysicalLocation"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" ref="telephoneNumber"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

別のバージョンのパッケージに基づいて PIP 文書フロー・パッケージを更新し、別のバージョンの定義を再利用する場合は、これらの各定義に対して以下のステップを実行します。

- a. エレメントの定義を削除します。例えば、ContactInformation エレメントを削除します。
- b. 置き換えるバージョンの PIP 文書フロー・パッケージを開きます。例えば、BCG\_Package\_RNIFV02.00\_5C4V01.02.zip ファイルを開きます。
- c. 再利用する定義を検索します。例えば、BCG\_ContactInformation\_Types.xsd ファイル内の ContactInformation\_type7 定義は、ガイドラインの 15 行目に必要な定義と一致します。

```
<xsd:complexType name="ContactInformation_type7">
 <xsd:sequence>
 <xsd:element name="contactName" type="common_FreeFormText_R"/>
 <xsd:element name="EmailAddress" type="common_EmailAddress_R"
 minOccurs="0"/>
 <xsd:element name="facsimileNumber"
 type="common_CommunicationsNumber_R" minOccurs="0"/>
 <xsd:element name="PhysicalLocation"
 type="PhysicalLocation_type1" minOccurs="0" />
 <xsd:element name="telephoneNumber"
 type="common_CommunicationsNumber_R" minOccurs="0" />
 </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
```

- d. 更新された PIP 文書フロー・パッケージ用に作成している新しい XSD ファイル内に、再利用する定義を含む XSD ファイルへの参照を作成します。例

えば、次のように、BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.03.xsd ファイル内に BCG\_ContactInformation\_Types.xsd への参照を作成します。

```
<xsd:include schemaLocation="BCG_ContactInformation_Types.xsd"/>
```

- e. 新しい XSD ファイル内で、削除したエレメントを参照するすべてのエレメントの ref 属性を削除します。再利用する定義を参照する type 属性を追加します。例えば、productProviderFieldApplicationEngineer エレメント内で *ref="Contact Information"* を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="ContactInformation"
type="ContactInformation_type7"
```

PIP 文書フロー・パッケージを作成する場合、または PIP 文書フロー・パッケージをアップグレードする際に、必要な定義が別のバージョン内に存在しない場合は、ガイドライン内のエレメントのインスタンスごとに以下のステップを実行します。

- a. エレメントの定義を削除します。例えば、ContactInformation エレメントを削除します。
- b. 置き換える定義を作成します。例えば、ガイドラインの 15 行目の定義と一致する ContactInformation\_localType1 定義を作成します。

```
<xsd:complexType name="ContactInformation_localType1">
 <xsd:sequence>
 <xsd:element ref="contactName"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" ref="EmailAddress"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="facsimileNumber"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="PhysicalLocation"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="telephoneNumber"/>
 </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
```

- c. 削除されたエレメントを参照するすべてのエレメントについて、ref 属性を削除し、上記ステップで定義した適切な複合タイプを参照する type 属性を追加します。例えば、productProviderFieldApplicationEngineer エレメント内で *ref="Contact Information"* を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="ContactInformation"
type="ContactInformation_localType1"
```

図 35 は、変更前の productProviderFieldApplicationEngineer エレメントを示しています。

```
<xsd:element name="productProviderFieldApplicationEngineer">
 <xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
 <xsd:element ref="ContactInformation"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

図 35. 変更前の productProviderFieldApplicationEngineer エレメント:

261 ページの図 36 は、変更後の productProviderFieldApplicationEngineer エレメントを示しています。

```

<xsd:element name="productProviderFieldApplicationEngineer">
 <xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
 <xsd:element name="ContactInformation"
 type="ContactInformation_localType1"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType>
</xsd:element>

```

図 36. 変更後の *productProviderFieldApplicationEngineer* エレメント:

4. 特定の値のみを設定できるエレメントの列挙値を指定します。列挙値は、ガイドラインの『ガイドライン情報 (Guideline Information)』セクションの表に記載されています。

例えば、PIP 5C4 V01.03.00 メッセージの *GlobalRegistrationComplexityLevelCode* では、「Above average」、「Average」、「Maximum」、「Minimum」、「None」、および「Some」の値のみが有効です。

別のバージョンのパッケージに基づいて PIP 文書フロー・パッケージを更新し、別のバージョンの列挙値セットを再利用する場合は、セットごとに以下のステップを実行します。

- a. エレメントの定義を削除します。例えば、*GlobalRegistrationComplexityLevelCode* エレメントを削除します。
- b. 置き換えるバージョンの PIP 文書フロー・パッケージを開きます。例えば、*BCG\_Package\_RNIFV02.00\_5C4V01.02.zip* ファイルを開きます。
- c. 再利用する列挙値を含む定義を検索します。例えば、*BCG\_GlobalRegistrationComplexityLevelCode.xsd* ファイル内の *GlobalRegistrationComplexityLevelCode* 定義には、Entity Instance テーブルで定義された列挙値の定義が含まれています。

```

<xsd:simpleType name="_GlobalRegistrationComplexityLevelCode">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:enumeration value="Above average"/>
 <xsd:enumeration value="Average"/>
 <xsd:enumeration value="Maximum"/>
 <xsd:enumeration value="Minimum"/>
 <xsd:enumeration value="None"/>
 <xsd:enumeration value="Some"/>
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>

```

- d. 更新された PIP 文書フロー・パッケージ用に作成している新しい XSD ファイル内に、再利用する定義を含む XSD ファイルへの参照を作成します。例えば、次のように、*BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.03.xsd* ファイル内に *BCG\_GlobalRegistrationComplexityLevelCode.xsd* への参照を作成します。

```

<xsd:include schemaLocation=
 "BCG_GlobalRegistrationComplexityLevelCode_Types.xsd" />

```

- e. 新しい XSD ファイル内で、削除したエレメントを参照するすべてのエレメントの *ref* 属性を削除します。再利用する定義を参照する *type* 属性を追加します。例えば、*DesignAssemblyInformation* エレメント内で *ref="GlobalRegistrationComplexityLevelCode"* を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="GlobalRegistrationComplexityLevelCode"
type="_GlobalRegistrationComplexityLevelCode"
```

PIP 文書フロー・パッケージを作成する場合、または PIP 文書フロー・パッケージをアップグレードする際に、必要な列挙値の定義が別のバージョンに存在しない場合は、ガイドライン内の列挙値を持つすべてのエレメントに対して以下のステップを実行します。

- a. エレメントの定義を削除します。例えば、  
GlobalRegistrationComplexityLevelCode エレメントを削除します。
- b. 置き換える定義を作成します。例えば、  
GlobalRegistrationComplexityLevelCode\_localType 定義を作成し、テーブルに記載されている列挙値の定義を含めます。

```
<xsd:simpleType
 name="GlobalRegistrationComplexityLevelCode_localType">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:enumeration value="Above average"/>
 <xsd:enumeration value="Average"/>
 <xsd:enumeration value="Maximum"/>
 <xsd:enumeration value="Minimum"/>
 <xsd:enumeration value="None"/>
 <xsd:enumeration value="Some"/>
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

- c. 削除されたエレメントを参照するすべてのエレメントについて、ref 属性を削除し、上記ステップで定義した適切な複合タイプを参照する type 属性を追加します。例えば、ref="GlobalRegistrationComplexityLevelCode" を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="GlobalRegistrationComplexityLevelCode"
type="GlobalRegistrationComplexityLevelCode_localType"
```

図 37 は、変更前の DesignAssemblyInformation エレメントを示しています。

```
<xsd:element name="DesignAssemblyInformation">
 <xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="assemblyComments"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="demandCreatorTrackingIdentifier"/>
 <xsd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0"
 ref="DesignPartInformation"/>
 <xsd:element ref="DesignRegistrationIdentification"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="GeographicRegion"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="GlobalRegistrationComplexityLevelCode"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="GlobalRegistrationInvolvementLevelCode"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="RegistrationStatus"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

図 37. 変更前の DesignAssemblyInformation エレメント:

図 38 は、変更後の DesignAssemblyInformation エlementを示しています。

```
<xsd:element name="DesignAssemblyInformation">
 <xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="assemblyComments"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="demandCreatorTrackingIdentifier"/>
 <xsd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0"
 ref="DesignPartInformation"/>
 <xsd:element ref="DesignRegistrationIdentification"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="GeographicRegion"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 name="GlobalRegistrationComplexityLevelCode"
 type="GlobalRegistrationComplexityLevelCode_localType"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="GlobalRegistrationInvolvementLevelCode"/>
 <xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 ref="RegistrationStatus"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

図 38. 変更後の DesignAssemblyInformation Element:

5. データ・エンティティのデータ型、最小長、最大長、および表現を設定します。RosettaNet XML メッセージ・ガイドラインでは、Fundamental Business Data Entities テーブルにこの情報が記載されています。

別のバージョンのパッケージに基づいて PIP 文書フロー・パッケージを更新し、別のバージョンのデータ・エンティティ定義を再利用する場合は、セットごとに以下のステップを実行します。

- a. データ・エンティティ・Elementの定義を削除します。例えば、DateStamp Elementを削除します。
- b. 置き換えるバージョンの PIP 文書フロー・パッケージを開きます。例えば、BCG\_Package\_RNIFV02.00\_5C4V01.02.zip ファイルを開きます。
- c. 再利用する定義を検索します。例えば、BCG\_common.xsd ファイル内の \_common\_DateStamp\_R 定義には、ガイドラインで指定された情報に適合する次の定義が含まれます。

```
<xsd:simpleType name="_common_DateStamp_R">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:pattern value="[0-9]{8}Z" />
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

- d. 更新された PIP 文書フロー・パッケージ用に作成している新しい XSD ファイル内に、再利用する定義を含む XSD ファイルへの参照を作成します。例えば、次のように、BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.03.xsd ファイル内で BCG\_common.xsd への参照を作成します。

```
<xsd:include schemaLocation="BCG_common.xsd" />
```

- e. 新しい XSD ファイル内で、削除したエレメントを参照するすべてのエレメントの `ref` 属性を削除します。再利用する定義を参照する `type` 属性を追加します。例えば、`DesignAssemblyInformation` エレメント内で `ref="DateStamp"` を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="DateStamp" type="_common_DateStamp_R"
```

PIP 文書フロー・パッケージを作成する場合、または PIP 文書フロー・パッケージをアップグレードする際に、必要なデータ・エンティティー定義が別のバージョン内に存在しない場合は、データ・エンティティー・エレメントごとに以下のステップを実行します。

- a. エレメントの定義を削除します。例えば、`DateStamp` エレメントを削除します。
- b. 置き換える定義を作成します。例えば、データ型、最小長、最大長、および表現情報を使用して、`DateStamp_localType` 定義を作成します。

```
<xsd:simpleType name="DateStamp_localType">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:pattern value="[0-9]{8}Z" />
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

- c. 削除されたエレメントを参照するすべてのエレメントについて、`ref` 属性を削除し、上記ステップで定義した適切な複合タイプを参照する `type` 属性を追加します。例えば、`ref="DateStamp"` を削除し、以下の情報を追加します。

```
name="DateStamp" type="DateStamp_localType"
```

図 39 は、変更前の `beginDate` エレメントを示しています。

```
<xsd:element name="beginDate">
 <xsd:complexType">
 <xsd:sequence>
 <xsd:element ref="DateStamp"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType">
</xsd:element>
```

図 39. 変更前の `beginDate` エレメント:

図 40 は、変更後の `beginDate` エレメントを示しています。

```
<xsd:element name="beginDate">
 <xsd:complexType">
 <xsd:sequence>
 <xsd:element name="DateStamp" type="DateStamp_localType"/>
 </xsd:sequence>
 </xsd:complexType">
</xsd:element>
```

図 40. 変更後の `beginDate` エレメント:

## XML ファイルの作成

PIP 文書フロー・パッケージ用の XSD ファイルを作成すると、RNIF パッケージ用の XML ファイル、およびバックエンド統合パッケージ用の XML ファイルを作成できるようになります。例えば、これらは `BCG_Package_RNIFV02.00_5C4V01.03.zip`

および BCG\_Package\_RNSC1.0\_RNIFV02.00\_5C4V01.03.zip というパッケージです。以下に、RNIF パッケージ用の XML ファイルを作成する手順を示します。

1. RNIF PIP 文書フロー・パッケージ・ファイルから XML ファイルを抽出します。アップグレードする場合は、前のバージョンのパッケージ (例えば BCG\_Package\_RNIFV02.00\_5C4V01.02.zip) からファイルを抽出します。新しいパッケージを作成する場合は、作成しようとしているパッケージと類似した PIP 文書フロー・パッケージからファイルを抽出します。例えば、2 アクション PIP をサポートするパッケージを作成する場合は、別の 2 アクション PIP パッケージから XML ファイルをコピーします。
2. ファイルをコピーし、適切な名前に変更します (例えば BCG\_RNIFV02.00\_5C4V01.03.xml)。
3. 新しいファイル内で、PIP に関する情報を含むエレメントを更新します。次の表に、5C4 PIP での更新に必要な情報の例を示します。この情報はファイル内に複数存在することがあることに注意してください。必ずすべてのインスタンスを更新してください。

表 37. 5C4 PIP 更新情報

変更する情報	古い値	新しい値
PIP ID	5C4	5C4
PIP のバージョン	V01.02	V01.03
ファイル拡張子を含まない要求メッセージ DTD ファイルの名前	5C4_MS_V01_02_RegistrationStatusNotification	5C4_MS_V01_03_RegistrationStatusNotification
ファイル拡張子を含まない確認メッセージ DTD ファイルの名前 (2 アクション PIP の場合のみ)	なし	なし
ファイル拡張子を含まない要求メッセージ XSD ファイルの名前	BCG_5C4RegistrationStatusNotification_V01.02	BCG_5C4RegistrationStatusNotification_V01.03
ファイル拡張子を含まない確認メッセージ XSD ファイルの名前 (2 アクション PIP の場合のみ)	なし	なし
要求メッセージに対する XSD ファイルのルート・エレメント名	Pip5C4RegistrationStatusNotification	Pip5C4RegistrationStatusNotification
確認メッセージに対する XSD ファイルのルート・エレメント名 (2 アクション PIP の場合のみ)	なし	なし

4. PIP 仕様文書を開き、これを使用して次の表に記載された情報を更新します。これらの値は更新しなくてもよい場合があるため、更新する場合は各バージョンの仕様を比較してください。

表 38. PIP 仕様の 5C4 PIP 更新情報

更新する情報	説明	5C4 パッケージの値
アクティビティ名	表 3-2 で指定	配布登録状況
イニシエーターの役割名	表 3-1 で指定	製品プロバイダー
応答者の役割名	表 3-1 で指定	要求作成者
要求アクション名	表 4-2 で指定	登録状況通知
確認アクション名	表 4-2 で指定 (2 アクション PIP の場合のみ)	なし

5. パッケージ属性値を更新します。これらの値は更新しなくてもよい場合があるため、更新する場合は各バージョンの仕様を比較してください。

注: バックエンド統合パッケージを作成する場合は、このステップを省略してステップ 6 (267 ページ) に進んでください。

表 39. 5C4 PIP 属性の更新

更新する情報	説明	5C4 パッケージの値	XML ファイルの要素・パス
NonRepudiation Required	表 3-3 で指定	N	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は NonRepudiationRequired) ns1:AttributeValue AttributePickListItem ATTRVALUEKEY
NonRepudiationOf Receipt	表 3-3 で指定	N	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は NonRepudiationOfReceipt) ns1:AttributeValue AttributePickListItem ATTRVALUEKEY
DigitalSignature Required	表 5-1 で指定	Y	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は DigitalSignatureRequired) ns1:AttributeValue AttributePickListItem ATTRVALUEKEY

表 39. 5C4 PIP 属性の更新 (続き)

更新する情報	説明	5C4 パッケージの値	XML ファイルの要素・パス
TimeToAcknowledge	表 3-3 で指定	2 (120 分)	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は TimeToAcknowledge) ns1:AttributeValue ATTRVALUE
TimeToPerform	表 3-3 で指定	2 (120 分)	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は TimeToPerform) ns1:AttributeValue ATTRVALUE
RetryCount	表 3-3 で指定	3	ns1:Package ns1:Protocol ns1:Process ns1:Attribute (ATTRIBUTEKEY は RetryCount) ns1:AttributeValue ATTRVALUE

6. ns1:Package/ns1:Protocol/GuidelineMap エレメントを更新して、未使用の XSD ファイルを削除し、作成または参照したすべての XSD ファイルを追加します。

バックエンド統合パッケージを作成するには、次の手順を除いて、ステップ 1 から 6 までを繰り返します。

- ステップ 1 (265 ページ) で、バックエンド統合パッケージ (例えば BCG\_Package\_RNSC1.0\_RNIFV02.00\_5C4V01.02.zip) から XML ファイルを抽出します。
- ステップ 5 (266 ページ) を実行しないでください。

XML および XSD ファイルを作成すると、PIP 文書フロー・パッケージを作成できるようになります。

## パッケージの作成

RNIF パッケージを作成するには、以下のステップを実行します。

1. GuidelineMaps ディレクトリーを作成し、このディレクトリーにパッケージの XSD ファイルをコピーします。
2. Packages ディレクトリーを作成し、このディレクトリーに RNIF XML ファイルをコピーします。
3. 親ディレクトリーに移動して、GuidelineMaps および Packages ディレクトリーを含む PIP 文書フロー・パッケージ (ZIP ファイル) を作成します。ZIP ファイル内ではディレクトリー構造を保持する必要があります。

バックエンド統合パッケージを作成するには、RNIF ファイルの代わりにバックエンド統合 XML ファイルを使用して、ステップ 1 から 3 までを繰り返します。

PIP パッケージを作成すると、72 ページの『RNIF および PIP の文書フロー・パッケージ』の手順を使用して、PIP パッケージをアップロードできるようになります。

---

## 検証の概要

WebSphere Partner Gateway は検証マップを使用して RosettaNet メッセージのサービス内容を検証します。これらの検証マップは、有効メッセージの構造、およびメッセージ内のエレメントのカーディナリティー、フォーマット、有効値 (列挙) を定義します。各 PIP 文書フロー・パッケージ内で、WebSphere Partner Gateway は検証マップを GuidelineMaps ディレクトリー内の XSD ファイルとして提供します。

PIP メッセージのフォーマットは RosettaNet で指定されるため、通常は検証マップをカスタマイズする必要がありません。ただし、カスタマイズする場合は、257 ページの『PIP 文書フロー・パッケージの作成』を参照して、メッセージの検証に使用する XSD ファイルのアップグレードに必要な手順、およびカスタム PIP 文書フロー・パッケージの作成手順を確認してください。

## カーディナリティー

カーディナリティーは、特定のエレメントがメッセージ内に出現できる回数、または出現しなければならない回数を決定します。検証マップでは、属性のカーディナリティーは minOccurs および maxOccurs 属性によって決まります。

BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.02.xsd に関する次の例を参照してください。

```
<xsd:element name="GeographicRegion" type="GeographicRegionType"
 minOccurs="0"/>
```

WebSphere Partner Gateway でエレメントのカーディナリティーを検査する必要がない場合、検証マップ内のエレメントの minOccurs および maxOccurs 属性値は、次の例のように「0」および「unbounded」になります。

```
<xsd:element name="DesignRegistrationIdentification"
 type="DesignRegistrationIdentificationType2"
 minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
```

## フォーマット

フォーマットは、エレメント・タイプに関するデータの配置またはレイアウトを決定します。検証マップでは、次の例のように、タイプに 1 つ以上の制限が適用されます。

### 例 1

```
<xsd:simpleType name="_common_LineNumber_R">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:minLength value="1" />
 <xsd:maxLength value="6" />
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

メッセージ内のすべての `_common_LineNumber_R` タイプ・エレメントには、1 から 6 文字のストリングを設定する必要があります。

## 例 2

```
<xsd:simpleType name="_GlobalLocationIdentifier">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:pattern value="[0-9]{9}.{1,4}" />
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

メッセージ内のすべての `_GlobalLocationIdentifier` タイプ・エレメントには、9 文字の数値データのあとに 1 から 4 文字の英数字データが続くストリングを設定する必要があります。したがって、最小長は 10 文字、最大長は 13 文字です。

## 例 3

```
<xsd:element name="DayOfMonth">
 <xsd:simpleType>
 <xsd:restriction base="xsd:positiveInteger">
 <xsd:totalDigits value="2" />
 <xsd:minInclusive value="1" />
 <xsd:maxInclusive value="31" />
 </xsd:restriction>
 </xsd:simpleType>
</xsd:element>
```

メッセージ内のすべての `_DayOfMonth` タイプ・エレメントには、1 または 2 文字で、かつ 1 から 31 (両端を含む) の `PositiveInteger` の値を設定する必要があります。

## 列挙

列挙はエレメントの有効値を決定します。検証マップでは、次の例のように、エレメントのタイプに 1 つ以上の列挙制限が適用されます。

```
<xsd:simpleType name="_local_GlobalDesignRegistrationNotificationCode">
 <xsd:restriction base="xsd:string">
 <xsd:enumeration value="Initial" />
 <xsd:enumeration value="Update" />
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

メッセージ内のすべての `_local_GlobalDesignRegistrationNotificationCode` タイプ・エレメントの有効値は、「Initial」または「Update」のみです。

---

## PIP 文書フロー・パッケージの内容

以降のセクションに、各 PIP に対して WebSphere Partner Gateway が提供する PIP 文書フロー・パッケージを示します。各パッケージ内の `Packages` ディレクトリーには XML ファイルが 1 つ、`GuidelineMaps` ディレクトリーには XSD ファイルが複数格納されています。これらの構造は、PIP のすべての PIP 文書フロー・パッケージに対して共通です。

### 0A1 Notification of Failure V1.0

ここでは、0A1 Notification of Failure V1.0 PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、0A1 Notification of Failure V1.0 PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 40. 0A1 Notification of Failure V1.0 PIP の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_0A11.0.zip	BCG_RNIF1.1_0A11.0.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_0A11.0.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_0A11.0.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、0A1 Notification of Failure V1.0 のガイドライン・マップの内容を示します。

- 0A1FailureNotification\_1.0.xml
- BCG\_0A1FailureNotification\_1.0.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 0A1 Notification of Failure V02.00

ここでは、0A1 Notification of Failure V02.00 PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、0A1 Notification of Failure V02.00 PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 41. 0A1 Notification of Failure V02.00 PIP の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIFV02.00_0A1V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_0A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_0A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_0A1V02.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、0A1 Notification of Failure V02.00 のガイドライン・マップの内容を示します。

- 0A1FailureNotification\_V02.00.xml
- BCG\_0A1FailureNotification\_V02.00.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd

- BCG\_xml.xsd

## 2A1 Distribute New Product Information

ここでは、2A1 Distribute New Product Information PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、2A1 Distribute New Product Information PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 42. 2A1 Distribute New Product Information の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_2A1V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_2A1V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_2A1V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_2A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_2A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_2A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_2A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_2A1V02.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、2A1 Distribute New Product Information のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_2A1ProductCatalogInformationNotification\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V43.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalLeadTimeClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPackageTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPriceTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProductAssociationCode\_V43.xsd

- BCG\_GlobalProductLifeCycleStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalProductProcurementTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProductTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitofMeasureCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProprietaryProductIdentificationTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalStandardClassificationSchemeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_NationalExportControlClassificationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V422.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 2A12 Distribute Product Master

ここでは、2A12 Distribute Product Master PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、2A12 Distribute Product Master PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 43. 2A12 Distribute Product Master の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_2A12V01.03.zip	BCG_RNIF1.1_2A12V01.03.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_2A12V01.03.zip	BCG_RNIFV02.00_2A12V01.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_2A12V01.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_2A12V01.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_2A12V01.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_2A12V01.03.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、2A12 Distribute Product Master のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_2A12ProductMasterNotification\_V01.03.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAssemblyLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalLeadTimeClassificationCode.xsd

- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductLifeCycleStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalProductProcurementTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A1 Request Quote

ここでは、3A1 Request Quote PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A1 Request Quote PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 44. 3A1 Request Quote PIP の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A1V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_3A1V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A1V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A1V02.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A1 Request Quote のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A1QuoteConfirmation\_V02.00.xsd
- BCG\_3A1QuoteRequest\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductTermsCode.xsd

- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalQuoteLineItemStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalQuoteTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalStockIndicatorCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A2 Request Price and Availability

ここでは、3A2 Request Price and Availability PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A2 Request Price and Availability PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 45. 3A2 Request Price and Availability の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A2R02.01.zip	BCG_RNIF1.1_3A2R02.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A2R02.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3A2R02.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A2R02.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A2R02.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A2R02.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A2R02.01.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A2 Request Price and Availability のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A2PriceAndAvailabilityRequest\_R02.01.xsd
- BCG\_3A2PriceAndAvailabilityResponse\_R02.01.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalCustomerAuthorizationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPricingTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductAvailabilityCode.xsd
- BCG\_GlobalProductStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd

- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A4 Request Purchase Order V02.00

ここでは、3A4 Request Purchase Order V02.00 PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A4 Request Purchase Order PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 46. 3A4 Request Purchase Order の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A4V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_3A4V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A4V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3A4V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A4V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A4V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A4 Request Purchase Order のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A4PurchaseOrderConfirmation\_V02.00.xsd
- BCG\_3A4PurchaseOrderRequest\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalConfirmationTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd

- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode\_V422.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V422.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A4 Request Purchase Order V02.02

ここでは、3A4 Request Purchase OrderV02.02 PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A4 Request Purchase Order PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 47. 3A4 Request Purchase Order の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A4V02.02.zip	BCG_RNIF1.1_3A4V02.02.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip	BCG_RNIFV02.00_3A4V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A4V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A4V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.02.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A4 Request Purchase Order のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A4PurchaseOrderConfirmation\_V02.02.xsd
- BCG\_3A4PurchaseOrderRequest\_V02.02.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalConfirmationTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

### 3A5 Query Order Status

ここでは、3A5 Query Order Status PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A5 Query Order Status PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 48. 3A5 Query Order Status の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A5R02.00.zip	BCG_RNIF1.1_3A5R02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A5R02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3A5R02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A5R02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A5R02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A5R02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A5R02.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A5 Query Order Status のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A5PurchaseOrderStatusQuery\_R02.00.xsd
- BCG\_3A5PurchaseOrderStatusResponse\_R02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalCustomerTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalFreeOnBoardCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalLineItemStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalOrderQuantityTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriority
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd

- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_GlobalTransportEventCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

### 3A6 Distribute Order Status

ここでは、3A6 Distribute Order Status PIP の内容を説明します。

#### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A6 Distribute Order Status PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 49. 3A6 Distribute Order Status の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A6V02.02.zip	BCG_RNIF1.1_3A6V02.02.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A6V02.02.zip	BCG_RNIFV02.00_3A6V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A6V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A6V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A6V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A6V02.02.xml

#### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A6 Distribute Order Status のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A6PurchaseOrderStatusNotification\_V02.02.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalLineItemStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd

- BCG\_GlobalNotificationReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalOrderQuantityTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A7 Notify of Purchase Order Update

ここでは、3A7 Notify of Purchase Order Update PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A7 Notify of Purchase Order Update PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 50. 3A7 Notify of Purchase Order Update の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A7V02.02.zip	BCG_RNIF1.1_3A7V02.02.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A7V02.02.zip	BCG_RNIFV02.00_3A7V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A7V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A7V02.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A7V02.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A7V02.02.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A7 Notify of Purchase Order Update のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A7PurchaseOrderUpdateNotification\_V02.02.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalActionCode.xsd
- BCG\_GlobalConfirmationTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

### **3A8 Request Purchase Order Change V01.02**

ここでは、3A8 Request Purchase Order Change V01.02 PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A8 Request Purchase Order Change PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 51. 3A8 Request Purchase Order Change の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A8V01.02.zip	BCG_RNIF1.1_3A8V01.02.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A8V01.02.zip	BCG_RNIFV02.00_3A8V01.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A8V01.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A8V01.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A8V01.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A8V01.02.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A8 Request Purchase Order Change のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A8PurchaseOrderChangeConfirmation\_V01.02.xsd
- BCG\_3A8PurchaseOrderChangeRequest\_V01.02.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalActionCode.xsd
- BCG\_GlobalConfirmationTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd

- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3A8 Request Purchase Order Change V01.03

ここでは、3A8 Request Purchase Order Change V01.03 PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A8 Request Purchase Order Change PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 52. 3A8 Request Purchase Order Change の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A8V01.03.zip	BCG_RNIF1.1_3A8V01.03.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A8V01.03.zip	BCG_RNIFV02.00_3A8V01.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A8V01.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A8V01.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A8V01.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A8V01.03.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A8 Request Purchase Order Change のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A8PurchaseOrderChangeConfirmation\_V01.03.xsd
- BCG\_3A8PurchaseOrderChangeRequest\_V01.03.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAccountClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalActionCode.xsd
- BCG\_GlobalConfirmationTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd

- BCG\_GlobalCreditCardClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinanceTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalFreeOnBoardCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalGovernmentPriorityRatingCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPaymentConditionCode.xsd
- BCG\_GlobalProductSubstitutionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderAcknowledgmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderFillPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalTaxExemptionCode.xsd
- BCG\_GlobalTransportEventCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

### 3A9 Request Purchase Order Cancellation

ここでは、3A9 Request Purchase Order Cancellation PIP の内容を説明します。

#### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3A9 Request Purchase Order Cancellation PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 53. 3A9 Request Purchase Order Cancellation の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3A9V01.01.zip	BCG_RNIF1.1_3A9V01.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3A9V01.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3A9V01.01.xml

表 53. 3A9 Request Purchase Order Cancellation の ZIP および XML ファイル (続き)

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3A9V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3A9V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A9V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A9V01.01.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3A9 Request Purchase Order Cancellation のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3A9PurchaseOrderCancellationConfirmation\_V01.01.xsd
- BCG\_3A9PurchaseOrderCancellationRequest\_V01.01.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderCancellationCode.xsd
- BCG\_GlobalPurchaseOrderCancellationResponseCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B2 Notify of Advance Shipment

ここでは、3B2 Notify of Advance Shipment PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B2 Notify of Advance Shipment PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 54. 3B2 Notify of Advance Shipment の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B2V01.01.zip	BCG_RNIF1.1_3B2V01.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B2V01.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3B2V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B2V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B2V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B2V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B2V01.01.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B2 Notify of Advance Shipment のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3B2AdvanceShipmentNotification\_V01.01.xsd

- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalIncotermsCode.xsd
- BCG\_GlobalLotQuantityClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPackageTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPhysicalUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipDateCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentChangeDispositionCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentModeCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_NationalExportControlClassificationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

### 3B3 Distribute Shipment Status

ここでは、3B3 Distribute Shipment Status PIP の内容を説明します。

#### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B3 Distribute Shipment Status PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 55. 3B3 Distribute Shipment Status の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B3R01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3B3R01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B3R01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3B3R01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B3R01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B3R01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B3R01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B3R01.00.xml

#### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B3 Distribute Shipment Status のガイドライン・マップの内容を示します。

- 3B3 Distribute Shipment Status\_R01.00.xsd

- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V43.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalShipmentDispositionCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentModeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentStatusCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalShipmentStatusReportingLevelCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V422.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V423.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B11 Notify of Shipping Order

ここでは、3B11 Notify of Shipping Order PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B11 Notify of Shipping Order PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 56. 3B11 Notify of Shipping Order の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B11R01.00A.zip	BCG_RNIF1.1_3B11R01.00A.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B11R01.00A.zip	BCG_RNIFV02.00_3B11R01.00A.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B11R01.00A.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B11R01.00A.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B11R01.00A.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B11R01.00A.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B11 Notify of Shipping Order のガイドライン・マップの内容を示します。

- 3B11 ShippingOrderNotification\_R01.00A.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalFreightPaymentTermsCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalIncotermsCode.xsd
- BCG\_GlobalOrderAdminCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipDateCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentModeCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B12 Request Shipping Order

ここでは、3B12 Request Shipping Order PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B12 Request Shipping Order PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 57. 3B12 Request Shipping Order の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B12V01.01.zip	BCG_RNIF1.1_3B12V01.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B12V01.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3B12V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B12V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B12V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B12V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B12V01.01.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B12 Request Shipping Order のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3B12ShippingOrderConfirmation\_V01.01.xsd
- BCG\_3B12ShippingOrderRequest\_V01.01.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalIncotermsCode.xsd
- BCG\_GlobalPackageTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPhysicalUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipDateCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B13 Notify of Shipping Order Confirmation

ここでは、3B13 Notify of Shipping Order Confirmation PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B13 Notify of Shipping Order Confirmation PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 58. 3B13 Notify of Shipping Order Confirmation の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B13V01.01.zip	BCG_RNIF1.1_3B13V01.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B13V01.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3B13V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B13V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B13V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B13V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B13V01.01.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B13 Notify of Shipping Order Confirmation のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3B13ShippingOrderConfirmationNotification\_V01.01.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPhysicalUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipDateCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B14 Request Shipping Order Cancellation

ここでは、3B14 Request Shipping Order Cancellation PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B14 Request Shipping Order Cancellation PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 59. 3B14 Request Shipping Order Cancellation の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B14V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3B14V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B14V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3B14V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B14V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B14V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B14V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B14V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B14 Request Shipping Order Cancellation のガイドライン・マップの内容を示します。

- 3B14\_ShippingOrderCancellationConfirmation\_V01.00.xsd
- 3B14\_ShippingOrderCancellationRequest\_V01.00.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalOrderAdminCode\_V22.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalShippingOrderCancellationStatusReasonCode\_V43.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3B18 Notify of Shipping Documentation

ここでは、3B18 Notify of Shipping Documentation PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3B18 Notify of Shipping Documentation PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 60. 3B18 Notify of Shipping Documentation の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3B18V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3B18V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3B18V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3B18V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3B18V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3B18V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B18V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3B18V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3B18 Notify of Shipping Documentation のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3B18ShippingDocumentationNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd

- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFreeOnBoardCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalFreightPaymentTermsCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalIncotermsCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalOrderAdminCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPackageTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPaymentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalPhysicalUnitOfMeasureCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPortIdentifierAuthorityCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPortTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipDateCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentModeCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingDocumentCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_NationalExportControlClassificationCode.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3C1 Return Product

ここでは、3C1 Return Product PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3C1 Return Product PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 61. 3C1 Return Product の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3C1V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3C1V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3C1V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C1V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3C1 Return Product のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3C1ReturnProductConfirmation\_V01.00.xsd
- BCG\_3C1ReturnProductRequest\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFailureTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3C3 Notify of Invoice

ここでは、3C3 Notify of Invoice PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3C3 Notify of Invoice PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 62. 3C3 Notify of Invoice の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3C3V01.01.zip	BCG_RNIF1.1_3C3V01.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3C3V01.01.zip	BCG_RNIFV02.00_3C3V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3C3V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3C3V01.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C3V01.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C3V01.01.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3C3 Notify of Invoice のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3C3InvoiceNotification\_V01.01.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalSaleTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_NationalExportControlClassificationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3C4 Notify of Invoice Reject

ここでは、3C4 Notify of Invoice Reject PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3C4 Notify of Invoice Reject PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 63. 3C4 Notify of Invoice Reject の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3C4V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3C4V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3C4V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3C4V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3C4V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3C4V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C4V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C4V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3C4 Notify of Invoice Reject のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3C4InvoiceRejectNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalInvoiceRejectionCode.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3C6 Notify of Remittance Advice

ここでは、3C6 Notify of Remittance Advice PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3C6 Notify of Remittance Advice PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 64. 3C6 Notify of Remittance Advice の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3C6V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3C6V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3C6V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3C6V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3C6V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3C6V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C6V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C6V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3C6 Notify of Remittance Advice のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3C6RemittanceAdviceNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFinancialAdjustmentReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalInvoiceRejectionCode.xsd

- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentMethodCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3C7 Notify of Self-Billing Invoice

ここでは、3C7 Notify of Self-Billing Invoice PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3C7 Notify of Self-Billing Invoice PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 65. 3C7 Notify of Self-Billing Invoice の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3C7V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3C7V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3C7V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3C7V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3C7V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3C7V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C7V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C7V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3C7 Notify of Self-Billing Invoice のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3C7SelfBillingInvoiceNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPaymentTermsCode.xsd

- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalSaleTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalShipmentTermsCode.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode.xsd
- BCG\_NationalExportControlClassificationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 3D8 Distribute Work in Process

ここでは、3D8 Distribute Work in Process PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、3D8 Distribute Work in Process PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 66. 3D8 Distribute Work in Process の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_3D8V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_3D8V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_3D8V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_3D8V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_3D8V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_3D8V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3D8V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_3D8V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、3D8 Distribute Work in Process のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_3D8WorkInProgressNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalLotCode.xsd
- BCG\_GlobalLotQuantityClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalLotStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd

- BCG\_GlobalWorkInProgressLocationCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressPartTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4A1 Notify of Strategic Forecast

ここでは、4A1 Notify of Strategic Forecast PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4A1 Notify of Strategic Forecast PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 67. 4A1 Notify of Strategic Forecast の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4A1V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_4A1V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4A1V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_4A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4A1V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A1V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A1V02.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4A1 Notify of Strategic Forecast のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4A1StrategicForecastNotification\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastEventCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_StrategicForecastQuantityTypeCode.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd

- BCG\_xml.xsd

## 4A3 Notify of Threshold Release Forecast

ここでは、4A3 Notify of Threshold Release Forecast PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4A3 Notify of Threshold Release Forecast PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 68. 4A3 Notify of Threshold Release Forecast の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4A3V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_4A3V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4A3V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_4A3V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4A3V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4A3V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A3V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A3V02.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4A3 Notify of Threshold Release Forecast のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4A3ThresholdReleaseForecastNotification\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastEventCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastInventoryTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_OrderForecastQuantityTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4A4 Notify of Planning Release Forecast

ここでは、4A4 Notify of Planning Release Forecast PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4A4 Notify of Planning Release Forecast PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 69. 4A4 Notify of Planning Release Forecast の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4A4R02.00A.zip	BCG_RNIF1.1_4A4R02.00A.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4A4R02.00A.zip	BCG_RNIFV02.00_4A4R02.00A.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4A4R02.00A.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4A4R02.00A.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A4R02.00A.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A4R02.00A.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4A4 Notify of Planning Release Forecast のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4A4PlanningReleaseForecastNotification\_R02.00A.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastInventoryTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastQuantityTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalForecastReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalTransportEventCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V422.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4A5 Notify of Forecast Reply

ここでは、4A5 Notify of Forecast Reply PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4A5 Notify of Forecast Reply PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 70. 4A5 Notify of Forecast Reply の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4A5V02.00.zip	BCG_RNIF1.1_4A5V02.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4A5V02.00.zip	BCG_RNIFV02.00_4A5V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_34A5V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_34A5V02.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A5V02.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4A5V02.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4A5 Notify of Forecast Reply のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4A5ForecastReplyNotification\_V02.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ForecastReplyQuantityTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastEventCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastIntervalCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastInventoryTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastResponseCode.xsd
- BCG\_GlobalForecastRevisionReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4B2 Notify of Shipment Receipt

ここでは、4B2 Notify of Shipment Receipt PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4B2 Notify of Shipment Receipt PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 71. 4B2 Notify of Shipment Receipt の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4B2V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_4B2V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4B2V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_4B2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4B2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4B2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4B2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4B2V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4B2 Notify of Shipment Receipt のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4B2ShipmentReceiptNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalLotDiscrepancyReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalReceivingDiscrepancyCode.xsd
- BCG\_GlobalReceivingDiscrepancyReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialFulfillmentRequestCode.xsd
- BCG\_GlobalSpecialHandlingCode.xsd
- BCG\_GlobalTrackingReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4B3 Notify of Consumption

ここでは、4B3 Notify of Consumption PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4B3 Notify of Consumption PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 72. 4B3 Notify of Consumption の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4B3V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_4B3V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4B3V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_4B3V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4B3V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4B3V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4B3V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4B3V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4B3 Notify of Consumption のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4B3ConsumptionNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V422.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V43.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalInventoryCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4C1 Distribute Inventory Report V02.01

ここでは、4C1 Distribute Inventory Report V02.01PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4C1 Distribute Inventory Report PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 73. 4C1 Distribute Inventory Report の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4C1V02.01.zip	BCG_RNIF1.1_4C1V02.01.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4C1V02.01.zip	BCG_RNIFV02.00_4C1V02.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4C1V02.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4C1V02.01.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4C1V02.01.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4C1V02.01.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4C1 Distribute Inventory Report のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4C1InventoryReportNotification\_V02.01.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V422.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalInventoryCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types\_V422.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 4C1 Distribute Inventory Report V02.03

ここでは、4C1 Distribute Inventory Report V02.03 PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、4C1 Distribute Inventory Report PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 74. 4C1 Distribute Inventory Report の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_4C1V02.03.zip	BCG_RNIF1.1_4C1V02.03.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_4C1V02.03.zip	BCG_RNIFV02.00_4C1V02.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_4C1V02.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_4C1V02.03.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_4C1V02.03.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_4C1V02.03.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、4C1 Distribute Inventory Report のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_4C1InventoryReportNotification\_V02.03.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalInventoryCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 5C1 Distribute Product List

ここでは、5C1 Distribute Product List PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、5C1 Distribute Product List PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 75. 5C1 Distribute Product List の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_5C1V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_5C1V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_5C1V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_5C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_5C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_5C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C1V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、5C1 Distribute Product List のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_5C1ProductListNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 5C2 Request Design Registration

ここでは、5C2 Request Design Registration PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、5C2 Request Design Registration PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 76. 5C2 Request Design Registration の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_5C2V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_5C2V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_5C2V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_5C2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_5C2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_5C2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C2V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、5C2 Request Design Registration のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_5C2DesignRegistrationConfirmation\_V01.00.xsd
- BCG\_5C2DesignRegistrationRequest\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_common\_V422.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd

- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_DesignWinStatusReasonCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalAttachmentDescriptionCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalMimeTypeQualifierCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalMonetaryAmountTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPriceTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalRegistrationComplexityLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalRegistrationInvolvementLevelCode.xsd
- BCG\_InvoiceChargeTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 5C4 Distribute Registration Status

ここでは、5C4 Distribute Registration Status PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、5C4 Distribute Registration Status PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 77. 5C4 Distribute Registration Status の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_5C4V01.02.zip	BCG_RNIF1.1_5C4V01.02.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_5C4V01.02.zip	BCG_RNIFV02.00_5C4V01.02.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_5C4V01.023.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_5C4V01.023.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C4V01.02.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_5C4V01.02.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、5C4 Distribute Registration Status のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_5C4RegistrationStatusNotification\_V01.02.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd

- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalRegistrationComplexityLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalRegistrationInvolvementLevelCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization

ここでは、5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 78. 5D1 Request Ship from Stock and Debit Authorization の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_5D1V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_5D1V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_5D1V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_5D1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_5D1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_5D1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_5D1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_5D1V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、5D1 Request Ship From Stock And Debit Authorization のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_5D1ShipFromStockAndDebitAuthorizationConfirmation\_V01.00.xsd
- BCG\_5D1ShipFromStockAndDebitAuthorizationRequest\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPriceTypeCode.xsd

- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalShipFromStockAndDebitAuthorizationRejectionCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 6C1 Query Service Entitlement

ここでは、6C1 Query Service Entitlement PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、6C1 Query Service Entitlement PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 79. 6C1 Query Service Entitlement の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_6C1V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_6C1V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_6C1V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_6C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_6C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_6C1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_6C1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_6C1V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、6C1 Query Service Entitlement のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_6C1ServiceEntitlementQuery\_V01.00.xsd
- BCG\_6C1ServiceEntitlementStatusResponse\_V01.00.xsd
- BCG\_common\_V43.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types\_V43.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalNotificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPaymentTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalServiceDeliveryMethodCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalShippingServiceLevelCode.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyMethodCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyProgramCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 6C2 Request Warranty Claim

ここでは、6C2 Request Warranty Claim PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、6C2 Request Warranty Claim PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 80. 6C2 Request Warranty Claim の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_6C2V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_6C2V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_6C2V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_6C2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_6C2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_6C2V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_6C2V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_6C2V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、6C2 Request Warranty Claim のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_6C2WarrantyClaimConfirmation\_V01.00.xsd
- BCG\_6CWarrantyClaimRequest\_V01.00.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalCurrencyCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalFailureTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalOperatingSystemCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalPaymentTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalServiceDeliveryMethodCode\_V43.xsd
- BCG\_GlobalWarrantyTypeCode\_V43.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types\_V43.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 7B1 Distribute Work in Process

ここでは、7B1 Distribute Work in Process PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、7B1 Distribute Work in Process PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 81. 7B1 Distribute Work in Process の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_7B1V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_7B1V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_37B1V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_37B1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_7B1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_7B1V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B1V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B1V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、7B1 Distribute Work in Process のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_7B1WorkInProgressNotification\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalChangeReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalEquipmentTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalLotCode.xsd
- BCG\_GlobalLotQuantityClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalLotStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressLocationCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressPartTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressQuantityChangeCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressTypeCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 7B5 Notify Of Manufacturing Work Order

ここでは、7B5 Notify Of Manufacturing Work Order PIP の内容を説明します。

## パッケージ・ファイルの内容

次の表は、7B5 Notify Of Manufacturing Work Order PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 82. 7B5 Notify of Manufacturing Work Order の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_7B5V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_7B5V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_7B5V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_7B5V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_7B5V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_7B5V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B5V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B5V01.00.xml

## ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、7B5 Notify Of Manufacturing Work Order のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_7B5NotifyOfManufacturingWorkOrder\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalAttachmentDescriptionCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalBusinessActionCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalChangeReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDevicePackageTypeCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalLineItemStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalLotCode.xsd
- BCG\_GlobalMimeTypeQualifierCode\_V422.xsd
- BCG\_GlobalPackageTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPhysicalUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalPriorityCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_GlobalWorkInProgressLocationCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd

## 7B6 Notify Of Manufacturing Work Order Reply

ここでは、7B6 Notify Of Manufacturing Work Order Reply PIP の内容を説明します。

### パッケージ・ファイルの内容

次の表は、7B6 Notify Of Manufacturing Work Order Reply PIP の ZIP ファイルおよび対応する XML ファイルを示しています。すべてのバージョンに共通のガイドライン・マップをその後のセクションに示します。

表 83. 7B6 Notify of Manufacturing Work Order Reply の ZIP および XML ファイル

ZIP ファイル名	XML ファイル名
BCG_Package_RNIF1.1_7B6V01.00.zip	BCG_RNIF1.1_7B6V01.00.xml
BCG_Package_RNIFV02.00_7B6V01.00.zip	BCG_RNIFV02.00_7B6V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIF1.1_7B6V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIF1.1_7B6V01.00.xml
BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B6V01.00.zip	BCG_RNSC1.0_RNIFV02.00_7B6V01.00.xml

### ガイドライン・マップの内容

このセクションでは、7B6 Notify Of Manufacturing Work Order Reply のガイドライン・マップの内容を示します。

- BCG\_7B6NotifyOfManufacturingWorkOrderReply\_V01.00.xsd
- BCG\_BusinessDescription\_Types.xsd
- BCG\_BusinessTaxIdentifier\_Types.xsd
- BCG\_common.xsd
- BCG\_ContactInformation\_Types.xsd
- BCG\_GlobalChangeReasonCode.xsd
- BCG\_GlobalCountryCode.xsd
- BCG\_GlobalDocumentReferenceTypeCode.xsd
- BCG\_GlobalLineItemStatusCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalPartnerRoleClassificationCode.xsd
- BCG\_GlobalProductUnitOfMeasureCode.xsd
- BCG\_PartnerDescription\_Types.xsd
- BCG\_PhysicalAddress\_Types.xsd
- BCG\_string\_len\_0.xsd
- BCG\_xml.xsd



## 付録 D. 属性

この付録では、Community Console から設定できる属性について説明します。次の属性について説明します。

- 『EDI 属性』
- 328 ページの 『AS 属性』
- 331 ページの 『RosettaNet 属性』
- 333 ページの 『「バックエンド統合」属性』

### EDI 属性

このセクションでは、EDI 交換の設定時に使用できる EDI 属性について説明します。これらの属性の一部は、EDI 文書に関連付けられた変換マップを表す制御ストリングで事前定義されています。制御ストリング (Data Interchange Services クライアント) で設定される値は、Community Console で入力する値をオーバーライドします。

### エンベロープ・プロファイル属性

EDI エンベロープ・プロファイルのさまざまな属性を設定できます。使用可能な属性は、EDI タイプによって異なります。一般に、属性は EDI 標準に対応しており、許容値はエンベロープ・プロファイルが表す EDI 標準によって異なります。

いずれの属性にも値を指定する必要はありません。一部の属性では、値を入力しない場合にデフォルト値が使用されます。このセクションの表に、デフォルトが関連付けられている属性およびそのデフォルト値をリストします。

**注:** リストされていないエンベロープ・プロファイル・プロパティには、デフォルト値がありません。マップまたは接続で設定される汎用または特定のエンベロープ・プロパティによってオーバーライドされない場合は、指定するテキスト値が使用されます。

### X12 属性

このセクションの表に、デフォルト値が提供されている X12 属性をリストします。

**一般属性:** 表 84 は、デフォルト値が提供されている一般属性をリストしています。

表 84. 一般属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
INTCTLLEN (交換制御番号の長さ)	いいえ	交換制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9

表 84. 一般属性 (続き)

フィールド名	必須	説明	デフォルト
GRPCTLLEN (グループ制御番号の長さ)	いいえ	グループ制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
TRXCTLLEN (トランザクション制御番号の長さ)	いいえ	トランザクション制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
ENVTYPE (エンベロープ・タイプ)	いいえ	この属性は、ハブ管理者によって設定されるのではなく、作成されるエンベロープ・プロファイルのタイプから派生します。	X12
MAXDOCS (最大トランザクション番号)	いいえ	エンベロープ内のトランザクションの最大数です。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。	最大数はありません。
CTLNUMFLAG (トランザクション ID 別制御番号)	いいえ	「はい」は、EDI トランザクション・タイプを基にした別々の制御番号のセットが使用されることを示します。  「いいえ」は、すべての EDI トランザクション・タイプに共通の制御番号のセットが使用されることを示します。	いいえ

**交換属性:** X12 交換属性は必須ではなく、この属性にデフォルト値はありません。

**グループ属性:** 表 85 は、デフォルト値が提供されているグループ属性をリストしています。

表 85. グループ属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
GS01 (機能グループ ID)	いいえ	グループ ID。	デフォルト値は、制御ストリング・ヘッダーに由来します。この値は、Data Interchange Services クライアントの「EDI 文書定義」ページの「機能グループ」列で確認できます。
GS08 (グループ・バージョン)	いいえ	グループ・バージョン。	デフォルト値は、標準ごとに異なります。

**トランザクション属性:** トランザクション属性は必須ではありません。この属性にはデフォルト値がありません。

## UCS 属性

ここでは、UCS 交換、グループ、およびトランザクションにデフォルト値が適用されるかどうかをリストします。

**一般属性:** 317 ページの表 86 は、デフォルト値が提供されている一般属性をリストしています。

表 86. 一般属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
INTCTLLEN (交換制御番号の長さ)	いいえ	交換制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	5
GRPCTLLEN (グループ制御番号の長さ)	いいえ	グループ制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
TRXCTLLEN (トランザクション制御番号の長さ)	いいえ	トランザクション制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
ENVTYPE (エンベロープ・タイプ)	いいえ	この属性は、ハブ管理者によって設定されるのではなく、作成されるエンベロープ・プロファイルのタイプから派生します。	UCS
MAXDOCS (最大トランザクション番号)	いいえ	エンベロープ内のトランザクションの最大数です。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。	最大数はありません。
CTLNUMFLAG (トランザクション ID 別制御番号)	いいえ	「はい」は、EDI トランザクション・タイプを基にした別々の制御番号のセットが使用されることを示します。  「いいえ」は、すべての EDI トランザクション・タイプに共通の制御番号のセットが使用されることを示します。	いいえ

**交換属性:** 交換属性は必須ではありません。この属性にはデフォルト値がありません。

**グループ属性:** 表 87 は、デフォルト値が提供されているグループ属性をリストしています。

表 87. グループ属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
GS01 (機能グループ ID)	いいえ	グループ ID。	デフォルト値は、制御ストリング・ヘッダーに由来します。この値は、Data Interchange Services クライアントの「EDI 文書定義」ページの「機能グループ」列で確認できます。
GS08 (グループ・バージョン)	いいえ	グループ・バージョン。	デフォルト値は、標準ごとに異なります。

**トランザクション属性:** トランザクション属性は必須ではありません。この属性にはデフォルト値がありません。

## EDIFACT 属性

ここでは、EDIFACT 交換、グループ、およびメッセージにデフォルト値が適用されるかどうかをリストします。

**一般属性:** 表 88 は、デフォルト値が提供されている一般属性をリストしています。

表 88. 一般属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
INTCTLLEN (交換制御番号の長さ)	いいえ	交換制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
GRPCTLLEN (グループ制御番号の長さ)	いいえ	グループ制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
TRXCTLLEN (トランザクション制御番号の長さ)	いいえ	トランザクション制御番号の特定の長さを定義します。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。  値を入力しない場合、デフォルトの長さが使用されます。	9
ENVTYPE (エンベロープ・タイプ)	いいえ	この属性は、ハブ管理者によって設定されるのではなく、作成されるエンベロープ・プロファイルのタイプから派生します。	EDIFACT
EDIFACTGRP (EDI 用のグループの作成)	いいえ	この値は EDIFACT エンベロープ・タイプ専用です。(EDIFACT では、グループ・レベルを使用すべきではありません。)  「はい」は、EDIFACT DATA 用の機能グループ (UNG/UNE セグメント) を作成することを示します。  「いいえ」は、作成しないことを示します。	いいえ
MAXDOCS (最大トランザクション番号)	いいえ	エンベロープ内のトランザクションの最大数です。値を入力する場合、整数を入力する必要があります。	最大数はありません。
CTLNUMFLAG (トランザクション ID 別制御番号)	いいえ	「はい」は、EDI トランザクション・タイプを基にした別々の制御番号のセットが使用されることを示します。  「いいえ」は、すべての EDI トランザクション・タイプに共通の制御番号のセットが使用されることを示します。	いいえ

**交換属性:** 交換属性は必須ではありません。この属性にはデフォルト値がありません。

**グループ属性:** 319 ページの表 89 は、デフォルト値が提供されているグループ属性をリストしています。

表 89. グループ属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
UNG01 (機能グループ ID)	いいえ	グループ ID。	デフォルト値は、制御ストリング・ヘッダーに由来します。この値は、Data Interchange Services クライアントの「EDI 文書定義」ページの「機能グループ」列で確認できます。

**メッセージ属性:** 表 90 は、デフォルト値が提供されているメッセージ属性をリストしています。

表 90. メッセージ属性

フィールド名	必須	説明	デフォルト
UNH0201 (メッセージ・タイプ)	いいえ	メッセージのタイプ。	デフォルト値は、制御ストリング・ヘッダーに由来します。この値は、Data Interchange Services クライアントの「EDI 文書定義」ページで確認できます。
UNH0202 (メッセージ・バージョン)	いいえ	メッセージのバージョン。	D
UNH0203 (メッセージ・リリース)	いいえ	メッセージのリリース。	標準ごとに異なります。
UNH0204 (制御機関)	いいえ	制御機関を識別するコード。	UN

## 文書フロー定義および接続属性

ここでは、エンベロープ用の文書フローの定義属性をリストします。これらの属性の一部は、以下に示すとおり、プロトコルまたは接続レベルでのみ設定可能です。

### 分離文字および区切り文字属性

ここでは、EDI 交換内で分離文字または区切り文字として使用される文字をリストします。320 ページの表 91 は、Community Console に表示される属性、X12 および EDIFACT (ISO 9735 バージョン 4、リリース 1) での対応する用語、属性が必須かどうか、および属性の説明を示しています。表に続けて、EDI 文書内でのこれらの文字の使用例を示します。

**属性の説明:** 320 ページの表 91 に分離文字および区切り文字属性をリストします。

**注:** 一部の文字には 16 進値を使用できます (記載されているとおり)。これらは、Unicode 値または別のエンコード・タイプの値の場合があります。Unicode の場合、¥unnnn という形式を使用します。その他のエンコードの場合、0xnn という形式を使用します。

表 91. エンベロープ・プロフィール属性

属性	X12 での用語	EDIFACT での用語	説明
セグメント区切り文字	セグメント終了記号	セグメント終了記号	<p>これは、セグメントの最後の文字として現れる単一文字です。この文字には 16 進値を使用できます。</p> <p>デフォルト値は、EDI タイプに基づきます。</p> <p><b>X12</b> ~ (波形記号)</p> <p><b>EDIFACT</b> · (単一引用符)</p> <p><b>UCS</b> ~ (波形記号)</p>
データ・エレメント区切り文字	データ・エレメント分離記号	データ・エレメント分離記号	<p>これは、セグメントのデータ・エレメントを分離する単一文字です。この文字には 16 進値を使用できます。</p> <p>デフォルト値は、EDI タイプに基づきます。</p> <p><b>X12</b> * (アスタリスク)</p> <p><b>EDIFACT</b> + (正符号)</p> <p><b>UCS</b> * (アスタリスク)</p>
サブエレメント区切り文字	コンポーネント・エレメント分離記号	コンポーネント・データ・エレメント分離記号	<p>これは、複合データ・エレメントのコンポーネント・エレメントを分離する単一文字です。この文字には 16 進値を使用できます。</p> <p>デフォルト値は、EDI タイプに基づきます。</p> <p><b>X12</b> ¥ (円記号)</p> <p><b>EDIFACT</b> : (コロン)</p> <p><b>UCS</b> ¥ (円記号)</p>
リリース文字		リリース文字	<p>これは、次の文字の意味をオーバーライドする単一文字で、データ・エレメント内に分離文字が出現することを許可します。この文字には 16 進値を使用できます。これは、EDIFACT のみに適用されます。</p> <p><b>EDIFACT</b> ? (疑問符)</p>
反復データ・エレメント分離記号	反復分離記号	反復分離記号	<p>これは、反復データ・エレメントのインスタンスを分離する単一文字です。この文字には 16 進値を使用できます。</p> <p>デフォルト値は、X12 または EDIFACT の EDI タイプに基づきます。</p> <p><b>X12</b> ^ (ハット記号、曲折アクセント記号)</p> <p><b>EDIFACT</b> * (アスタリスク)</p>

表 91. エンベロープ・プロフィール属性 (続き)

属性	X12 での用語	EDIFACT での用語	説明
10 進表記		10 進表記 (使用すべきでない)	この属性は 10 進フォーマットまたは構文解析で使用されていましたが、今は使用すべきではありません。これには、単にピリオドまたはコンマを使用できます。  デフォルト値はピリオドです。

**EDI 構造の例:** ここでは、単純な EDI 交換、および 320 ページの表 91 の属性の交換での使用方法について示します。

EDI メッセージは、特定の順序に並んだ一連のセグメントで構成されます。セグメントは、一連の要素で構成されます。セグメント内の要素は、1 つの情報のみが含まれる単純データ・要素である場合があります。要素は、2 つ以上の単純データ・要素を含む複合データ・要素である場合があります。複合要素を構成する単純要素は、コンポーネント・データ・要素と呼ばれます。

複合データ・要素はネストできません。複合要素に含めることができるのは、単純データ・要素のみで、他の複合データ・要素を含めることはできません。ここでは説明しませんが、コンポーネント・データ・要素を反復データ・要素として定義することもできます。

以下の例を考えてみましょう。

```
ABC*123*AA¥BB¥CC*001^002^003*star?*power~
```

この例では、以下のようになります。

- 「ABC」はセグメント名で (EDIFACT では「セグメント・タグ」といいます)、これは「ABC セグメント」と呼ばれます。
- 「\*」(アスタリスク) はデータ・要素分離記号です。

Community Console での対応する属性名は、セグメント区切り文字です。

- 「123」は最初のデータ・要素で、単純データ・要素です (コンテキストによっては ABC01 と呼ばれます)。
- 「AA¥BB¥CC」は 2 番目のデータ・要素 (ABC02) で、コンポーネント・データ・要素で構成される複合要素です。
  - 「¥」(円記号) は、コンポーネント・データ・要素分離記号です。

Community Console での対応する属性名は、データ・要素区切り文字です。

- 「AA」は、ABC02 の最初のコンポーネント・データ・要素です (ABC0201 と指定される場合もあります)。
- 「BB」は、ABC02 の 2 番目のコンポーネント・データ・要素です (ABC0202)。
- 「CC」は、ABC02 の 3 番目のコンポーネント・データ・要素です (ABC0203)。

- 「001^002^003」は、3 番目のデータ・エレメント (ABC03) で、反復データ・エレメントです。
  - 「^」(ハット記号) は、反復分離記号です。

Community Console での対応する属性名は、反復データ・エレメント文字です。

- 「001」、「002」、「003」は、反復です (すべてが ABC03 として指定されます)。
- 「star?\*power」は、4 番目のデータ・エレメント (ABC04) です。
  - 「?」(疑問符) はリリース文字で、次のアスタリスクをデータ・エレメント分離記号として扱わないことを意味します。
  - 「star\*power」は、ABC04 の結果値です。
- 「~」(波形記号) は、セグメント終了記号です。

Community Console での対応する属性名は、セグメント区切り文字です。

## 追加の EDI 属性

ここでは、文書フロー定義レベルまたは接続レベルで設定できる追加の EDI 属性をリストします。

表 92. 追加の EDI 属性

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
セグメント出力	いいえ	EDI/XML 変換で使用され、各 EDI セグメントまたは XML エレメントの後ろで改行するかどうかを示します。	プロトコルまたは接続に限定されます。	はい
重複する文書 ID を持つ文書を許可します。	いいえ	「はい」は、文書 ID (交換制御番号) の重複が許可されることを示します。 「いいえ」は、交換制御番号の重複をエラーとして扱うことを示します。	プロトコルまたは接続に限定されます。	いいえ
変換時の最大エラー・レベル	いいえ	変換中に許容されるエラー発生の最大数を示します。これ以上エラーが発生すると、変換は失敗します。 有効な値は、0、1、または 2 です。 ユーザー指定エラーを示すためのエラー・コマンドが変換マップに含まれている場合で、エラー・コマンドのレベル・パラメーターがこの値より大きい場合、変換は失敗します。	プロトコルまたは接続に限定されます。	0
FA マップ	いいえ	内部汎用 FA を特定の FA に変換するために使用するマップを提供します。 注: この属性は、FA マップとして識別されるマップ (マップ・タイプは「K」) のリストから選択します。	プロトコルまたは接続に限定されます。	
エンベロープ・プロファイル	はい	エンベロープに使用する EDI エンベロープ・プロファイル名。定義したすべてのエンベロープ・プロファイルをリストから選択できます。		

表 92. 追加の EDI 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
XMLNS アクティブ	いいえ	<p>入力 XML 文書のネーム・スペース処理を実行します。この属性は、XML 変換ステップで使用されます。</p> <p>有効な値は「はい」または「いいえ」です。</p>		<p>スキーマ: はい</p> <p>DTD: いいえ</p>
最大検証エラー・レベル	いいえ	<p>最大許容検証エラー・レベルです (許容されるエラーの重大度で、これを超えると、トランザクションは失敗したと見なされます)。</p> <p>有効な値は、0、1、または 2 です。</p> <p><b>0</b> エラーのない検証だけを許可します。</p> <p><b>1</b> 単純な要素検証エラーだけを持つ文書を許可します。</p> <p><b>2</b> 要素またはセグメントの検証エラーを持つ文書を許可します。</p>		0
検証レベル	いいえ	<p>トランザクション・レベルで実行する検査のレベルを示します。値が 2 の場合、英数字検証テーブル属性および文字セット検証テーブル属性に設定されている値を使用することを意味します。この属性は、セグメントの詳細な検証属性が「はい」に設定されている場合、その属性にも適用されます。</p> <p>有効な値は、0、1、または 2 です。</p> <p><b>0</b> 基本的な検証 (必須エレメントの欠落、セグメント、および最小長/最大長の検査など) のみを実行します。トランザクション定義に指定されているデータ・タイプまたはコード・リストに対してエレメント値を検証しません。</p> <p><b>1</b> レベル 0 検証に加えて、データ・エレメントに指定されているコード・リストに対してエレメント値を検証します。</p> <p><b>2</b> レベル 1 検証に加えて、エレメントのデータ・タイプについてエレメント値が正しいことを検証します。</p>		0

表 92. 追加の EDI 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
文字セット検証テーブル	いいえ	<p>文字セット検証に使用するテーブルを示します。このテーブルは、検証レベル属性が 2 の場合にのみ使用されます。</p> <p>この属性は、仮想コード・リスト・テーブルを参照します。ユーザーは、Data Interchange Services クライアントのマッピング領域の「コード・リスト」タブで、コード・リストを新規作成できます。この領域には、他の目的 (特定の EDI エlementの検証など) で使用されるコード・リストも含まれています。</p>		CHARSET
英数字検証テーブル	いいえ	<p>英数字検証に使用するテーブルを示します。このテーブルは、検証レベル属性が 2 の場合にのみ使用されます。</p> <p>この属性は、仮想コード・リスト・テーブルを参照します。ユーザーは、Data Interchange Services クライアントのマッピング領域の「コード・リスト」タブで、コード・リストを新規作成できます。この領域には、他の目的 (特定の EDI エlementの検証など) で使用されるコード・リストも含まれています。</p>		ALPHANUM
機能肯定応答のみでのグループ・レベル情報の生成	いいえ	<p>この属性は EDI-X12 に適用されます。値は、「はい」または「いいえ」です。</p> <p><b>はい</b> 機能肯定応答のグループ・レベル情報のみを生成します。</p> <p><b>いいえ</b> 機能肯定応答の全詳細を生成します (個々のトランザクション、およびトランザクション内のセグメントおよびエlementごとに生成)。</p>	プロトコルまたは接続に限定されます。	いいえ
世紀制御年	いいえ	<p>日付が 2 桁の年から 4 桁の年に変換される場合、この値より大きい 2 桁の年の世紀値が「19」であると見なされます。この値と等しいか、この値より小さい 2 桁の年は、世紀値が「20」であると見なされます。</p> <p>有効な範囲は、0 から 99 です。</p>	プロトコルまたは接続に限定されます。	10

表 92. 追加の EDI 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
セグメントの詳細な検証	いいえ	<p>この属性は、以下のセグメント・ヘッダーおよびトレーラーに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X12 <ul style="list-style-type: none"> <li>- ISA、IEA</li> <li>- GS、GE</li> <li>- ST、SE</li> </ul> </li> <li>• EDIFACT <ul style="list-style-type: none"> <li>- UNA</li> <li>- UNB、UNZ</li> <li>- UNG、UNE</li> <li>- UNH、UNT</li> </ul> </li> <li>• UNTUCS <ul style="list-style-type: none"> <li>- BG、EG</li> <li>- GS、GE</li> <li>- ST、SE</li> </ul> </li> </ul> <p>有効な値は「はい」または「いいえ」です。</p> <p><b>はい</b> 詳細なエンベロープ・セグメント検証を実行します。検査の深さは、検証レベル属性によって制御されます。</p> <p><b>いいえ</b> 詳細なエンベロープ・セグメント検証を実行しません。</p>	プロトコルまたは接続に限定されます。	いいえ
TA1 オーバーライド	いいえ	<p>交換エンベロープ・セグメントに指定されている場合、TA1 要求の生成を許可します。EDI-X12 のみに適用されます。</p> <p>「はい」に設定すると、TA1 が交換エンベロープ・セグメントに指定されている場合、TA1 が生成されます。</p> <p>「いいえ」に設定すると、TA1 が交換エンベロープ・セグメントに指定されている場合でも、TA1 は生成されません。</p>	プロトコルまたは接続に限定されます。	はい
エラー時に廃棄 (Discard on error)	いいえ	<p>この属性は、ポリモフィック処理で使用されます。</p> <p>エンベロープ解除に起因するバッチの場合、この属性は、いずれかのトランザクションが失敗した場合にバッチ全体を廃棄するかどうかを示します。</p> <p>有効な値は「はい」および「いいえ」です。</p>	プロトコルまたは接続に限定されます。	いいえ
接続プロファイル修飾子 1	いいえ	<p>この属性は、交換接続に使用するプロファイルを判別するためにエンベローパーで使用されます。この属性の値が異なるトランザクションは、別々の交換に入れられます。</p>		

表 92. 追加の EDI 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
交換修飾子	いいえ	交換の送信側と受信側の ID の形式を識別するためのコード。		
交換 ID	いいえ	文書の特定の送信側または受信側を示します。入力されたデータの型は、交換修飾子属性によって決定されます。		
交換の使用標識	いいえ	変換中のソース・ドキュメントを実動、テスト、または情報のいずれの文書として分類するかを示します。  有効な値は P、T、および I です。		
グループ・アプリケーション送信側 ID	いいえ	トランザクションの特定の送信側を示します。この属性は、取引先から合意を得たときに、会社内でアドレッシングを促進します。		
グループ・アプリケーション受信側 ID	いいえ	トランザクションの特定の受信側またはアプリケーションを示します。この属性は、取引先から合意を得たときに、会社内でアドレッシングを促進します。		
交換の逆ルーティング	いいえ	受信側が応答を送信する宛先を示します。		
交換のルーティング・アドレス	いいえ	前方ルーティング用のサブアドレス・コード		
グループ・アプリケーション送信側修飾子	いいえ	グループ・アプリケーション送信側 ID の形式を識別するためのコード。		
グループ・アプリケーション受取先修飾子	いいえ	グループ・アプリケーション受信側 ID の形式を識別するためのコード。		
グループ・アプリケーション・パスワード	いいえ	この属性は、セキュリティ情報を定義します。		

## Data Interchange Services クライアント・プロパティ

ここでは、Data Interchange Services クライアントの変換マップの一部として設定できるプロパティ、および対応する WebSphere Partner Gateway 属性をリストします。

表 93. マップ・プロパティおよび対応する属性

Data Interchange Services クライアント・プロパティ	オーバーライドされる WebSphere Partner Gateway 属性
AckReq	応答要求済み
Alphanum	英数字検証テーブル
Charset	文字セット検証テーブル
CtlNumFlag	トランザクション ID 別制御番号
EdiDecNot (10 進表記)	10 進表記

表 93. マップ・プロパティおよび対応する属性 (続き)

Data Interchange Services クライアント・プロパティ	オーバーライドされる WebSphere Partner Gateway 属性
EdiDeDlm (データ・エレメント分離文字)	データ・エレメント区切り文字
EdiDeSep (反復データ・エレメント分離記号)	反復データ・エレメント分離記号
EdifactGrp	EDI 用のグループの作成
EdiRlsChar (リリース文字)	リリース文字
EdiSeDlm (コンポーネント・データ・エレメント分離記号)	サブエレメント区切り文字
EdiSegDlm (セグメント終了記号)	セグメント区切り文字
EnvProfName	エンベロープ・プロファイル
EnvType	エンベロープ・タイプ
MaxDocs	最大トランザクション番号
Reroute	交換の逆ルーティング
SegOutput	セグメント出力
ValLevel	検証レベル
ValErrLevel	最大検証エラー・レベル
ValMap	検証マップ

表 94 は、追加の Data Interchange Services クライアント・プロパティおよび関連する WebSphere Partner Gateway 属性をリストしています。

表 94. Data Interchange Services クライアント・プロパティおよび関連する属性

Data Interchange Services クライアント・プロパティ	オーバーライドされる WebSphere Partner Gateway 属性
IchgCtlNum	交換制御番号
IchgSndrQl	交換送信側修飾子
IchgSndrId	交換送信側 ID
IchgRcvrQl	交換受信側修飾子
IchgRcvrId	交換受信側 ID
IchgDate	交換日付
IchgTime	交換時間
IchgPswd	交換パスワード
IchgUsgInd	交換の使用標識
IchgAppRef	交換のアプリケーション参照
IchgVerRel	交換のバージョンとリリース番号
IchgGrpCnt	交換内のグループ数
IchgCtlTotal	交換トレーラー・セグメントからの照査合計
IchgTrxCnt	交換内の文書数
GrpCtlNum	グループ制御番号
GrpFuncGrpId	機能グループ ID
GrpAppSndrId	グループ・アプリケーションの送信側 ID
GrpAppRcvrId	グループ・アプリケーションの受信側 ID

表 94. Data Interchange Services クライアント・プロパティおよび関連する属性 (続き)

Data Interchange Services クライアント・プロパティ	オーバーライドされる WebSphere Partner Gateway 属性
GrpDate	グループの日付
GrpTime	グループの時刻
GrpPswd	グループ・パスワード
GrpVer グループ・バージョン	グループ・バージョン
GrpRel グループのリリース	グループ・リリース
GrpTrxCnt	グループ内の文書数
TrxCtlNum	トランザクション制御番号
TrxCODE	トランザクション・コード
TrxVer	トランザクション・バージョン
TrxRel	トランザクション・リリース
TrxSegCnt	文書内の EDI セグメント数

## AS 属性

このセクションでは、AS 属性について説明します。

表 95. AS 属性

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
応答のための時間	いいえ	元の要求を再送する前に MDN 肯定応答を待つ時間。この属性は、「再試行カウント」と連動します。単位は分です。	パッケージまたは接続に限定されます。	30
再試行カウント	いいえ	MDN が受信されない場合に要求を送信する回数。この属性は、「応答のための時間」と連動します。  例えば、この属性が 3 に設定されている場合、要求は 4 回まで送信できます (最初と 3 回の再試行)。	パッケージまたは接続に限定されます。	3
AS 圧縮	いいえ	データを圧縮します。この属性は、「AS 圧縮後に署名」属性と連動します。	パッケージまたは接続に限定されます。	いいえ
AS 圧縮後に署名	いいえ	AS 圧縮をペイロードと署名の両方に適用するか、あるいはペイロードだけに適用するかを示します。  「はい」を選択すると、ペイロードはメッセージの署名前に圧縮されます。この属性は、「AS 圧縮」属性と連動します。	パッケージまたは接続に限定されます。	はい

表 95. AS 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
AS 暗号化	いいえ	<p>暗号化を実行するかどうかを示します。  <b>注:</b> これは SSL 暗号化とは異なります。</p> <p>交換の TO 側では (文書をパートナーに送信する場合)、これは文書を暗号化するかどうかを指定します。</p> <p>交換の FROM 側では (パートナーから文書を受け取る場合)、属性が「はい」に設定されている場合、パートナーから送信された AS 要求を暗号化する必要があります。属性が「いいえ」に設定されている場合、パートナーからの文書は暗号化することもでき、暗号化しないこともできます。</p> <p>有効な値は「はい」または「いいえ」です。</p> <p><b>はい</b> 暗号化が必要です。  <b>いいえ</b> 暗号化は必要ありません。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	いいえ
AS MDN 要求	いいえ	<p>MDN 応答が必要かどうかを指定します。この属性が「はい」に設定されている場合、「transport Disposition-notification-to」ヘッダーは「AS MDN E メール・アドレス」属性からの値で埋められます。</p> <p>有効な値は「はい」および「いいえ」です。</p> <p><b>はい</b> MDN を要求します。  <b>いいえ</b> MDN は要求しません。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	はい
AS MDN E メール・アドレス	「AS MDN 非同期」属性が「はい」で、AS1 を使用している場合は「はい」	<p>非同期 MDN の送信時に使用するパートナーの E メール・アドレスを指定します。この属性は、「AS MDN 要求」属性と連動します。AS MDN E メール・アドレスの値は、「Disposition-notification-to」フィールドで使用されます。</p> <p>AS1 の場合のみ、この属性は、mailto:xxx@company.com の形式の「AS MDN 非同期」属性と連動します。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	
AS MDN Http Url	「AS MDN 非同期」属性が「はい」で、AS2 を使用している場合は「はい」	<p>この属性は AS2 に適用され、パートナーが非同期 MDN を送信する URL を指定するために使用されます。この属性は、「AS 非同期」属性と連動します。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	

表 95. AS 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
AS MDN 非同期	いいえ	<p>MDN が同期または非同期のどちらで戻されるかを指定します。この属性の値は、「AS MDN HTTP URL」属性または「AS MDN E メール・アドレス」属性のどちらが使用されるかに影響します。</p> <p>有効な値は「はい」および「いいえ」です。</p> <p>はい 非同期 いいえ 同期</p> <p>この属性が「はい」である場合、「receipt-delivery-option」フィールドは「AS MDN HTTP URL」属性 (AS2 の場合) または「AS MDN E メール・アドレス」属性 (AS1 の場合) に基づいて入力されます。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	はい
AS MDN 署名済み	いいえ	<p>署名済み MDN を戻すことを要求するかどうかを示します。この属性は、「AS MDN 要求」と連動します。</p> <p>値が「はい」である場合は、「Disposition-notification-options: signed-receipt-protocol」に入力されます。</p> <p>有効な値は「はい」および「いいえ」です。</p> <p>はい 署名済み MDN が要求されます。 いいえ 署名済み MDN は要求されません。</p> <p>この属性が「はい」に設定されている場合、パートナーによって送信される MDN は署名されている必要があります。</p> <p>この属性が「いいえ」に設定されている場合、MDN は署名付きまたは未署名にすることができます。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	いいえ
AS Message Digest アルゴリズム	いいえ	<p>署名時に使用するメッセージ・ダイジェスト・アルゴリズム。この属性は、「AS 署名済み」属性および「AS MDN 署名済み」属性と連動します。</p> <p>署名済み MDN では、「Disposition-notification-options: signed-receipt-micalg」ヘッダーに入力するためにこの値が使用されます。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	sha1

表 95. AS 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
AS 署名済み	いいえ	<p>文書に署名するかどうかを指定します。</p> <p>交換の TO 側では (文書をパートナーに送信する場合)、これは文書に署名するかどうかを指定します。</p> <p>交換の FROM 側では (パートナーから受信する場合)、属性が「はい」に設定されている場合、パートナーから送信された AS 要求に署名する必要があります。属性が「いいえ」に設定されている場合、パートナーからの文書は署名付きまたは未署名にすることができます。</p> <p>はい 文書に署名します。</p> <p>いいえ 署名付きの文書は不要です。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	いいえ
AS ビジネス ID	いいえ	<p>「AS2-To」ヘッダーに使用する AS ビジネス ID。値が指定されない場合、WebSphere Partner Gateway はソース・ドキュメントで 사용되는受信側のビジネス ID を使用します。</p> <p>注: 「AS2-From」ヘッダーは、WebSphere Partner Gateway に入り、AS として送信される元のソース・ドキュメントから設定されます。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	

## RosettaNet 属性

このセクションでは、RosettaNet 属性について説明します。

表 96. RosettaNet 属性

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
応答のための時間	はい	<p>元の要求を再送する前に受信肯定応答を待つ時間。この属性は、「再試行カウント」と連動します。単位は分です。</p> <p>デフォルト値は RosettaNet PIP 仕様文書から取得されます。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	120
実行のための時間	はい	<p>障害通知メッセージを送信する前に要求アクションへの応答を待つ時間。</p>	パッケージまたは接続に限定されます。	

表 96. RosettaNet 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
再試行カウント	はい	受信肯定応答が受信されなかった場合に要求を送信する回数。この属性は、「応答のための時間」と連動します。  例えば、3 が設定されている場合、要求は 4 回まで送信できます (最初と 3 回の再試行)。  デフォルト値は RosettaNet PIP 仕様文書から取得されます。	パッケージまたは接続に限定されます。	3
デジタル署名が必要	いいえ	PIP メッセージにデジタル署名が必要かどうかを示します。  デフォルト値は RosettaNet PIP 仕様文書から取得されます。	パッケージまたは接続に限定されます。	はい
否認防止が必要	いいえ	否認防止ストアに元の文書を保管するかどうかを示します。  デフォルト値は RosettaNet PIP 仕様文書から取得されます。	パッケージまたは接続に限定されます。	はい
受信の否認防止が必要 (Non-Repudiation of Receipt Required)	いいえ	否認防止ストアに受信肯定応答文書を保管するかどうかを示します。  デフォルト値は RosettaNet PIP 仕様文書から取得されます。	パッケージまたは接続に限定されます。	はい
同期サポートあり		PIP が同期通信をサポートするかどうかを示します。  デフォルト値は PIP 仕様に基づいて提供されます。	パッケージまたは接続に限定されます。  この属性は、RNIF 2.0 にのみ使用されます。	
同期応答が必要		PIP に同期受信肯定応答が必要かどうかを示します。  デフォルト値は PIP 仕様に基づいて提供されます。	パッケージまたは接続に限定されます。  この属性は、RNIF 2.0 にのみ使用されます。	
グローバル・サプライ・チェーン・コード	RNIF 1.1 に必要	参加者の機能のサプライ・チェーンを示すコード。  有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子部品</li> <li>• 情報技術</li> <li>• 半導体テクノロジー</li> </ul>	パッケージまたは接続に限定されます。	

表 96. RosettaNet 属性 (続き)

属性	必須	説明	制約事項	デフォルト
暗号化		<p>この属性は、暗号化を実行するかどうかを示します。 注: これは SSL 暗号化とは異なります。</p> <p>交換の TO 側では (文書をパートナーに送信する場合)、これは文書を暗号化するかどうかを指定します。</p> <p>交換の FROM 側では (パートナーから文書を受け取る場合)、属性が「はい」に設定されている場合、パートナーから送信された RNIF 要求を暗号化する必要があります。属性が「いいえ」に設定されている場合、パートナーからの文書は暗号化することもでき、暗号化しないこともできます。</p> <p>有効な値は、以下のとおりです。 なし 暗号化は必要ありません。</p> <p><b>ペイロード</b> RosettaNet サービス・コンテンツのみを暗号化します。</p> <p><b>ペイロードおよびコンテナ</b> RosettaNet サービス・コンテンツとサービス・ヘッダーをともに暗号化します。</p>	<p>パッケージまたは接続に限定されます。</p> <p>この属性は、RNIF 2.0 にのみ使用されます。</p>	なし

## 「バックエンド統合」属性

このセクションでは、バックエンド統合パッケージ化に関連する属性について説明します。

表 97. 「バックエンド統合」属性

属性	説明	デフォルト
エンベロープ・フラグ	<p>この属性は、文書を XML エンベロープでラップするかどうかを示します。</p> <p>有効な値は「はい」および「いいえ」です。</p>	いいえ



---

## 付録 E. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Burlingame Laboratory Director

IBM Burlingame Laboratory  
577 Airport Blvd., Suite 800  
Burlingame, CA 94010  
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

#### 著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

WebSphere Partner Gateway には、ICU4J というコードが含まれています。ICU4J のコードは、IBM の「プログラムのご使用条件」に基づきその「適用除外コンポーネント」の条項に従うことを条件に使用許諾されます。ただし、IBM は以下の条項を明示することを義務付けられています。

## 著作権および許可に関する注意事項

本「プログラム」は、IBM 社およびその他の著作権により保護されています。  
Copyright (c) 1995-2003

All rights reserved.

このソフトウェアおよびその関連文書ファイル (以下「ソフトウェア」といいます) を取得する人には、この「ソフトウェア」の、使用、複製、変更、結合、出版、配布またはソフトウェアの複製を販売する権利を含め、制約なく取引する権利を無償で許可し、また、「ソフトウェア」を与えられた人にも、この権利が与えられます。ただし、上記の著作権表示およびこの許可通知が、すべてのこの「ソフトウェア」の複製に記載され、また上記の著作権表示およびこの許可通知が、関連文書に記載されている場合に限りです。

ソフトウェアは、特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含む、すべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件を負わないものとします。さらに、著作権者またはこの注意事項に含まれている権利の所有者は、このソフトウェアの使用または実行に起因するものであれ、関連するものであれ、契約、過失、不法行為のいずれによるものであれ、使用、データまたは利益の喪失から発生する請求、あるいは特別、直接的、間接的、結果的損害、または他の一切の損害について、何等の責任も負いません。

この通知に記されているもの、および事前の書面による承認がある場合を除き、著作権者の名前を、このソフトウェアの広告、または販売、使用、取引の促進のためにご使用になることはできません。

---

## プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

**警告:** 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

i5/OS

IBM

IBM ロゴ

AIX

CICS

CrossWorlds

DB2  
DB2 Universal Database  
IMS  
Informix  
iSeries  
Lotus  
Lotus Domino  
Lotus Notes  
MQIntegrator  
MQSeries  
MVS  
OS/400  
Passport Advantage  
SupportPac  
WebSphere  
z/OS

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

WebSphere Partner Gateway Enterprise and Advanced Editions には、Eclipse Project ([www.eclipse.org](http://www.eclipse.org)) により開発されたソフトウェアが含まれています。



WebSphere Partner Gateway Enterprise and Advanced Editions バージョン 6.0。

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アウトバウンド SSL  
クライアント認証 180  
サーバー認証 179  
アウトバウンド固定ワークフロー  
説明 14  
ハンドラー 61  
ユーザー定義ハンドラー 60  
アウトバウンドのシグニチャー証明書 184  
アクション  
コピー 63  
作成 63  
説明 14  
ハンドラー 62  
アクセス権  
説明 36  
デフォルトの変更 37  
後処理構成ポイント  
ゲートウェイ 16, 159  
ターゲット 11, 58  
ハンドラー・タイプ 58  
アプリケーション参照 115  
アプリケーション受信側 115  
アプリケーション受信側 ID 115  
アプリケーション受信側 ID 修飾子 116  
アプリケーション送信側 115  
アプリケーション送信側 ID 115  
アプリケーション送信側 ID 修飾子 115  
アプリケーション・パスワード 116  
アラート可能なイベント 195  
暗号化  
使用可能化 187, 188  
説明 172  
「暗号化」属性 333  
暗号化証明書、長さの制限 175  
一般属性、エンベロープ・プロファイル 113  
イベント、アラート可能 195  
イベント・キュー、指定 193  
イベント・ビューアー 188  
インバウンド SSL  
クライアント認証 178  
サーバー認証 177

インバウンド SSL (続き)  
デフォルト以外の鍵ストアでの構成 189  
インバウンド固定ワークフロー  
説明 12  
ハンドラー 61  
ユーザー定義ハンドラー 60  
インバウンドのシグニチャー証明書 183  
英数字検証テーブル属性 324  
エラー時に廃棄 (Discard on error) 属性 325  
エンコード属性 54  
エンベローパー  
間隔を基にしたスケジューリング 111  
キュー存続期間 111  
最大ロック時間 111  
説明 110  
デフォルト値、変更 111  
バッチ・モード 111  
ロック 110  
エンベロープ解除、交換の 106  
エンベロープ属性 112  
エンベロープ・タイプ 316, 317, 318  
「エンベロープ・フラグ」属性 333  
エンベロープ・プロファイル  
一般属性 113  
グループ属性 115  
交換属性 114  
作成 113  
説明 112  
属性 112, 315  
トランザクション属性 116  
「応答のための時間」属性 328, 331  
応答要求済み 114

## [カ行]

カーディナリティ 268  
会社のロゴの追加 33  
鍵  
公開 172  
秘密 172  
鍵ストア  
説明 173  
デフォルト以外の使用 189  
デフォルトのパスワード 173  
カスタム XML プロトコル定義 90  
カレンダーを基にしたスケジューリング  
エンベローパー 111  
FTP スクリプト記述ターゲット 52  
SMTP (POP3) ターゲット 45  
間隔を基にしたスケジューリング  
エンベローパー 111  
FTP スクリプト記述ターゲット 52  
SMTP (POP3) ターゲット 45  
管轄権ポリシー・ファイル、JRE 175  
管理ユーザー  
コミュニティー・マネージャー 138  
作成 36  
参加者 164  
関連割り当て済み 116  
関連割り当て済みコード 116  
期限切れ証明書の置換 174  
機能グループ ID 115, 316, 319  
機能肯定応答  
説明 133  
例 228  
機能肯定応答のみでのグループ・レベル情報の生成属性 324  
機能肯定応答マップ  
インポート 123  
システム提供 134  
説明 97  
キュー  
イベント 193  
JMS、作成 25  
キュー存続期間、エンベローパー 111  
共通アクセス参照 116  
許可情報 114  
許可情報修飾子 114  
区切り文字属性 319  
クライアント SSL 証明書オプションの検証 179  
クライアント認証  
アウトバウンド SSL 180  
インバウンド SSL 178  
構成 178  
グループ、EDI  
説明 96  
トレーラー・セグメント 96  
ヘッダー・セグメント 96  
グループ機関 115  
グループ制御番号の長さ 113, 316, 317, 318  
グループ属性、エンベロープ・プロファイル 115  
グループ・アプリケーション受取先 ID 属性 326  
グループ・アプリケーション受取先修飾子属性 326  
グループ・アプリケーション送信側 ID 属性 326

- グループ・アプリケーション送信側修飾子属性 326
- グループ・アプリケーション・パスワード属性 326
- グループ・バージョン 115, 316, 317
- 「グローバル・サプライ・チェーン・コード」属性 332
- グローバル・トランスポート属性
  - ゲートウェイ 142
  - ターゲット 41
- ゲートウェイ
  - 後処理構成ポイント 16, 159
  - 構成ポイント 15
  - サポートされているトランスポート 142
  - 説明 15
  - デフォルト 160
  - ファイル・ディレクトリー 19, 152
  - 前処理構成ポイント 16, 159
  - ユーザー定義トランスポート 160
  - FTP 147, 148
  - FTP スクリプト記述 155, 157
  - FTPS 154
  - HTTP 144
  - HTTPS 146
  - JMS 150
  - SMTP 149
- 検証マップ
  - インポート 123
  - 説明 92
  - 追加 92
  - 標準 EDI 98
  - フォーマット 268
  - 文書フロー定義、関連付け 93
  - RosettaNet 268
- 検証レベル属性 323
- 公開鍵 172
- 交換
  - 構造 95
  - 処理 106
  - 接続プロファイル 118
- 交換 ID 属性 326
- 交換修飾子属性 326
- 交換制御番号の長さ 113, 315, 317, 318
- 交換の逆ルーティング属性 326
- 交換の使用標識属性 326
- 交換のルーティング・アドレス属性 326
- 交換バージョン ID 114
- 交換標準 ID 114
- 構成ポイント
  - 後処理 11, 58, 159
  - ゲートウェイ 15, 159
  - ターゲット 10, 53
  - 同期検査 11, 57
  - 同期交換 53
  - 前処理 10, 53, 159

- 構成ポイント、ゲートウェイ
  - 後処理 16, 159
  - 変更 159
  - 前処理 16, 159
- 構成ポイント、ターゲット
  - 後処理 11, 58
  - 概要 10
  - 同期検査 11, 57
  - 変更 58
  - 前処理 10, 53
- 肯定応答要求 115
- 構文 ID 114
- 構文バージョン 115
- コマンド、FTP 49, 156
- コミュニティー・マネージャー
  - 説明 2, 137
  - プロファイル 137
  - B2B 機能 139
- コンポーネント・エレメント分離記号 320
- コンポーネント・データ・エレメント 321
- コンポーネント・データ・エレメント分離記号 320

## [サ行]

- サーバー認証
  - アウトバウンド SSL 179
  - インバウンド SSL 177
- サービス・セグメント 96
- 「再試行カウント」属性 328, 332
- 最大 2048 バイトの暗号化証明書 175
- 「最大キュー存続期間」フィールド 111
- 最大検証エラー・レベル属性 323
- 最大トランザクション番号 113, 316, 317, 318
- 「最大ロック時間」フィールド 111
- サブエレメント区切り文字属性 320
- 参加者
  - 作成 163
  - B2B 機能 164
- 参加者接続
  - 活性化 167
  - 説明 66, 101
  - 属性 67, 101
- シグニチャー証明書
  - アウトバウンド 184
  - インバウンド 183
- 自己署名証明書 174
- 「実行のための時間」属性 331
- 「修飾子 1」フィールド 118
- 受信側参照/パスワード 115
- 受信側参照/パスワード修飾子 115
- 「受信の否認防止が必要 (Non-Repudiation of Receipt Required)」属性 332

- 障害通知、PIP 処理 255
- 証明書
  - 期限切れ、置換 174
  - シグニチャー 183, 184
  - 自己署名 174
  - ターゲット 174
  - 中間 174
  - 取り消し 181
  - フォーマット、変換 180
  - リスト 189
  - 1 次 175
  - 2 次 175
- 「証明書が失効しているか有効期限が切れています (Certificate revoked or expired)」メッセージ 188
- 証明書チェーン 174
- 証明書取り消しリスト (CRL)
  - 追加 181
  - 配布ポイント 182
- スキーマ
  - PIP パッケージ 258
  - WSDL ファイル 83
- スケジューリング
  - エンベローパー 111
  - FTP スクリプト記述ターゲット 52
  - SMTP (POP3) ターゲット 45
- スタイル・シートの変更 34
- スプリッター 98
- スプリッター・ハンドラー
  - 説明 98
  - 属性 53
  - リスト 55
- 世紀制御年属性 324
- 制御機関 116, 319
- 制御セグメント 96
- 制御番号
  - 参照 123
  - 初期化 122
  - 説明 119
  - マスク 120
- セキュリティー
  - 概要 171
  - サポートされるタイプ 171
  - 証明書リスト 189
  - 例 204
  - FTPS サーバーの考慮事項 23
- セキュリティー情報 114
- セキュリティー情報修飾子 114
- セグメント、説明 321
- セグメント、EDI 96
- セグメント区切り文字 320
- セグメント区切り文字属性 321, 322
- セグメント終了記号 320, 322
- セグメント出力属性 322
- セグメントの詳細な検証属性 325
- セグメント名 96, 321

セグメント・タグ 96, 321  
接続、参加者  
  活動化 167  
  説明 66, 101  
  属性 67, 101  
接続プロファイル  
  交換 118  
  設定 119  
  説明 117  
  属性 117  
  トランザクション 117  
接続プロファイル修飾子 1 属性 118, 325  
「送信元パッケージ名 (From Packaging Name)」属性 54  
「送信元パッケージ・バージョン (From Packaging Version)」属性 54  
「送信元プロセス・コード (From Process Code)」属性 54  
「送信元プロセス・バージョン (From Process Version)」属性 55  
「送信元プロトコル名 (From Protocol Name)」属性 54  
「送信元プロトコル・バージョン (From Protocol Version)」属性 54  
属性  
  エンベロープ・プロファイル 112, 315  
  区切り文字 319  
  グローバル・トランスポート 41  
  参加者接続 67, 101  
  スプリッター・ハンドラー 53  
  接続 プロファイル 117  
  文書フロー定義 65, 99  
  分離文字 319  
  優先順位 167  
  B2B 機能 66, 100  
  EDI プロトコル・レベル 126  
  EDI 文書フロー・レベル 126  
  EDIFACT エンベロープ 318  
  EDI、リスト 315  
  UCS エンベロープ 316  
  X12 エンベロープ 315  
「属性が見つかりませんでした」メッセージ 257

## [夕行]

ターゲット  
  後処理構成ポイント 58  
  グローバル・トランスポート属性 41  
  構成ポイント 10, 53  
  スプリッター・ハンドラー 53  
  説明 8, 39  
  同期検査構成ポイント 53  
  ファイル・システム 47

ターゲット (続き)  
  前処理構成ポイント 53  
  FTP 43  
  FTP スクリプト記述 48  
  HTTP 42  
  JMS 45  
  SMTP 44  
ターゲット証明書 174  
対話  
  説明 66, 100  
  cXML 文書 89  
  RosettaNet 文書 77  
  Web サービス 84  
単純データ・エレメント 321  
  チェーニング、マップ 97  
  チェーン、証明書 174  
  中間証明書 174  
  重複エレメントの許可属性 322  
通信 ID 114  
通信契約 ID 115  
通信パスワード 114  
データ・エレメント  
  コンポーネント 321  
  説明 96  
  単純 321  
  複合 321  
データ・エレメント区切り文字属性 320, 321  
データ・エレメント分離記号 320, 321  
ディレクトリー  
  テスト 21  
  Binary 21  
  Documents 21  
  FTP サーバー 20  
  JMS 24  
  Production 21  
デジタル署名  
  使用可能化 184  
  説明 172  
「デジタル署名が必要」属性 332  
テスト標識 114  
テスト標識 (使用標識) 115  
デフォルト・ゲートウェイの設定 160  
「同期応答が必要」属性 332  
同期検査構成ポイント  
  説明 11  
  ハンドラーの順序 58  
  ハンドラーのリスト 57  
  必要な場合 53  
  HTTP/S ターゲット 57  
  JMS ターゲット 57  
同期交換、構成ポイントの要件 53  
「同期サポートあり」属性 332  
トラストストア  
  説明 173  
  デフォルトのパスワード 173

トラスト・アンカー 174  
トランザクション ID 別制御番号 113, 316, 317, 318  
トランザクション、EDI  
  接続プロファイル 117  
  説明 95, 96  
  トレーラー・セグメント 96  
  ヘッダー・セグメント 96  
トランザクション制御番号の長さ 113, 316, 317, 318  
トランザクション属性、エンベロープ・プロファイル 116  
トランスポート  
  概要 2  
  ゲートウェイ、システム提供 142  
トランスポート、ユーザー定義のゲートウェイ 160  
  更新 195  
  削除 53, 160  
  ターゲット 52  
取り消された証明書 181  
トレーラー・セグメント 96

## [ナ行]

なしパッケージ化 5

## [ハ行]

バイナリー文書 69  
バイナリー・ファイル  
  処理 22  
  命名規則 22  
バイナリー・プロトコル 6  
パスワード  
  鍵ストアのデフォルト 173  
  デフォルト 30  
  トラストストアのデフォルト 173  
パスワード・ポリシーの設定 35  
バックエンド統合パッケージ化  
  作成 267  
  説明 4  
パッケージ化  
  説明 4  
  なし 5  
  バックエンド統合 4  
  AS 4  
  「N/A」の概念 5  
  RNIF 5  
バッチ・モード 110, 111  
「バッチ・モードの使用」フィールド 111  
パナーの追加 33  
ハブ管理者ユーザー xi, 30  
パブリック WSDL ファイル 81

- ハンドシェイク、SSL 176
- ハンドラー
  - アップロード 40, 59
  - 説明 9
  - プロトコル処理 61
  - プロトコル・アンパック 61
  - プロトコル・パッケージ化 61
  - ユーザー定義 59, 60
- ハンドラー・タイプ 59
- 「ハンドラー・リスト (Handlers List)」ページ 58
- 反復データ・エレメント分離記号属性 320
- 反復データ・エレメント文字属性 322
- 反復分離記号 320
- 汎用文書フロー・ハンドラー 56
- ビジネス ID 138, 163, 164
- ビジネス・プロトコル 6
- 否認防止 172
- 「否認防止が必要」属性 332
- 秘密鍵 172
- ファイル・システム・ターゲット 47
- ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイ 19
- フォーマット、検証マップ 268
- 複合データ・エレメント 321
- 複数の証明書 175
- 複数の文書、1つのファイル内の 98
- プライベート WSDL ファイル 81
- ブランド設定、Community Console の 33
- プロトコル
  - カスタム XML 90
  - バイナリー 6
  - リスト 6
  - cXML 6
  - EDI-Consent 6
  - EDI-EDIFACT 6
  - EDI-X12 6
  - RNSC 6
  - RosettaNet 6
  - Web サービス 6
  - XMLEvent 6
- プロトコル処理
  - ステップ、説明 13
  - ハンドラー 61
- プロトコル・アンパック
  - ステップ、説明 13
  - ハンドラー 61
- プロトコル・パッケージ化
  - ステップ、説明 14
  - ハンドラー 61
- プロパティール
  - 変換マップ 326
  - Data Interchange Services クライアント 326

- プロファイル
  - エンベロープ 112
  - コミュニティー・マネージャー 137
  - 参加者 163
  - 接続 117
- 文書定義、Data Interchange Services 124
- 文書ビューアー 93, 136
- 文書フロー
  - カスタム 91
  - 説明 7
- 文書フロー定義
  - 概要 3
  - 可用性の確認 65, 99
  - 検証マップ、関連付け 93
  - 説明 65, 99
  - 属性 65, 99
  - タイプ 68
  - RNIF 72
  - Web サービス 80
- 文書フロー・パッケージ、PIP 73
- 分離文字属性 319
- ヘッダーの背景の追加 33
- ヘッダー・セグメント 96
- ヘルプ・システム、開始 30
- 変換時の最大エラー・レベル属性 322
- 変換マップ
  - インポート 123
  - 説明 97
  - プロパティール 326

## [マ行]

- 前処理構成ポイント
  - ゲートウェイ 16, 159
  - ターゲット 10, 53
- マスク、制御番号 120
- マッピング担当者 27, 97
- マップ
  - インポート 123
  - 機能肯定応答 97
  - 検証 92, 93, 98
  - 変換 97
- マップ・チェーニング 97
- 「メタ構文 (Metasyntax)」属性 55
- 「メタディクショナリー (Metadictionary)」属性 55
- 「メタ文書 (Metadocument)」属性 55
- メッセージ・タイプ 116, 319
- メッセージ・バージョン 116, 319
- メッセージ・リリース 116, 319
- メッセージ・リリース ID 116
- 文字セット検証テーブル属性 324

## [ヤ行]

- ユーザー定義トランスポート
  - ゲートウェイ 160
  - 更新 195
  - 削除 53, 160
  - ターゲット 52
- ユーザー定義ハンドラー
  - アップロード 40, 59
  - 更新 60
  - ワークフロー 60
- 「有効な暗号化証明書が見つかりません」メッセージ 188
- 優先順位 115

## [ラ行]

- リソース・バンドル 34
- リリース文字 320
- リリース文字属性 320, 322
- ルート CA (認証局) 174
- 例
  - 機能肯定応答 228
  - セキュリティー 204
  - パススルーによる EDI 197
  - EDI から ROD へ 217
  - EDI から XML へ 233
  - ROD から EDI へ 247
  - TA1 肯定応答 224
  - XML から EDI へ 239
- レコード単位データ (ROD) 文書 98
- 列挙 269
- 連絡先情報、0A1 PIP 256
- ロー文書の表示 93, 136
- ロゴの追加、会社 33
- ロック
  - エンベローパー 110, 111
  - FTP スクリプト・トランスポート 41, 142

## [ワ行]

- ワークフロー
  - アウトバウンド固定 14
  - インバウンド固定 12
  - ユーザー定義ハンドラー 60

## [数字]

- 0A1 Notification of Failure
  - V02.02 PIP 270
  - V1.0 PIP 269
- 0A1 PIP 255
- 1 次証明書
  - アウトバウンド SSL 180

1 次証明書 (続き)  
 アウトバウンド暗号化 187  
 アウトバウンドのデジタル署名 184  
 説明 175

10 進表記 321  
 10 進表記属性 321

2 次証明書  
 アウトバウンド SSL 180  
 アウトバウンド暗号化 187  
 アウトバウンドのデジタル署名 184  
 説明 175

2A1 Distribute New Product PIP 271  
 2A12 Distribute Product Master PIP 272  
 3A1 Request Quote PIP 273  
 3A2 Request Price and Availability  
 PIP 274  
 3A4 Request Purchase Order  
 V02.00 PIP 275  
 V02.02 PIP 276  
 3A5 Query Order Status PIP 277  
 3A6 Distribute Order Status PIP 279  
 3A7 Notify of Purchase Order PIP 280  
 3A8 Request Purchase Order Change  
 V01.02 PIP 281  
 V01.03 PIP 283  
 3A9 Request Purchase Order Cancellation  
 PIP 284  
 3B11 Notify of Shipping Order PIP 287  
 3B12 Request Shipping Order PIP 288  
 3B13 Notify of Shipping Order  
 Confirmation PIP 289  
 3B14 Request Shipping Order  
 Cancellation 290  
 3B18 Notify of Shipping Documentation  
 PIP 291  
 3B2 Notify of Advance Shipment PIP 285  
 3B3 Distribute Shipment Status PIP 286  
 3C1 Return Product PIP 292  
 3C3 Notify of Invoice PIP 293  
 3C4 Notify of Invoice Reject PIP 294  
 3C6 Notify of Remittance Advice PIP 295  
 3C7 Notify of Self-Billing Invoice  
 PIP 296  
 3D8 Distribute Work in Process PIP 297  
 4A1 Notify of Strategic Forecast PIP 298  
 4A3 Notify of Threshold Release Forecast  
 PIP 299  
 4A4 Notify of Planning Release Forecast  
 PIP 299  
 4A5 Notify of Forecast Reply PIP 300  
 4B2 Notify of Shipment Receipt PIP 301  
 4B3 Notify of Consumption PIP 302  
 4C1 Distribute Inventory Report  
 V02.01 PIP 303  
 V02.03 PIP 304  
 5C1 Distribute Product List PIP 305

5C2 Request Design Registration PIP 306  
 5C4 Distribute Registration Status PIP 307  
 5D1 Request Ship From Stock and Debit  
 Authorization PIP 308  
 6C1 Query Service Entitlement PIP 309  
 6C2 Request Warranty Claim PIP 310  
 7B1 Distribute Work in Process PIP 310  
 7B5 Notify of Manufacturing Work Order  
 PIP 311  
 7B6 Notify of Manufacturing Work Order  
 Reply PIP 313

## A

API、使用可能化 193  
 「AS MDN E メール・アドレス」属性  
 329  
 「AS MDN Http Url」属性 329  
 「AS MDN 署名済み」属性 330  
 「AS MDN 非同期」属性 330  
 「AS MDN 要求」属性 329  
 「AS Message Digest アルゴリズム」属性  
 330  
 「AS 圧縮」属性 328  
 「AS 圧縮後に署名」属性 328  
 「AS 暗号化」属性 187, 188, 329  
 「AS 署名済み」属性 184, 331

AS 属性  
 応答のための時間 328  
 再試行カウント 328  
 AS MDN E メール・アドレス 329  
 AS MDN 署名済み 330  
 AS MDN 非同期 330  
 AS MDN 要求 329  
 AS Message Digest アルゴリズム 330  
 AS 圧縮 328  
 AS 圧縮後に署名 328  
 AS 暗号化 187, 188, 329  
 AS 署名済み 184, 331  
 AS ビジネス ID 140, 168, 331

AS パッケージ化 4  
 AS ビジネス ID 属性 140, 168, 331  
 AS1 規格 4  
 AS2 規格 4  
 AS2 同期検査ハンドラー 57  
 ascii コマンド 49, 156

## B

B2B 機能  
 コミュニティー・マネージャー 139  
 参加者 164  
 説明 66, 100  
 属性 66, 100  
 bcgChgPassword.jacl スクリプト 173

bcgClientAuth.jacl スクリプト  
 クライアント認証の設定 178  
 bcgssl.jacl 使用後の再設定 189  
 bcgDISImport ユーティリティ 124  
 bcgreceiver サブレット 42  
 bcgssl.jacl スクリプト 189  
 bcg.CRLDir プロパティ 182  
 BCG.Properties ファイル  
 0A1 PIP 連絡先情報の更新 256  
 bcg.CRLDir 182  
 BCG\_BATCHDOCS 属性 54, 104, 110  
 BG01 通信 ID 114  
 BG02 通信パスワード 114  
 binary コマンド 49, 156  
 Binary ディレクトリー 21  
 bye コマンド 50, 156

## C

cd コマンド 49, 156  
 common\_LineNumber\_R タイプ・エレメン  
 ト 268  
 Community Console  
 始動 29  
 背景、ヘッダー 33  
 バナー 33  
 ブランド 33  
 ログイン 30  
 ロゴの追加 33  
 Community Console へのログイン 30  
 Content-Type ヘッダー、cXML 88  
 CRL (証明書取り消しリスト)  
 追加 181  
 配布ポイント 182  
 CTLNUMFLAG (トランザクション ID 別  
 制御番号) 316, 317, 318  
 cXML 同期検査ハンドラー 57  
 cXML プロトコル 6  
 cXML 文書  
 応答タイプ 87  
 文書フロー定義 88  
 メッセージ・タイプ 87  
 要求タイプ 86  
 ルート・エレメント 85  
 例 86  
 Content-Type ヘッダー 88  
 DTDs 85

## D

Data Interchange Services  
 マップ、インポート 124  
 Data Interchange Services クライアント  
 説明 27, 123  
 プロパティ 326

Data Interchange Services クライアント  
(続き)  
マッピング担当者 27, 97  
DayOfMonth タイプ・エレメント 269  
delete コマンド 49, 156  
Distribute Inventory Report  
V02.01 PIP 303  
V02.03 PIP 304  
Distribute New Product Information  
PIP 271  
Distribute Order Status PIP 279  
Distribute Product List PIP 305, 306  
Distribute Product Master PIP 272  
Distribute Registration Status PIP 307  
Distribute Shipment Status PIP 286  
Distribute Work in Process PIP 297, 310  
Document Manager  
始動 30  
説明 11  
Documents ディレクトリー 21  
DTDs  
cXML 文書 85  
XML スキーマへの変換 258

## E

### EDI

概要 95  
交換 95  
セグメント 96  
属性、リスト 315  
データ・エレメント 96  
トランザクション 95  
EDI エンベロープ属性 114  
区切り文字 320  
グループ制御番号の長さ 113, 316  
交換制御番号の長さ 113  
最大トランザクション番号 113  
トランザクション ID 別制御番号  
113  
トランザクション制御番号の長さ 113  
分離文字 320  
BG01 通信 ID 114  
BG02 通信パスワード 114  
CRPCTLLEN グループ制御番号の長さ  
317  
CTLNUMFLAG トランザクション ID  
別制御番号 316, 317, 318  
EDIFACTGRP EDI 用のグループの作  
成 318  
GRPCTLLEN グループ制御番号の長さ  
318  
GS01 機能グループ ID 115, 316, 317  
GS02 アプリケーション送信側 115  
GS03 アプリケーション受信側 115  
GS07 グループ機関 115

EDI エンベロープ属性 (続き)  
GS08 グループ・バージョン 115,  
316, 317  
INTCTLLEN 交換制御番号の長さ  
315, 317, 318  
ISA01 許可情報修飾子 114  
ISA02 許可情報 114  
ISA03 セキュリティー情報修飾子  
114  
ISA04 セキュリティー情報 114  
ISA11 交換標準 ID 114  
ISA12 交換バージョン ID 114  
ISA14 応答要求済み 114  
MAXDOCS 最大トランザクション番号  
316, 317, 318  
TRXCTLLEN トランザクション制御番  
号の長さ 316, 317, 318  
UNB0101 構文 ID 114  
UNB0102 構文バージョン 115  
UNB0601 受信側参照/パスワード 115  
UNB0602 受信側参照/パスワード修飾  
子 115  
UNB07 アプリケーション参照 115  
UNB08 優先順位 115  
UNB09 肯定応答要求 115  
UNB10 通信契約 ID 115  
UNB11 テスト標識 (使用標識) 115  
UNG01 機能グループ ID 115, 319  
UNG0201 アプリケーション送信側  
ID 115  
UNG0202 アプリケーション送信側 ID  
修飾子 115  
UNG0301 アプリケーション受信側  
ID 115  
UNG0302 アプリケーション受信側 ID  
修飾子 116  
UNG06 制御機関 116  
UNG0701 メッセージ・バージョン  
116  
UNG0703 関連割り当て済み 116  
UNG0703 メッセージ・リリース 116  
UNG08 アプリケーション・パスワー  
ド 116  
UNH0201 メッセージ・タイプ 116,  
319  
UNH0202 メッセージ・バージョン  
116, 319  
UNH0203 メッセージ・リリース 116,  
319  
UNH0204 制御機関 116, 319  
UNH0205 関連割り当て済みコード  
116  
UNH03 共通アクセス参照 116  
EDI から ROD へのフロー  
設定 127  
説明 102

EDI から ROD へのフロー (続き)  
例 217  
EDI から XML へのフロー  
設定 127  
説明 102  
例 233  
EDI 間のフロー  
設定 125  
説明 101  
EDI 交換  
構造 95, 97  
処理 106  
EDI スプリッター・ハンドラー 55, 56  
EDI 属性  
英数字検証テーブル 324  
エラー時に廃棄 (Discard on  
error) 325  
機能肯定応答のみでのグループ・レバ  
ル情報の生成 324  
グループ・アプリケーション受取先修  
飾子 326  
グループ・アプリケーション受信側  
ID 326  
グループ・アプリケーション送信側  
ID 326  
グループ・アプリケーション送信側修  
飾子 326  
グループ・アプリケーション・パスワ  
ード 326  
検証レベル 323  
交換 ID 326  
交換修飾子 326  
交換の逆ルーティング 326  
交換の使用標識 326  
交換のルーティング・アドレス 326  
最大検証エラー・レベル 323  
世紀制御年 324  
セグメント出力 322  
セグメントの詳細な検証 325  
接続プロファイル修飾子 1 118, 325  
重複エレメントの許可 322  
変換時の最大エラー・レベル 322  
文字セット検証テーブル 324  
FA マップ 322  
TA1 オーバーライド 325  
XMLNS アクティブ 323  
EDI 用のグループの作成 318  
EDIFACT エンベロープ属性 318  
EDIFACTGRP (EDI 用のグループの作  
成) 318  
EDI、パススルーによる  
設定 69  
例 197  
EDI-Consent プロトコル 6  
EDI-EDIFACT プロトコル 6  
EDI-X12 交換の構造 97

EDI-X12 プロトコル 6  
ENVTYPE エンベロープ・タイプ 316,  
317, 318

## F

FA (機能肯定応答)  
説明 133  
例 228

FA (機能肯定応答) マップ  
システム提供 134  
説明 97

FA マップ属性 322

FTP ゲートウェイ 148

FTP コマンド  
ascii 49, 156  
binary 49, 156  
bye 50, 156  
cd 49, 156  
delete 49, 156  
get 49  
getdel 49  
mget 49  
mgetdel 49  
mkdir 50, 156  
mput 156  
open 50, 156  
passive 49, 156  
quit 50, 156  
quote 50, 156  
rename 50  
rmdir 50, 157  
site 50, 157

FTP サーバー  
構成 23  
ディレクトリー構造 20  
Binary ディレクトリー 21  
Documents ディレクトリー 21

FTP スクリプト  
許可されたコマンド 49, 156  
ゲートウェイ 155  
説明 27  
ターゲット 49

FTP スクリプト記述ターゲット 48

FTP ターゲット 43

FTPS サーバー、セキュリティ考慮事項  
23

## G

get コマンド 49

getdel コマンド 49

GlobalLocationIdentifier タイプ・エレメン  
ト 269

GRPCTLLEN (グループ制御番号の長  
さ) 316, 317, 318

GS 属性 115

GS01 機能グループ ID 115, 316, 317

GS02 アプリケーション送信側 115

GS03 アプリケーション受信側 115

GS07 グループ機関 115

GS08 グループ・バージョン 115, 316,  
317

## H

HTTP ターゲット  
設定 42  
同期検査ハンドラー 57

## I

IBM 鍵管理ツール (ikeyman)

説明 172  
ロケーション 172

ikeyman ユーティリティ

説明 172  
ロケーション 172

INTCTLLEN (交換制御番号の長さ) 315,  
317, 318

ISA01 許可情報修飾子 114

ISA02 許可情報 114

ISA03 セキュリティー情報修飾子 114

ISA04 セキュリティー情報 114

ISA11 交換標準 ID 114

ISA12 交換バージョン ID 114

ISA14 応答要求済み 114

ISA15 テスト標識 114

## J

Java ランタイムの追加 25

JMS ゲートウェイ 150

JMS 構成、定義 25

JMS コンテキスト、定義 25

JMS ターゲット  
設定 45  
同期検査ハンドラー 57

JMS ディレクトリー、作成 24

JMSAdmin.config ファイル 24

JMS、デフォルト構成の変更 24

JRE 管轄権ポリシー・ファイル 175

## M

MAXDOCS (最大トランザクション番  
号) 316, 317, 318

maxOccurs 属性 268

mget コマンド 49

mgetdel コマンド 49

minOccurs 属性 268

mkdir コマンド 50, 156

mput コマンド 156

## N

Notification of Failure

V02.00 PIP 270

V1.0 PIP 269

Notify of Advance Shipment PIP 285

Notify of Consumption PIP 302

Notify of Forecast Reply PIP 300

Notify of Invoice PIP 293

Notify of Invoice Reject PIP 294

Notify Of Manufacturing Work Order  
PIP 311

Notify Of Manufacturing Work Order  
Reply PIP 313

Notify of Planning Release Forecast  
PIP 299

Notify of Purchase Order Update PIP 280

Notify of Remittance Advice PIP 295

Notify of Self-Billing Invoice PIP 296

Notify of Shipment Receipt PIP 301

Notify of Shipping Documentation  
PIP 291

Notify of Shipping Order Confirmation  
PIP 289

Notify of Shipping Order PIP 287

Notify of Strategic Forecast PIP 298

Notify of Threshold Release Forecast  
PIP 299

「N/A」の指定 5

## O

open コマンド 50, 156

## P

Partner Interface Process (PIP) 71

passive コマンド 49, 156

PIP

サポート対象のリスト 72

障害通知 255

説明 71

パッケージのアップロード 75

非アクティブ化 255

文書フロー・パッケージ 73

文書フロー・パッケージの内容 269

メッセージ処理 71

0A1 255

XML スキーマ・ファイル、作成  
スキーマ 258

PIP (続き)

XSD ファイル、作成 258

PIP パッケージ

更新 257

作成 257

PIP パッケージの内容

0A1 Notification of Failure 269

0A1 Notification of Failure

V02.00 270

2A1 Distribute New Product

Information 271

2A12 Distribute Product Master 272

3A1 Request Quote 273

3A2 Request Price and

Availability 274

3A4 Request Purchase Order

V02.00 275

3A4 Request Purchase Order

V02.02 276

3A5 Query Order Status 277

3A6 Distribute Order Status 279

3A7 Notify of Purchase Order

Update 280

3A8 Request Purchase Order Change

V01.02 281

3A8 Request Purchase Order Change

V01.03 283

3A9 Request Purchase Order

Cancellation 284

3B11 Notify of Shipping Order 287

3B12 Request Shipping Order 288

3B13 Notify of Shipping Order

Confirmation 289

3B14 Request Shipping Order

Cancellation 290

3B18 Notify of Shipping

Documentation 291

3B2 Notify of Advance Shipment 285

3B3 Distribute Shipment Status 286

3C1 Return Product 292

3C3 Notify of Invoice 293

3C4 Notify of Invoice Reject 294

3C6 Notify of Remittance Advice 295

3C7 Notify of Self-Billing Invoice 296

3D8 Distribute Work in Process 297

4A1 Notify of Strategic Forecast 298

4A3 Notify of Threshold Release

Forecast 299

4A4 Notify of Planning Release

Forecast 299

4A5 Notify of Forecast Reply 300

4B2 Notify of Shipment Receipt 301

4B3 Notify of Consumption 302

4C1 Distribute Inventory Report

V02.01 303

PIP パッケージの内容 (続き)

4C1 Distribute Inventory Report

V02.03 304

5C1 Distribute Product List 305

5C2 Distribute Product List 306

5C4 Distribute Registration Status 307

5D1 Request Ship From Stock and

Debit Authorization 308

6C1 Query Service Entitlement 309

6C2 Request Warranty Claim 310

7B1 Distribute Work in Process 310

7B5 Notify Of Manufacturing Work

Order 311

7B6 Notify Of Manufacturing Work

Order Reply 313

PIP リリース情報 257

POP3 ターゲット 44

Production ディレクトリー 21

## Q

Query Order Status PIP 277

Query Service Entitlement PIP 309

quit コマンド 50, 156

quote コマンド 50, 156

## R

Receiver

始動 30

説明 8, 39

rename コマンド 50

Request Purchase Order

V02.00 PIP 275

V02.02 PIP 276

Request Purchase Order Cancellation

PIP 284

Request Purchase Order Change

V01.02 PIP 281

V01.03 PIP 283

Request Quote PIP 273

Request Ship From Stock and Debit

Authorization PIP 308

Request Shipping Order Cancellation

PIP 290

Request Shipping Order PIP 288

Request Warranty Claim PIP 310

Return Product PIP 292

rmdir コマンド 50, 157

RNIF 同期検査ハンドラー 57

RNIF パッケージ

作成 267

ロケーション 72

RNIF パッケージ化 5

RNIF、説明 71

RNSC プロトコル 6

RNSC メッセージ 71

ROD から EDI へのフロー

設定 129

説明 103

例 247

ROD から ROD へのフロー

設定 133

説明 105

ROD から XML へのフロー

設定 132

説明 105

ROD スプリッター・ハンドラー 55, 56,

98

ROD 文書

処理 109

説明 98

ROD 文書から EDI へのフロー

設定 131

説明 104

RosettaNet

説明 71

Web サイト 71

RosettaNet Service Content メッセージ

71

RosettaNet XML メッセージのガイドライ

ン 257

RosettaNet XML メッセージ・スキーマ

257

RosettaNet 実装フレームワーク 71

RosettaNet 属性

暗号化 76, 333

応答のための時間 331

グローバル・サプライ・チェーン・コ

ード 76, 332

再試行カウント 332

実行のための時間 331

受信の否認防止が必要

(Non-Repudiation of Receipt

Required) 332

デジタル署名が必要 332

同期応答が必要 76, 332

同期サポートあり 76, 332

否認防止が必要 332

編集 256

RosettaNet プロトコル 6

RosettaNet メッセージ

イベント通知 71

サポートされるバージョン 71

## S

Security Sockets Layer (SSL) の説明 171

site コマンド 50, 157

SMTP ゲートウェイ 149

SMTP ターゲット 44

SOAP 同期検査ハンドラー 57  
SSL 証明書  
    インバウンド 177  
    クライアント認証、アウトバウンド  
        180  
    クライアント認証、インバウンド 178  
    サーバー認証、アウトバウンド 179  
    サーバー認証、インバウンド 177  
SSL の説明 171  
SSL ハンドシェイク 176

## T

TA1 オーバーライド属性 325  
TA1 肯定応答  
    説明 134  
    例 224  
Test ディレクトリー 21  
TRXCTLLEN (トランザクション制御番号  
    の長さ) 316, 317, 318

## U

UCS  
    エンベロープ属性 316  
    説明 95  
UNB0101 構文 ID 114  
UNB0102 構文バージョン 115  
UNB0601 受信側参照/パスワード 115  
UNB0602 受信側参照/パスワード修飾子  
    115  
UNB07 アプリケーション参照 115  
UNB08 優先順位 115  
UNB09 肯定応答要求 115  
UNB10 通信契約 ID 115  
UNB11 テスト標識 (使用標識) 115  
UNG01 機能グループ ID 115, 319  
UNG0201 アプリケーション送信側  
    ID 115  
UNG0202 アプリケーション送信側 ID 修  
    飾子 115  
UNG0301 アプリケーション受信側  
    ID 115  
UNG0302 アプリケーション受信側 ID 修  
    飾子 116  
UNG06 制御機関 116  
UNG0701 メッセージ・バージョン 116  
UNG0702 メッセージ・リリース 116  
UNG0703 関連割り当て済み 116  
UNG08 アプリケーション・パスワード  
    116  
UNH0201 メッセージ・タイプ 116, 319  
UNH0202 メッセージ・バージョン 116,  
    319

UNH0203 メッセージ・リリース 116,  
    319  
UNH0204 制御機関 116, 319  
UNH0205 関連割り当て済みコード 116  
UNH03 共通アクセス参照 116  
UN/EDIFACT 95

## W

Web サービス  
    サポートされている標準 85  
    参加者、識別 80  
    制限 85  
    文書フロー定義 80  
Web サービス・プロトコル 6  
WebSphere MQ  
    始動 29  
    JMS インプリメンテーションの変更  
        24  
WSDL ファイル  
    インポート 81  
    パブリック 81  
    プライベート 81  
    XML スキーマ 83  
    ZIP アーカイブ要件 82

## X

X12  
    交換の構造 97  
    説明 95  
X12 エンベロープ、属性 315  
XML から EDI へのフロー  
    設定 129  
    説明 103  
    例 239  
XML から ROD へのフロー  
    設定 132  
    説明 105  
XML から XML へのフロー  
    設定 133  
    説明 105  
XML 形式  
    作成 90, 91  
    説明 90  
XML スキーマ  
    DTD ファイルからの変換 258  
    PIP パッケージ 258  
    WDSL ファイル 83  
XML スプリッター・ハンドラー 55, 56  
XML ファイル  
    処理 23  
    バックエンド統合パッケージ用の作成  
        264  
    RNIF パッケージ用の作成 264

XML プロトコル定義、カスタム 90  
XML 文書  
    処理 109  
    説明 98  
XML 文書から EDI へのフロー  
    設定 131  
    説明 104  
XML ベースの API、使用可能化 193  
XMLEvent プロトコル 6, 79  
XMLNS アクティブ属性 323

## Z

ZIP アーカイブ要件、WSDL ファイルの  
    82

## [特殊文字]

&DT99724 マップ 134  
&DT99735 マップ 134  
&DT99933 マップ 134  
&DTCTL マップ 134  
&DTCTL21 マップ 134  
&WDIEVAL マップ 134  
&X44TA1 マップ 134







Printed in Japan